特別史跡　西都原古墳群発掘調査報告書　第７集

西都原169号墳（遺構編）
西都原170号墳（遺構編）

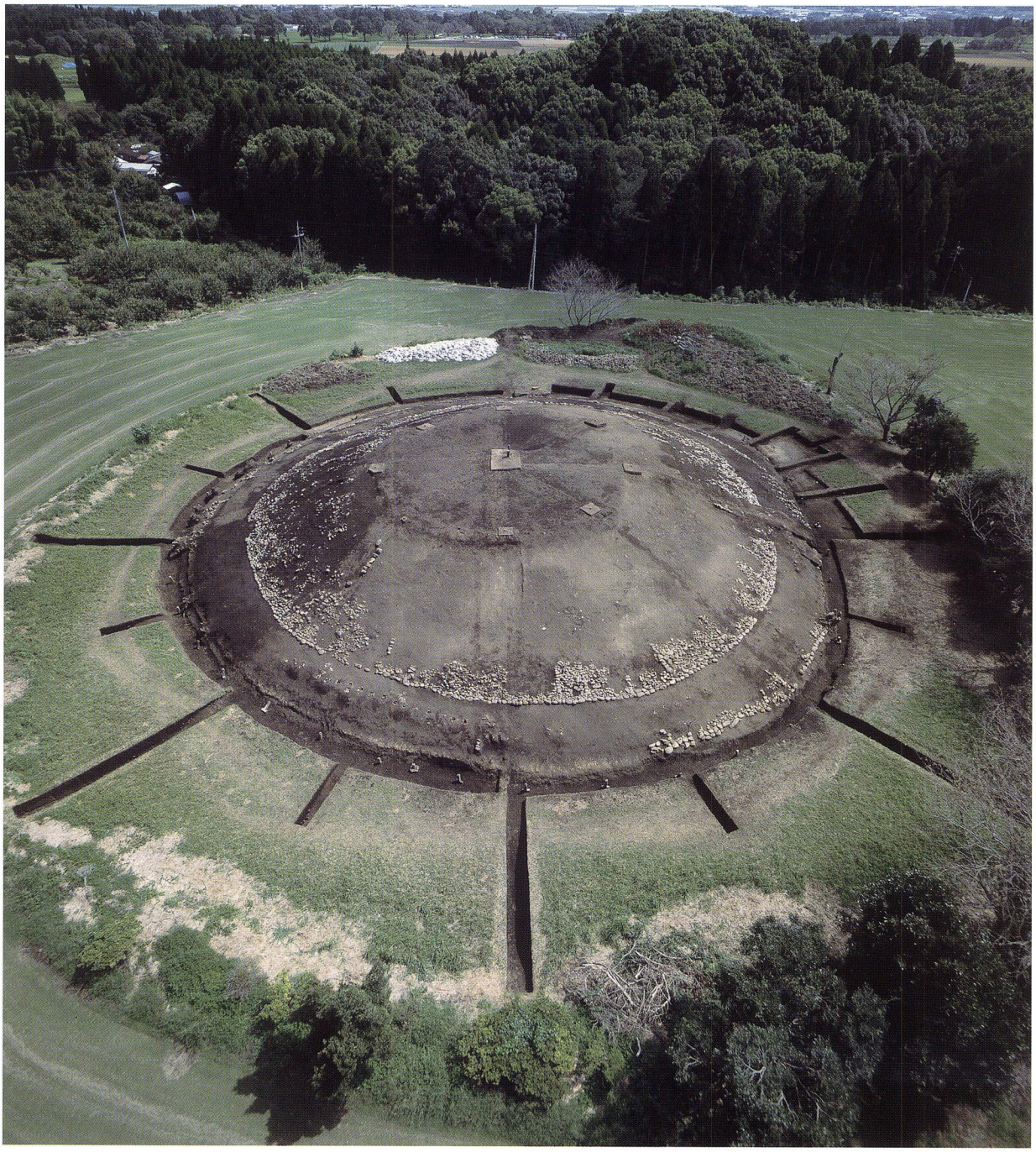
2008年3月

宮崎県教育委員会

巻頭図版 1

西都原169号墳遠景（西上空から、左奥：男狭穂塚、右奥：女狭穂塚）

巻頭図版 2

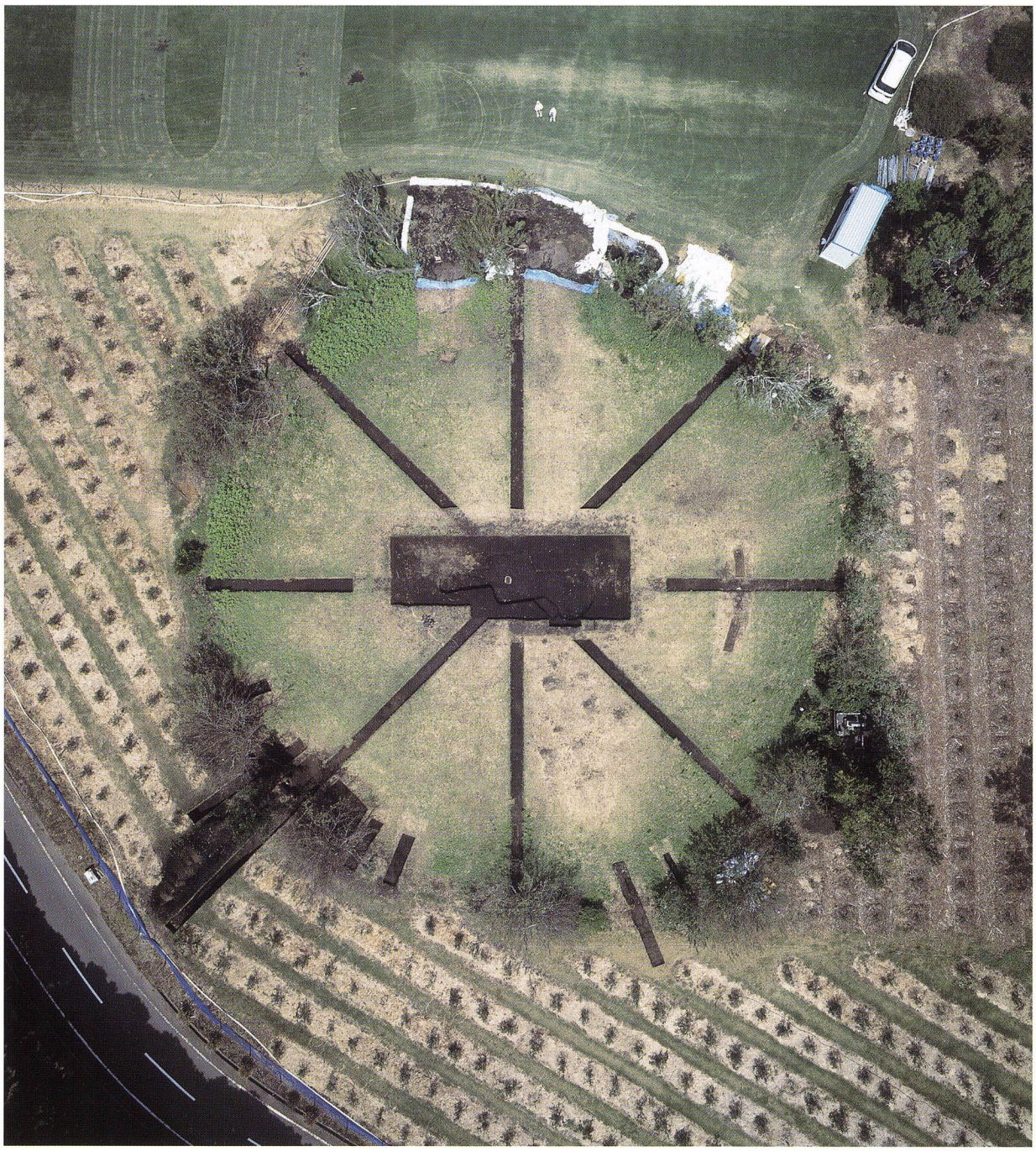


西都原169号墳完掘状況（西上空から）

巻頭図版 3

西都原170号墳遠景（南上空から、奥：169号墳、右側：男狭穂塚・女狭穂塚）

巻頭図版 4



西都原170号墳完掘状況（上空から、上が北）

例　言

1　本書は、文化庁補助を受け、宮崎県教育委員会（宮崎県立西都原考古博物館）が実施した西都原169号墳、西都原170号墳の発掘調査報告書である。なお、両古墳の出土遺物に関しては、次年度以降に別途報告する。

2　西都原169号墳の発掘調査は、1998（平成10）年度から2003（平成15）年度にかけて宮崎県教育委員会が実施し、現地での作業については大阪大谷大学（調査当時は大谷女子大学、以下同様）が協力した。

3　西都原170号墳の発掘調査は、2004（平成16）年度及び2005（平成17）年度に、宮崎県立西都原考古学博物館が実施し、現地での作業については大阪大谷大学文化財学科が協力した。

4　西都原169号墳・170号墳の整理作業は、宮崎県立西都原考古学博物館及び大阪大谷大学文化財学科が実施した。

5　現地調査における図面作成は、犬木努の指導のもと、主として大阪大谷大学・大阪大谷大学大学院の学生・院生および他の調査参加者が行った。

6　現地調査における写真撮影は主として犬木が行った。

7　空中写真撮影は、有限会社スカイサーベイ九州に委託した。

8　本書で使用した方位は国土座標系第Ⅱ系（日本測地系）の座標北、標高は海抜絶対高を示す。

9　土層断面図における濃い網掛けの部分は墳丘盛土、薄い網掛けの部分は地山を示す。

10　本書で使用した土色は、小山正忠・竹原秀雄編『新版 標準土色帖』に準じた。

11　本書の執筆は、第Ⅰ章を橋本英俊、第Ⅱ章第２節および第Ⅲ章第２節を近藤麻美（大阪大谷大学大学院生）、付編を三辻利一（大阪大谷大学非常勤講師・奈良教育大学名誉教授）が執筆した。第Ⅱ章第３節は犬木・近藤、第Ⅲ章第３節は犬木と金行美智子（大阪大谷大学大学院生）が共同で執筆し、その他の部分は犬木が執筆した。

12　本書の編集は主として犬木が行った。

13　出土遺物および記録類は、宮崎県立西都原考古博物館において保管している。

本文目次

第Ⅰ章　はじめに
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査組織 …… 2

第Ⅱ章　西都原169号墳の調査
第１節　発掘調査・整理作業の経過 …… 4
第２節　調査の進行状況 …… 9
第３節　調査の方法 …… 14
第４節　調査成果の概要 …… 19
（１）墳丘・周溝の調査 …… 19
（２）埴輪列の調査 …… 20
（３）大正時代の調査坑について …… 20

第Ⅲ章　西都原170号墳の調査
第１節　発掘調査・整理作業の経過 …… 113
第２節　調査の進行状況 …… 115
第３節　調査の方法 …… 117
第４節　調査成果の概要 …… 117
（１）墳丘・周溝の調査 …… 117
（２）埴輪列の調査 …… 118
（３）大正時代の調査坑について …… 118

第Ⅳ章　まとめ …… 140

付篇　西都原170号墳出土埴輪の蛍光Ｘ線分析結果について …… 142

巻頭図版目次

巻頭図版１　西都原169号墳遠景（西上空から、左奥：男狭穂塚、右奥：女狭穂塚）
巻頭図版２　西都原169号墳完掘状況（西上空から）
巻頭図版３　西都原170号墳遠景（南上空から、奥：169号墳、右側：男狭穂塚・女狭穂塚）
巻頭図版４　西都原170号墳完掘状況（上空から、上が北）

挿図目次

第１図　西都原169・170号墳位置図 …… 3
第２図　169号墳墳丘測量図（調査前） …… 15
第３図　169号墳調査区・トレンチ・ベルト配置図 …… 17
第４図　169号墳測量基準杭配置図 …… 18
第５図　169号墳第１ベルト・第１トレンチ、第２ベルト・第２トレンチ土層断面図 …… 21
第６図　169号墳第３ベルト・第３トレンチ、第４ベルト・第４トレンチ土層断面図 …… 23
第７図　169号墳第５ベルト・第５トレンチ、第６ベルト・第６トレンチ土層断面図 …… 25
第８図　169号墳第７ベルト・第７トレンチ、第８ベルト・第８トレンチ土層断面図 …… 27
第９図　169号墳墳丘測量図 …… 29
第10図　169号墳第１トレンチ墳丘断割箇所平面図・土層断面図 …… 31
第11図　169号墳第５トレンチ墳丘断割箇所平面図・土層断面図 …… 32
第12図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（１） …… 33
第13図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（２） …… 35
第14図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（３） …… 37
第15図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（４） …… 39
第16図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（５） …… 41
第17図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（６） …… 43
第18図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（７） …… 45
第19図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（８） …… 47
第20図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（９） …… 49
第21図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（10） …… 51
第22図　169号墳周溝２Ｂ～２Ｄ区、第２・12・18～20トレンチ全体図 …… 53
第23図　169号墳周溝２Ｄ区・３Ａ～３Ｃ区調査区全体図 …… 55
第24図　169号墳周溝２Ｂ区平面図・土層断面図 …… 56
第25図　169号墳周溝２Ｃ区平面図・土層断面図 …… 57
第26図　169号墳周溝２Ｄ区平面図・土層断面図 …… 58
第27図　169号墳周溝３Ａ区平面図・土層断面図 …… 59
第28図　169号墳周溝３Ｂ区平面図・土層断面図 …… 60

第29図　169号墳周溝３Ｃ区平面図・土層断面図 …… 61
第30図　169号墳第１・８トレンチ平面図・土層断面図 …… 63
第31図　169号墳第４・５トレンチ平面図・土層断面図 …… 65
第32図　169号墳第６・７トレンチ平面図・土層断面図 …… 67
第33図　169号墳第２・12・18～20トレンチ平面図 …… 69
第34図　169号墳第２・12・18～20トレンチ土層断面図 …… 71
第35図　169号墳第13トレンチ平面図・土層断面図 …… 73
第36図　169号墳第14トレンチ平面図・土層断面図 …… 75
第37図　169号墳４～８区墳裾中央トレンチ平面図・土層断面図 …… 77
第38図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪列平面図（１） …… 78
第39図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪列平面図（２） …… 79
第40図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪列平面図（３） …… 80
第41図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（１） …… 81
第42図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（２） …… 82
第43図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（３） …… 83
第44図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（４） …… 84
第45図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（５） …… 85
第46図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（６） …… 86
第47図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（７） …… 87
第48図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（８） …… 88
第49図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（９） …… 89
第50図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（10） …… 90
第51図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（11） …… 91
第52図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（12） …… 92
第53図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（13） …… 93
第54図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（14） …… 94
第55図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（15） …… 95
第56図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（16） …… 96
第57図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（17） …… 97
第58図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（18） …… 98
第59図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（１） …… 99
第60図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（２） …… 100
第61図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（３） …… 101
第62図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（４） …… 102
第63図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（５） …… 103
第64図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（６） …… 104

第65図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（７）…… 105
第66図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（８）…… 106
第67図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（９）…… 107
第68図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（10）…… 108
第69図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（11）…… 109
第70図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（12）…… 110
第71図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（13）…… 111
第72図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（14）…… 112
第73図　169号墳第１段目平坦面円筒埴輪出土状況図…… 112
第74図　170号墳墳丘測量図…… 119
第75図　170号墳トレンチ配置図…… 120
第76図　170号墳測量基準杭配置図…… 121
第77図　170号墳第１トレンチ平面図・土層断面図…… 122
第78図　170号墳第２トレンチ平面図・土層断面図…… 123
第79図　170号墳第３トレンチ平面図・土層断面図…… 124
第80図　170号墳第５トレンチ平面図・土層断面図…… 125
第81図　170号墳第４トレンチ平面図・土層断面図…… 127
第82図　170号墳第６・７トレンチ平面図・土層断面図…… 129
第83図　170号墳第８トレンチ平面図・土層断面図…… 131
第84図　170号墳第９・17トレンチ平面図・土層断面図…… 132
第85図　170号墳第10・11・12・14・15・16トレンチ平面図・土層断面図…… 133
第86図　170号墳第13トレンチ平面図・土層断面図…… 135
第87図　170号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪列平面図…… 136
第88図　170号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（１）…… 137
第89図　170号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（２）…… 138
第90図　170号墳大正時代調査坑平面図・土層断面図…… 139
第91図　170号墳出土埴輪の両分布図…… 144
第92図　西都原古墳群出土埴輪のFe因子の比較…… 144

表目次

表１　西都原古墳群における年度別調査体制…… 2
表２　169号墳測量基準杭国土座標一覧…… 18
表３　170号墳測量基準杭国土座標一覧…… 121
表４　170号墳出土埴輪蛍光Ｘ線分析値…… 144

図版目次

図版１　169号墳遠景（西上空から、左奥：男狭穂塚、右奥：女狭穂塚）　…… 145
図版２　169号墳完掘状況（東上空から）　…… 146
図版３　169号墳完掘状況（西上空から）　…… 147
図版４　169号墳完掘状況（上空から、上が北）　…… 148
図版５　169号墳調査前の状況（南東から）　…… 149
169号墳調査後の整備状況（北西から）
図版６　169号墳完掘状況（５・６区、北西から）　…… 150
169号墳完掘状況（３・４・５区、西南西から）
図版７　169号墳完掘状況（５・６・７区、北北西から）　…… 151
169号墳完掘状況（７・８・１区、東北東から）
図版８　169号墳葺石検出状況（１・２区、南東から）　…… 152
169号墳葺石検出状況（２区、南南東から）
図版９　169号墳葺石検出状況（３区、南南西から）　…… 153
169号墳葺石検出状況（４区、西南西から）
図版10　169号墳葺石検出状況（５区、西北西から）　…… 154
169号墳葺石検出状況（６区、北北西から）
図版11　169号墳葺石検出状況（７区、北北東から）　…… 155
169号墳葺石検出状況（８区、東北東から）
図版12　169号墳第２・３段目斜面断割状況（第５トレンチ、南西から）　…… 156
169号墳第３段目斜面断割状況（第５トレンチ、南西から）
図版13　169号墳南側周溝完掘状況（西から）　…… 157
169号墳南側周溝・造出部完掘状況（南東から）
図版14　169号墳墳頂部円筒埴輪列（６区）確認状況（北東から）　…… 158
169号墳墳頂部円筒埴輪列（６区）完掘状況（北東から）
169号墳墳頂部円筒埴輪列（７区）確認状況（北西から）
169号墳墳頂部円筒埴輪列（７区）完掘状況（北西から）
図版15　169号墳墳頂部円筒埴輪列（７区）確認状況（南東から）　…… 159
169号墳墳頂部円筒埴輪列（７区）完掘状況（南東から）
169号墳墳頂部円筒埴輪列（７区）確認状況（西から）
169号墳墳頂部円筒埴輪列（７区）完掘状況（西から）
図版16　169号墳円筒埴輪出土状況（１）　…… 160
円筒埴輪№.１［墳頂部平坦面外周］～円筒埴輪№.８［墳頂部平坦面外周］
図版17　169号墳円筒埴輪出土状況（２）　…… 161
円筒埴輪№.９［墳頂部平坦面外周］～円筒埴輪№.16［墳頂部平坦面外周］

図版18　169号墳円筒埴輪出土状況（３）　…… 162
円筒埴輪No.17［墳頂部平坦面外周］～円筒埴輪No.24［墳頂部平坦面外周］
図版19　169号墳円筒埴輪出土状況（４）　…… 163
円筒埴輪No.25［墳頂部平坦面外周］～円筒埴輪No.32［墳頂部平坦面外周］
図版20　169号墳円筒埴輪出土状況（５）　…… 164
円筒埴輪No.33［墳頂部平坦面外周］～円筒埴輪No.40［墳頂部平坦面外周］
図版21　169号墳円筒埴輪出土状況（６）　…… 165
円筒埴輪No.41［墳頂部平坦面外周］～円筒埴輪No.47・48［墳頂部平坦面外周］
円筒埴輪No.51［第２段目平坦面］
図版22　169号墳円筒埴輪出土状況（７）　…… 166
円筒埴輪No.52［第２段目平坦面］～円筒埴輪No.59［第２段目平坦面］
図版23　169号墳円筒埴輪出土状況（８）　…… 167
円筒埴輪No.61［第２段目平坦面］～円筒埴輪No.63［第２段目平坦面］
円筒埴輪No.66［第２段目平坦面］
円筒埴輪No.69［第２段目平坦面］
円筒埴輪No.72［第２段目平坦面］
円筒埴輪No.74［第２段目平坦面］
円筒埴輪No.77［第２段目平坦面］
図版24　169号墳円筒埴輪出土状況（９）　…… 168
円筒埴輪No.78［第２段目平坦面］
円筒埴輪No.79［第２段目平坦面］
円筒埴輪No.81［第２段目平坦面］～円筒埴輪No.86［第２段目平坦面］
図版25　169号墳円筒埴輪出土状況（10）　…… 169
円筒埴輪No.87［第２段目平坦面］～円筒埴輪No.93［第２段目平坦面］
円筒埴輪No.97［第２段目平坦面］
図版26　169号墳円筒埴輪出土状況（11）　…… 170
円筒埴輪No.99［第２段目平坦面］～円筒埴輪No.106［第２段目平坦面］
図版27　169号墳円筒埴輪出土状況（12）　…… 171
円筒埴輪No.107［第２段目平坦面］～円筒埴輪No.114［第２段目平坦面］
図版28　169号墳円筒埴輪出土状況（13）　…… 172
円筒埴輪No.115［第２段目平坦面］
円筒埴輪No.118［第２段目平坦面］～円筒埴輪No.123［第２段目平坦面］
壺形埴輪［第２段目平坦面］
図版29　169号墳円筒埴輪出土状況（14）　…… 173
円筒埴輪No.124［第２段目平坦面］～円筒埴輪No.128［第２段目平坦面］
円筒埴輪No.129［第１段目平坦面］～円筒埴輪No.131［第１段目平坦面］

図版30　169号墳形象埴輪出土状況 …… 174
蓋形埴輪笠部出土状況［墳頂部平坦面］
蓋形埴輪立飾部出土状況［墳頂部平坦面］
蓋形埴輪立飾部出土状況［第３段目斜面］
盾形埴輪出土状況［墳頂部平坦面］
器台形埴輪出土状況［第３段目斜面］
壺形埴輪出土状況［周溝底面付近］
図版31　170号墳遠景（南西上空から、左奥：男狭穂塚、右奥：女狭穂塚） …… 175
図版32　170号墳完掘状況（上空から、上が北） …… 176
図版33　170号墳完掘状況（南西上空から） …… 177
170号墳墳頂部大正調査坑（上空から、上が南）
図版34　170号墳大正調査坑確認状況（１）（東から） …… 178
170号墳大正調査坑確認状況（２）（東から）
170号墳大正調査坑土層断面（東から）
170号墳大正調査坑完掘状況（東から）
図版35　170号墳第４トレンチ周溝部分（南西から） …… 179
170号墳第４トレンチ周溝部分（西から）
170号墳第４トレンチ周溝部分（北東から）
170号墳第４トレンチ墳丘断割部土層断面（南西から）
図版36　170号墳第３トレンチ墳丘断割部土層断面（南東から） …… 180
170号墳第３トレンチ完掘状況（墳丘断割後、南から）
170号墳第７トレンチ完掘状況（墳丘断割前、北北東から）
170号墳第７トレンチ完掘状況（墳丘断割後、北から）
図版37　170号墳第13トレンチ完掘状況（南西から） …… 181
170号墳第14・15トレンチ完掘状況（南西から）
図版38　170号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪列完掘状況（北から） …… 182
170号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪列完掘状況（南から）
図版39　170号墳円筒埴輪・形象埴輪出土状況 …… 183
円筒埴輪№２［墳頂部平坦面外周］～円筒埴輪№５［墳頂部平坦面外周］
円筒埴輪№７［墳頂部平坦面外周］～円筒埴輪№９［墳頂部平坦面外周］
船形埴輪破片出土状況［大正時代調査坑脇］

付図　西都原169号墳平面図

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

西都原古墳群は宮崎県中央部の西都市大字三宅に所在する。標高約60ｍ前後の洪積世台地上を中心とし、総数300基を超える古墳が分布している。

当古墳群は、1912（大正元）年から1917（大正６）年にかけて日本初の合同学術調査として、30基の古墳が調査された。これ以後、保存意識の高まりは大きくなり、1934（昭和９）年に国史跡指定、1952（昭和27）年に特別史跡指定、1966（昭和41）年から1968（昭和43）年には『風土記の丘』第１号として、環境整備、古墳の修復復元、資料館建設などの整備事業が実施された。

『風土記の丘』整備事業の後、約30年の時を経て「保存」から「活用」へと視点を転じた整備計画を実施することとなった。

新たな整備事業では、1993（平成５）年度から２ヵ年にわたり西都原古墳群整備活用調査事業を実施し、「西都原古墳群保存整備検討委員会」の設置ならびに検討を経て、「西都原古墳群保存整備活用に関する基本計画」の策定を行った。その後、1995（平成７）年度から1997（平成９）年度での「大規模遺跡総合整備事業」、1998（平成10）年度から2002（平成14）年度の「地方拠点史跡等総合整備事業（歴史ロマン再生事業）」において、測量調査、発掘調査、施設建設などを実施した。

さらに、2003（平成15）年度から新たな５ヵ年計画による「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」として、西都原古墳群の発掘調査、復元整備を継続して実施している。

西都原古墳群169・170号墳については、大正時代の発掘調査後、埴輪などの出土遺物は東京国立博物館に所蔵されてきた。これらの古墳については、1998（平成10）年度から再発掘調査を実施している。

西都原考古博物館では、2000（平成12）年、過去の調査成果を踏まえ最大限の情報を引き出すため、東京国立博物館所蔵の西都原古墳群出土埴輪の整理・研究の一員であった犬木努氏（大谷女子大学（現、大阪大谷大学）と共同で発掘調査を進めることとした。調査の結果、円筒埴輪や形象埴輪をはじめ多くの埴輪が確認された。これら出土遺物の整理にあたり、大正と平成の埴輪について接合関係を確認するため、宮崎県教育委員会（実施機関：西都原考古博物館）と東京国立博物館では平成15年２月３日と３月15日に協議し、出土遺物の整理方法について検討を行い、平成18年３月１日に「共同調査」の覚書きを締結した。

西都原169号墳の発掘調査は、1998（平成10）年度から2003（平成15）年度にかけて実施し、西都原170号墳の調査は2004（平成16）年度及び2005（平成17）年度に行った。

なお、169号墳については、調査の成果をもとに芝張り整備を行った。170号墳の調査は、墳丘上のみにとどめており、現況復帰を行っているが、周溝については未調査のため規模および形状の確認については今後の課題としている。

第２節　調査組織

169号墳および170号墳の発掘調査は宮崎県教育委員会が事業主体となり、169号墳の調査は、1998（平成10）年度から2003（平成15）年度に文化課（現文化財課）が実施し、170号墳については2004（平成16）年度・2005（平成17）年度に宮崎県立西都原考古博物館が担当した。また、発掘調査や保存整備については、西都原古墳群保存整備指導委員及び文化庁の指導のもと行った。

なお、調査組織は、以下のとおりである。

西都原古墳群保存整備指導委員会（1998（平成10）～2002（平成14）年度、役職名は当時のもの）

顧　問	斉藤　忠	大正大学名誉教授
委員長	日高正晴	宮崎県文化財保護審議会委員
委　員	大塚初重	明治大学名誉教授
委　員	水野正好	奈良大学学長
委　員	小田富士雄	福岡大学教授
委　員	杉本正美	九州芸術工科大学教授
委　員	柳沢一男	宮崎大学教授

西都原古墳群保存整備指導委員（2004（平成16）～2005（平成17）年度、役職名は当時のもの）

石野博信	徳島文理大学教授
西野　元	国士舘大学客員講師
西谷　正	伊都国歴史博物館館長、九州大学名誉教授
柳沢一男	宮崎大学教授、宮崎県文化財保護審議会委員
日高正晴	宮崎県文化財保護審議会委員

表１　西都原古墳群における年度別調査体制

	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
教育長	笹山　竹義	笹山　竹義	笹山　竹義	岩切　正憲	岩切　正憲	岩切　正憲	高山　耕吉	高山　耕吉
教育次長	川崎　浩康	新垣　隆正	福永　孝義	福永　孝義	沼田　憲明	沼田　憲明	田中　義信	石野田幸蔵
	岩切　正憲	岩切　正憲	岩切　正憲	川口　靖文	川口　靖文	隈元　正行	隈元　正行	平田　俊近
							本田　建次	本田　建次
文化課長	仲田　俊彦	仲田　俊彦	黒岩　正博	黒岩　正博	園田　実穂	福島　順二	福島　順二	
文化課長補佐	矢野　剛	矢野　剛	井上　貴	井上　貴	井上　貴	稲元　雅彦	稲元　雅彦	
埋蔵文化財係長	北郷　泰道	北郷　泰道						
西都原西都原対策班主幹			北郷　泰道	北郷　泰道	北郷　泰道			
文化財課長								米良　弘康
文化財課長補佐								菓子野信男
西都原考古博物館長						川口　靖文	川口　靖文	川口　靖文
西都原考古博物館副館長						土居　憲一	土居　憲一	福永　辨助
学芸普及班（担当）主幹						北郷　泰道	北郷　泰道	北郷　泰道
169号墳調査担当	松林　豊樹	松林　豊樹	高橋　誠 犬木　努	和田　理啓 犬木　努	和田　理啓 犬木　努	和田　理啓 犬木　努		
169号墳整備担当						東　憲章	東　憲章	
170号墳調査担当							二宮　満夫 東　憲章 犬木　努	二宮　満夫 東　憲章 犬木　努

第１図　西都原169・170号墳位置図（宮崎県教育委員会2000より）（S＝1/20, 000）

第Ⅱ章　西都原169号墳の調査

第１節　発掘調査・整理作業の経過

（１）第２次調査（平成10年度～11年度）

平成10（1998）年度から11（1999）年度にかけて、大正時代の第１次調査以来、90年ぶりの発掘調査が実施された。調査前の墳丘測量図を作成するとともに、墳丘から周溝に伸びる８本のトレンチを入れて墳丘および周溝の形状、規模の確認を行った。

また、墳丘斜面の南東側４分の１弱については、表土を全面除去して、葺石および墳丘の検出を行った（１区・２区）。墳丘第１段目斜面および第２段目斜面では、円筒埴輪列の一部が原位置で確認された。

さらに、墳頂部平坦面の南東側４分の１については、表土を除去して、円筒埴輪列や器財埴輪の確認に努めた。

墳丘・周溝とも次年度の第３次調査に継続されることとなった。

（２）第３次調査（平成12年度）

平成12（2000年）年８月１日から９月１日にかけて行われた第３次調査では、墳丘南東側1／４に相当する１区・２区の発掘調査を実施した。当該箇所は、平成10年度から11年度にかけて行われた宮崎県教育委員会による調査（第２次調査）を引き継ぐもので、墳丘調査区のさらなる拡張、周溝部のトレンチ調査などを含めて実施した。

墳丘部斜面の葺石の遺存状況は良好ではなかったが、第３段目斜面の根石と第２段目斜面の根石が良好に遺存していることが確認され、第２段目平坦面と第１段目平坦面に樹立された円筒埴輪列の一部が原位置で検出された。その結果、本古墳が３段築成であることが確定したが、第１段目斜面裾部については、墳丘周囲の耕作によりほとんど削平されていることが明らかになった。

また、２区西端部では、墳丘基底部まで到達する大正時代のトレンチの埋土が確認されている。埋葬施設より南側の部分については、トレンチ幅を狭くしたうえで、墳丘基底部まで掘り下げたものと思われる。これは大正年間の調査記録の内容（宮崎県1915）とも符合する。

周溝については、第２次調査で設定された第１トレンチ・第２トレンチのほかに、墳裾部の５箇所に第９～13トレンチを設定した。それぞれ墳端（第１段目斜面端部）の残存状況の確認を目的として設定されたものである。各トレンチの掘り下げの結果、周溝覆土の上半部はほとんど耕作による削平を受けており、周溝覆土の下半のみ遺存していることが判明した。なお、第１トレンチでは周溝外側の立ち上がりも検出された。

出土遺物については、墳丘の第２段目平坦面、第１段目平坦面で円筒埴輪の基部が検出されているほか、墳丘各所および周溝内から円筒埴輪片多数が出土している。この他、壺形埴輪や蓋形埴輪、甲冑形埴輪の小片なども確認されている。

【調査参加者】犬木 努（大谷女子大学文化財学科専任講師）、井上麻耶・今井美代子・大木仁美・金行美智子・鎌田美樹・川口真里・北浦良子・黄塚恵子・近藤麻美・斎藤美香・清水史香・田中久美子・

田辺奈穂美・谷口展子・辻村麻紀・戸田貴子・鳥飼由乃・中井麻耶・中村智佳・西川絢子・西川由紀・仁科佑香・西村香奈子・藤井千豊・古川美幸・松田美奈子・吉川由佳里・柳光早矢香（大阪大谷大学文化財学科１回生）、安藤弥生・釜下真紀子・千葉尚子・時村良子・宮本優子・弓田やよい・谷口紗枝子・吉川亜希（同考古学研究会）、若月木綿子・山田香利奈・樫内 緑・中島有美子・小田恭子・石井朋子・金丸恵子・門内愛季・塚本智美・辻本ともみ（同学芸員課程履修生）、山川俊一郎・青木智史・江波大樹・後藤峰昭・中村真仁・井殿加奈子・楠 京子・小林祥子・千葉紀子・津川理恵・疋田麻理江（奈良教育大学学生）、君嶋俊行・小寺智津子（東京大学大学院生）、宗石知美（静岡大学学生）、清喜裕二（宮内庁書陵部）、古庄浩明（土井ヶ浜・人類学ミュージアム）。

（３）**第４次調査**（平成13年度）

平成13（2001）年８月１日から９月５日にかけて行われた第４次調査では、墳丘の北半部に相当する５区・６区・７区の発掘調査を実施した。第４次調査の対象は、墳丘全体の3／８に相当し、昨年度調査分と合わせて、全体の５／８についての調査が完了した。

７区・８区の墳丘外表については、１区・２区よりも、葺石の遺存状況がかなり良好であった。第３段目斜面の上部については目地の葺石列のみの遺存であったが、同下半部では葺石がかなり良好な状態で遺存していた。

また、第２段目平坦面では、円筒埴輪列が原位置で検出された。円筒埴輪は第２段目途中まで残存しているものも多く、１区・２区の円筒埴輪列より埴輪自体の遺存状況も良好である。８区の円筒埴輪列最南端部では、円筒埴輪に隣接して、壺形埴輪がつぶれたような状態で出土しており、円筒埴輪の上部に壺形埴輪を載せていたものと推測される。６区については、円筒埴輪の底部破片が点々と出土しているものの、原位置からは若干動いている状況であった。

第１段目平坦面については、６区・７区・８区とも、墳裾部とともに削平されており、円筒埴輪列は残存していない。

このほか周溝については、平成10年度調査で設定されている第４～８トレンチについて補足調査を行い、各トレンチにおいて墳端（第１段目斜面下端部）の残存状況および周溝幅の確認を行った。

出土遺物については、墳丘の第２段目平坦面において円筒埴輪列が検出されているほか、墳丘各所および周溝内から円筒埴輪片多数が出土している。墳丘斜面の調査であったこともあり、今回の調査では器財埴輪はごく少量のみしか出土していない。

【調査参加者】犬木 努（大谷女子大学文化財学科助教授）、今井美代子・岡野宏子・金行美智子・鎌田美樹・北浦良子・近藤麻美・斎藤美香・高松佐代・田中久美子・田辺奈穂美、中村智佳、仁科佑香、柳光早矢香（大谷女子大学文化財学科２回生）、相井亜沙子・池田鮎佳・石川聡子・石木ちか・石津晴菜・石原 恵・井上幸子・小川愛美・垣内喜久子・乗原佳奈・阪口有香・坂本未央・庄 博子・柴田由理・城 智美・末岡真耶・田中宏美・築山咲子・戸隠みどり・戸塚優子・林 千秋・林 裕里・宮下真弥・桃原沙恵・山本裕子（同１回生）、奥田明子、尾嶋久美子、木村方紀、大澤亜希、太田智子、坂口知香（同学芸員課程履修生）、加藤一郎（早稲田大学大学院生）、野垣好史（静岡大学大学院生）、安藤亮治（静岡大学学生）、清喜裕二（宮内庁書陵部）、古庄浩明（土井ヶ浜・人類学ミュージアム）。

（4）**第5次調査**（平成14年度）

平成14（2002）年、8月1日から9月20日にかけて行われた第5次調査では、墳丘西側に相当する3区・4区・5区の発掘調査を実施した。第5次調査の対象は、墳丘全体の3／8に相当し、昨年度までの調査分と合わせて、墳丘全体の調査が完了した。

3区・4区・5区では、第3段目斜面の下半部の葺石が良好に遺存していた一方で、他の調査区と同様に第1段目斜面は削平されてしまっており、また第2段目斜面についても葺石はほとんど遺存していない状況であった。また、第2段目平坦面では、各区とも円筒埴輪列が比較的良好な状況で原位置で確認されている。円筒埴輪のなかには第2段目の途中まで遺存しているものもあり、個々の遺存状況も比較的良好であった。肩部に鍔状の突帯を巡らせる壺形埴輪も円筒埴輪と折り重なるように出土しており、本来は円筒埴輪の上にこの種の壺形埴輪を載せていたものと推測される。円筒埴輪の掘方についてはピット状あるいは布堀状のものを想定して精査を試みたが、昨年までと同様に検出できていない。また第1段目平坦面については、平坦面自体が削平されているところが多く、かろうじて平坦面の一部が残存しているところでも原位置の円筒埴輪は検出されていない。第1段目斜面における葺石の有無については、さらに検討が必要と思われるが、墳裾の各所に設定したトレンチの状況からは第1目段斜面に葺石が存在したことを示す積極的な根拠は見出されていない。

墳丘斜面の調査終了後、墳丘に残された8本のベルト（第1ベルト～第8ベルト）を除去し、また墳頂部平坦面の3／4に残された表土を除去したのち、ラジコンヘリによる空中写真の撮影を行った。なお、墳頂部平坦面の表土を除去した段階で、外周を巡る円筒埴輪列が原位置で良好に遺存することが確認されたが、調査期間も限られていたため、次の機会にあらためて調査を行うことになり、表土下の掘り下げは行っていない。墳頂部中央では、大正時代の調査坑の輪郭が明瞭に確認されたが、これについても掘り下げは行っていない。

【調査参加者】犬木 努（大谷女子大学文化財学科助教授）、今井美代子・岡野宏子・金行美智子・鎌田美樹・近藤麻美・斎藤美香・柳光早矢香（大谷女子大学文化財学科3回生）、池田鮎佳・石木ちか・石津晴菜・垣内喜久子・桃原沙恵・六辻彩香（同2回生）、池野 愛・石川倫子・井上裕香・鵜狩布美子・江頭麻里・尾張友子・瀧川衣美子・田嵜麻美・谷 真美・谷井真由美・田淵智子・田淵智子・辻田奈津美・中筋敦子・服部恵子・人見美香・福重美由紀・藤田紗綾・藤本景子・細田千賀子・牧野幸子・松浦知美・松浦佑香・松島 都・松村知紗・山下まどか・山本美緒・米原真希（同1回生）、三好文子（同学芸員課程履修生）、野垣好史・小泉裕紀（静岡大学大学院生）、井之口茂（茨城大学大学院生）、佐藤 隆・田中裕貴・高橋和成・増岡千智（茨城大学学生）、茂木雅博（茨城大学教授）、塩谷 修（土浦市立博物館）、清喜裕二（宮内庁書陵部）、古庄浩明（土井ヶ浜・人類学ミュージアム）、坪井垣彦（読売新聞社）。

（5）**第6次調査**（平成14年度）

平成15（2003）年3月15日から3月31日にかけて行われた第6次調査では、墳頂部平坦面の発掘調査を行った。

169号墳の墳頂部については、大正元年の第1次調査で多数の器財埴輪や円筒埴輪が出土してい

る。また、平成10（1998）年度から11（1999）年度にかけて実施された第２次調査においても、第１次調査で埴輪が検出された墳頂部南東側１／４の再発掘および精査を行っている。表土を除去したのち、盛土上面を検出したものの、原位置の埴輪列は確認されていない。

その後、第５次調査において、墳丘全体の航空写真撮影の際に、墳頂部の残り３／４についても表土を剥がしたところ、墳頂部外周に円筒埴輪列が良好に遺存していることが確認された。調査期間も終盤になっていたため、原位置で遺存している埴輪の位置のみ記録するにとどめ、今回、あらためて墳頂部埴輪列の発掘調査を実施した。

昨年度の段階で、すでに表土の除去と、埴輪の樹立位置の確認を終えていたため、今回の第６次調査では、埴輪列の精査と、周辺に広がっている埴輪片の検出作業から着手した。調査の結果、墳頂部平坦面の北半分においてのみ、外周をめぐる円筒埴輪列を検出した。墳丘第２段目平坦面での円筒埴輪樹立間隔に比べて、明らかに密接した状態で樹立されていた状況が確認された。また、墳頂部平坦面南半部を中心として、盾・甲・冑・蓋などの破片が出土しているが、いずれも本来の樹立位置を示すものではなく、第１次調査時に取り上げ残した破片と思われる。

墳頂部中央では、大正年間の調査坑が検出された。上面で確認しているのみであるが、調査坑の規模は東西約2.9m、南北約5.7mで、そこからほぼ南に向って幅約1.6～1.9mの調査坑が墳裾上部（墳丘第２段目斜面）まで続いている。

【調査参加者】犬木 努（大谷女子大学文化財学科助教授）、今井美代子・金行美智子・近藤麻美・柳光早矢香（大谷女子大学文化財学科３回生）、石津晴菜・小川愛美・垣内喜久子・桃原沙恵・六辻彩香（同３回生）、尾張友子・田嵜麻美（同２回生）、渡辺美幸・清永千春・寺崎圭子（鹿児島大学学生）、清喜裕二（宮内庁書陵部）。

（６）第７次調査（平成15年度）

平成15（2003）年８月７日から９月５日にかけて行われた第７次調査では、墳丘南側の造出部および周溝の発掘調査を行った。

平成15年度は、「歴史ロマン再生事業」による西都原古墳群復元整備の最終年度にあたり、年度内に西都原169号墳の墳丘復元を施工するという事情もあり、今年度は墳丘南側の周溝部分を対象とした発掘調査を行うこととなった。第７次調査の主目的は、墳丘南東部に確認されている造出部の精査と、墳丘南側の周溝の規模・形状の確認であった。造出部については、平成12年度の第３次調査で、該当箇所に設定したトレンチの調査所見からその存在が予測されていたもので、今回、あらためて造出部の精査を行った。墳丘南側の周溝については、その規模・形状の確認だけではなく、周溝内に転落した各種埴輪を検出することも重要な目的である。これまでの調査では、墳頂部平坦面および墳丘第２段目平坦面では円筒埴輪列が確認されているのに対して、第１段目平坦面については平坦面そのものの遺存状況が良くないこともあり、そこでの円筒埴輪列の実態はほとんど不明であった。今回の調査では、周溝内に転落した円筒埴輪を検出することによって、第１段目平坦面に樹立されていた円筒埴輪の様相について、一定の手がかりが得ることを目的とした。

２区周溝部においては、造出の全容を検出することができた。確認された造出の規模は、幅約９

m、長さ約３ｍである。造出外縁のラインは直線をなさず、緩やかに円弧をなしているように思われる。なお、造出斜面に葺石は用いられていない。

造出上面は削平を受けており、円筒埴輪、形象埴輪などの樹立は確認できなかったが、造出の周囲では器財埴輪が比較的集中して出土しており、造出上面に樹立されていた埴輪である可能性もある。造出の本来の上面は、墳丘第１段目斜面の中位に接続していたものと思われる。

また墳丘南側では、周溝の幅が狭くなっていることも確認することができた。他の部分での周溝幅が約７～10m程度であるのに対して、この部分では幅約６ｍ程度と狭くなっている。

このほか、周溝内では多数の円筒埴輪、壺形埴輪が検出されている。今後、出土層位や接合関係などを検討することによって、本来の樹立位置を検討していく必要があろうが、墳丘第１段目平坦面に樹立されていた円筒埴輪・壺形埴輪も一定量含まれている可能性が高い。

【調査参加者】犬木 努（大谷女子大学文化財学科助教授）、今井美代子・岡野宏子・金行美智子・近藤麻美・柳光早矢香（大谷女子大学文化財学科４回生）、石津晴菜・垣内喜久子・桃原沙恵・六辻彩香・行者知恵（同３回生）、尾張友子・田嵜麻美・谷 真美（同２回生）、石丸未奈・岩崎仁美・植田有加・新谷早知子・仲 眸・中瀬江美・西田智賀・濱井宏美・蛭川尚美・廣野友美・松浦美里・森田麻衣子・薮元昌世（同１回生）、長谷川裕美・池田鮎佳・石木ちか（同学芸員課程履修生）、清喜裕二（宮内庁書陵部）、廣瀬 覚（立命館大学大学院生）。

（７）整理作業

発掘調査で出土した遺物（主に埴輪）については、調査終了後、大阪大谷大学博物館に搬入し、調査参加者によって水洗および注記など基礎整理作業が実施された。発掘調査が４年次、５回に及び、出土埴輪片も大量であった、水洗および注記作業にもかなりの労力と時間を要することとなった。

一部の埴輪については、注記作業と並行して接合作業も行っていたが、遺物整理作業が本格化したのは、平成16年度になってからのことである。

原位置で検出された全ての円筒埴輪については、現地で作成した縮尺５分の１の出土状況図について、埴輪片の現物を見ながら、逐一補筆・補正作業を行った。この作業が終了したのち、原位置で検出された円筒埴輪の接合作業を行った。

平成17年度には、斜面や周溝などから出土している原位置以外の埴輪片について器種ごとに仕分けしたのち、部位毎に個体識別作業を行った上で、上記の原位置出土円筒埴輪との接合作業を行った。

平成18年度には、埴輪の実測図作成を行うとともに、遺物出土状況図のトレースを行った。

平成19年度には、埴輪実測図のトレースを行うとともに、各トレンチの平面図・土層断面図や葺石平面図のトレースを進める。同年度後半には、図版および写真の版組作業および執筆作業を行い、報告書刊行に至る。

【整理作業参加者】（水洗・注記などの基礎作業のみの参加者は除く）

犬木 努・近藤麻美・金行美智子・岡野宏子・石津晴菜・根岸あかり・清水あき美・松本祐樹・橋本竜輔。

第２節　調査の進行状況

（１）**第３次調査**　（平成12年度）

８月１日(火)　２区葺石精査。

８月２日(水)　２区葺石検出。

８月３日(木)　１区葺石検出。２区葺石検出ほぼ完掘。２区東Ｔ清掃。

８月４日(金)　１区葺石精査。２区葺石精査ほぼ終了。

８月５日(土)　１区葺石精査終了。２区葺石精査終了。１Ｂ区表土剝剝ぎほぼ終了。埴輪片取り上げ。２Ｂ区表土剝ぎ一部終了。

８月７日(月)　１区葺石精査終了。２区葺石平面図作成。１Ｂ区表下層掘り下げほぼ終了。２Ｂ区表土剝ぎ。９・10Ｔ掘り下げ。

８月８日(火)　２区葺石平面図作成。１Ｂ・２Ｂ区表土下層掘り下げ。10Ｔ地山検出。

８月９日(水)　１・２区葺石平面図作成。１Ｂ区掘り下げ、埴輪片取り上げ。２Ｂ区表土剝ぎ。９Ｔ地山面検出。

８月10日(木)　１・２区葺石平面図作成。１Ｂ区掘り下げ。２Ｂ区表土剝ぎ終了。11～13Ｔ表土剝ぎ。

８月11日(金)　１・２区葺石平面図作成。１Ｂ区掘り下げ。２Ｂ区葺石検出。11～13Ｔ掘り下げ。

８月12日(土)　１・２区葺石平面図作成。２Ｂ区：葺石精査。11～13Ｔ掘り下げ。地山面検出。

８月14日(月)　１区葺石平面図作成。２区葺石平面図作成終了。１Ｂ・２Ｂ区葺石精査。12・13Ｔ埴輪片取り上げ。

８月15日(火)　１Ｂ・２Ｂ区葺石精査。12・13Ｔ地山面検出。

８月16日(水)　１Ｂ区写真撮影、葺石精査。２Ｂ区葺石精査。12/13Ｔ地山まで掘り下げ。

８月17日(木)　２Ｂ区葺石検出・精査、清掃。

８月19日(土)　１区葺石平面図作成。２Ｂ区表面精査。９/10Ｔ表土剝ぎ。12/13Ｔ写真撮影。１Ｂ区埴輪片取り上げ。

８月20日(日)　１Ｂ区掘り下げ。２Ｂ区葺石精査。

８月21日(月)　３/11Ｔ・11/10Ｔ・10/９Ｔ・９/２Ｔ・２/12Ｔ・13/１Ｔ掘り下げ。12/13Ｔ表土剝ぎ終了。

８月22日(火)　２Ｂ区葺石平面図作成。９～13Ｔ掘り下げ。13/12Ｔ完掘。

８月23日(水)　２Ｂ区葺石平面図作成終了。１・２Ｔ清掃、写真撮影。２Ｔ土層断面図作成。13/１Ｔ掘り下げ。12/13Ｔ掘り下げほぼ終了。２/12Ｔ墳端検出ほぼ終了

８月24日(木)　２Ｂ区葺石平面図作成終了、サブトレ精査。１Ｔ土層断面図作成終了。11/３・１/13Ｔ掘り下げ。10/11Ｔ・９/10Ｔほぼ完掘。

８月25日(金)　２Ｂ区葺石のレベリング。２区サブＴ土層断面清掃、写真撮影、土層断面図作成。墳端部各区で掘り下げほぼ終了。

８月26日(土)　２Ｂ区サブＴ土層断面図作成。各区写真清掃。３/11Ｔ埴輪片取り上げ、掘り下げ。10/11Ｔ埴輪片取り上げ。

８月27日(日)　１Ｂ区埴輪片取り上げ。墳頂部清掃。１・２区写真撮影。

８月28日(月)　１・２区葺石のレベリング。９Ｔ写真撮影。10Ｔ清掃、分層。２区円筒埴輪列写真撮影終了。

８月29日(火)　１・２区葺石レベリング終了。１区円筒埴輪・朝顔形埴輪の写真撮影。10Ｔ埴輪片取り上げ。１・２・13Ｔ土層断面図作成。２区埴輪出土状況図作成。

８月30日(水)　２区埴輪出土状況図・等高線図作成。９～11Ｔ写真撮影。１・２区等高線図作成。９・10Ｔ土層断面図作成。

９月１日(金)　１・２区等高線図作成終了。11Ｔ土層断面図作成。

９月２日(土)　２区墳頂部埴輪列出土位置図作成、埴輪片取り上げ。１・２・９～13Ｔレベリング。周溝部写真撮影。

９月３日(日)　２Ｂ区円筒埴輪写真撮影。１Ｂ・２Ｂ区埴輪取り上げ。１～２Ｂ区葺石細部の写真撮影。

（２）**第４次調査**（平成13年度）

８月１日(水)　７・８区写真撮影。８区掘り下げ。６区表土剝ぎ。

８月２日(木)　８区掘り下げ。６区表土剝ぎ終了。

８月３日(金)　８区掘り下げ。６・７区墳裾中央部サ

ブT掘り下げ

8月4日(土)　6～8区掘り下げ。

8月5日(日)　6～8区掘り下げ、円筒埴輪列検出。埴輪片取り上げ。墳裾T表土剥ぎ。

8月6日(月)　6・7区掘り下げ、根石列検出され始める。

8月7日(火)　8区掘り下げ完了。6・7区掘り下げ、根石列検出。

8月8日(水)　8区葺石検出、埴輪片取り上げ。6・7区掘り下げ、円筒埴輪列ほぼ検出。

8月9日(木)　8区葺石検出、埴輪片取り上げ。墳裾T掘り下げ完了。6・7区葺石検出。

8月10日(金)　8区葺石検出、埴輪片取り上げ、掘り下げ。墳裾T掘り下げ。

8月11日(土)　8区葺石検出、埴輪片取り上げ。墳裾T・7区ほぼ完掘。

8月13日(月)　8区埴輪片取り上げほぼ終了。7区地山ほぼ検出、葺石検出終了。

8月14日(火)　7区遺物片取り上げ、地山検出、精査。6区葺石検出終了。

8月15日(水)　8区完掘。清掃、写真撮影。

8月16日(木)　8区写真撮影。6区葺石検出、埴輪片取り上げ。

8月17日(金)　7区葺石精査・清掃、掘り下げほぼ完了。

8月18日(土)　7区埴輪片取り上げ。完掘。清掃、写真撮影。6区表土剥ぎ。

8月21日(火)　6区葺石検出・清掃ほぼ終了。8区葺石平面図作成。

8月22日(水)　6区清掃、写真撮影。埴輪片取り上げほぼ終了。

8月23日(木)　8区葺石平面図作成。

8月24日(金)　7・8区葺石平面図作成。7区円筒埴輪列写真撮影。

8月25日(土)　6～8区葺石平面図作成。6～8T完掘。写真撮影。7区円筒埴輪列の精査・清掃、写真撮影。土層断面図作成。

8月26日(日)　6・7・8区：葺石平面図作成。4・5区完掘、写真撮影。土層断面拡大写真撮影。7区円筒埴輪列写真撮影、土層断面図作成。掘り下げ。4～8T周溝底のレベリング。

8月27日(月)　8区葺石平面図作成終了。6・7区葺石平面図作成。7区円筒埴輪列の精査・写真撮影。4・5T完掘写真撮影。

8月28日(火)　7区葺石平面図作成終了、写真撮影。6区葺石平面図作成。8区葺石レベリング・写真撮影。

8月29日(水)　6区葺石平面図作成終了。6・7区葺石レベリング。8区写真撮影。

8月30日(木)　6・7区葺石レベリング終了。7・8区埴輪出土状況図作成。4～8T土層断面図作成。8ベルト土層断面図作成。6・7区墳裾中央T掘り下げ。8区墳裾中央T地山検出。

8月31日(金)　4～8T周溝部土層断面図作成。7・8区埴輪出土状況図作成終了。6～8ベルト土層断面図作成終了。6～8区墳裾T掘り下げ。8区清掃。

9月1日(土)　7・8区清掃。6～8区完掘写真撮影。6・7区葺石検出。

9月3日(月)　4・6T周溝部土層断面図作成。4～8T周溝部平面図作成。6区葺石平面図作成・レベリング終了。

9月4日(火)　6～8区全体写真撮影。7・8区円筒埴輪列写真撮影。6区葺石・円筒埴輪№1写真撮影。7区墳裾中央T写真撮影。6～8区等高線図作成。4・6T：平面図作成終了。

9月5日(水)　6～8区等高線図作成。7・8区円筒埴輪の堀方精査・写真撮影。

9月6日(木)　7・8区埴輪取り上げ。

（3）**第5次調査**（平成14年度）

8月1日(木)　4区表土剥ぎ終了。5区：表土剥ぎ

8月2日(金)　5区表土剥ぎ。

8月3日(土)　3区表土剥ぎ。

8月5日(月)　3区掘り下げ。5区・墳頂部表土剥がし。

8月6日(火)　3区掘り下げ・埴輪片取り上げ。墳頂部表土剥ぎ。ほぼ終了。

8月7日(水)　3区遺物片取り上げ。

8月8日(木)　3区円筒埴輪列の精査。墳頂部掘り下げ。

8月9日(金)　4区掘り下げ。

8月10日(土)　4区掘り下げ。

8月12日(月)　4区埴輪片取り上げ。3区墳裾中央T掘り下げ。

8月13日(火)　5区掘り下げ。3区墳裾中央T掘り下げ。

8月14日(水)　2区清掃。3区墳裾中央T・4区墳裾中央T掘り下げ。

8月15日(木)　2区清掃・掘り下げ。3区掘り下げ、埴輪片取り上げ。4区墳裾T掘り下げ。

8月16日(金)　3区掘り下げ、埴輪片取り上げ。

8月17日(土)　3区葺石精査。4区掘り下げ、ほぼ終了。埴輪片取り上げ。

8月19日(月)　3区清掃、葺石写真撮影。4区掘り下げ、埴輪片取り上げ。2区葺石写真撮影。

8月20日(火)　4区葺石精査ほぼ終了。

8月21日(水)　4区写真撮影。5区墳頂部・4区：埴輪片取り上げ。5区埴輪片取り上げ後掘り下げ。

8月22日(木)　5区掘り下げ、円筒埴輪検出。

8月23日(金)　5区葺石の精査、検出ほぼ終了。埴輪片取り上げ。5区墳裾中央T掘り下げ。

8月24日(土)　6区清掃ほぼ終了。3・4ベルトエレベーション図作成。

8月25日(日)　5区清掃、写真撮影。埴輪片取り上げ。4ベルトエレベーション図完成。

8月26日(月)　7区清掃。3～5ベルト土層断面図作成。3・4ベルトベルト外し。

8月27日(火)　6区写真撮影。7区清掃。3・4ベルト表土剥がしほぼ終了。5ベルト土層断面図作成。

8月28日(水)　8区清掃完了。7区掘り下げ。5ベルト土層断面図作成終了。6ベルト土層断面図作成。3・4ベルト表土剥がし終了。

8月31日(土)　7区埴輪片取り上げ。6～8ベルト土層断面図作成終了。1ベルト土層断面図作成。3・4ベルト掘り下げ。

9月1日(日)　7区清掃、写真撮影。1・2ベルト土層断面図作成終了。5ベルト表土剥ぎ。4ベルト掘り下げ終了。

9月2日(月)　8区・4ベルト埴輪片取り上げ。1ベルト土層断面図作成終了。5ベルト表土剥ぎほぼ終了。6ベルト表土剥ぎ。

9月3日(火)　8区清掃、写真撮影。1区・墳頂部1～8ベルト埴輪片取り上げ。5・6ベルト掘り下げ。7ベルト表土剥ぎ。

9月4日(水)　1区精査、埴輪片取り上げ。墳頂部ベルト平面図作成。5・6ベルト埴輪片取り上げ・精査終了。7ベルト表土剥ぎ・埴輪片取り上げ終了。1・8ベルト表土剥ぎ終了。2ベルト表土剥ぎ。

9月5日(木)　3T・墳頂部3ベルト掘り下げ。7ベルト掘り下げ、完掘。埴輪出土状況図作成終了。8ベルト表土剥ぎ終了、掘り下げ。1・2ベルト掘り下げ、埴輪片取り上げ。4・5区葺石平面図作成。

9月6日(金)　墳頂部1～8ベルト表土剥ぎ。5区埴輪出土状況図作成。7・8ベルト埴輪片取り上げ。1・2ベルト掘り下げ、埴輪片取り上げ。葺石平面図作成。

9月7日(土)　墳頂部1～8ベルト表土剥ぎ。5区埴輪出土状況図作成。8ベルト埴輪片取り上げ。1・2ベルト掘り下げ、埴輪片取り上げ、葺石平面図作成。

9月8日(日)　5区埴輪出土状況図作成。1・2・8ベルト埴輪片取り上げ、掘り下げ。葺石平面図作成。

9月9日(月)　3区葺石平面図作成。8ベルト葺石検出。1ベルト掘り下げ、地山検出。2ベルト掘り下げ終了、埴輪片取り上げ、葺石平面図作成、埴輪精査。

9月10日(火)　3～5区埴輪出土状況図作成ほぼ終了。8ベルト葺石・埴輪精査終了。1ベルト葺石精査終了。3～5・7区葺石平面図作成。

9月11日(水)　5区埴輪出土状況図作成終了。3～5区・7区葺石平面図作成・レベリング終了。

9月12日(木)　3区・3・8ベルト埴輪出土状況図作成。1～3・7・8ベルト部分葺石平面図、等高線図作成。

9月13日(金)　1～3・7・8ベルト葺石平面図作成、レベリング終了。3～5区等高線図作成。墳頂部2

ベルト掘り下げ、埴輪片取り上げ。

9月14日(土)　5Ｔ葺石レベリング。墳裾等高線図作成。墳頂部精査。

9月15日(日)　5Ｔ葺石レベリング。墳頂部埴輪片取り上げ終了。

9月16日(月)　全体写真・清掃

9月17日(火)　6ベルト埴輪出土状況図作成。3Ｔ掘り下げ、埴輪片取り上げ、完掘。15Ｔ掘り下げ。3～8区墳裾中央Ｔ完掘。7・8区墳裾中央Ｔ土層断面図作成終了。

9月18日(水)　空撮。8区墳裾中央Ｔ平面図作成終了。3・15Ｔ平面図作成終了。6区墳裾中央Ｔ土層断面図作成。4・3区中央Ｔ拡張。墳頂部円筒埴輪列概略図作成。3区埴輪列写真撮影。

9月19日(木)　6・8区完掘写真撮影。4区円筒埴輪列写真撮影。1・2区墳裾外形図・トレンチ平面図すべて終了。土層説明(トレンチ)すべて終了。169号墳と170号墳の写真撮影。

9月20日(金)　3～8区墳裾中央Ｔ・3・15トレンチ土層断面・完掘写真撮影終了。円筒埴輪列レベリング、取り上げ。全体写真撮影。

9月21日(土)　埴輪取り上げすべて終了。5区葺石部分写真撮影。1～8区葺石メモ写真撮影。

（4）**第6次調査**（平成14年度）

3月15日(土)　墳頂部外周埴輪列精査。

3月16日(日)　墳頂部円筒埴輪列精査・掘り下げ。

3月17日(月)　墳頂部外周円筒埴輪列精査・掘り下げ。

3月18日(火)　墳頂部外周円筒埴輪列検出作業、埴輪片出土状況図作成・取り上げ。

3月19日(水)　墳頂部外周円筒埴輪列検出作業、埴輪片出土状況図作成。

3月20日(木)　墳頂部外周円筒埴輪列1・8区清掃、写真撮影ほぼ終了。

3月21日(金)　墳頂部外周円筒埴輪列清掃、写真撮影、7～8区ほぼ終了。墳頂部表土の除去。円筒埴輪出土状況図作成。

3月22日(土)　墳頂部外周円筒埴輪列清掃写真撮影、7区まではほぼ終了。埴輪出土状況図作成。墳頂部表土の除去。

3月23日(日)　墳頂部外周円筒埴輪列6区写真撮影終了、5区写真撮影。埴輪出土状況図作成。墳頂部表土の除去。

3月24日(月)　墳頂部外周円筒埴輪列5・6区の清掃・写真撮影終了。

3月25日(火)　墳頂部外周円筒埴輪列清掃、5区の写真撮影終了。器財埴輪片出土状況写真撮影。墳頂部2～8区表土の除去、埴輪片取り上げ作業。5・6区埴輪出土状況図作成。

3月26日(水)　5・6区埴輪出土状況図作成全て終了。3区埴輪出土状況図作成。墳頂部2～8区表土の除去。6区埴輪出土状況図作成。

3月27日(木)　埴輪片取り上げ作業。墳頂部外周円筒埴輪列5～8区出土状況写真撮影。原位置埴輪・埴輪片取り上げ作業。

3月28日(水)　墳頂部ベルト除去、埴輪片取り上げ作業。6区墳頂部埴輪出土状況図作成。8区墳頂部埴輪片取り上げ。

3月29日(金)　埴輪片取り上げ作業終了。埴輪出土状況図作成。墳頂部ベルト外し終了。埴輪取り上げ作業。

3月30日(土)　墳頂部大正Ｔ・2区大正Ｔ・各区墳裾Ｔ平面図作成。埴輪出土状況図作成。3ベルト大正Ｔ拡張部精査。掘り下げ。墳頂部外周円筒埴輪列清掃・写真撮影、個別写真撮影、取り上げ作業。

3月31日(日)　2区南端大正Ｔレベリング。2・3区墳裾大正Ｔ平面図・土層断面図作成。写真撮影。墳頂部外周円筒埴輪列写真撮影(個別・完掘)。埴輪取り上げ作業。墳頂部土層断面・エレベーション図作成。

（5）**第7次調査**（平成15年度）

8月10日(日)　9～14・16～20Ｔ拡張・掘り下げ。

8月11日(月)　9・13・14Ｔ拡張。18Ｔ拡張・掘り下げ。3区周溝Ａ・Ｂ区・3Ｔ西・3/16・16/11・11/17・17/10・10/15Ｔ掘り下げ。15/9Ｔ地山検出。

8月12日(火)　3区周溝Ｂ・Ｃ区掘り下げ。14・15/9Ｔ掘り下げ。13Ｔ拡張。18Ｔ拡張・掘り下げ。

8月13日(水)　13・14T拡張。12・19T地山検出終了。18T掘り下げ

8月14日(木)　13・14T掘り下げ。19/2・12/2トレンチ完掘。

8月15日(金)　13・14T地山面検出終了。2区周溝C区～3区周溝C区掘り下げ。

8月16日(土)　2区周溝C区～3区周溝C区掘り下げ終了。

8月17日(日)　2区周溝C区～3区周溝B区掘り下げ、埴輪片取り上げ。3区周溝C区掘り下げ、埴輪片取り上げ、拡張。

8月18日(月)　3区周溝A区～C区掘り下げ。12・19・20T延長・掘り下げ。

8月19日(火)　3区周溝A区・3区周溝B区埴輪片取り上げ。12・19・20T・3区周溝C区掘り下げ。

8月20日(水)　3区周溝A～C区・2区周溝D区埴輪片取り上げ。2区周溝C区掘り下げ。

8月21日(木)　3区周溝A～C区・2区周溝D区掘り下げ、埴輪片取り上げ。2区周溝C区掘り下げ。

8月22日(金)　3区周溝A区～C区・2区周溝C・D区掘り下げ。

8月23日(土)　3区周溝A区～C区・2区周溝D区周溝掘り下げ・埴輪片取り上げ。2区周溝C区掘り下げ。5T墳丘断割、写真撮影。3区周溝A区埴輪出土状況図作成。

8月24日(日)　3区周溝A区～C区・2区周溝D区掘り下げ・埴輪片取り上げ。2区周溝C区埴輪出土状況図作成終了。5T墳丘断ち割り

8月25日(月)　3区周溝A・C区掘り下げ、埴輪出土状況写真撮影。2区周溝C区・B区埴輪片取り上げ終了、掘り下げ。2区周溝B区掘り下げ。5T墳丘断割。

8月26日(火)　3区周溝C区掘り下げ。3区周溝A・B区埴輪出土状況図作成。2区周溝C区掘り下げ。12～14・18～19T掘り下げ、精査。19・20T精査。

8月27日(水)　3区周溝C区掘り下げ、写真撮影、埴輪片取り上げ。完掘。3区周溝A・B区埴輪出土状況図作成。2区周溝B・C区掘り下げ。2区周溝C区埴輪片取り上げ。2区周溝B区掘り下げ、溝の平面図作成。13Tほぼ完掘。12T完掘。18T掘り下げ。

8月28日(木)　2区周溝C・B区掘り下げ、埴輪片取り上げ。14・18T埴輪片取り上げ。3区周溝B区埴輪出土状況図作成終了。2区周溝D区埴輪の精査・写真撮影・出土状況図作成。

8月29日(金)　2区周溝D区埴輪出土状況図作成ほぼ終了。2区周溝C区掘り下げ、埴輪片取り上げ。完掘。2区周溝B区掘り下げ、埴輪片取り上げ。

8月30日(土)　2区周溝D区埴輪出土状況図作成終了。2区周溝2B区完掘。

8月31日(日)　完掘写真。

9月1日(月)　12・13・14・19・20T土層断面写真撮影終了。周溝部完掘写真撮影。2区周溝D区・3区周溝A～C区完掘写真。1T墳丘断割。3区周溝B区埴輪取り上げ。

9月2日(火)　12～14・18～20T完掘写真撮影終了。14・18T・2区周溝B区～3区周溝C区土層断面写真撮影終了。12・14・19・20T土層断面図作成。1T墳丘断割。

9月4日(木)　1・5T墳丘断割部写真撮影終了・土層断面図作成。3区周溝A区埴輪取り上げ終了。2区周溝D区埴輪取り上げ終了。12・14T・3区周溝B区トレンチ平面図作成終了。

9月5日(金)　18～20T・2区周溝C区・3区周溝A区・3区周溝C区平面図作成終了。2区周溝B区・2区周溝D区平面図作成途中。3周溝B区写真撮影。

9月6日(土)　墳頂部・墳頂部ベルト埴輪片取り上げ。2区周溝B区・2周溝D区平面図作成終了。2区周溝B区・3区周溝C区写真撮影終了。5T断割部写真撮影終了。

第３節　調査の方法

第２次調査では、発掘調査に先立って、国土座標に基づく測量基準杭を墳丘各所に設置し（第４図)、平板を用いて、墳丘全体の測量図（縮尺１／200）を作成した。

史跡整備に伴う発掘調査であるため、まず墳丘および周溝の形状および規模の確認を行うこととなった。墳頂外縁から周溝外端まで伸びるトレンチを、８方向に放射状に設定し、葺石の遺存状況を確認するとともに、墳丘平坦面や斜面の遺存状況の確認に努めた。トレンチ番号は、東側の第１トレンチから順に時計回りに付した。各トレンチとも、表土および流土を除去し、転落した葺石を除去するのみで、一部を除き、墳丘の断割は行っていない。

トレンチ調査によって墳丘の状況が把握できた段階で、１区および２区について、墳丘全面調査を行った。墳頂部では、大正時代の調査で形象埴輪が集中的に出土している南東側４分の１（墳頂部１区・２区）について、表土を除去し、墳丘面の検出を行った。

平成12年度に実施された第３次調査では、平成10年度から着手されていた１区・２区の調査を継続したが、１区の北側および、２区の南側に一部、発掘未着手の部分があったため、平成12年度にあらためて拡張することとなった（それぞれ１Ｂ区、２Ｂ区と呼称)。

なお、葺石については、二次的移動を受けているものは全て取り外し、原位置で遺存しているもののみ実測した。墳丘全面に１ｍグリッドを設定し、各グリッドごとに縮尺10分の１で平面図を作成した。

また、円筒埴輪については、葺石実測と同様に設定した１ｍグリッドを用いて、縮尺５分の１で平面図を作成し、細部については、遺物の水洗後に現物を見ながら補筆・補正する方式をとった。立面図については、現場で実測したのち遺物の水洗後に現物を見ながら補筆・補正した。

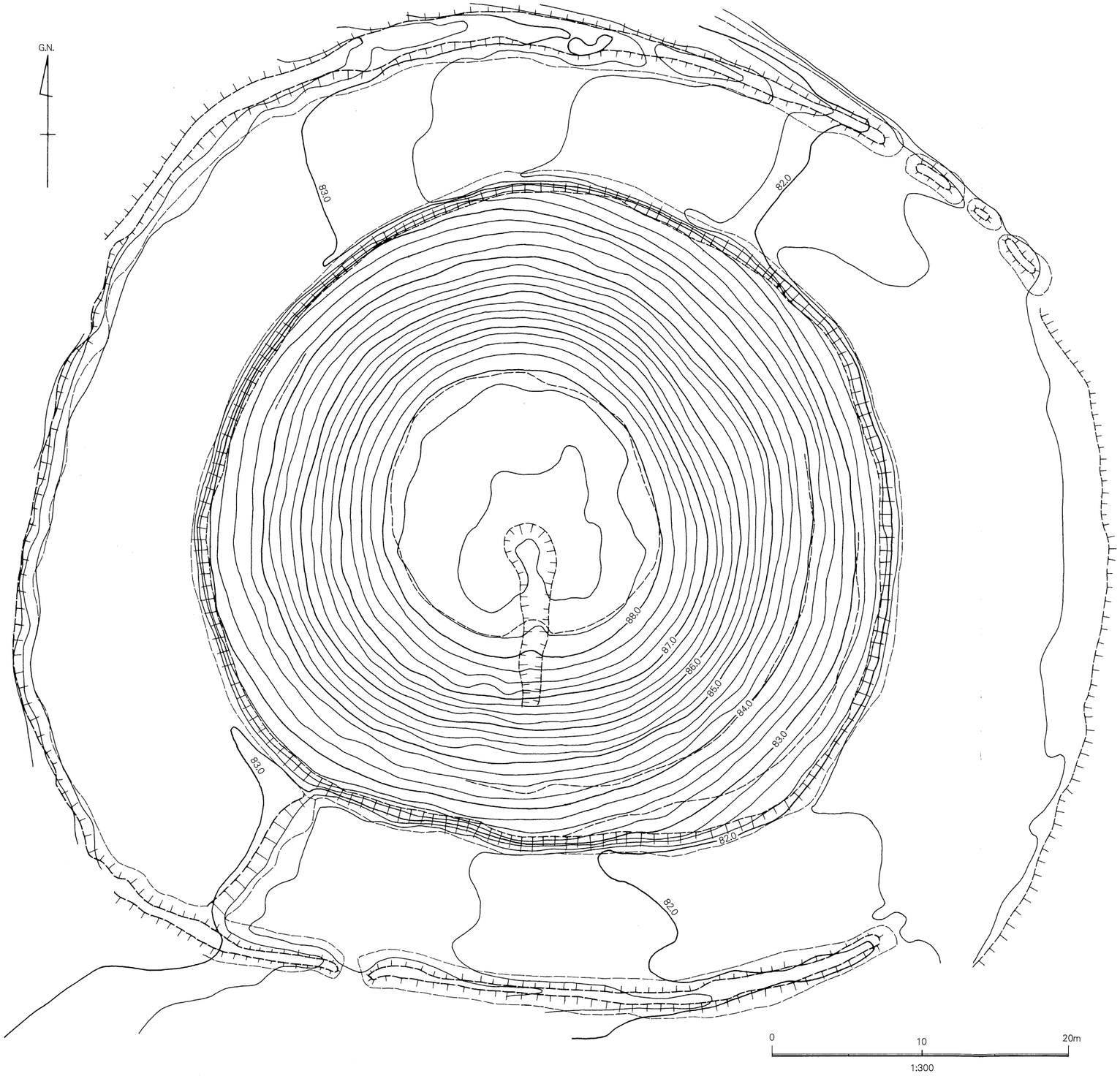
平成12年度に終了した1区・２区の調査成果を受けて、他の区画についても墳丘の全面調査を行う方針が決定し、平成13年度には６区・７区・８区、平成14年度には３区・４区・５区の墳丘全面調査が行われることとなった。区の番号は、東南東に位置する１区から、２区、３区という順に時計回りに番号をふった。

なお、８方向に設定されたトレンチ（第１～８トレンチ）それぞれの間には、墳裾の確認を目的とした長さ数メートルの短いトレンチを設定している（それぞれ○区中央トレンチと呼称)。

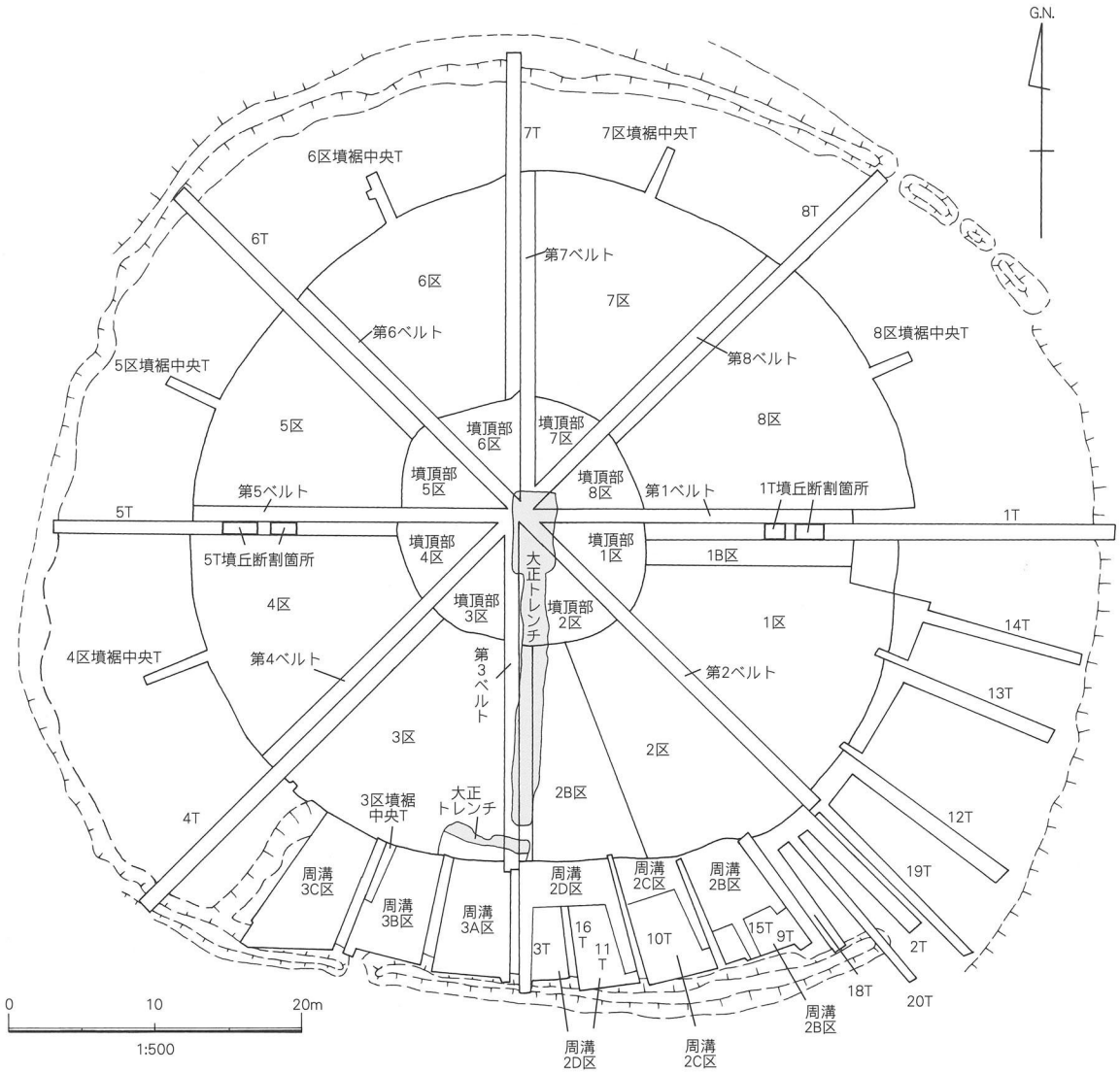
平成14年度には３～５区の調査完了をもって、墳丘全面の調査が終了したため、８方向に残されていたベルトをすべて除去し、墳頂部の南東側４分の１以外の区画についても表土をすべて除去し、ラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。

平成15年３月には、墳頂部平坦面外周の円筒埴輪列の調査を行い、同年８月には、造出部および周溝の発掘調査を行う。なお、第１トレンチおよび第５トレンチにおいて、第２段目斜面および第３段目斜面の一部墳丘断割を行っている。

また、墳頂部中央から南側墳裾まで伸びている大正時代の調査坑については、輪郭の確認を行ったのみで、掘り下げは行っていない。

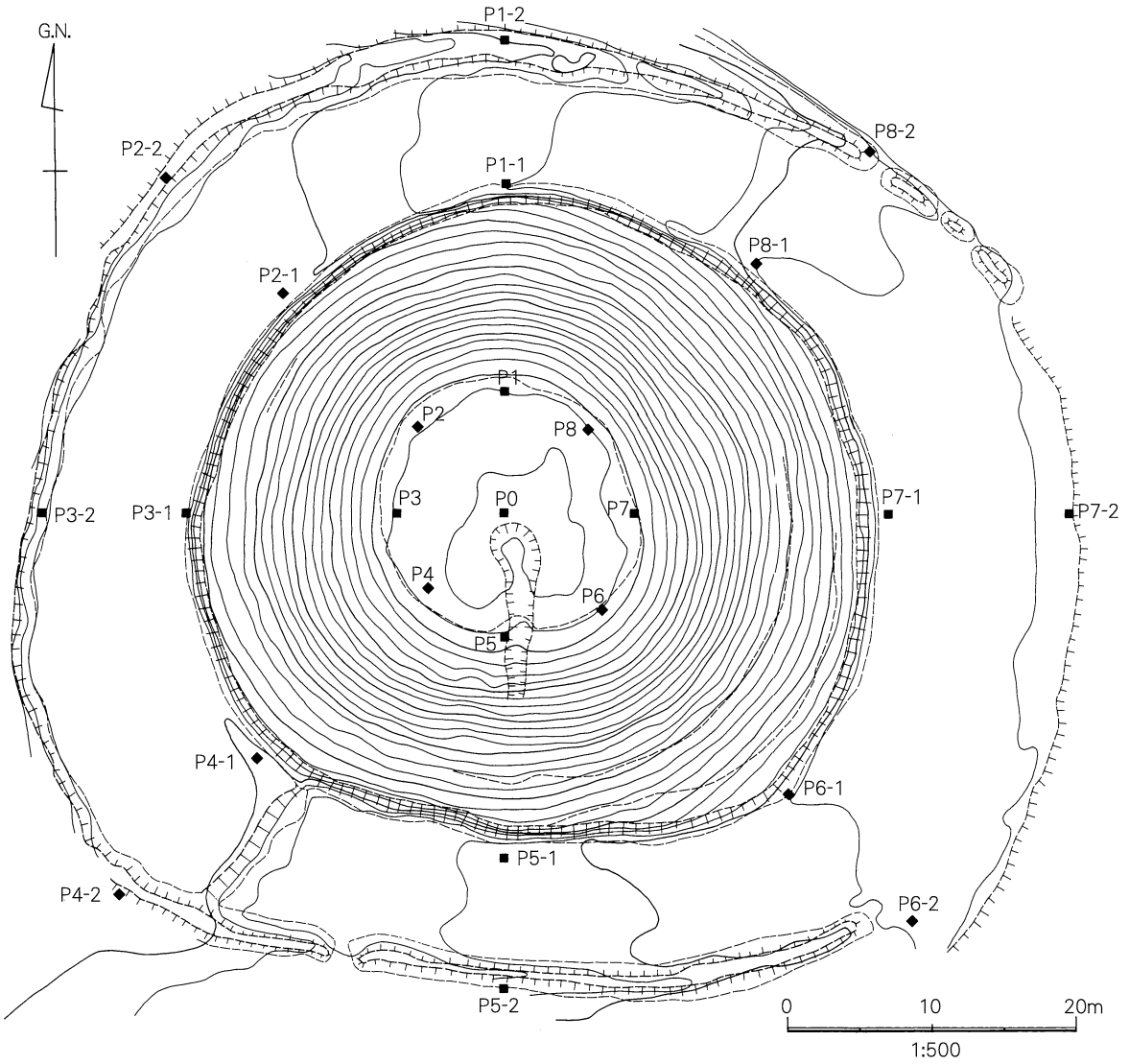


第２図　169号墳墳丘測量図（調査前）（S＝1/300）



第３図　169号墳調査区・トレンチ・ベルト配置図（S＝1/500）

調査の過程で、複雑にトレンチや調査区を複雑に拡大しているため、若干、錯綜している部分がある。第２次調査においては、墳丘斜面に８方向に放射状にトレンチを入れている。また、第２次調査では、南東側の１区と２区を調査しているのだが、正確には45度分ずつは調査していない。その時、調査を行っていない部分については、それぞれ１Ｂ区、２Ｂ区として第３次調査の対象となっている。第３次調査時には、墳裾と周溝幅の確認を目的として、第２ベルトのラインから、時計回りに10度、20度、30度の位置にそれぞれ第９・10・11トレンチを設定した。また、第２ベルトのラインから、逆時計回りに、10度、25度の位置にそれぞれ12・13トレンチを設定している。第12・13トレンチについては、第７次調査時に、周溝外側の確認を目的として外側に延長している。また、第13トレンチと第１トレンチの間に第14トレンチ、第２ベルトと第９トレンチの間に第18・20トレンチ、第２ベルトと第12トレンチの間に第19トレンチを設定している。



第 4 図　169号墳測量基準杭配置図（S＝1/500）

表 2　169号墳測量基準杭国土座標一覧

点名	X座標	Y座標	点名	X座標	Y座標
P0	-97651.802	36293.305	P5-1	-97675.628	36296.194
P1	-97643.364	36292.282	P6-1	-97669.074	36315.343
P2	-97646.559	36286.615	P7-1	-97648.613	36319.612
P3	-97652.705	36285.860	P8-1	-97632.519	36308.418
P4	-97657.705	36288.679	P1-2	-97619.042	36289.333
P5	-97660.240	36294.328	P2-2	-97631.137	36266.938
P6	-97657.662	36300.782	P3-2	-97655.653	36261.538
P7	-97650.719	36302.240	P4-2	-97681.317	36270.173
P8	-97645.505	36298.240	P5-2	-97684.562	36297.277
P1-1	-97628.969	36290.537	P6-2	-97676.476	36324.788
P2-1	-97638.540	36276.383	P7-2	-97647.108	36332.021
P3-1	-97654.450	36271.465	P8-2	-97623.861	36315.204
P4-1	-97670.692	36278.500			

第４節　調査成果の概要

（１）墳丘・周溝の調査

169号墳は、南北約47m、東西約49m、高さは約6.5mの堂々たる円墳である。全体図を見ればわかるように、真円をなさず、わずかに歪んでいるのが特徴である。極端な言い方をすれば「おにぎり」形を呈している。

墳丘は三段築成である。第１段目斜面・第２段目斜面に比べて、第３段目の斜面長がかなり長い。

第３段目斜面および第２段目斜面には葺石が葺かれていたことが確認できるが、第１段目斜面には葺石をもたなかったと考えられる。第１段目斜面の下端部が削平されずに、各トレンチで検出されているが、いずれのトレンチでも葺石の根石は検出されていない。また、周溝内にも、第１段目斜面から転落したと思われる葺石は遺存していない。以上から、第１段目斜面には、本来、葺石が葺かれていなかったものと推定される。

南東部には、幅約９m、長さ約３mの短い突出部をもつ。造出外縁のラインは直線をなさず、ごく緩やかな円弧をなす。造出上面は削平されており、本来の高さは不明であるが、第１段目斜面の途中に接続するものと思われる。なお、造出部は地山削り出しによって成形されている。また、造出の斜面には葺石は用いられていない。

周溝の幅は一定していない。南側では幅7.5m程度であるのに対して、他の部分では幅10m程度である。周溝の内側斜面（第１段目斜面）は、墳丘第２段目・第３段目斜面とほぼ同様な勾配をなし、第１段目斜面下端の傾斜変換も比較的明瞭であるが、周溝の外側斜面下端の傾斜変換は不明瞭で、緩やかに立ち上がっていく。

周溝の周囲に存在する外堤状の部分については、第１トレンチなど何箇所かで一部断割を行ったが、古墳時代の遺構ではないことが確認された。いずれも、後世、それもかなり新しい段階の盛土である。しかし、その一方で、この外堤状の部分が、周溝の外側ラインとほぼ一致することも事実である。墳丘南側では、周溝の幅が狭く、外堤状の部分も墳丘に近くなっているが、これは本来の周溝の形状を示している可能性が高いと思われる。かつて遺存していた周溝の痕跡が、この外堤状の部分に反映されている可能性も考えておきたい。

なお、周溝の幅は南側でかなり狭くなっており、その幅狭の部分の東端部に造出が位置していることになる。墳丘構築の最終段階で、ブリッジ状の部分を切り離して、造出部を作り出したものかも知れない。

なお、墳丘の第２段目までは地山を削り出して成形しており、第３段目より上は全て盛土成形を行っている。これは、検出された墳丘面でも確認することができたし、第１トレンチおよび第５トレンチで行った断割調査によっても裏付けられた。

169号墳は、北北西から東南東に向かって低くなる緩傾斜地に立地するが、墳丘第１段目斜面の長さも、南東側では広く、北西側では狭くなっていたようである。造出部が南南東に位置することとあわせて、概ね南東側から見る姿が、本古墳の正面観であることは間違いないであろうと思われる。

（2）埴輪列の調査

円筒埴輪列は、三段築成をなす各平坦面に樹立されていたことが確認された。

墳頂部平坦面外周には、心々距離約30㎝間隔で、比較的密接した状態で樹立されていたことが確認されている。それに対して、第2段目平坦面では、心々距離約65㎝間隔という、比較的まばらな状態で樹立されていた。第1段目平坦面は、それ自体が削平されている部分が多いが、南東側の一部で、原位置の円筒埴輪が検出されており、本来、第1段目平坦面にも円筒埴輪が樹立されていたと推定される。樹立間隔は、第2段目平坦面と同様に、比較的まばらであったと推定される。

造出上面は削平を受けており、円筒埴輪、形象埴輪などの樹立は確認できなかったが、造出の周囲では壺形埴輪や器財埴輪が比較的集中して出土しており、造出上面にこの種の埴輪が樹立されていた可能性も考えておきたい。なお、造出上面には、円筒埴輪や器財埴輪の樹立痕は確認されていない。

一方、外堤状の部分は、後世の造作であることが明らかになったが、周溝内には外側から円筒埴輪が流れ込んだような状況は確認できておらず、本来、古墳の外側を円筒埴輪列で画するようなことは行われていなかったものと思われる。

円筒埴輪列については、それぞれ掘方の検出に力を注いだが、最終的に掘方を確認することはできなかった。墳丘面に円筒埴輪を置いたのち、一定レベルまで土を被せるような方式であったのか、黒ボク土のため掘方を確認できていないだけであるのか、現状では判断できない。

また、第1次調査では墳頂平坦面の南側を中心に調査がなされおり、もし中央部に方形埴輪列が存在していたとすれば、その痕跡が残っている可能性が高いと考えられていた。しかし、墳頂部平坦面中央に方形埴輪列の痕跡は確認されなかったので、中央に方形埴輪列は存在しなかった可能性が高いと考えられる。

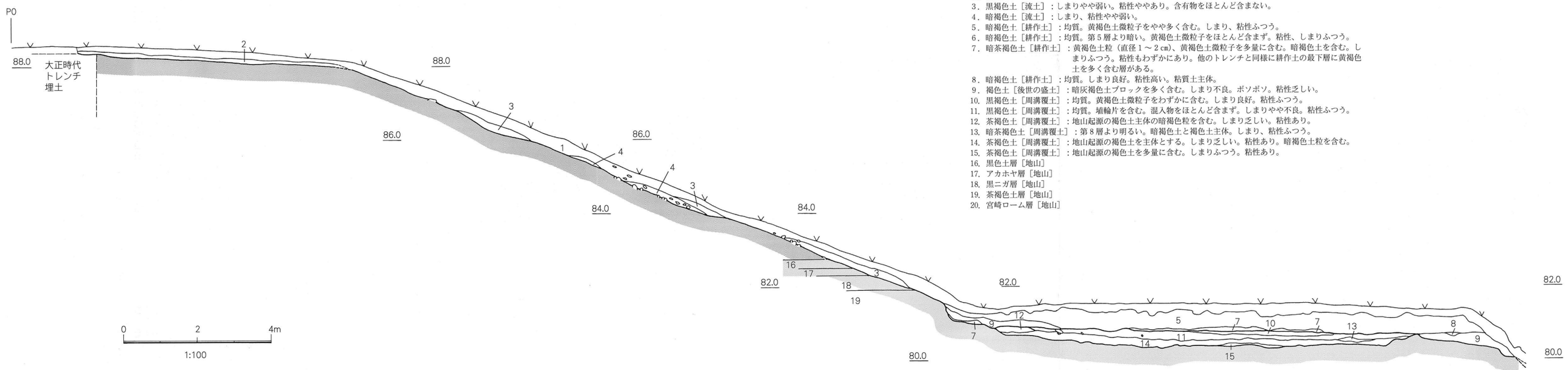
第1次調査では、墳頂部平坦面の南半部で各種形象埴輪が出土したとされるが、今回、当該部分を精査したところ、第1次調査での取り残しと思われる各種器財埴輪破片が検出された。詳細については、次年度刊行の遺物編に譲るが、今回出土した破片の中には、大正時代の調査で出土した埴輪破片（現在、東京国立博物館所蔵）と接合したものがかなりある。

（3）大正時代の調査坑について

墳頂部平坦面中央に、東西約2.9m、南北約5.7mの調査坑が確認された。また、そこから南に向かって幅約1.6～1.9mほどのトレンチ状の調査坑の痕跡が墳丘南側の墳裾上部まで伸びている。これは、第1次調査時の報告書に見られる、南側の墳裾から北に向かって幅6尺のトレンチを入れたところ、墳裾から10尺以上登ったところで円筒埴輪列を発見したという記述や、さらに掘り進んで墳頂部平坦面までトレンチを伸ばしたという記述などとも符号するものである。

埋葬施設は、墳頂部平坦面から深さ11尺という、かなり深い位置で確認されたようであるが、今回、墳頂部平坦面で確認された調査坑の大きさから推定すると、かなり幅の狭いトレンチを塹壕状に掘り下げていたものと推測される。

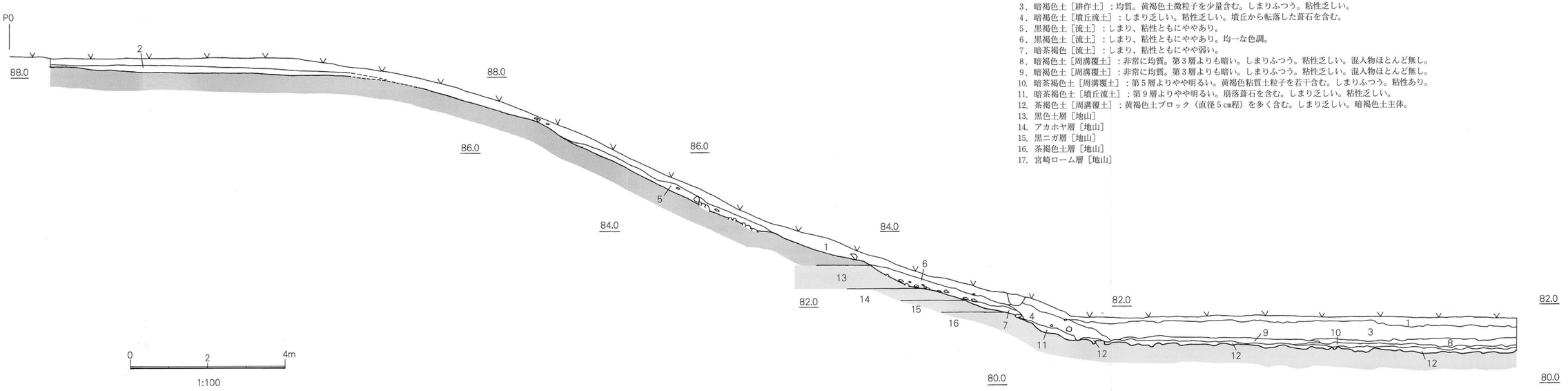
第１ベルト・第１トレンチ土層断面図



第１ベルト・第１トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．黒褐色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。含有物をほとんど含まない。
4．暗褐色土［流土］：しまり、粘性やや弱い。
5．暗褐色土［耕作土］：均質。黄褐色土微粒子をやや多く含む。しまり、粘性ふつう。
6．暗褐色土［耕作土］：均質。第５層より暗い。黄褐色土微粒子をほとんど含まず。粘性、しまりふつう。
7．暗茶褐色土［耕作土］：黄褐色土粒（直径１～２㎝）、黄褐色土微粒子を多量に含む。暗褐色土を含む。しまりふつう。粘性もわずかにあり。他のトレンチと同様に耕作土の最下層に黄褐色土を多く含む層がある。
8．暗褐色土［耕作土］：均質。しまり良好。粘性高い。粘質土主体。
9．褐色土［後世の盛土］：暗灰褐色土ブロックを多く含む。しまり不良。ボソボソ。粘性乏しい。
10．黒褐色土［周溝覆土］：均質。黄褐色土微粒子をわずかに含む。しまり良好。粘性ふつう。
11．黒褐色土［周溝覆土］：均質。埴輪片を含む。混入物をほとんど含まず。しまりやや不良。粘性ふつう。
12．茶褐色土［周溝覆土］：地山起源の褐色土主体の暗褐色粒を含む。しまり乏しい。粘性あり。
13．暗茶褐色土［周溝覆土］：第８層より明るい。暗褐色土と褐色土主体。しまり、粘性ふつう。
14．茶褐色土［周溝覆土］：地山起源の褐色土を主体とする。しまり乏しい。粘性あり。暗褐色土粒を含む。
15．茶褐色土［周溝覆土］：地山起源の褐色土を多量に含む。しまりふつう。粘性あり。
16．黒色土層［地山］
17．アカホヤ層［地山］
18．黒ニガ層［地山］
19．茶褐色土層［地山］
20．宮崎ローム層［地山］

第２ベルト・第２トレンチ土層断面図

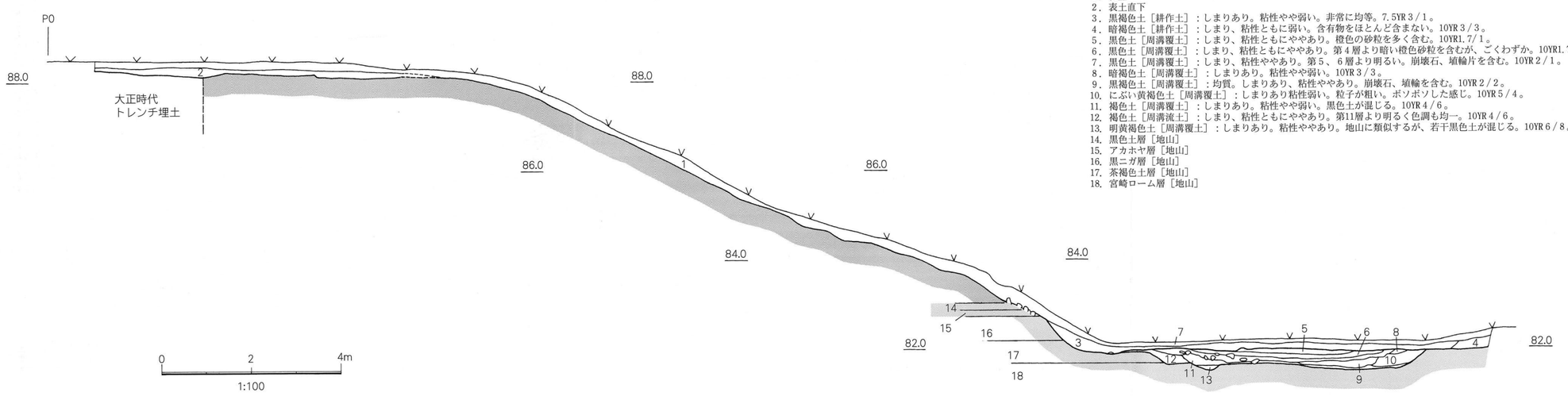


第２ベルト・第２トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．暗褐色土［耕作土］：均質。黄褐色土微粒子を少量含む。しまりふつう。粘性乏しい。
4．暗褐色土［墳丘流土］：しまり乏しい。粘性乏しい。墳丘から転落した葺石を含む。
5．黒褐色土［流土］：しまり、粘性ともにややあり。
6．黒褐色土［流土］：しまり、粘性ともにややあり。均一な色調。
7．暗茶褐色［流土］：しまり、粘性ともにやや弱い。
8．暗褐色土［周溝覆土］：非常に均質。第３層よりも暗い。しまりふつう。粘性乏しい。混入物ほとんど無し。
9．暗褐色土［周溝覆土］：非常に均質。第３層よりも暗い。しまりふつう。粘性乏しい。混入物ほとんど無し。
10．暗茶褐色土［周溝覆土］：第５層よりやや明るい。黄褐色粘質土粒子を若干含む。しまりふつう。粘性あり。
11．暗茶褐色土［墳丘流土］：第９層よりやや明るい。崩落葺石を含む。しまり乏しい。粘性乏しい。
12．茶褐色土［周溝覆土］：黄褐色土ブロック（直径５cm程）を多く含む。しまり乏しい。暗褐色土主体。
13．黒色土層［地山］
14．アカホヤ層［地山］
15．黒ニガ層［地山］
16．茶褐色土層［地山］
17．宮崎ローム層［地山］

第５図　169号墳第１ベルト・第１トレンチ、第２ベルト・第２トレンチ土層断面図（S＝1/100）

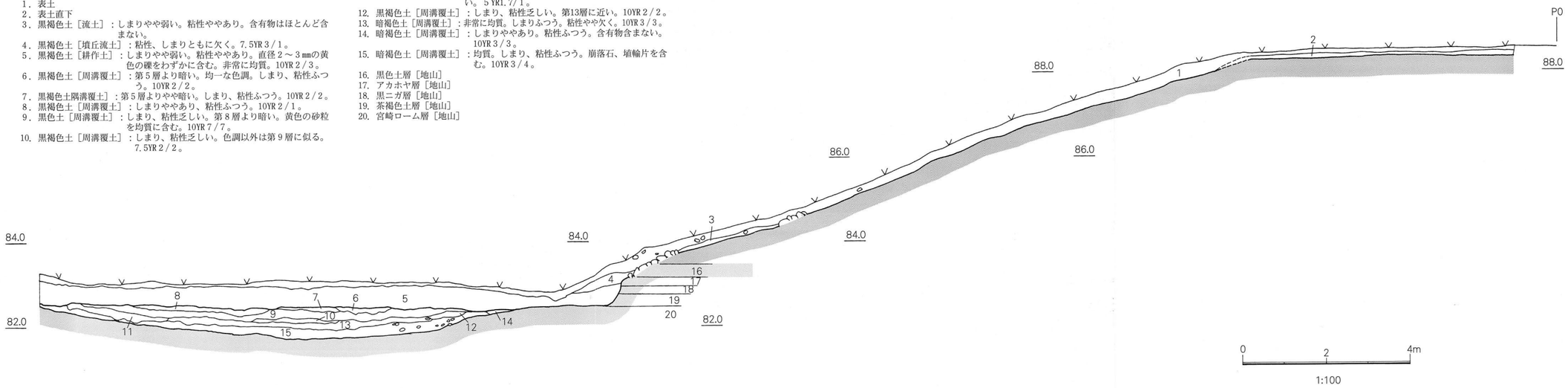
第３ベルト・第３トレンチ土層断面図



第３ベルト・第３トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．黒褐色土［耕作土］：しまりあり。粘性やや弱い。非常に均等。7.5YR３/１。
4．暗褐色土［耕作土］：しまり、粘性ともに弱い。含有物をほとんど含まない。10YR３/３。
5．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。橙色の砂粒を多く含む。10YR1.7/１。
6．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。第４層より暗い橙色砂粒を含むが、ごくわずか。10YR1.7/１。
7．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性ややあり。第５、６層より明るい。崩壊石、埴輪片を含む。10YR２/１。
8．暗褐色土［周溝覆土］：しまりあり。粘性やや弱い。10YR３/３。
9．黒褐色土［周溝覆土］：均質。しまりあり、粘性ややあり。崩壊石、埴輪を含む。10YR２/２。
10．にぶい黄褐色土［周溝覆土］：しまりあり粘性弱い。粒子が粗い。ボソボソした感じ。10YR５/４。
11．褐色土［周溝覆土］：しまりあり。粘性やや弱い。黒色土が混じる。10YR４/６。
12．褐色土［周溝流土］：しまり、粘性ともにややあり。第11層より明るく色調も均一。10YR４/６。
13．明黄褐色土［周溝覆土］：しまりあり。粘性ややあり。地山に類似するが、若干黒色土が混じる。10YR６/８。
14．黒色土層［地山］
15．アカホヤ層［地山］
16．黒ニガ層［地山］
17．茶褐色土層［地山］
18．宮崎ローム層［地山］

第４ベルト・第４トレンチ土層断面図

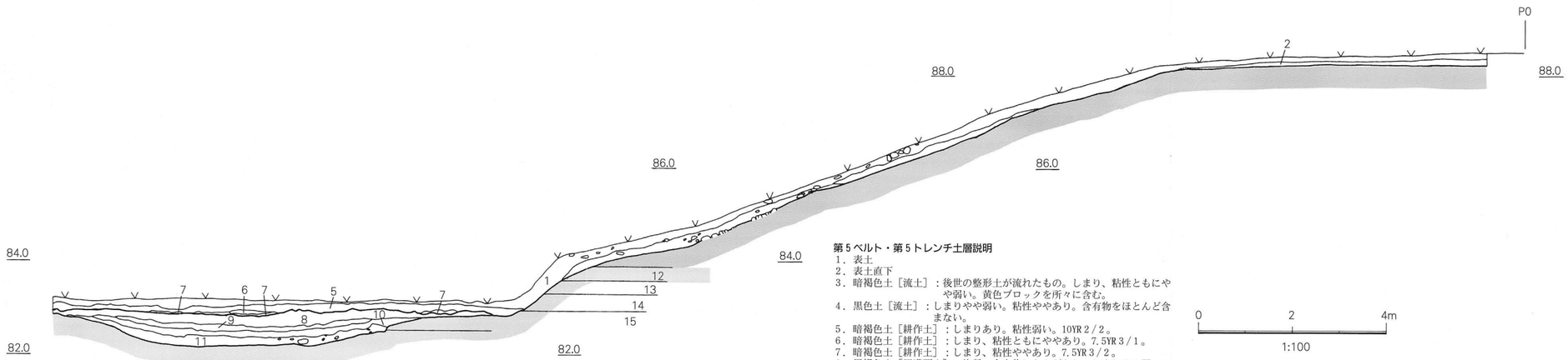


第４ベルト・第４トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．黒褐色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。含有物はほとんど含まない。
4．黒褐色土［墳丘流土］：粘性、しまりともに欠く。7.5YR３/１。
5．黒褐色土［耕作土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。直径２～３㎜の黄色の礫をわずかに含む。非常に均質。10YR２/３。
6．黒褐色土［周溝覆土］：第５層より暗い。均一な色調。しまり、粘性ふつう。10YR２/２。
7．黒褐色土隅溝覆土］：第５層よりやや暗い。しまり、粘性ふつう。10YR２/２。
8．黒褐色土［周溝覆土］：しまりややあり、粘性ふつう。10YR２/１。
9．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性乏しい。第８層より暗い。黄色の砂粒を均質に含む。10YR７/７。
10．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性乏しい。色調以外は第９層に似る。7.5YR２/２。
11．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともに欠く。含有物をほとんど含まない。５YR1.7/１。
12．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性乏しい。第13層に近い。10YR２/２。
13．暗褐色土［周溝覆土］：非常に均質。しまりふつう。粘性やや欠く。10YR３/３。
14．暗褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性ふつう。含有物含まない。10YR３/３。
15．暗褐色土［周溝覆土］：均質。しまり、粘性ふつう。崩落石、埴輪片を含む。10YR３/４。
16．黒色土層［地山］
17．アカホヤ層［地山］
18．黒ニガ層［地山］
19．茶褐色土層［地山］
20．宮崎ローム層［地山］

第６図　169号墳第３ベルト・第３トレンチ、第４ベルト・第４トレンチ土層断面図（S＝1/100）

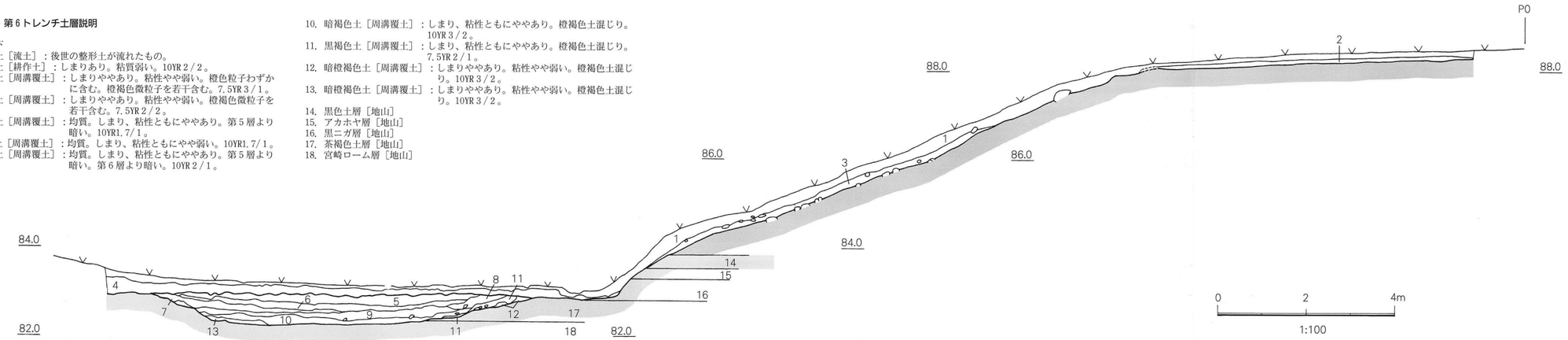
第５ベルト・第５トレンチ土層断面図



第５ベルト・第５トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．暗褐色土［流土］：後世の整形土が流れたもの。しまり、粘性ともにやや弱い。黄色ブロックを所々に含む。
4．黒色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。含有物をほとんど含まない。
5．暗褐色土［耕作土］：しまりあり。粘性弱い。10YR２/２。
6．暗褐色土［耕作土］：しまり、粘性ともにややあり。7.5YR３/１。
7．暗褐色土［耕作土］：しまり、粘性ややあり。7.5YR３/２。
8．黒褐色土［周溝覆土］：均質。含有物ほとんどなし。しまりやや弱い。粘性ややあり。５YR３/１。
9．黒褐色土［周溝覆土］：均質。しまりあり。粘性やや弱い。橙色土粒微量。10YR２/３。
10．黒褐色土［周溝覆土］：第９層より黒色。しまりややあり。粘性あり。10YR２/２。
11．黒褐色土［周溝覆土］：第10層よりやや明るい。しまり、粘性ともにややあり。10YR３/１。
12．黒色土層［地山］
13．アカホヤ層［地山］
14．黒ニガ層［地山］
15．茶褐色土層［地山］
16．宮崎ローム層［地山］

第６ベルト・第６トレンチ土層断面図

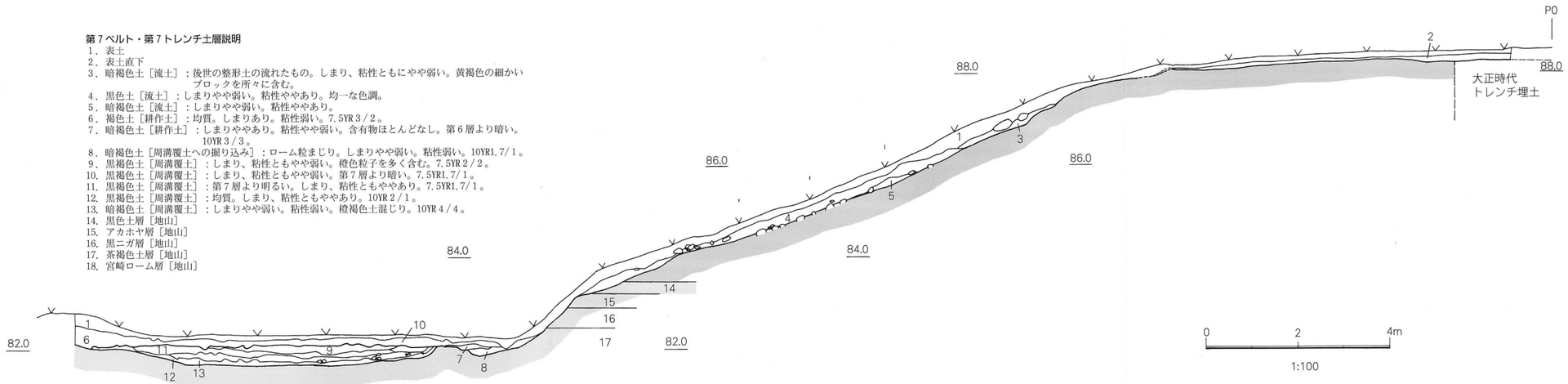


第６ベルト・第６トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．暗褐色土［流土］：後世の整形土が流れたもの。
4．黒褐色土［耕作土］：しまりあり。粘質弱い。10YR２/２。
5．黒褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性やや弱い。橙色粒子わずかに含む。橙褐色微粒子を若干含む。7.5YR３/１。
6．黒褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性やや弱い。橙褐色微粒子を若干含む。7.5YR２/２。
7．黒褐色土［周溝覆土］：均質。しまり、粘性ともにややあり。第５層より暗い。10YR1.7/１。
8．黒褐色土［周溝覆土］：均質。しまり、粘性ともにやや弱い。10YR1.7/１。
9．黒褐色土［周溝覆土］：均質。しまり、粘性ともにややあり。第５層より暗い。第６層より暗い。10YR２/１。
10．暗褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。橙褐色土混じり。10YR３/２。
11．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。橙褐色土混じり。7.5YR２/１。
12．暗橙褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性やや弱い。橙褐色土混じり。10YR３/２。
13．暗橙褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性やや弱い。橙褐色土混じり。10YR３/２。
14．黒色土層［地山］
15．アカホヤ層［地山］
16．黒ニガ層［地山］
17．茶褐色土層［地山］
18．宮崎ローム層［地山］

第７図　169号墳第５ベルト・第５トレンチ、第６ベルト・第６トレンチ土層断面図（S＝1/100）

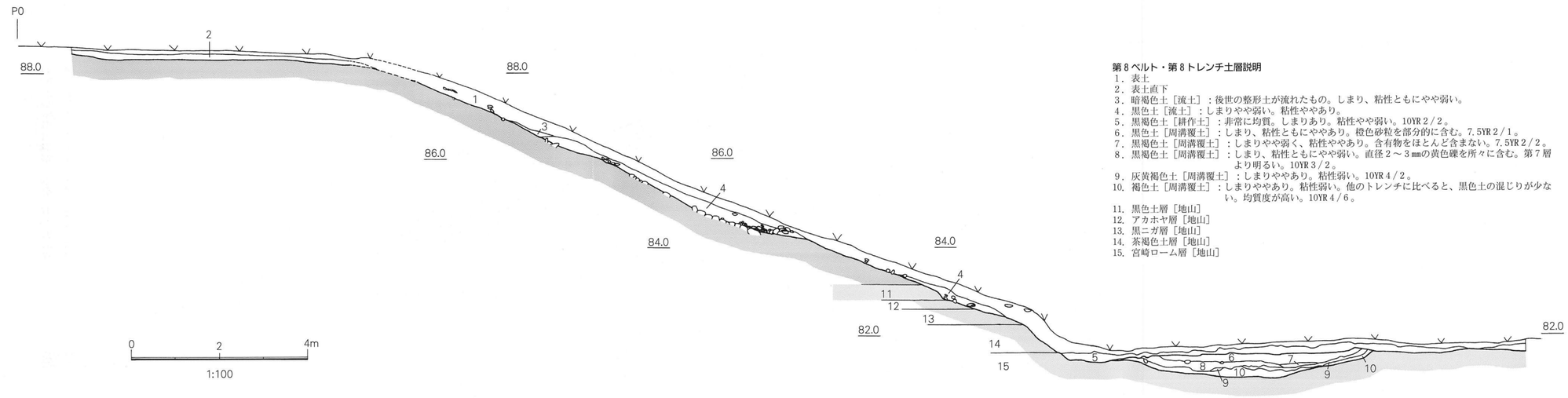
第７ベルト・第７トレンチ土層断面図



第７ベルト・第７トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．暗褐色土［流土］：後世の整形土の流れたもの。しまり、粘性ともにやや弱い。黄褐色の細かいブロックを所々に含む。
4．黒色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。均一な色調。
5．暗褐色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。
6．褐色土［耕作土］：均質。しまりあり。粘性弱い。7.5YR３／２。
7．暗褐色土［耕作土］：しまりややあり。粘性やや弱い。含有物ほとんどなし。第６層より暗い。10YR３／３。
8．暗褐色土［周溝覆土への掘り込み］：ローム粒まじり。しまりやや弱い。粘性弱い。10YR1.7／１。
9．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともやや弱い。橙色粒子を多く含む。7.5YR２／２。
10．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともやや弱い。第７層より暗い。7.5YR1.7／１。
11．黒褐色土［周溝覆土］：第７層より明るい。しまり、粘性ともややあり。7.5YR1.7／１。
12．黒褐色土［周溝覆土］：均質。しまり、粘性ともややあり。10YR２／１。
13．暗褐色土［周溝覆土］：しまりやや弱い。粘性弱い。橙褐色土混じり。10YR４／４。
14．黒色土層［地山］
15．アカホヤ層［地山］
16．黒ニガ層［地山］
17．茶褐色土層［地山］
18．宮崎ローム層［地山］

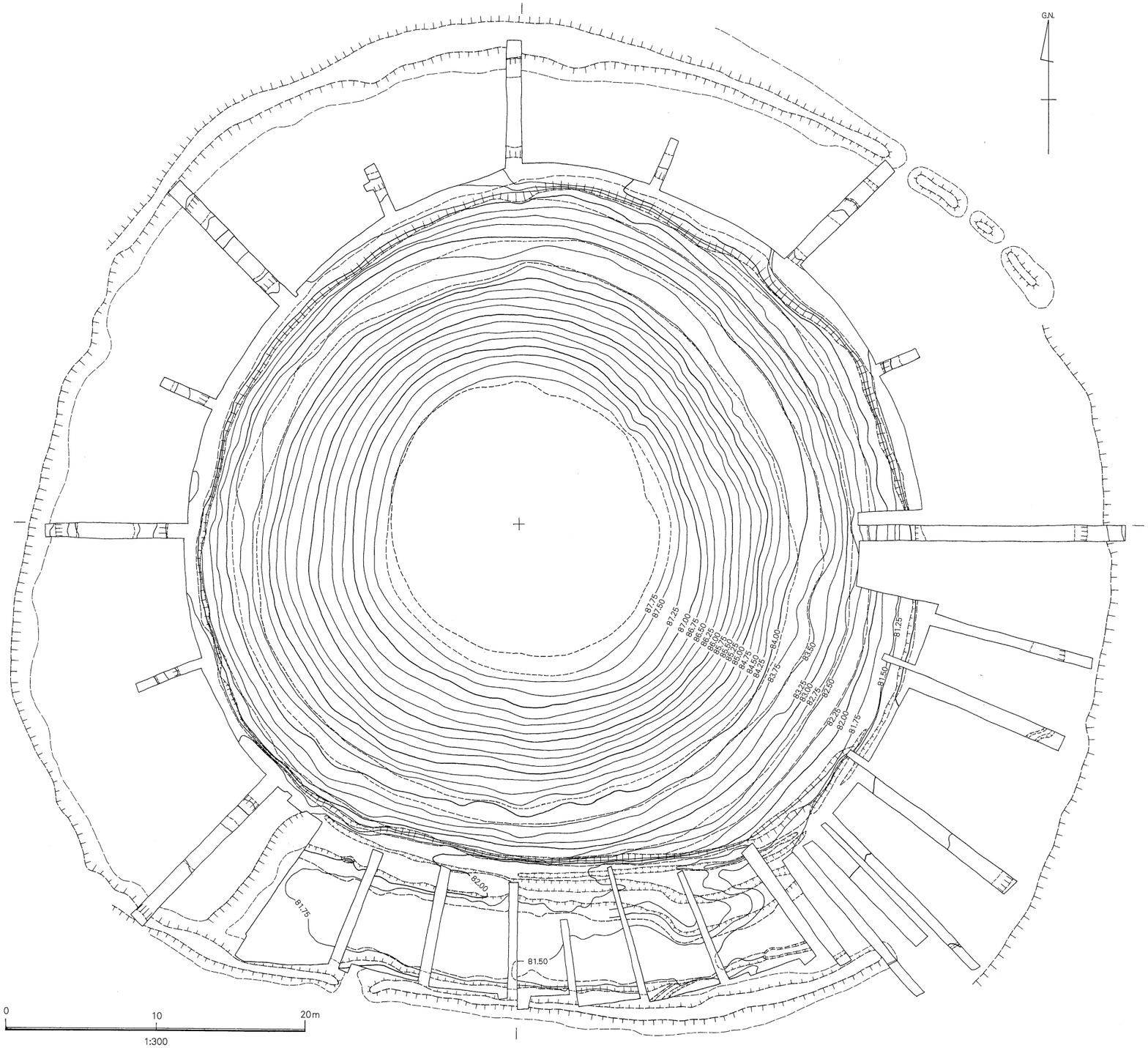
第８ベルト・第８トレンチ土層断面図



第８ベルト・第８トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．暗褐色土［流土］：後世の整形土が流れたもの。しまり、粘性ともにやや弱い。
4．黒色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。
5．黒褐色土［耕作土］：非常に均質。しまりあり。粘性やや弱い。10YR２／２。
6．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。橙色砂粒を部分的に含む。7.5YR２／１。
7．黒褐色土［周溝覆土］：しまりやや弱く、粘性ややあり。含有物をほとんど含まない。7.5YR２／２。
8．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにやや弱い。直径２～３㎜の黄色礫を所々に含む。第７層より明るい。10YR３／２。
9．灰黄褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性弱い。10YR４／２。
10．褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性弱い。他のトレンチに比べると、黒色土の混じりが少ない。均質度が高い。10YR４／６。
11．黒色土層［地山］
12．アカホヤ層［地山］
13．黒ニガ層［地山］
14．茶褐色土層［地山］
15．宮崎ローム層［地山］

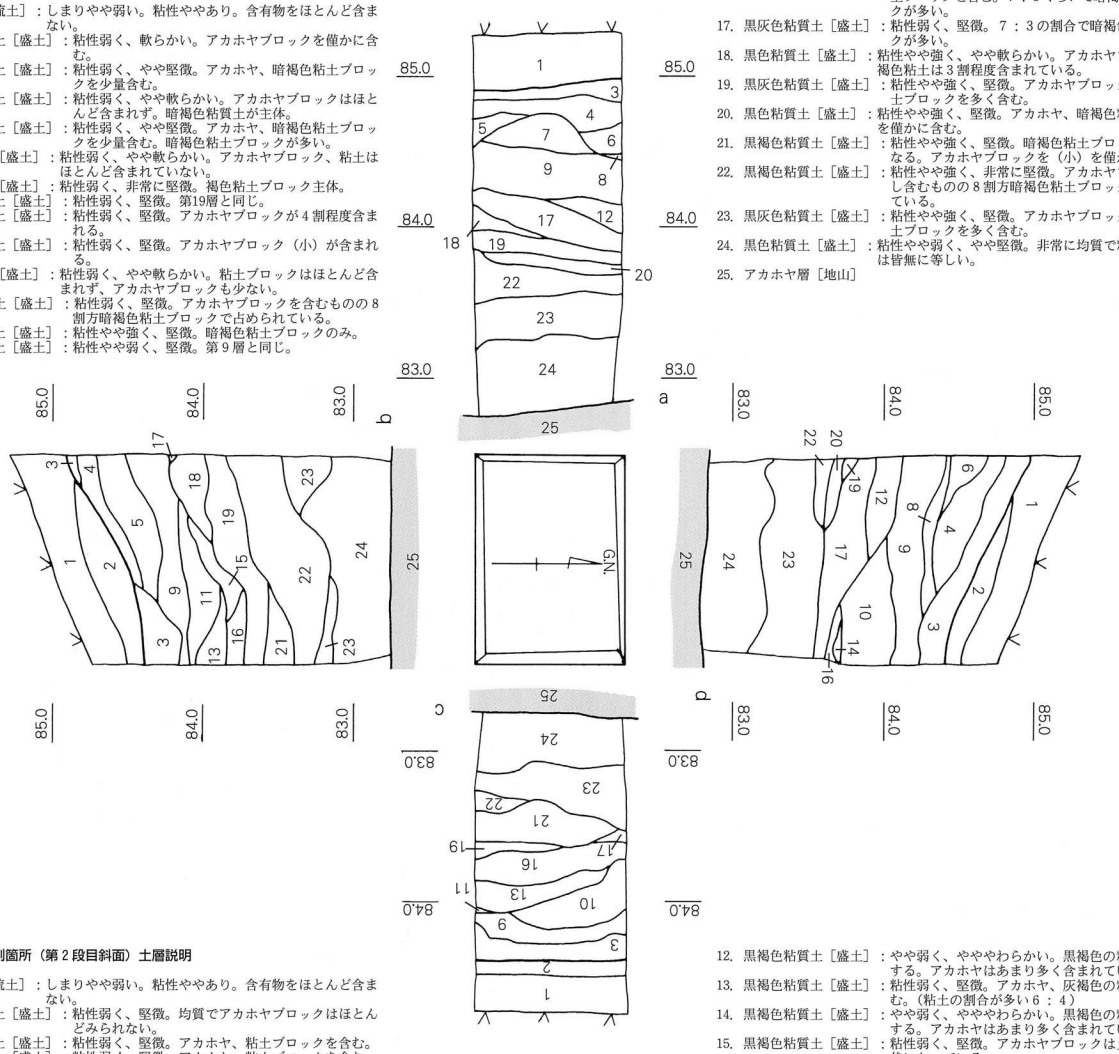
第８図　169号墳第７ベルト・第７トレンチ、第８ベルト・第８トレンチ土層断面図（S＝1/100）



第９図　169号墳墳丘測量図（表土除去後、葺石は表現せず）（S＝1/300）

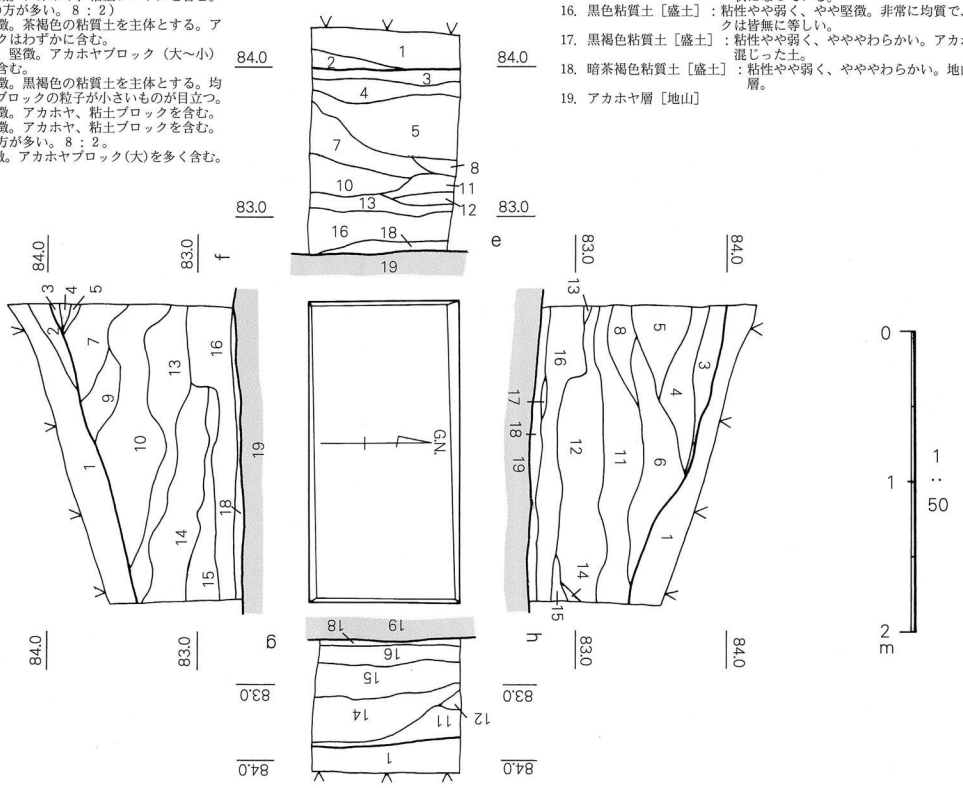
第１トレンチ断割箇所（第３段目斜面）土層説明

1．表土
2．黒褐色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。含有物をほとんど含まない。
3．黒褐色砂質土［盛土］：粘性弱く、軟らかい。アカホヤブロックを僅かに含む。
4．黒灰色砂質土［盛土］：粘性弱く、やや堅微。アカホヤ、暗褐色粘土ブロックを少量含む。
5．暗褐色粘質土［盛土］：粘性弱く、やや軟らかい。アカホヤブロックはほとんど含まれず。暗褐色粘質土が主体。
6．黒灰色砂質土［盛土］：粘性弱く、やや堅微。アカホヤ、暗褐色粘土ブロックを少量含む。暗褐色粘土ブロックが多い。
7．褐色粘質土［盛土］：粘性弱く、やや軟らかい。アカホヤブロック、粘土はほとんど含まれていない。
8．褐色粘質土［盛土］：粘性弱く、非常に堅微。褐色粘土ブロック主体。
9．黒褐色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅微。第19層と同じ。
10．黒褐色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅微。アカホヤブロックが４割程度含まれる。
11．黒灰色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅微。アカホヤブロック（小）が含まれる。
12．黒色粘質土［盛土］：粘性弱く、やや軟らかい。粘土ブロックはほとんど含まれず、アカホヤブロックも少ない。
13．黒灰色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅微。アカホヤブロックを含むものの８割方暗褐色粘土ブロックで占められている。
14．黒灰色粘質土［盛土］：粘性やや強く、堅微。暗褐色粘土ブロックのみ。
15．黒褐色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、堅微。第９層と同じ。
16．黒褐色粘質土［盛土］：粘性やや強く、堅微。アカホヤブロック、暗褐色粘土ブロックを含む。７：３くらいで暗褐色粘土ブロックが多い。
17．黒灰色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅微。７：３の割合で暗褐色粘土ブロックが多い。
18．黒色粘質土［盛土］：粘性やや強く、やや軟らかい。アカホヤブロック、暗褐色粘土は３割程度含まれている。
19．黒灰色粘質土［盛土］：粘性やや強く、堅微。アカホヤブロック、暗褐色粘土ブロックを多く含む。
20．黒色粘質土［盛土］：粘性やや強く、堅微。アカホヤ、暗褐色粘土ブロックを僅かに含む。
21．黒褐色粘質土［盛土］：粘性やや強く、堅微。暗褐色粘土ブロックが主体となる。アカホヤブロックを（小）を僅かに含む。
22．黒褐色粘質土［盛土］：粘性やや強く、非常に堅微。アカホヤブロックを少し含むものの８割方暗褐色粘土ブロックで占められている。
23．黒灰色粘質土［盛土］：粘性やや強く、堅微。アカホヤブロックと暗褐色粘土ブロックを多く含む。
24．黒色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、やや堅微。非常に均質で粘土ブロックは皆無に等しい。
25．アカホヤ層［地山］



第１トレンチ断割箇所（第２段目斜面）土層説明

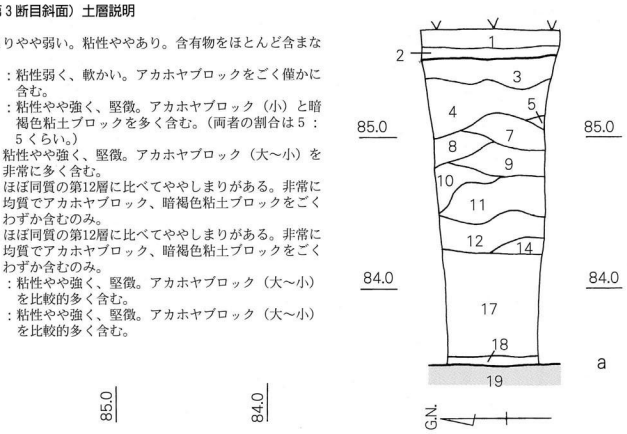
1．表土
2．黒褐色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。含有物をほとんど含まない。
3．黒褐色砂質土［盛土］：粘性弱く、堅微。均質でアカホヤブロックはほとんどみられない。
4．黒褐色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅微。アカホヤ、粘土ブロックを含む。
5．黒灰色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅微。アカホヤ、粘土ブロックを含む。（粘土の割合の方が多い。８：２）
6．茶褐色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅微。茶褐色の粘質土を主体とする。アカホヤブロックはわずかに含む。
7．黒灰色粘質土［盛土］：粘性やや強く、堅微。アカホヤブロック（大～小）を非常に多く含む。
8．黒褐色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅微。黒褐色の粘質土を主体とする。均質でアカホヤブロックの粒子が小さいものが目立つ。
9．黒褐色粘質土［盛土］：粘性弱く。堅微。アカホヤ、粘土ブロックを含む。
10．黒灰色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅微。アカホヤ、粘土ブロックを含む。粘土の割合の方が多い。８：２。
11．黒灰色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅微。アカホヤブロック（大）を多く含む。
12．黒褐色粘質土［盛土］：やや弱く、ややややわらかい。黒褐色の粘質を主体とする。アカホヤはあまり多く含まれていない。
13．黒褐色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅微。アカホヤ、灰褐色の粘土を多く含む。（粘土の割合が多い６：４）
14．黒褐色粘質土［盛土］：やや弱く、ややややわらかい。黒褐色の粘質を主体とする。アカホヤはあまり多く含まれていない。
15．黒褐色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅微。アカホヤブロックは見られず、砂状になっている。
16．黒色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、やや堅微。非常に均質で、粘土ブロックは皆無に等しい。
17．黒褐色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、ややややわらかい。アカホヤの粒子の混じった土。
18．暗茶褐色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、ややややわらかい。地山直上の漸移層。
19．アカホヤ層［地山］

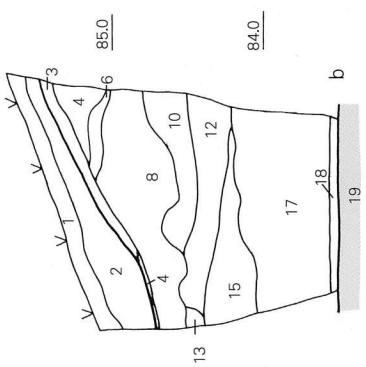


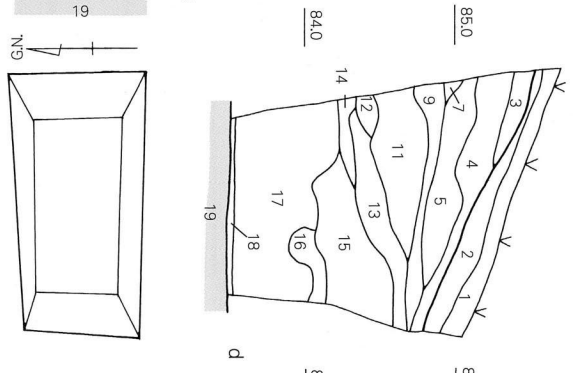
第10図　169号墳第１トレンチ墳丘断割箇所平面図・土層断面図（S＝1/50）

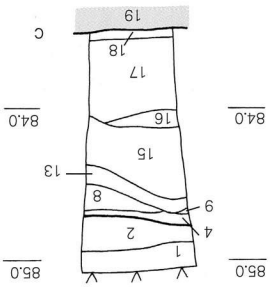
第５トレンチ断割箇所（第３断目斜面）土層説明

1．表土
2．黒色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。含有物をほとんど含まない。
3．黒褐色砂質土［盛土］：粘性弱く、軟かい。アカホヤブロックをごく僅かに含む。
4．黒灰色砂質土［盛土］：粘性やや強く、堅徴。アカホヤブロック（小）と暗褐色粘土ブロックを多く含む。（両者の割合は５：５くらい。）
5．黒色粘質土［盛土］：粘性やや強く、堅徴。アカホヤブロック（大～小）を非常に多く含む。
6．黒灰粘質土［盛土］：ほぼ同質の第12層に比べてややしまりがある。非常に均質でアカホヤブロック、暗褐色粘土ブロックをごくわずか含むのみ。
7．黒灰褐色度［盛土］：ほぼ同質の第12層に比べてややしまりがある。非常に均質でアカホヤブロック、暗褐色粘土ブロックをごくわずか含むのみ。
8．黒灰色粘質土［盛土］：粘性やや強く、堅徴。アカホヤブロック（大～小）を比較的多く含む。
9．黒灰色粘質土［盛土］：粘性やや強く、堅徴。アカホヤブロック（大～小）を比較的多く含む。
10．黒灰粘質土［盛土］：（ほぼ同質の第12層に比べてややしまりがある。）非常に均質でアカホヤブロック、暗褐色粘土ブロックをごくわずか含むのみ。
11．黒褐色粘質土［盛土］：粘性やや強く、非常に堅徴。アカホヤブロックを少し含むものの８割方暗褐色粘土ブロックで占められる。
12．黒色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、やや堅徴。非常に均質で暗褐色粘土ブロックをごくわずか含む。
13．黒色粘質土［盛土］：粘性やや強く、やや軟かい。アカホヤブロック多く含む。
14．黒色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、堅徴。特徴は第12層に同じ。
15．暗褐色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、やや堅徴。暗褐色粘土ブロック主体（７割くらい）で３割程度アカホヤブロックを含む。
16．褐色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、非常に堅徴。褐色～暗褐色粘土ブロック主体。アカホヤブロックをわずかに含む。
17．黒色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、やや堅徴。非常に均質で粘土ブロックは皆無に等しい。
18．暗茶褐色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、やや軟かい。地山直上の漸移層。
19．アカホヤ層［地山］



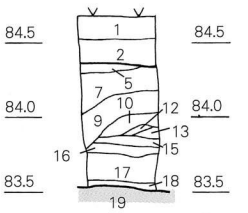


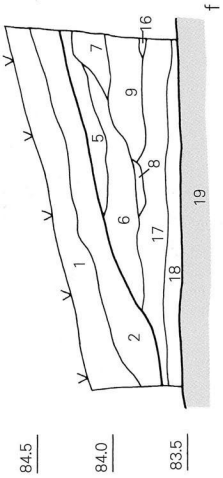


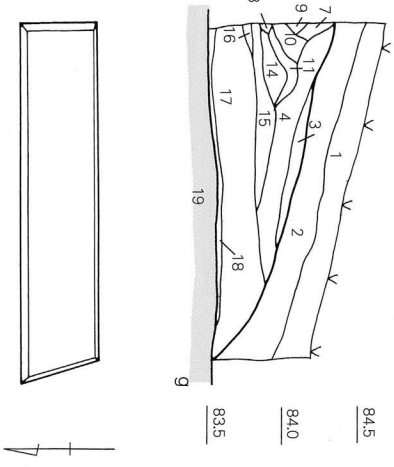


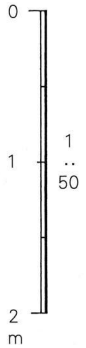
第５トレンチ断割箇所（第２段目斜面）土層説明

1．表土
2．黒色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。含有物をほとんど含まない。
3．黒灰色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、やや堅徴。アカホヤブロック（小）を多く含む。
4．黒色砂質土［盛土］：粘性弱く、堅徴。均質でアカホヤブロック（小）をわずかに含む。
5．黒灰粘質土［盛土］：非常に均質でアカホヤブロック、暗褐色粘土ブロックをごくわずか含むのみ。
6．黒色砂質土［盛土］：粘性弱く、堅徴。均質でアカホヤブロック（小）をわずかに含む。
7．黒灰色粘質土［盛土］：粘性弱く、堅徴。アカホヤブロックを多く含む。
8．黒灰粘質土［盛土］：粘性弱く、堅徴。アカホヤブロック多く含む。
9．黒褐色粘質土［盛土］：暗褐色粘土ブロック主体（７割）でアカホヤブロック（小）を３割程度含む。
10．黒灰色粘質土［盛土］：粘性弱く、非常に堅徴。暗褐色粘土ブロック（大）で占められ、暗褐色粘土ブロック（小）をごくわずか含む。
11．黒灰粘質土［盛土］：ほぼ同質の第７層に比べてややしまりがある。非常に均質でアカホヤブロック、暗褐色粘土ブロックをごくわずか含むのみ。
12．黒褐色粘質土［盛土］：粘性弱く、やや軟かい。ブロック状の小さな単位。
13．黒灰粘質土［盛土］：粘性弱く、非常に堅徴。暗褐色粘土ブロック（大）で占められ、暗褐色粘土ブロック（小）をごくわずか含む。
14．黒灰色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、堅徴。大きな暗褐色粘土ブロックを多く含む。
15．黒灰色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、堅徴。小さな暗褐色粘土ブロックを主体とする。
16．黒褐色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、非常に堅徴。暗褐色粘土ブロック、アカホヤ粘土ブロックを同程度の割合で含む。
17．黒色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、やや堅徴。非常に均質で粘土ブロックは皆無に等しい。
18．暗茶褐色粘質土［盛土］：粘性やや弱く、やや軟かい。地山直上の漸移層。
19．アカホヤ層［地山］

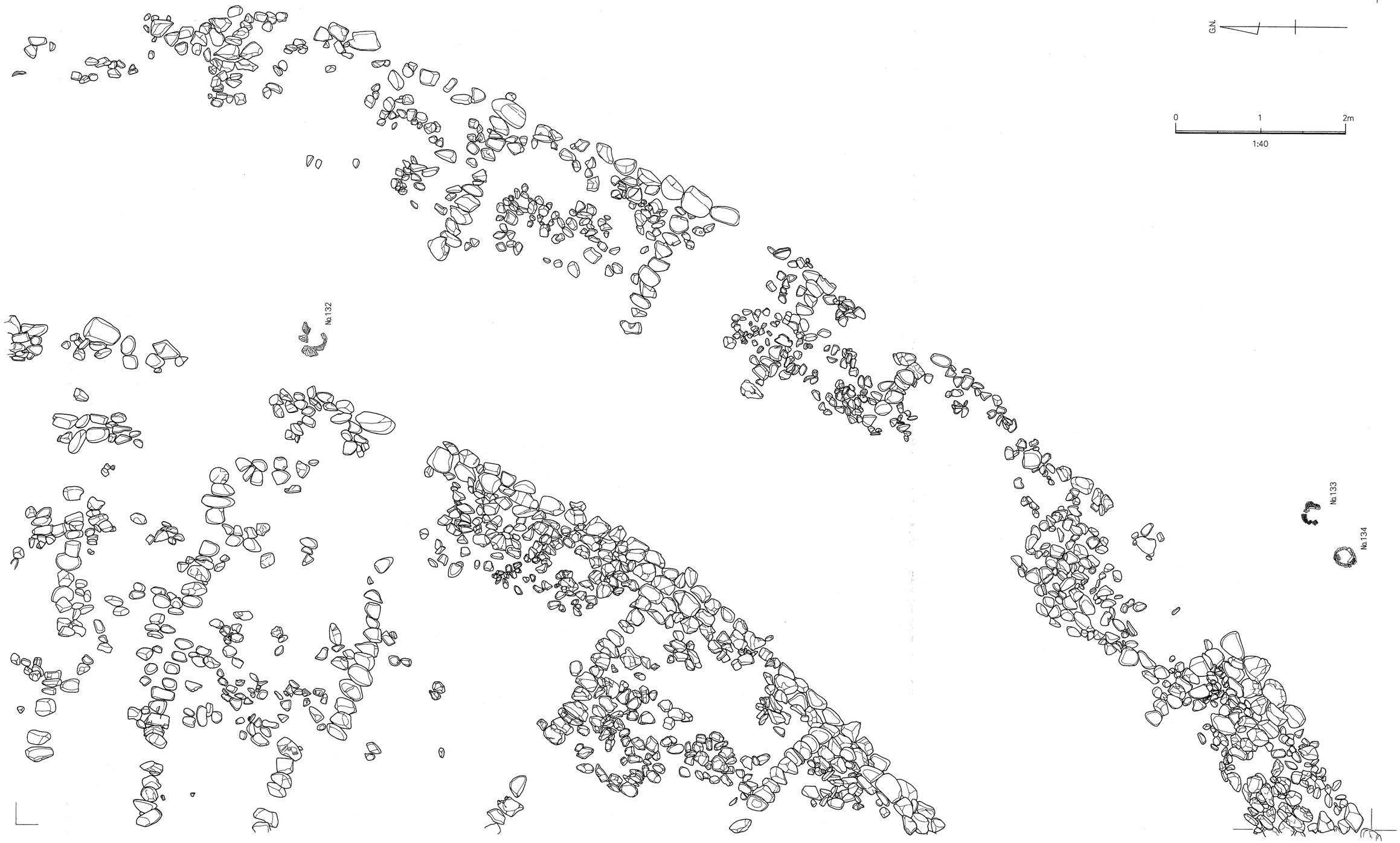




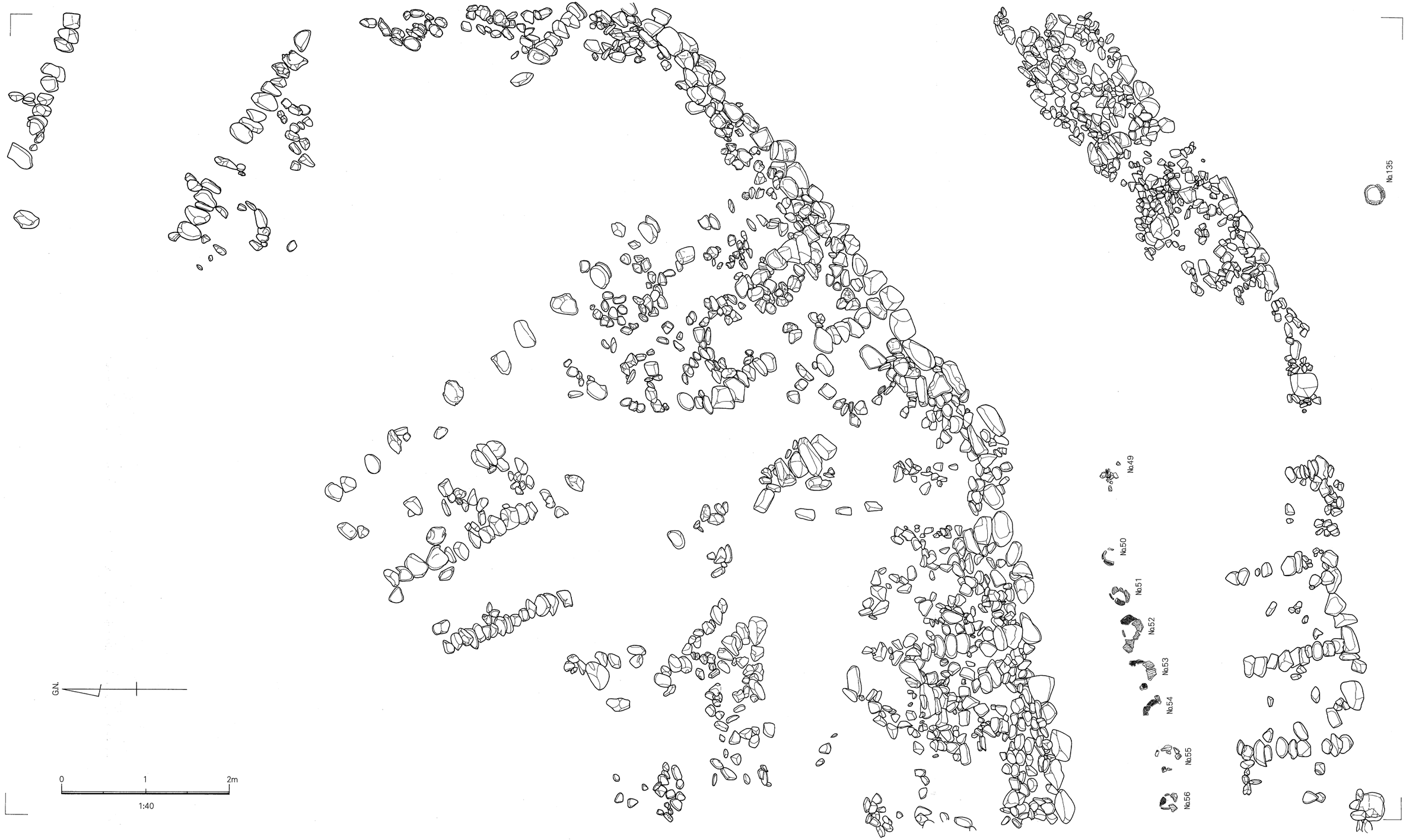




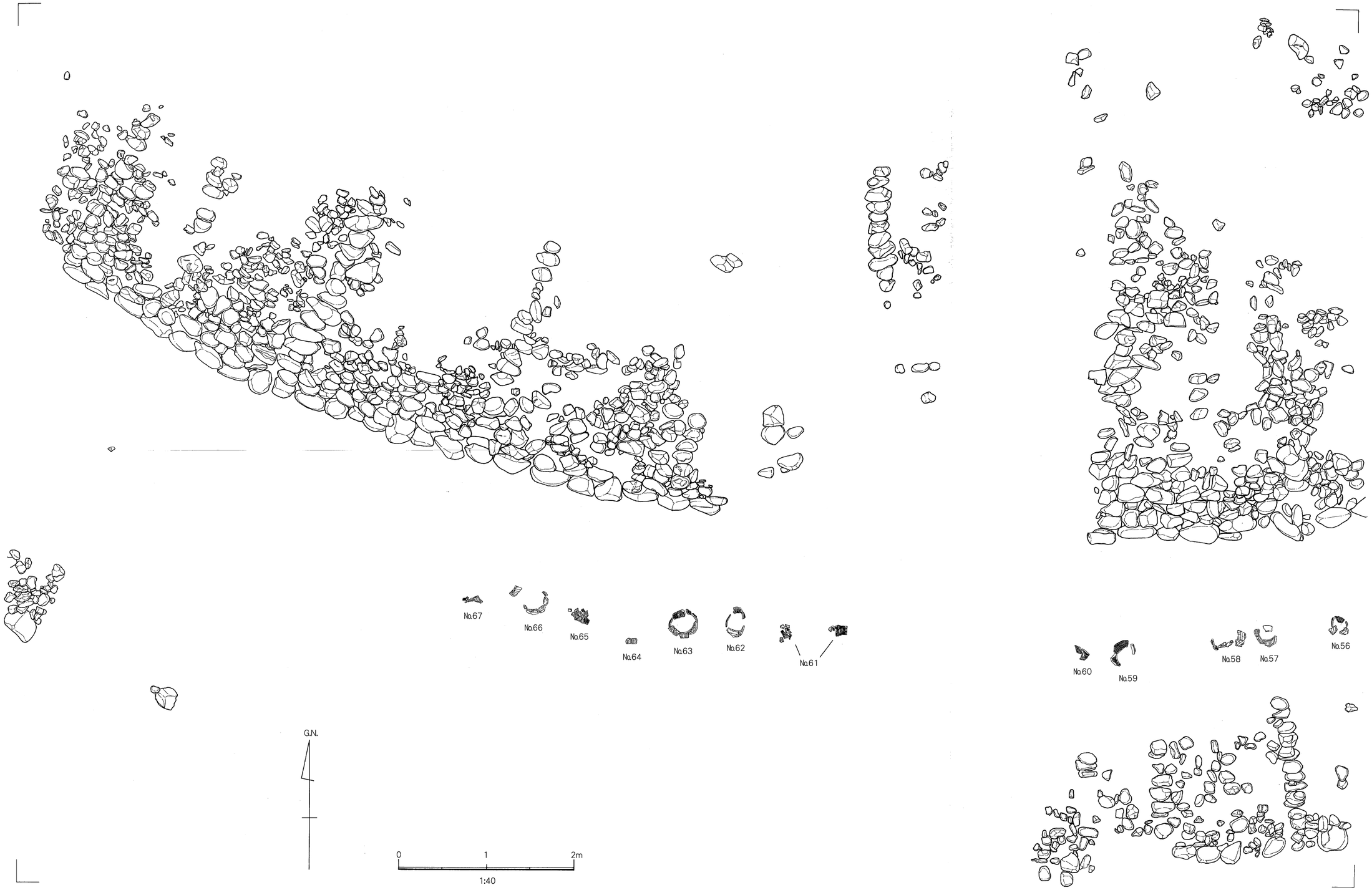
第11図　169号墳第５トレンチ墳丘断割箇所平面図・土層断面図（S＝1/50）



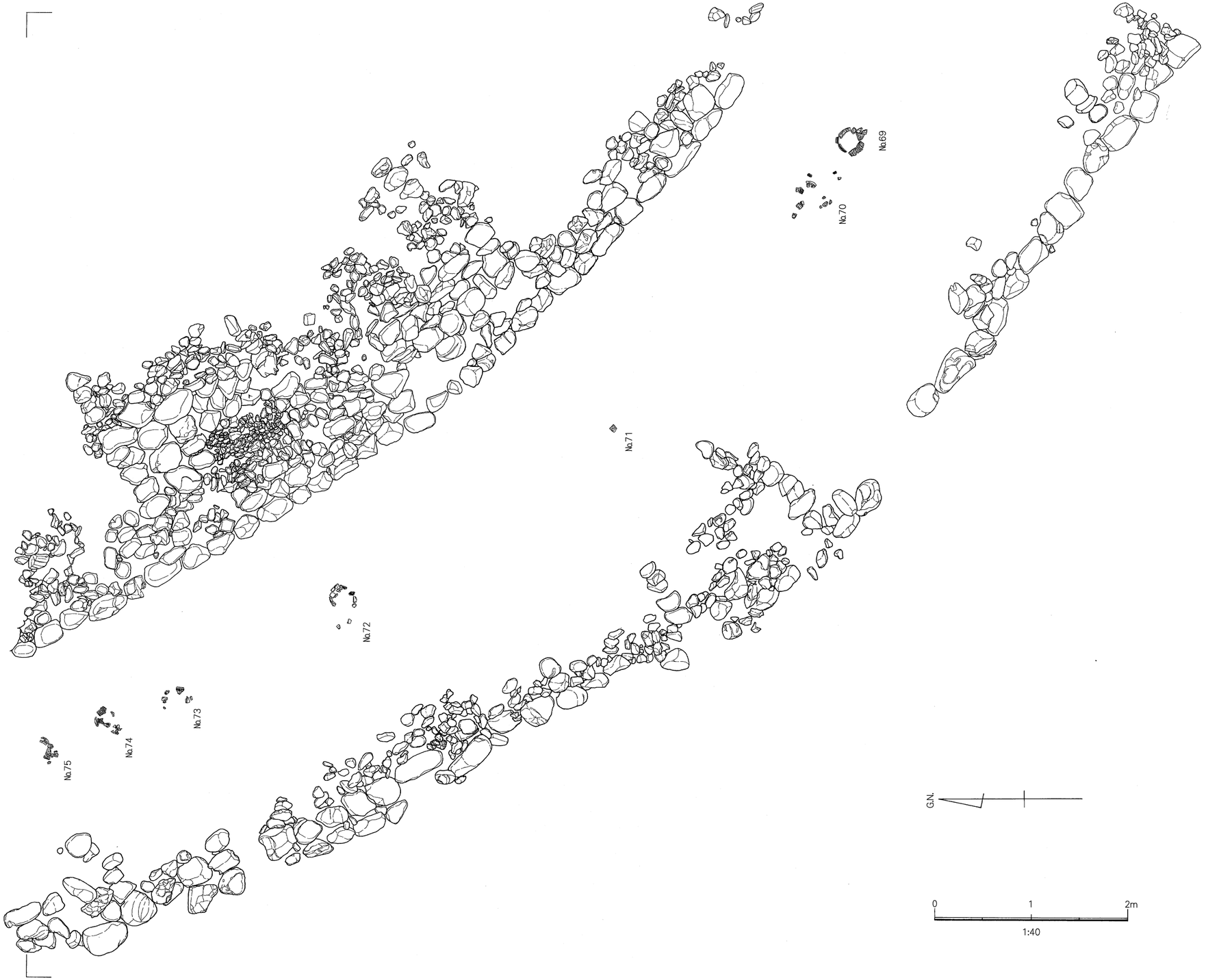
第12図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（１）（S＝1/40）



第13図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（２）（S＝1/40）

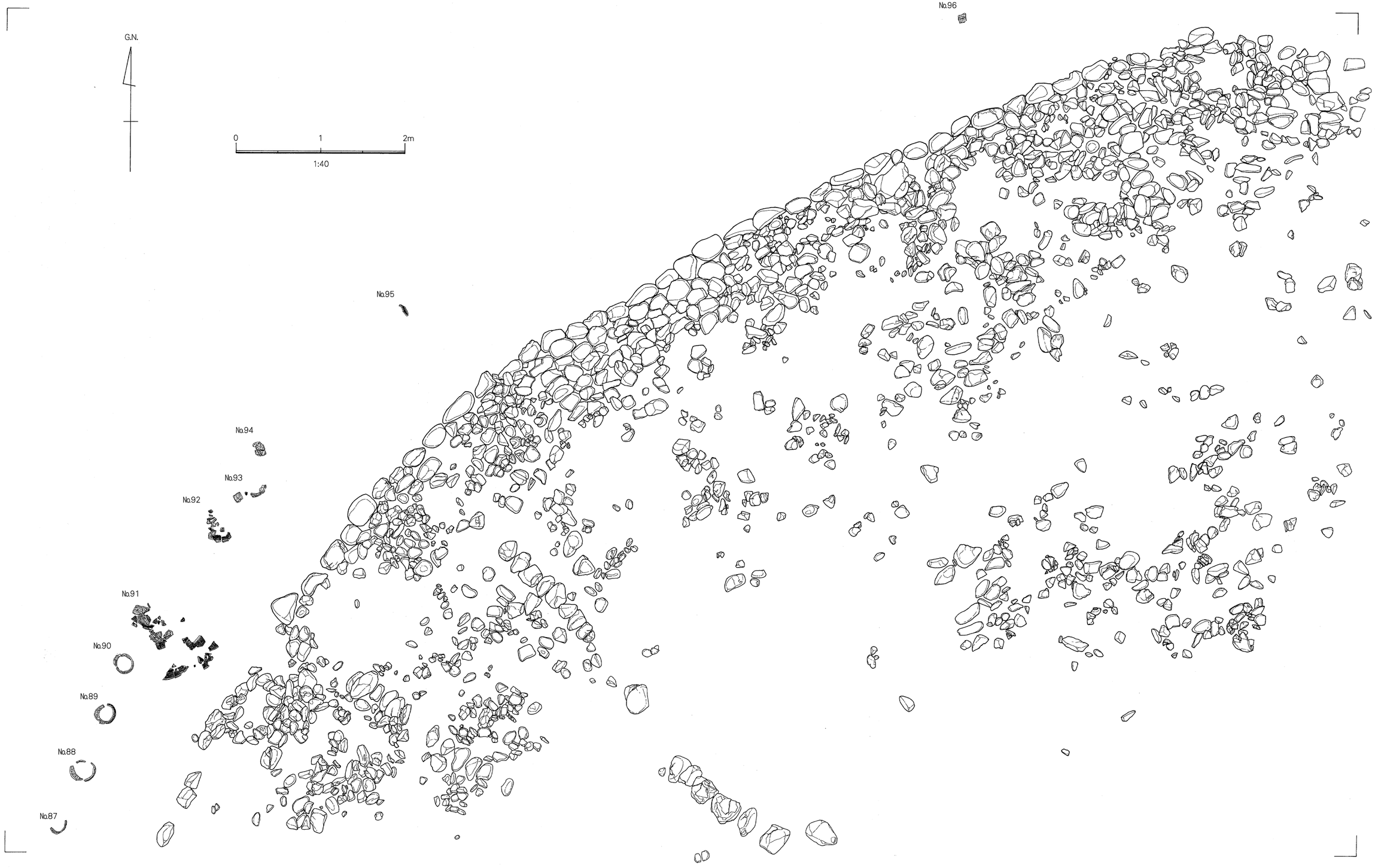


第14図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（３）（S＝1/40）



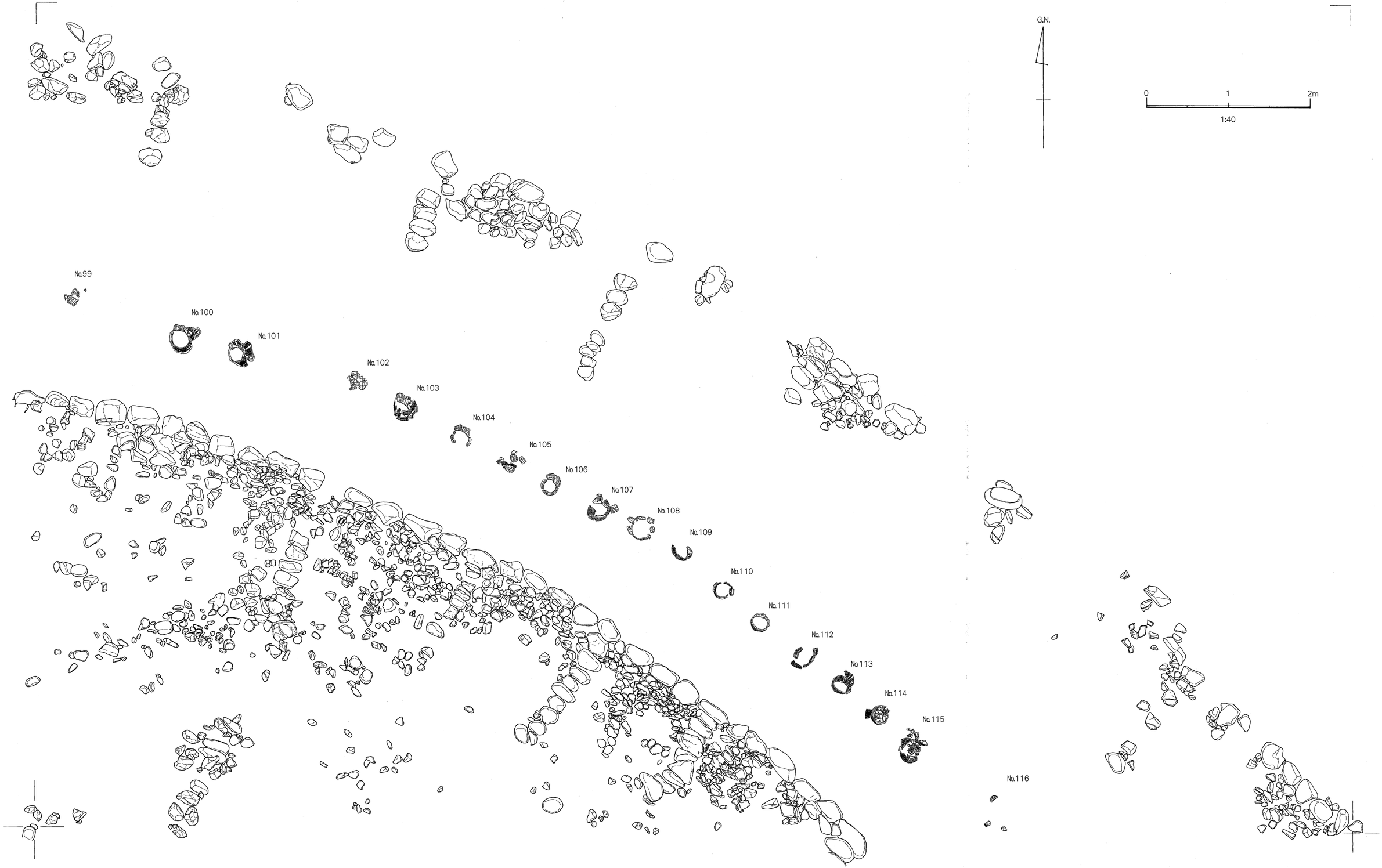
第15図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（４）（S＝1/40）

第16図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（５）(S＝1/40)

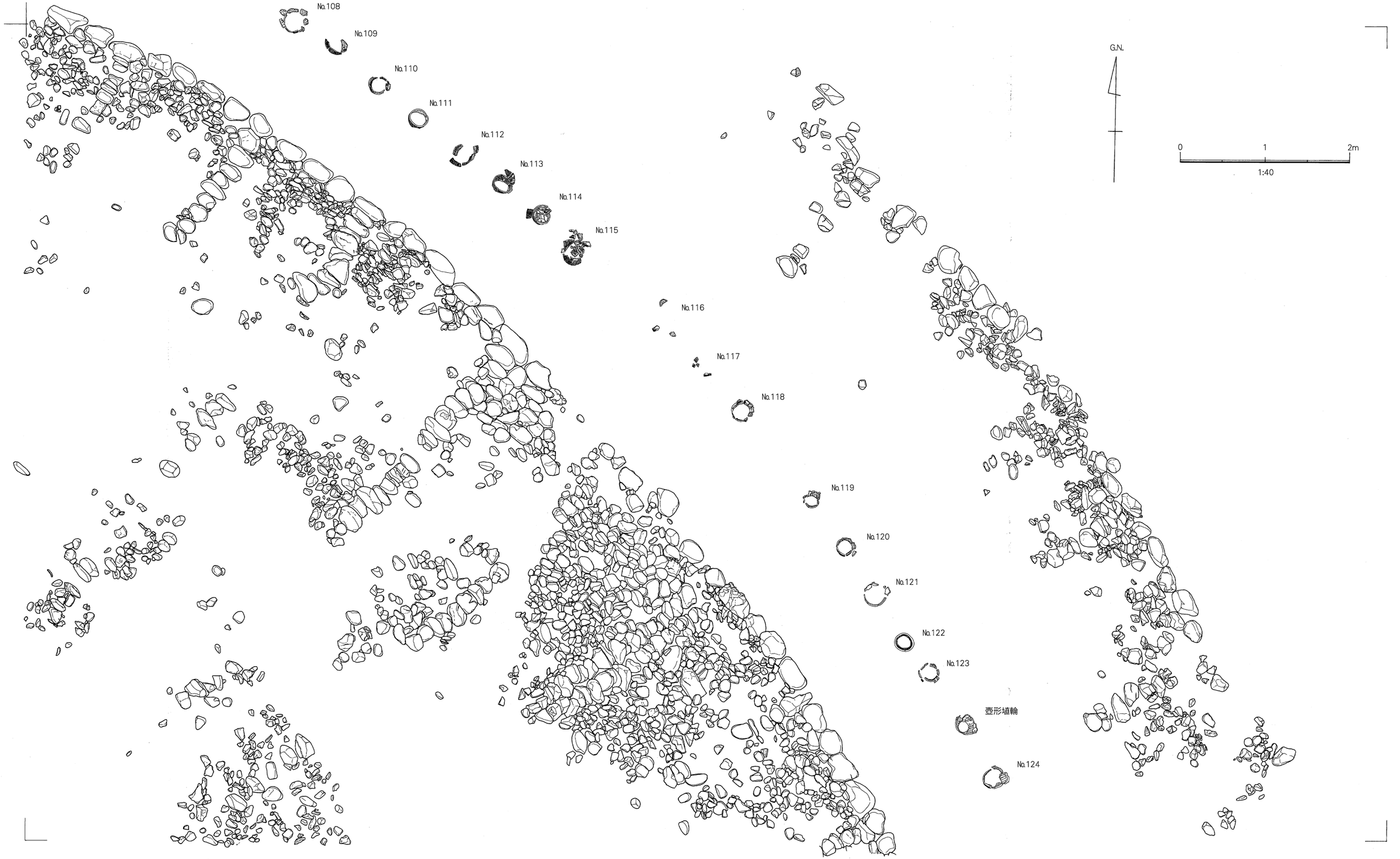


第17図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（６）（S＝1/40）

第18図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（７）(S＝1/40)

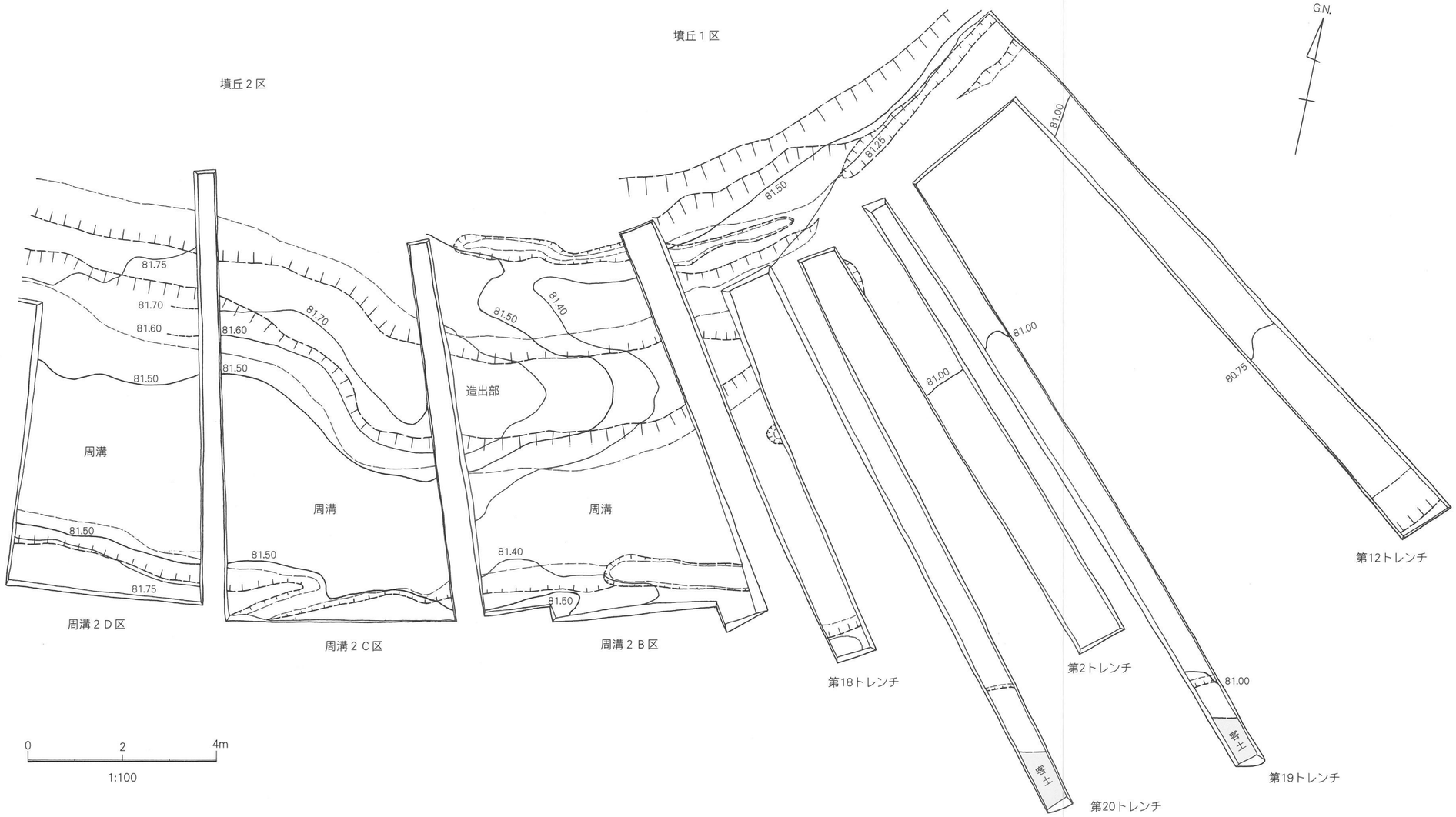


第19図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（８）（S＝1/40）

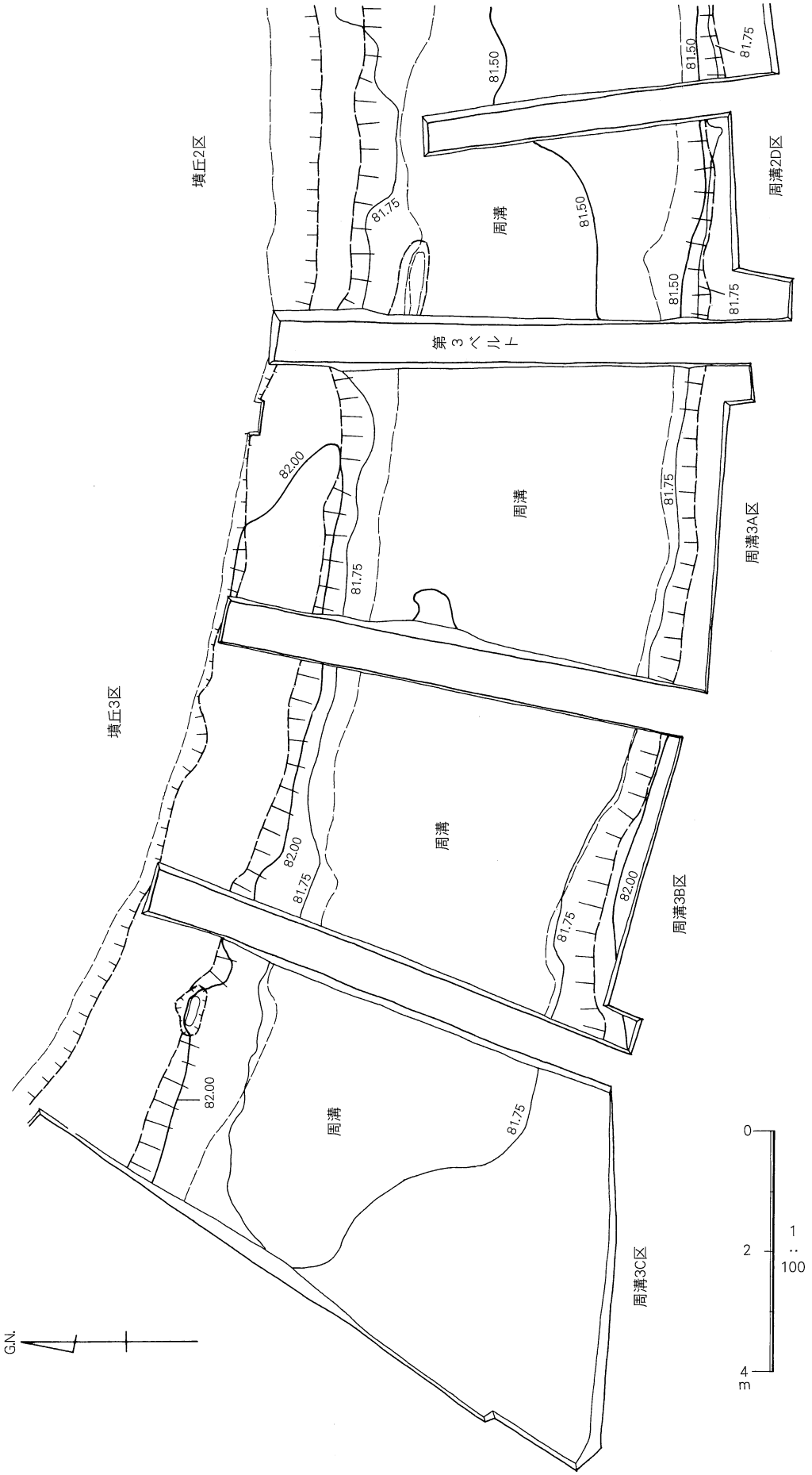


第20図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（９）(S＝1/40)

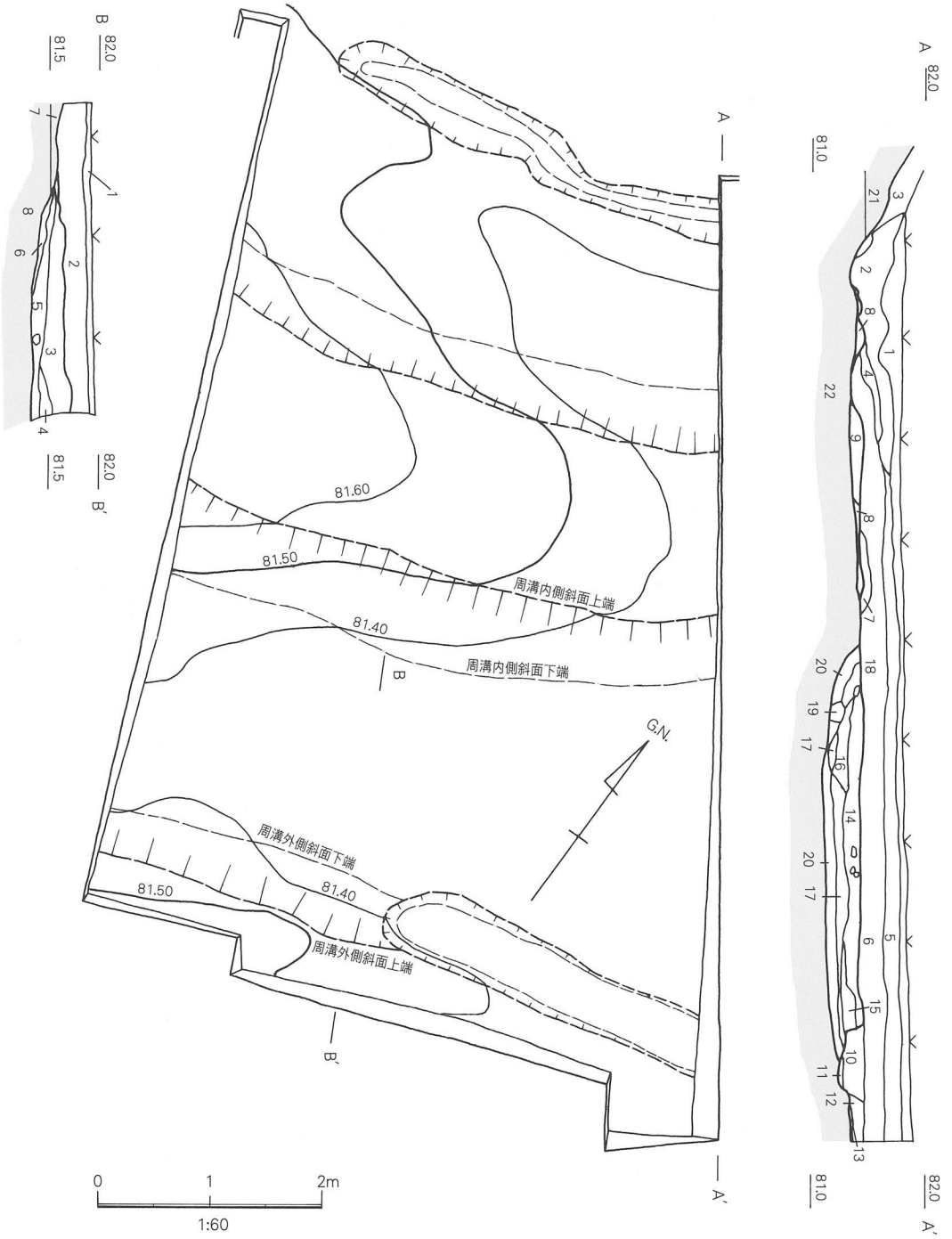
第21図　169号墳葺石・円筒埴輪列平面図（10）（S＝1/40）



第22図　169号墳周溝２Ｂ～２Ｄ区、第２・12・18～20トレンチ全体図（S＝1/100）



第23図　169号墳周溝２Ｄ区・３Ａ～３Ｃ区調査区全体図（S＝1/100）



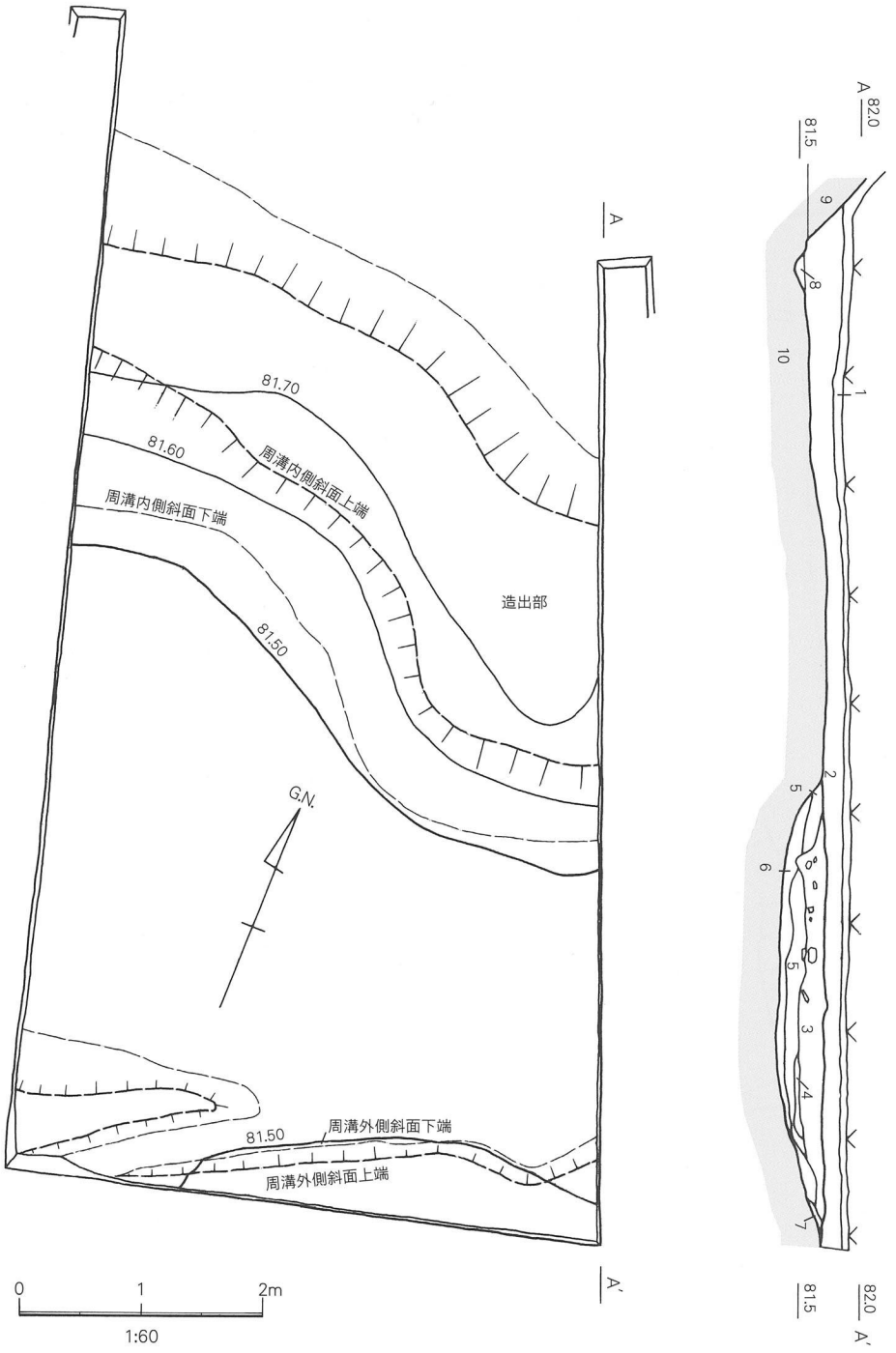
周溝２Ｂ区（東壁）土層説明

1．表土
2．褐色土［耕作土］：第５層より暗い。しまり不良。7.5YR３/１。
3．茶褐色土［墳丘流土］：均質。第６層より明るい。しまりふつう。7.5YR３/２。
4．褐色土［工作土］：均質。しまりやや不良。7.5YR３/１。
5．褐色土［耕作土］：均質。粘性乏しい。しまり良好。7.5YR３/１。
6．褐色土［耕作土］：均質。第２層よりわずかに粘性あり。7.5YR３/１。
7．褐色土［耕作土］：均質。しまりやや不良。黄褐色土粒を若干含む。7.5YR３/１。
8．暗橙褐色土［突出部覆土］：第９層より明るい。茶褐色土層起源の橙褐色土粒を多量に含む。7.5YR３/３。
9．暗橙褐色土［突出部覆土］：茶褐色土層起源の橙褐色土粒を少量含む。7.5YR３/３。
10．暗褐色土［周溝を切る溝の覆土］：均質。しまりふつう。橙褐色土粒を含む。7.5YR２/１。
11．暗褐色土［周溝を切る溝の覆土］：第10層よりやや明るい。黄褐色土粒を含む。7.5YR２/２。
12．褐色土［耕作土］：しまりふつう。橙褐色土粒をやや多く含む。7.5YR３/１。
13．褐色土［耕作土］：第12層よりやや橙褐色土粒多い。7.5YR３/１。
14．暗褐色土［周溝覆土］：均質。粘性わずかにあり。埴輪片を含む。第16層より暗い。10YR２/１。
15．褐色土［周溝覆土］：しまり不良。橙褐色土粒、暗褐色土粒を含む。10YR２/２。
16．褐色土［周溝覆土］：均質。第14層より明るい。10YR２/３。
17．暗褐色土［周溝覆土］：宮崎ローム層起源の橙褐色土粒を含む。7.5YR３/４。
18．褐色土［周溝覆土］：均質。サラサラした感じ。粘性乏しい。10YR２/２。
19．暗褐色土［周溝覆土］：宮崎ローム層起源の橙褐色土ブロック。7.5YR４/４。
20．暗褐色土［周溝覆土］：宮崎ローム層起源の橙褐色土粒を多量に含む。7.5YR３/４。
21．茶褐色土［地山］
22．宮崎ローム層［地山］

第15トレンチ土層説明

1．表土
2．黒褐色土［耕作土］：非常に均質。しまりあり。粘性やや弱い。7.5YR３/１。
3．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。橙色の砂粒をまばらに含む。10YR1.7/１。
4．暗褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ややあり。10YR３/４。
5．褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性やや弱い。黒色土が混じり色調不均一。10YR４/４。
6．黄褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにやや弱い。第５層と地山の漸移的土層。10YR５/６。
7．茶褐色土［地山］
8．宮崎ローム層［地山］

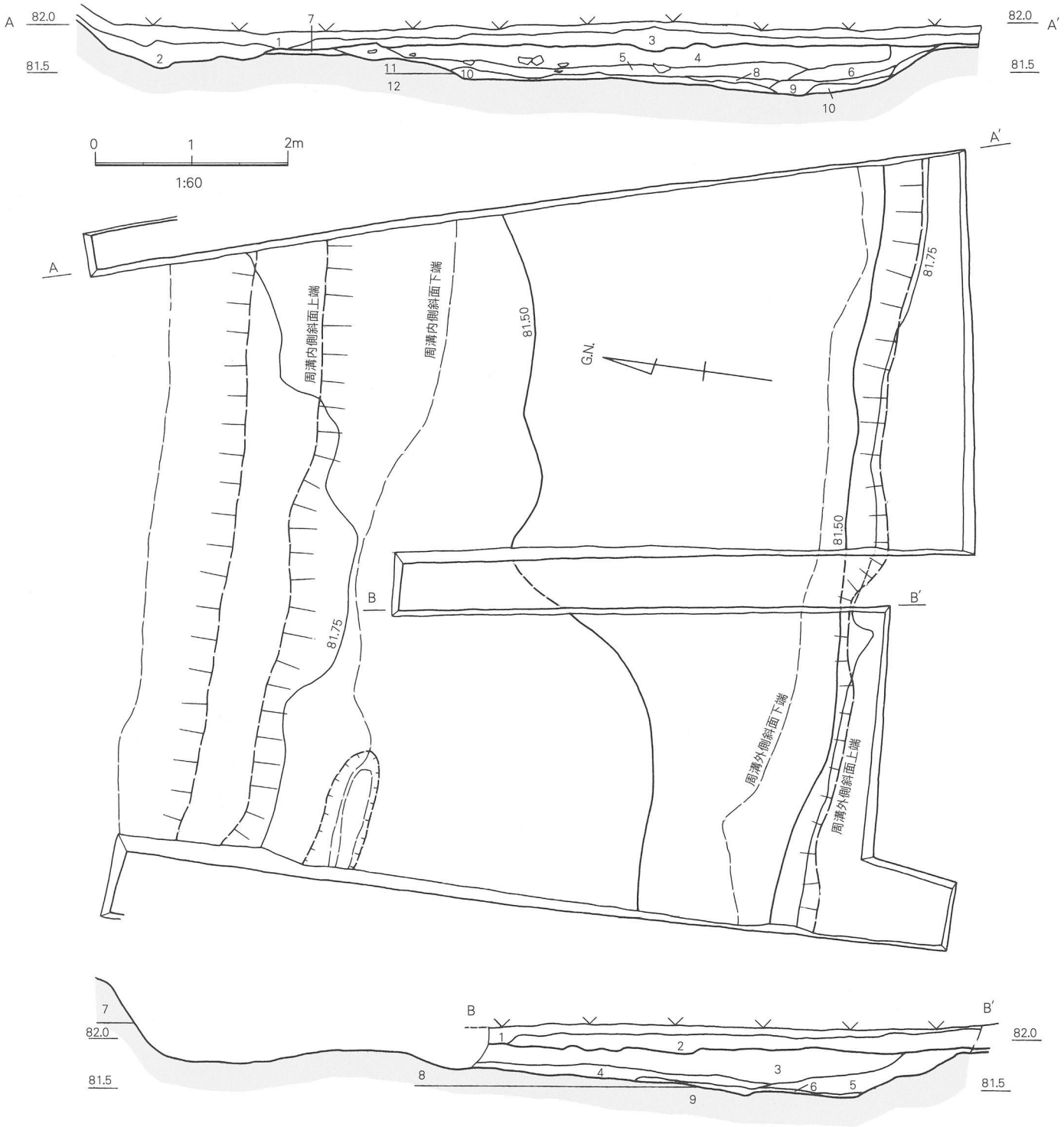
第24図　169号墳周溝２Ｂ区平面図・土層断面図（S＝1/60）



周溝２Ｃ区（東壁）土層説明

1．表土
2．褐色土［耕作土］：均質。粘性乏しい。しまり良好。7.5YR３/１。
3．暗褐色土［周溝覆土］：均質。わずかに粘性あり。埴輪片を含む。10YR２/１。
4．暗褐色土［周溝覆土］：第３層よりわずかに暗い。粘性わずかにあり。10YR２/１。
5．褐色土［周溝覆土］：しまり不良。やや砂質。ザラザラした感じ。10YR２/２。
6．暗橙褐色土［周溝覆土］：宮崎ローム層起源の橙褐色土粒を多量に含む。しまり不良。
7．褐色土［周溝覆土］：しまりやや不良。粘性乏しい。10YR２/２。
8．褐色土［周溝覆土］：しまりやや不良。粘性乏しい。10YR２/２。
9．茶褐色土［地山］
10．宮崎ローム層［地山］

第25図　169号墳周溝２Ｃ区平面図・土層断面図（S＝1/60）



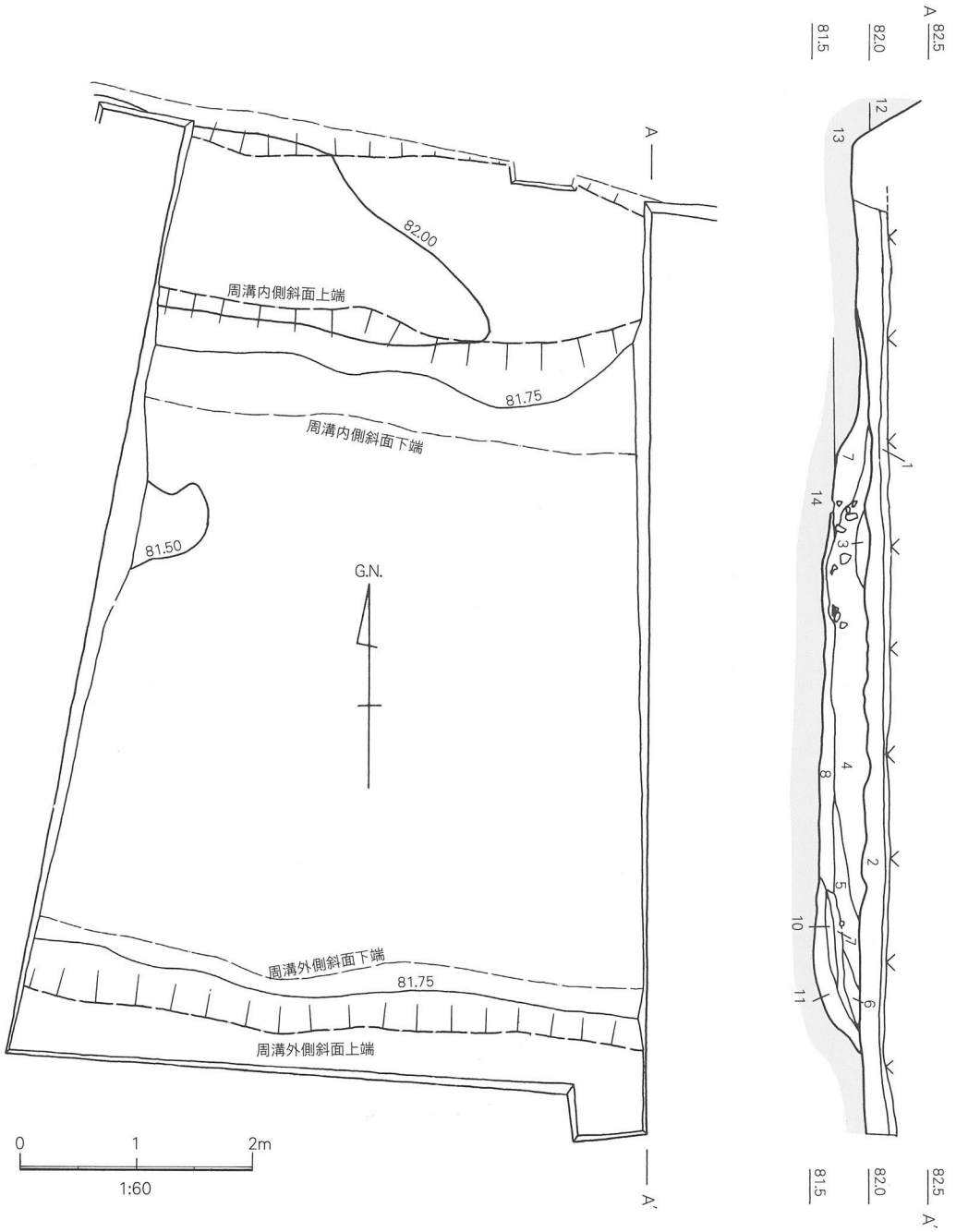
周溝２Ｄ区中央ベルト（西壁）土層説明

1．表土
2．褐色土［耕作土］：均質。粘性乏しい。しまり良好。7.5YR３/１。
3．暗褐色土［周溝覆土］：均質。やや粘性あり。埴輪片を多く含む。10YR２/１。
4．暗茶褐色土［周溝覆土］：宮崎ローム層起源のブロックを少量含む。7.5YR３/３。
5．暗灰色砂質土［周溝覆土］：砂質。しまり不良。粘性乏しい。10YR２/３。
6．暗橙褐色土［周溝覆土］：宮崎ローム層起源のブロックを少量含む。7.5YR３/４。
7．黒ニガ層［地山］
8．茶褐色土［地山］
9．宮崎ローム層［地山］

周溝２Ｄ区土層説明

1．表土
2．褐色土［耕作土］：均質。しまり不良。ボソボソした感じ。7.5YR３/１。
3．褐色土［耕作土］：均質。粘性乏しい。しまり良好。7.5YR３/１。
4．暗褐色土［周溝覆土］：第５層より暗い。埴輪片を含む。わずかに粘性あり。10YR２/１。
5．暗茶褐色土［周溝覆土］：第４層よりわずかに明るい。第４層よりやや粘性乏しい。10YR２/２。
6．暗灰褐色砂質土［周溝覆土］：砂質。粘性乏しい。しまり不良。10YR２/３。
7．褐色土［周溝覆土］：しまり不良。粘性乏しい。茶褐色土層起源。7.5YR３/３。
8．暗茶褐色土［周溝覆土］：第５層とほぼ同様。やや粒子が粗い。10YR２/２。
9．暗茶褐色土［周溝覆土］：第８層とほぼ同様。やや暗い。10YR２/２。
10．暗橙褐色土［周溝覆土］：宮崎ローム層起源の橙褐色土粒を多く含む。7.5YR３/４。
11．茶褐色土［地山］
12．宮崎ローム層［地山］

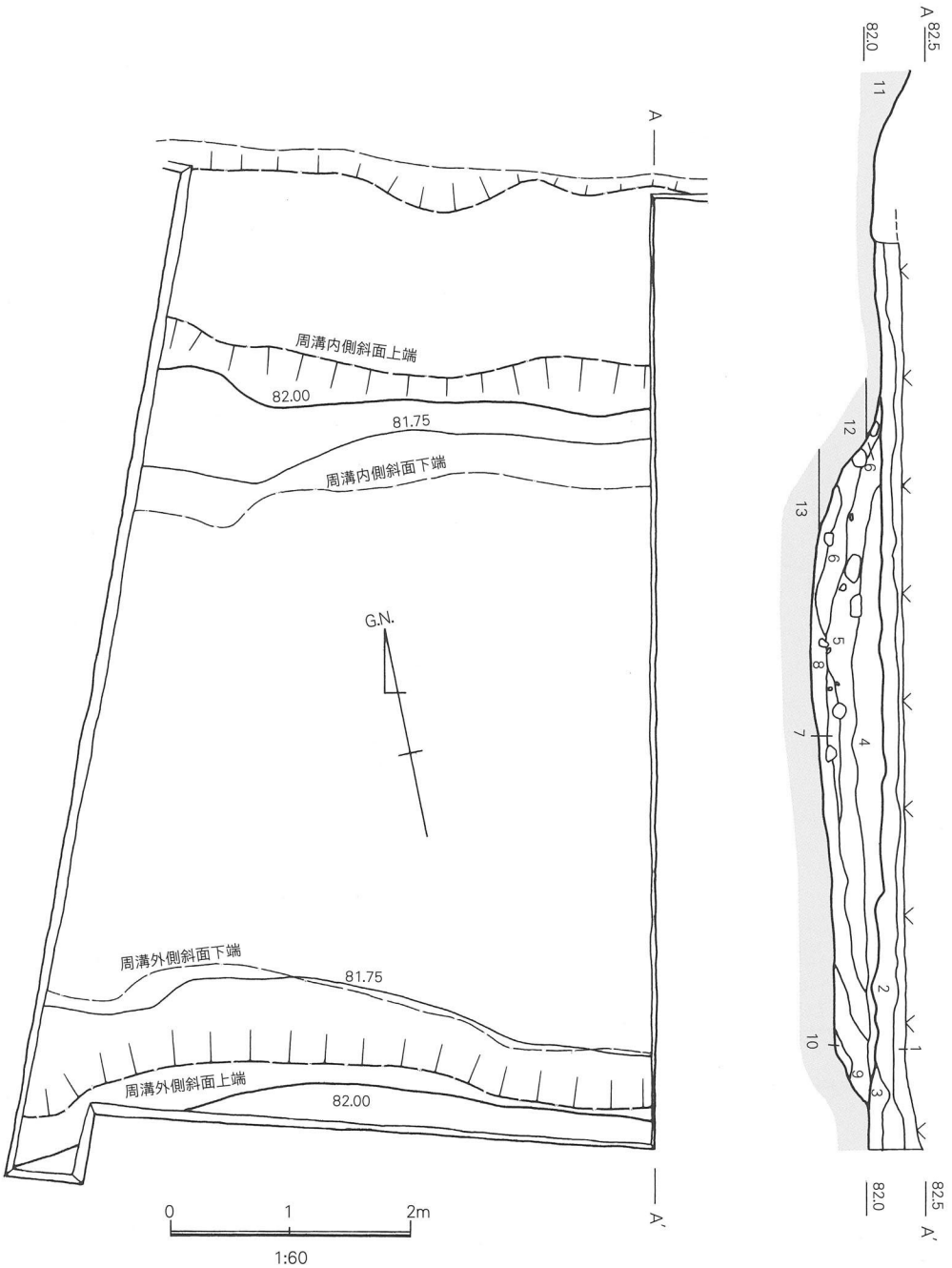
第26図　169号墳周溝２Ｄ区平面図・土層断面図（S＝1/60）



周溝３Ａ区土層説明

1．表土
2．褐色土［耕作土］：均質。粘性乏しい。しまり良好。7.5YR３/１。
3．暗茶褐色土［周溝覆土］：第４層より明るい。10YR２/２。
4．暗褐色土［周溝覆土］：均質。第５層より暗い。埴輪片を多く含む。粘性ややあり。10YR２/１。
5．暗茶褐色土［周溝覆土］：均質。第４層より明るい。粘性ややあり。10YR２/２。
6．灰褐色砂質土［周溝覆土］：砂質。しまり乏しい。10YR３/３。
7．褐色土［耕作土］：均質。宮崎ローム層起源と思われる。やや粘性あり。7.5YR３/３。
8．暗橙褐色土［周溝覆土］：宮崎ローム層起源の橙褐色土粒を大量に含む。7.5YR３/４。
9．灰褐色砂質土［周溝覆土］：砂質。第10層よりやや明るい。しまりやや乏しい。10YR３/３。
10．暗灰褐色砂質土［周溝覆土］：砂質。第９層よりやや暗い。しまりやや乏しい。10YR２/３。
11．暗灰褐色砂質土［周溝覆土］：砂質。しまり良好。暗褐色土粒。10YR２/３。
12．黒ニガ層［地山］
13．茶褐色土［地山］
14．宮崎ローム層［地山］

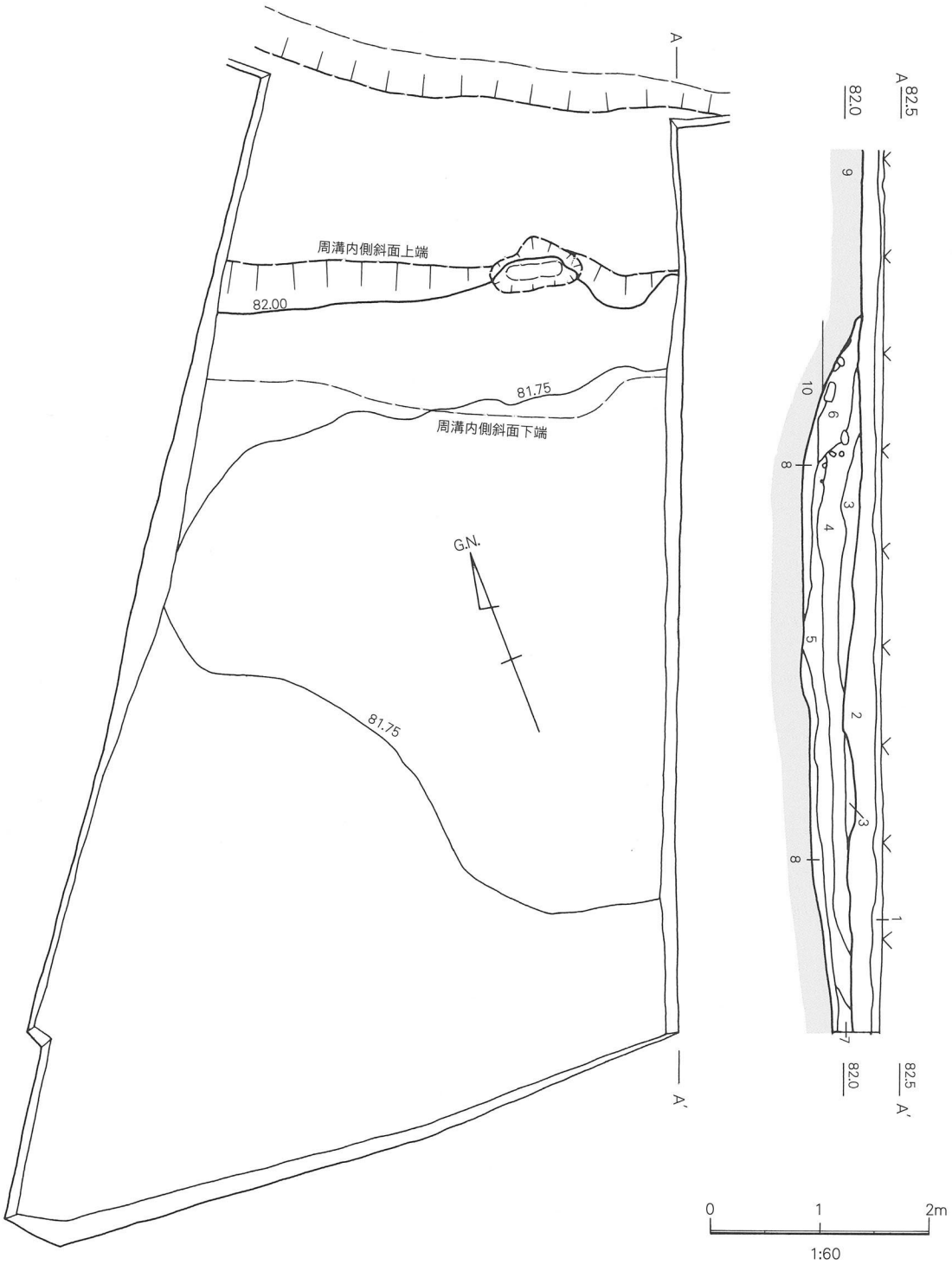
第27図　169号墳周溝３Ａ区平面図・土層断面図（S＝1/60）



周溝３Ｂ区（東壁）土層説明

1．表土
2．褐色土［耕作土］：均質。粘性乏しい。しまり良好。7.5YR３/１。
3．褐色土［耕作土］：均質。第２層よりやや明るい。粘性乏しい。しまりふつう。7.5YR３/３。
4．暗褐色土［周溝覆土］：均質。第５層よりやや明るい。第２層よりわずかに粘性あり。10YR２/２。
5．暗褐色土［周溝覆土］：第４層よりやや暗い。第２層よりわずかに粘性あり。埴輪片を多く含む。10YR２/１。
6．暗褐色土［周溝覆土］：第７層とほぼ同様。第５層よりやや明るい。わずかに粘性あり。５YR２/１。
7．暗褐色土［周溝覆土］：第６層とほぼ同様。第５層よりやや明るい。わずかに粘性あり。５YR３/１。
8．褐色土［周溝覆土］：地山の橙褐色土粒および暗褐色土粒が混じる。茶褐色土層起源。7.5YR３/３。
9．暗灰褐色土［周溝覆土］：しまり良好。粘性乏しい。7.5YR３/３。
10．暗褐色土［周溝覆土］：地山の橙褐色土粒を含む。しまり不良。7.5YR３/４。
11．黒ニガ層［地山］
12．茶褐色土［地山］
13．宮崎ローム層［地山］

第28図　169号墳周溝３Ｂ区平面図・土層断面図（S＝1/60）

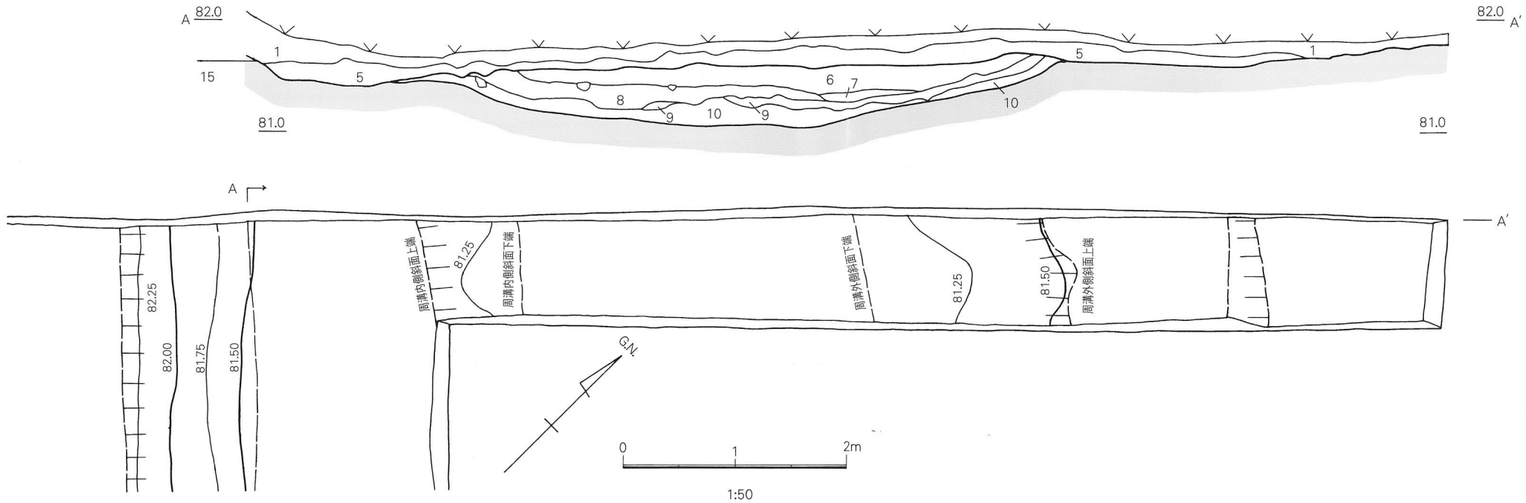


周溝３Ｃ区（東壁）土層説明

1．表土
2．褐色土［耕作土］：均質。粘性乏しい。しまり良好。５YR３/１。
3．暗茶褐色土［周溝覆土］：第４層より明るい。10YR２/２。
4．暗褐色土［周溝覆土］：第２層よりは粘性あり。第３層より暗い。10YR２/１。
5．暗褐色土［周溝覆土］：均質。第２層よりは粘性あり。第３層、第４層より暗い。埴輪片を多く含む。7.5YR２/１。
6．褐色土［周溝覆土］：しまりやや不良。暗褐色土粒を微量含む。7.5YR２/２。
7．褐色土［周溝覆土］：しまりやや不良。第５層よりやや明るい。7.5YR３/２。
8．暗褐色土［周溝覆土］：暗褐色土粒を多数含む。しまりやや不良。茶褐色土層起源。7.5YR３/３。
9．茶褐色土［地山］
10．宮崎ローム層［地山］

第29図　169号墳周溝３Ｃ区平面図・土層断面図（S＝1/60）

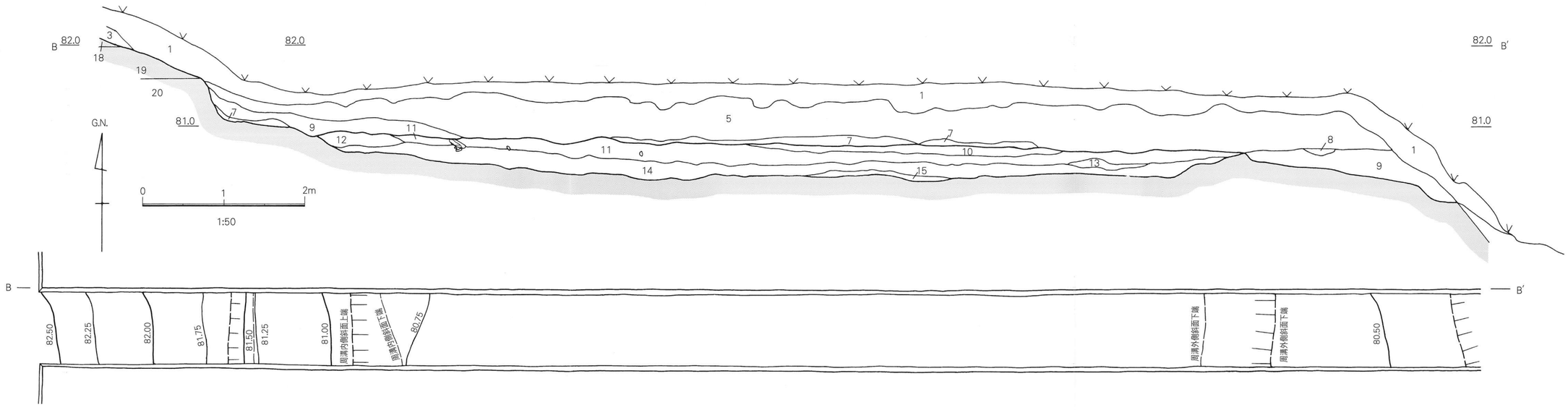
第８トレンチ平面図・土層断面図



第８トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．暗褐色土［流土］：後世の整形土が流れたもの。しまり、粘性ともにやや弱い。
4．黒色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。
5．黒褐色土［耕作土］：非常に均質。しまりあり。粘性やや弱い。10YR２／２。
6．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。橙色砂粒を部分的に含む。7.5YR２／１。
7．黒褐色土［周溝覆土］：しまりやや弱く、粘性ややあり。含有物をほとんど含まない。7.5YR２／２。
8．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにやや弱い。直径２～３㎜の黄色礫を所々に含む。第７層より明るい。10YR３／２。
9．灰黄褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性弱い。10YR４／２。
10．褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性弱い。他のトレンチに比べると、黒色土の混じりが少ない。均質度が高い。10YR４／６。
11．黒色土層［地山］
12．アカホヤ層［地山］
13．黒ニガ層［地山］
14．茶褐色土層［地山］
15．宮崎ローム層［地山］

第１トレンチ平面図・土層断面図

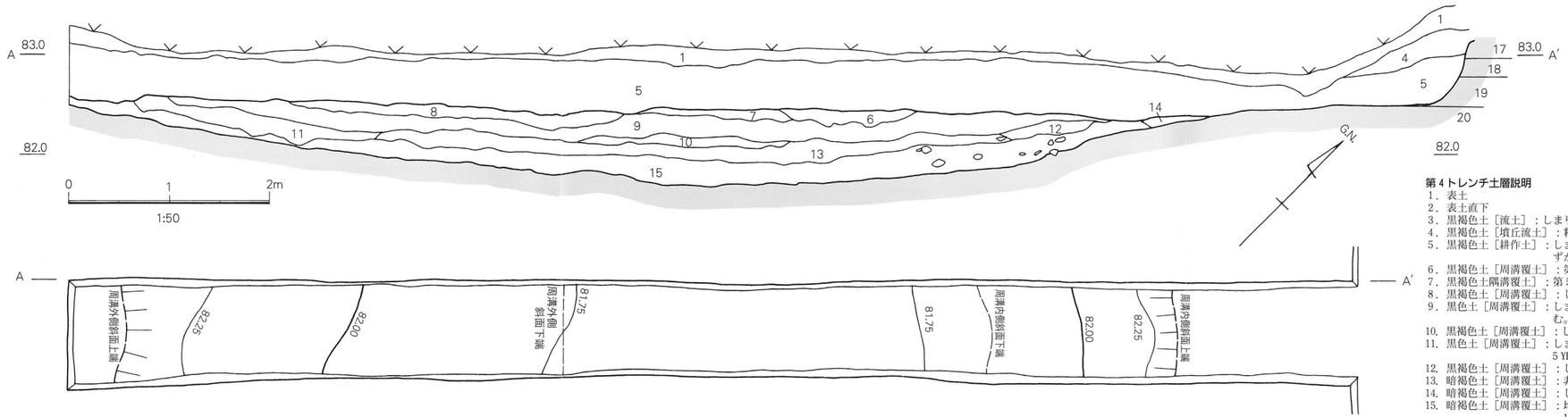


第１トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．黒褐色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。含有物をほとんど含まない。
4．暗褐色土［流土］：しまり、粘性やや弱い。
5．暗褐色土［耕作土］：均質。黄褐色土微粒子をやや多く含む。しまり、粘性ふつう。
6．暗褐色土［耕作土］：均質。第５層より暗い。黄褐色土微粒子をほとんど含まず。粘性、しまりふつう。
7．暗茶褐色土［耕作土］：黄褐色土粒（直径１～２㎝）、黄褐色土微粒子を多量に含む。暗褐色土を含む。しまりふつう。粘性もわずかにあり。他のトレンチと同様に耕作土の最下層に黄褐色土を多く含む層がある。
8．暗褐色土［耕作土］：均質。しまり良好。粘性高い。粘質土主体。
9．褐色土［後世の盛土］：暗灰褐色土ブロックを多く含む。しまり不良。ボソボソ。粘性乏しい。
10．黒褐色土［周溝覆土］：均質。黄褐色土微粒子をわずかに含む。しまり良好。粘性ふつう。
11．黒褐色土［周溝覆土］：均質。埴輪片を含む。混入物をほとんど含まず。しまりやや不良。粘性ふつう。
12．茶褐色土［周溝覆土］：地山起源の褐色土主体の暗褐色粒を含む。しまり乏しい。粘性あり。
13．暗茶褐色土［周溝覆土］：第８層より明るい。暗褐色土と褐色土主体。しまり、粘性ふつう。
14．茶褐色土［周溝覆土］：地山起源の褐色土を主体とする。しまり乏しい。粘性あり。暗褐色土粒を含む。
15．茶褐色土［周溝覆土］：地山起源の褐色土を多量に含む。しまりふつう。粘性あり。
16．黒色土層［地山］
17．アカホヤ層［地山］
18．黒ニガ層［地山］
19．茶褐色土層［地山］
20．宮崎ローム層［地山］

第30図　169号墳第１・８トレンチ平面図・土層断面図（S＝1/50）

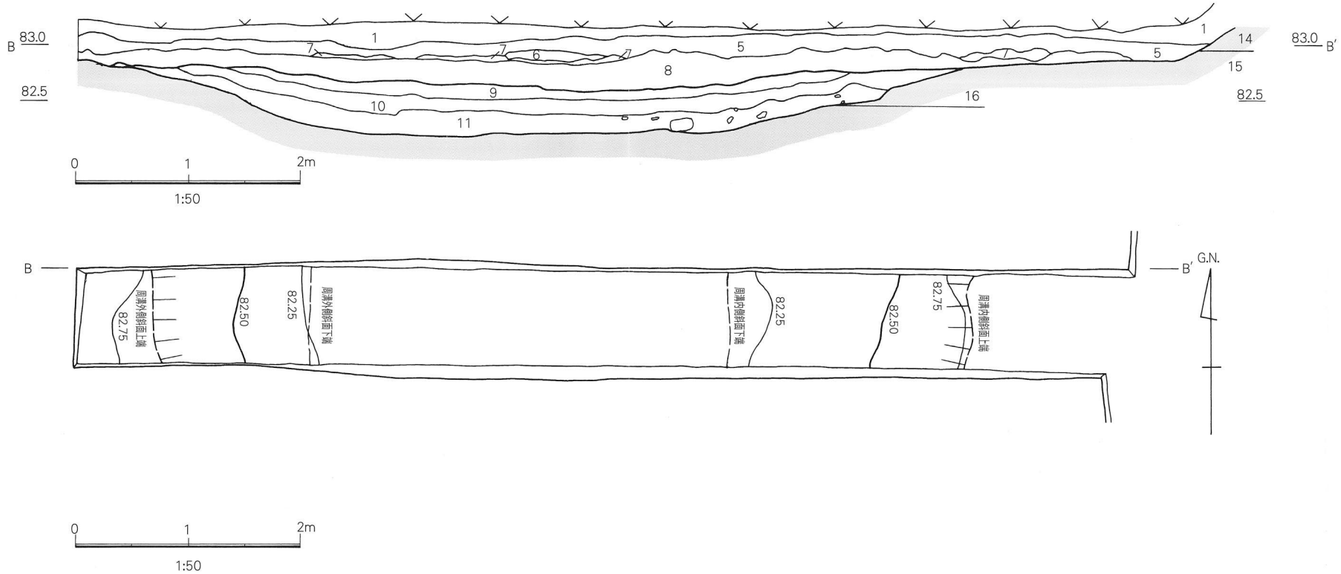
第 4 トレンチ平面図・土層断面図



第4トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．黒褐色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。含有物はほとんど含まない。
4．黒褐色土［墳丘流土］：粘性、しまりともに欠く。7.5YR 3／1。
5．黒褐色土［耕作土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。直径２～３㎜の黄色の礫をわずかに含む。非常に均等。10YR 2／3。
6．黒褐色土［周溝覆土］：第５層より暗い。均一な色調。しまり、粘性ふつう。10YR2/2。
7．黒褐色土隅溝覆土］：第５層よりやや暗い。しまり、粘性ふつう。10YR 2／2。
8．黒褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性ふつう。10YR 2／1。
9．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性乏しい。第８層より暗い。黄色の砂粒を均質に含む。10YR 7／7。
10．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性乏しい。色調以外は第９層に似る。7.5YR 2／2。
11．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともに欠く。含有物をほとんど含まない。5YR1.7／1。
12．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性乏しい。第13層に近い。10YR 2／2。
13．暗褐色土［周溝覆土］：非常に均質。しまりふつう。粘性ややく。10YR 3／3。
14．暗褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性ふつう。含有物含まない。10YR 3／3。
15．暗褐色土［周溝覆土］：均質。しまり、粘性ふつう。崩落石、埴輪片を含む。10YR 3／4。
16．黒色土層［地山］
17．アカホヤ層［地山］
18．黒ニガ層［地山］
19．茶褐色土層［地山］
20．宮崎ローム層［地山］

第5トレンチ平面図・土層断面図

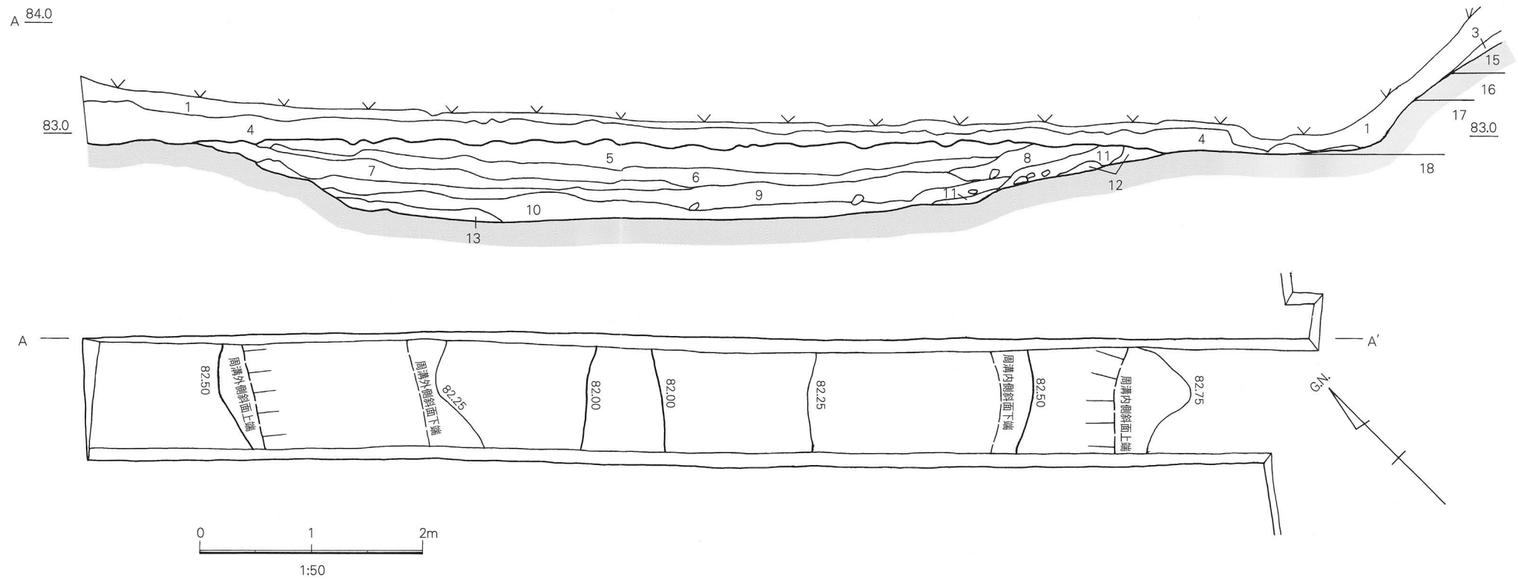


第5トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．暗褐色土［流土］：後世の整形土が流れたもの。しまり、粘性ともにやや弱い。黄色ブロックを所々に含む。
4．黒色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。含有物をほとんど含まない。
5．暗褐色土［耕作土］：しまりあり。粘性弱い。10YR 2／2。
6．暗褐色土［耕作土］：しまり、粘性ともにややあり。7.5YR 3／1。
7．暗褐色土［耕作土］：しまり、粘性ややあり。7.5YR 3／2。
8．黒褐色土［周溝覆土］：均質。含有物ほとんどなし。しまりやや弱い。粘性ややあり。5 YR 3／1。
9．黒褐色土［周溝覆土］：均質。しまりあり。粘性やや弱い。橙色土粒微量。10YR 2／3。
10．黒褐色土［周溝覆土］：第９層より黒色。しまりややあり。粘性あり。10YR 2／2。
11．黒褐色土［周溝覆土］：第10層よりやや明るい。しまり、粘性ともにややあり。10YR 3／1。
12．黒色土層［地山］
13．アカホヤ層［地山］
14．黒ニガ層［地山］
15．茶褐色土層［地山］
16．宮崎ローム層［地山］

第31図　169号墳第４・５トレンチ平面図・土層断面図（S＝1/50）

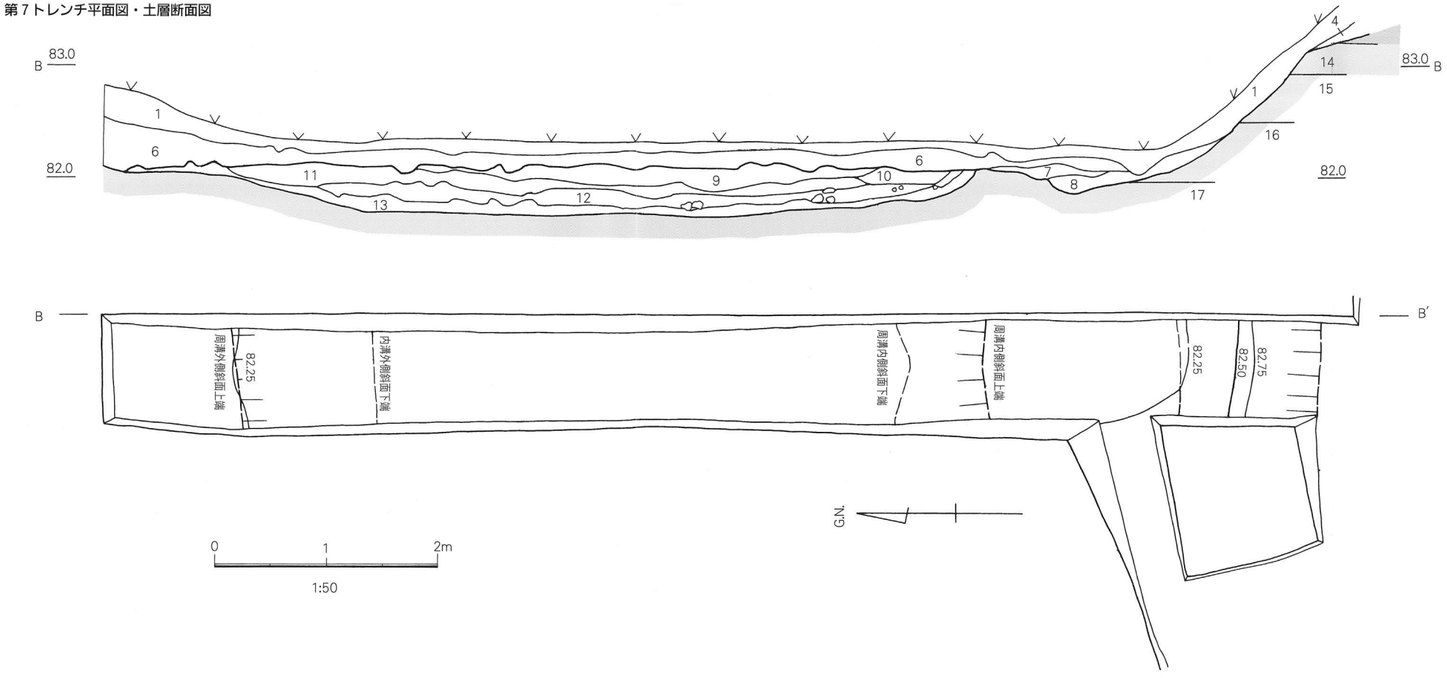
第6トレンチ平面図・土層断面図



第6トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．暗褐色土［流土］：後世の整形土が流れたもの。
4．黒褐色土［耕作土］：しまりあり。粘質弱い。10YR２/２。
5．黒褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性やや弱い。橙色粒子わずかに含む。橙褐色微粒子を若干含む。7.5YR３/１。
6．黒褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性やや弱い。橙褐色微粒子を若干含む。7.5YR２/２。
7．黒褐色土［周溝覆土］：均質。しまり、粘性ともにややあり。第５層より暗い。10YR1.7/１。
8．黒褐色土［周溝覆土］：均質。しまり、粘性ともにやや弱い。10YR1.7/１。
9．黒褐色土［周溝覆土］：均質。しまり、粘性ともにややあり。第５層より暗い。第６層より暗い。10YR２/１。
10．暗褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。橙褐色土混じり。10YR３/２。
11．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。橙褐色土混じり。7.5YR２/１。
12．暗橙褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性やや弱い。橙褐色土混じり。10YR３/２。
13．暗橙褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性やや弱い。橙褐色土混じり。10YR３/２。
14．黒色土層［地山］
15．アカホヤ層［地山］
16．黒ニガ層［地山］
17．茶褐色土層［地山］
18．宮崎ローム層［地山］

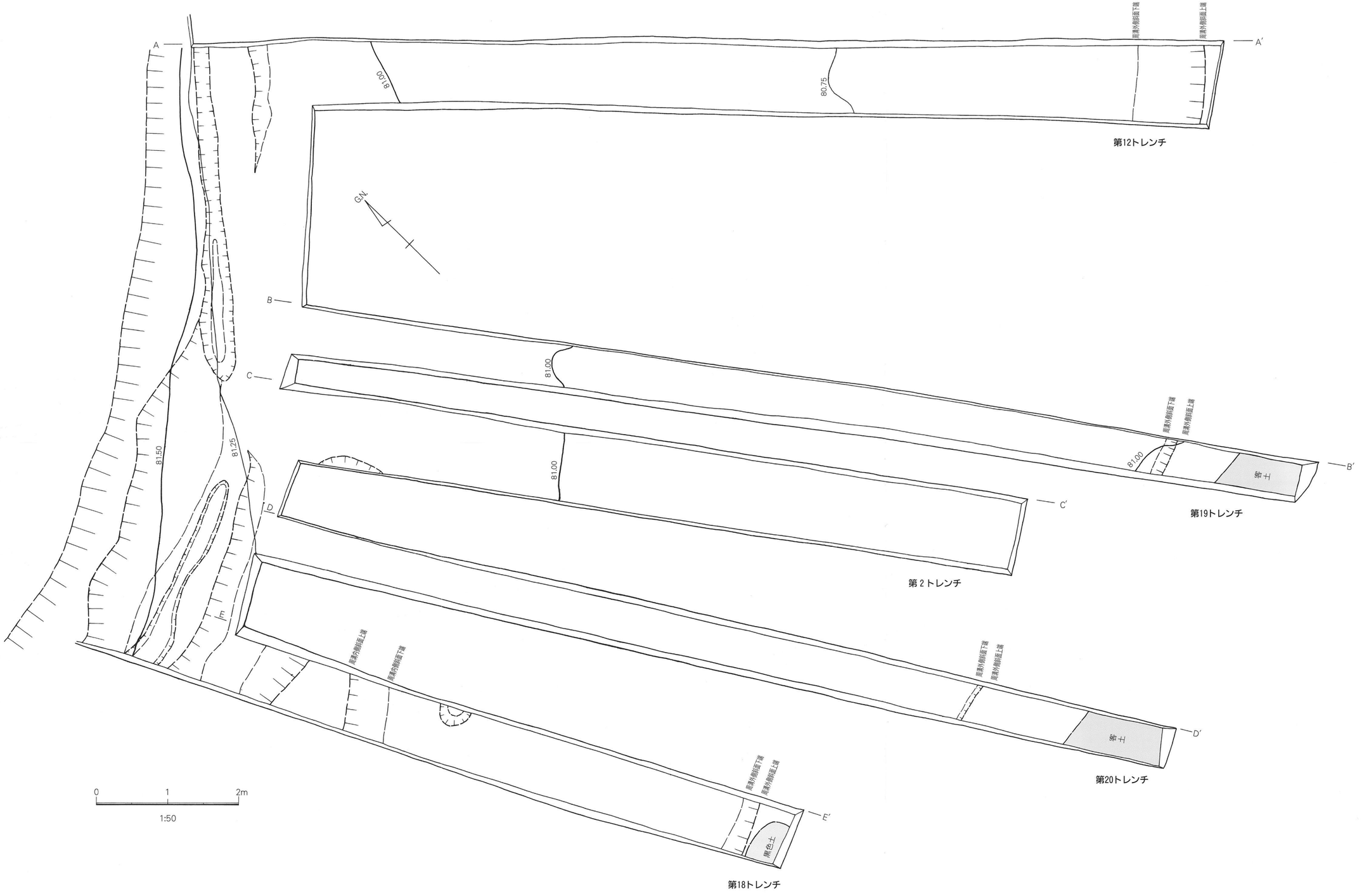
第7トレンチ平面図・土層断面図



第7トレンチ土層説明

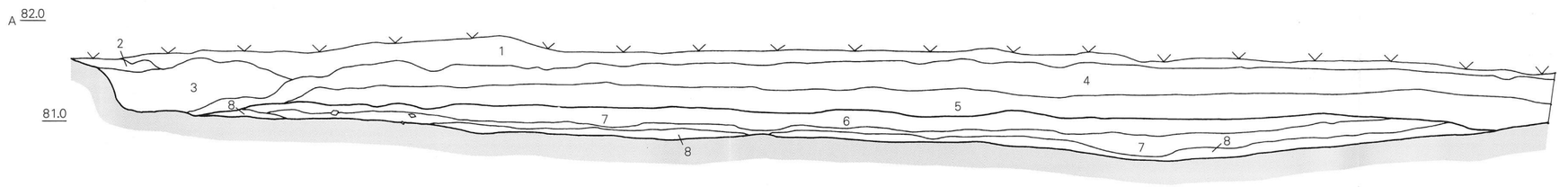
1．表土
2．表土直下
3．暗褐色土［流土］：後世の整形土の流れたもの。しまり、粘性ともにやや弱い。黄褐色の細かいブロックを所々に含む。
4．黒色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。均一な色調。
5．暗褐色土［流土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。
6．褐色土［耕作土］：均質。しまりあり。粘性弱い。7.5YR３/２。
7．暗褐色土［耕作土］：しまりややあり。粘性やや弱い。含有物ほとんどなし。第６層より暗い。10YR３/３。
8．暗褐色土［周溝覆土への掘り込み］：ローム粒まじり。しまりやや弱い。粘性弱い。10YR1.7/１。
9．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともやや弱い。橙色粒子を多く含む。7.5YR2/2。
10．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともやや弱い。第７層より暗い。7.5YR1.7/１。
11．黒褐色土［周溝覆土］：第７層より明るい。しまり、粘性ともややあり。7.5YR1.7/１。
12．黒褐色土［周溝覆土］：均質。しまり、粘性ともややあり。10YR２/１。
13．暗褐色土［周溝覆土］：しまりやや弱い。粘性弱い。橙褐色土混じり。10YR４/４。
14．黒色土層［地山］
15．アカホヤ層［地山］
16．黒ニガ層［地山］
17．茶褐色土層［地山］
18．宮崎ローム層［地山］

第32図　169号墳第６・７トレンチ平面図・土層断面図（S＝1/50）



第33図　169号墳第２・12・18～20トレンチ平面図（S＝1/50）

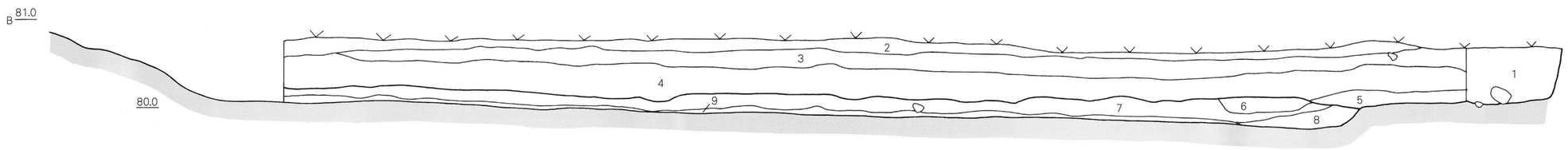
第12トレンチ土層断面図



第12トレンチ土層説明

1．表土
2．褐色土［墳丘覆土］：均質。キメが細かい。粘性乏しい。7.5YR３/２。
3．褐色土［耕作土］：均質。しまり不良。粘性乏しい。7.5YR．３/１。
4．褐色土［耕作土］：均質。しまりやや良好。粘性乏しい。7.5YR３/１。
5．褐色土［耕作土］：第４層とほぼ同様だが、粘性わずかにあり。7.5YR３/１。
6．暗褐色土［周溝覆土］：均質。粘性やややあり。植輪片を含む。10YR２/１。
7．暗茶褐色土［周溝覆土］：均質。第８層よりやや明るい。褐色土主体。サラサラした感じ。7.5YR３/３。
8．暗黄褐色土［周溝覆土］：第７層よりやや暗い。黒ニガ層起源の黄褐色土を主体とする。7.5YR３/３。

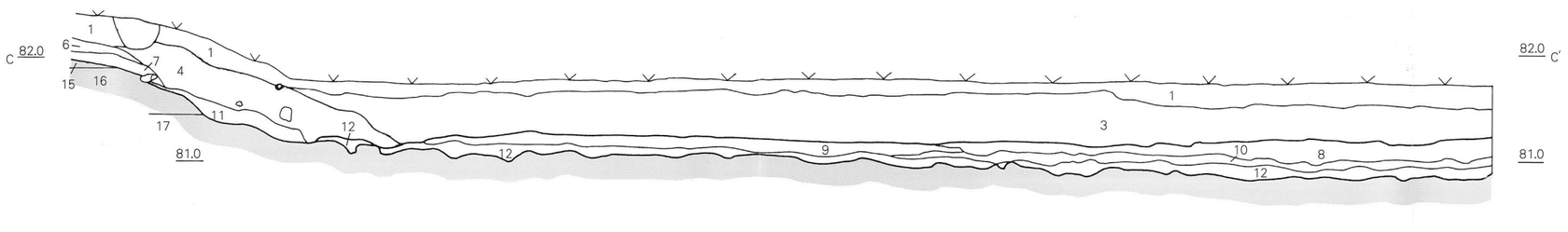
第19トレンチ土層断面図



第19トレンチ土層説明

1．褐色土［客土］：直径５～10mm程の円礫を多量に含む。しまり不良。10YR３/３。
2．表土
3．褐色土［耕作土］：均質。しまりやや良好。粘性乏しい。7.5YR３/１。
4．褐色土［耕作土］：第３層よりもやや粘性があり、やや暗い。7.5YR２/１。
5．褐色土［耕作土］：第４層とほぼ同様。黄褐色粒を若干含む。7.5YR２/１。
6．暗褐色土［周溝覆土］：均質。粘性やややあり。植輪片を含む。第６層よりやや明るい。10YR２/１。
7．暗褐色土［周溝覆土］：均質。粘性やややあり。植輪片を含む。10YR２/１。
8．暗褐色土［周溝覆土］：しまり不良。ぼそぼそしている。黄褐色粒を若干含む。5YR２/１。
9．暗黄褐色土［周溝覆土］：地山起源の黄褐色土粒を少量含む。褐色土主体。7.5YR３/２。

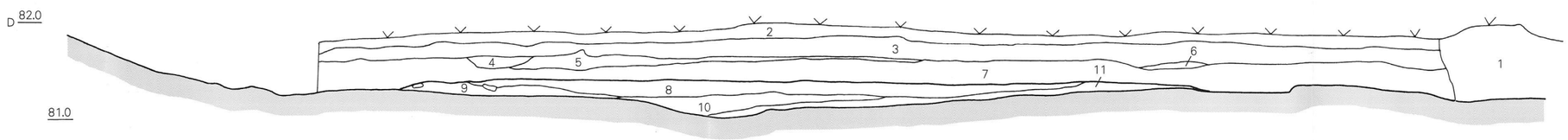
第２トレンチ土層断面図



第２トレンチ土層説明

1．表土
2．表土直下
3．暗褐色土［耕作土］：均質。黄褐色土微粒子を少量含む。しまりふつう。粘性乏しい。
4．暗褐色土［墳丘流土］：しまり乏しい。粘性乏しい。墳丘から転落した葺石を含む。
5．黒褐色土［流土］：しまり、粘性ともにややあり。
6．黒褐色土［流土］：しまり、粘性ともにややあり。均一な色調。
7．暗茶褐色［流土］：しまり、粘性ともにやや弱い。
8．暗褐色土［周溝覆土］：非常に均質。第３層よりも暗い。しまりふつう。粘性乏しい。混入物ほとんど無し。
9．暗褐色土［周溝覆土］：非常に均質。第３層よりも暗い。しまりふつう。粘性乏しい。混入物ほとんど無し。
10．暗茶褐色土［周溝覆土］：第５層よりやや明るい。黄褐色粘質土粒子を若干含む。しまりふつう。粘性あり。
11．暗茶褐色土［墳丘流土］：第９層よりやや明るい。崩落葺石を含む。しまり乏しい。粘性乏しい。
12．茶褐色土［周溝覆土］：黄褐色土ブロック（直径５cm程）を多く含む。しまり乏しい。暗褐色土主体。
13．黒色土層［地山］
14．アカホヤ層［地山］
15．黒ニガ層［地山］
16．茶褐色土層［地山］
17．宮崎ローム層［地山］

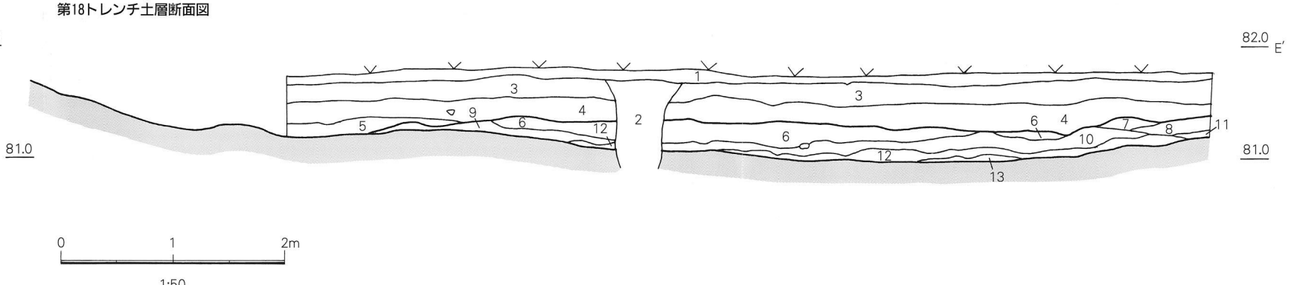
第20トレンチ土層断面図



第20トレンチ土層説明

1．褐色土［客土］：直径５～10cm程度の礫を多量に含む。しまり不良。10YR３/３。
2．表土
3．褐色土［耕作土］：均質。しまりやや良好。粘性乏しい。7.5YR３/１。
4．褐色土［耕作土］：均質。第３層よりやや暗く、やや粘性あり。7.5YR２/１。
5．褐色土［耕作土］：均質。第３層よりやや暗く、やや粘性あり。第４層やや暗い。7.5YR２/１。
6．褐色土［耕作土］：第７層とほぼ同様。アカホヤ粒を若干含む。7.5YR２/１。
7．褐色土［耕作土］：均質。第３層よりやや暗く、やや粘性あり。7.5YR２/１。
8．暗褐色土［周溝覆土］：均質。やや粘性あり。植輪片を多く含む。10YR２/１。
9．暗黄褐色土［周溝覆土］：均質。黄褐色土微粒子を多量に含む。7.5YR３/２。
10．暗黄褐色土［周溝覆土］：第９層よりもやや暗い。黄褐色土微粒子を若干含む。7.5YR３/２。
11．暗黄褐色土［周溝覆土］：やや粘性あり。黄褐色土粒をやや多く含む。7.5YR３/２。

第18トレンチ土層断面図



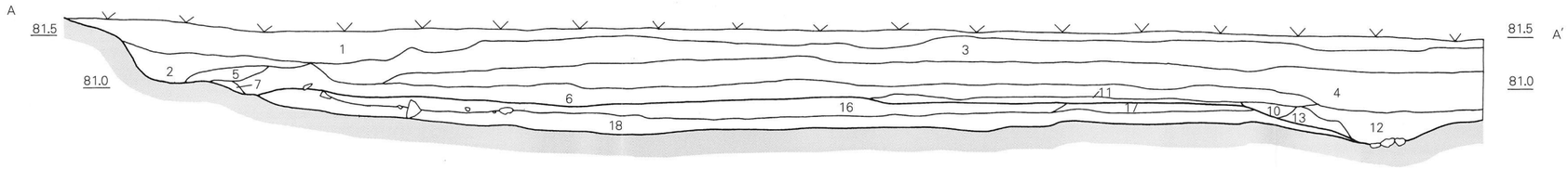
第18トレンチ土層説明

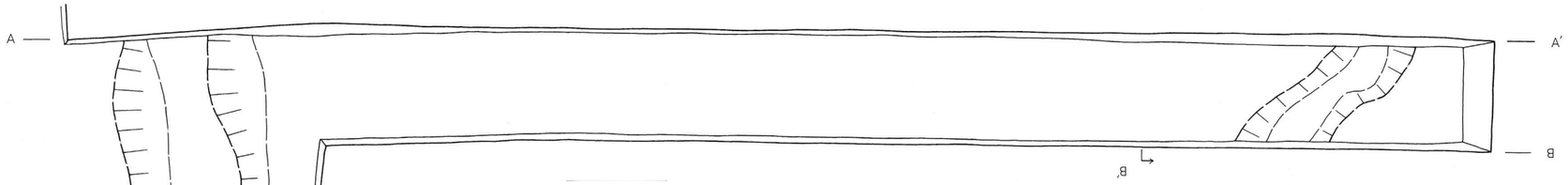
1．表土
2．褐色土［現代の掘り込みの覆土］：宮崎ローム層起源と思われる黄褐色砂質土粒をやや多く含む。しまりやや不良。7.5YR３/３。
3．褐色土［耕作土］：均質。しまりやや良好。粘性乏しい。7.5YR３/１。
4．褐色土［耕作土］：均質。第３層よりやや暗く。やや粘性あり。7.5YR３/２。
5．褐色土［耕作土］：均質。第４層よりやや砂質で、黄褐色土微粒子やや多い。7.5YR３/１。
6．暗褐色土［周溝覆土］：均質。やや粘性あり。植輪片を多く含む。しまりふつう。10YR２/１。
7．褐色土［耕作土］：第３層より暗い。均質だが、しまりややや弱。7.5YR３/１。
8．褐色土［耕作土］：第３層より暗い。第７層と同様だが黄褐色土粒やや多い。7.5YR３/１。
9．暗黄褐色土［周溝覆土］：褐色土ベース。宮崎ローム層起源の黄褐色土粒を含む。7.5YR３/３。
10．暗黄褐色土［周溝覆土］：第12層より暗い。宮崎ローム層起源の黄褐色土粒を若干含む。暗褐色土ベース。7.5YR３/３。
11．褐色土［耕作土］：第３層より暗い。黄褐色土粒を多く含む。7.5YR３/１。
12．暗黄褐色土［周溝覆土］：第10層より暗い。宮崎ローム層起源の黄褐色土粒を多量に含む。7.5YR３/４。
13．暗黄褐色土［周溝覆土］：しまり不良。粘性あり。宮崎ローム層起源の黄褐色土粒を多量に含む。7.5YR３/４。

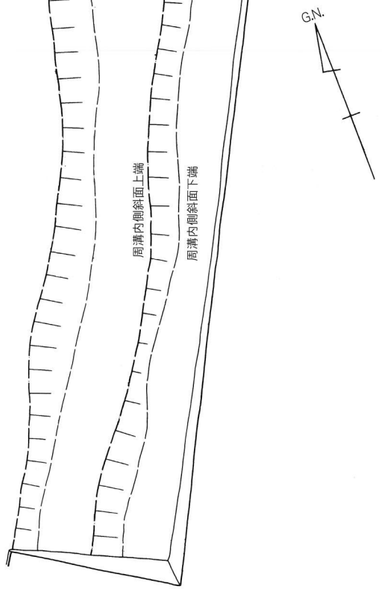
0　1　2m

1:50

第34図　169号墳第２・12・18～20トレンチ土層断面図（S＝1/50）

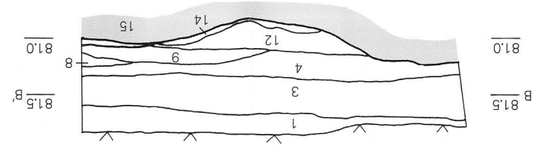




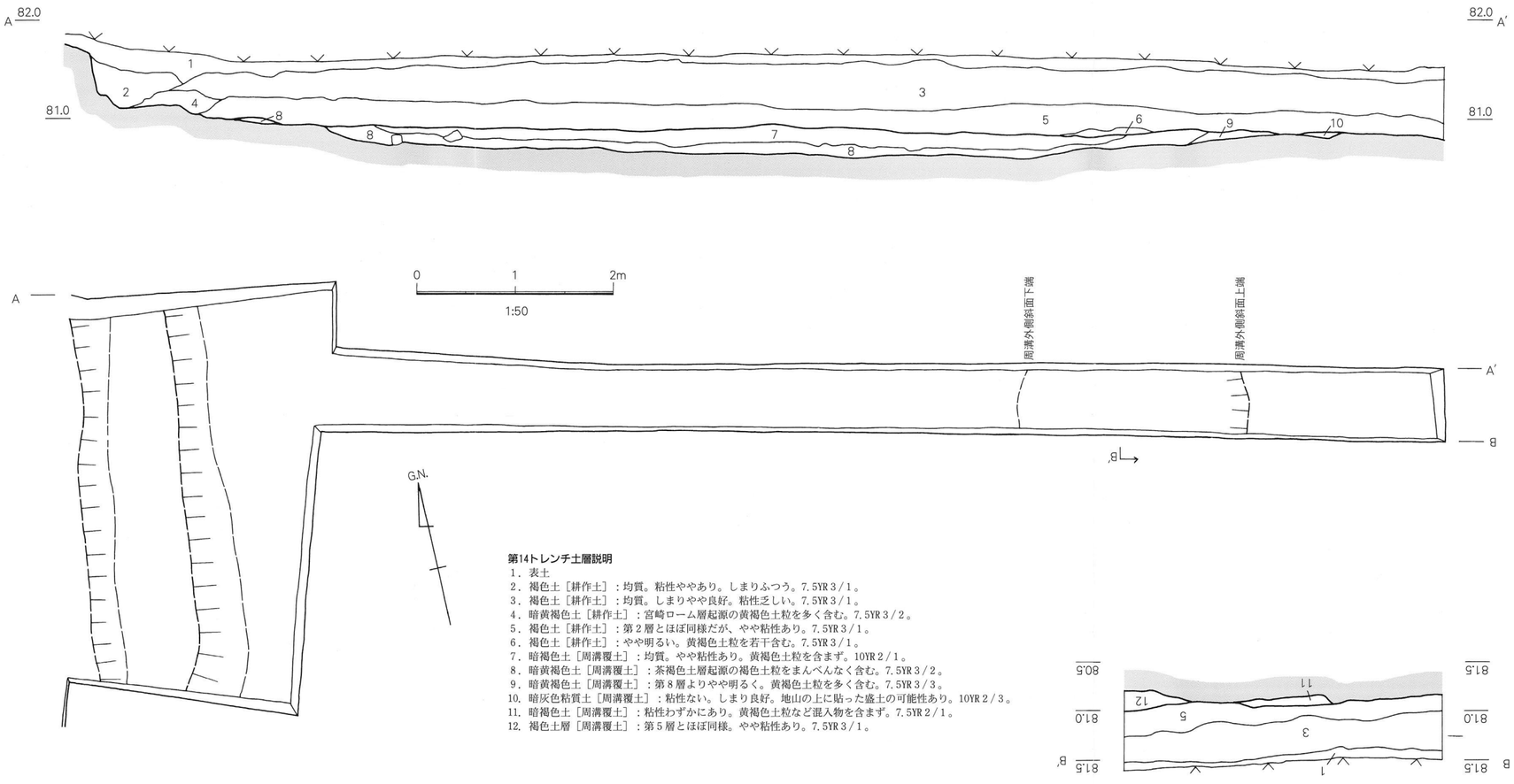


第13トレンチ土層説明

1．表土
2．褐色土［耕作土］：均質。しまりふつう。粘性ややあり。7.5YR３／１。
3．褐色土［耕作土］：均質。しまりやや良好。粘性乏しい。7.5YR３／１。
4．褐色土［耕作土］：第３層よりやや暗く、やや粘性あり。7.5YR３／１。
5．暗黄褐色土［耕作土］：宮崎ローム層起源の黄褐色土粒を多く含む。7.5W３／２。
6．褐色土［耕作土］：均質。第４層よりやや暗く。やや粘性あり。7.5YR３／１。
7．暗黄褐色土［耕作土］：宮崎ローム層起源の黄褐色土粒主体。粘性あり。10YR３／３。
8．褐色土［耕作土］：均質。第９層よりやや暗い。第９層よりやや粘性あり。7.5YR３／１。
9．褐色土［耕作土］：均質。第８層より黄褐色土粒やや多い。7.5YR３／１。
10．灰茶褐色土層［後世の覆土］：均質。灰茶褐色主体。サラサラした感じ。7.5YR３／３。
11．茶褐色土［耕作土］：第６層よりやや明るい。7.5YR３／１。
12．暗褐色土［後世（溝）の覆土］：均質。やや粘性あり。黄褐色土粒を含まない。10YR２／１。
13．灰茶褐色土層［後世の覆土］：第10層とほぼ同様。第10層よりやや暗い。7.5YR３／２。
14．暗黄褐色粘質土［後世（溝）の覆土］：茶褐色土層起源の黄褐色土主体。7.5YR３／３。
15．暗黄褐色度［周溝覆土］：茶褐色土層起源の黄褐色土主体。7.5YR３／３。
16．暗褐色度層［周溝覆土］：均質。やや粘性あり。埴輪片を含む。10YR２／１。
17．茶褐色土［周溝覆土］：第16層よりわずかに明るい。10YR２／３。
18．暗茶褐色土［周溝覆土］：宮崎ローム層起源褐色土粒を多数含む。褐色土主体。7.5YR３／４。



第35図　169号墳第13トレンチ平面図・土層断面図（S＝1/50）

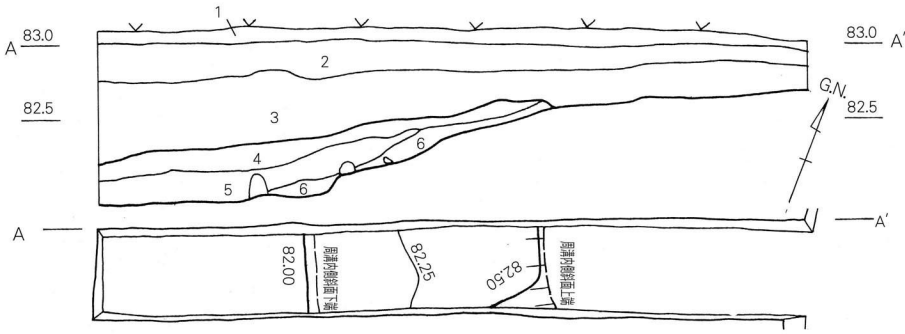


第14トレンチ土層説明

1．表土
2．褐色土［耕作土］：均質。粘性ややあり。しまりふつう。7.5YR 3／1。
3．褐色土［耕作土］：均質。しまりやや良好。粘性乏しい。7.5YR 3／1。
4．暗黄褐色土［耕作土］：宮崎ローム層起源の黄褐色土粒を多く含む。7.5YR 3／2。
5．褐色土［耕作土］：第2層とほぼ同様だが、やや粘性あり。7.5YR 3／1。
6．褐色土［耕作土］：やや明るい。黄褐色土粒を若干含む。7.5YR 3／1。
7．暗褐色土［周溝覆土］：均質。やや粘性あり。黄褐色土粒を含まず。10YR 2／1。
8．暗黄褐色土［周溝覆土］：茶褐色土層起源の褐色土粒をまんべんなく含む。7.5YR 3／2。
9．暗黄褐色土［周溝覆土］：第8層よりやや明るく。黄褐色土粒を多く含む。7.5YR 3／3。
10．暗灰色粘質土［周溝覆土］：粘性ない。しまり良好。地山の上に貼った盛土の可能性あり。10YR 2／3。
11．暗褐色土［周溝覆土］：粘性わずかにあり。黄褐色土粒など混入物を含まず。7.5YR 2／1。
12．褐色土層［周溝覆土］：第5層とほぼ同様。やや粘性あり。7.5YR 3／1。

第36図　169号墳第14トレンチ平面図・土層断面図（S＝1/50）

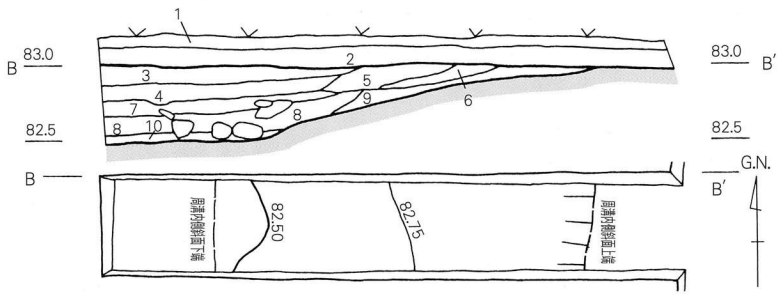
4区墳裾中央トレンチ



4区墳裾中央トレンチ土層説明

1．表土
2．黒褐色土［耕作土］：非常に均質。しまりあり。粘性弱い。7.5YR3/1。
3．黒色土［耕作土］：しまりあり。粘性やや弱い。橙色砂粒をかすかに含む。10YR2/1。
4．黒色土［周溝覆土］：しまり弱い。粘性やややあり。第3層より暗い。均一な色調。10YR1.7/1。
5．暗褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。崩落石、埴輪片を含む。10YR3/3。
6．褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。黒色土が混じる。10YR4/4。

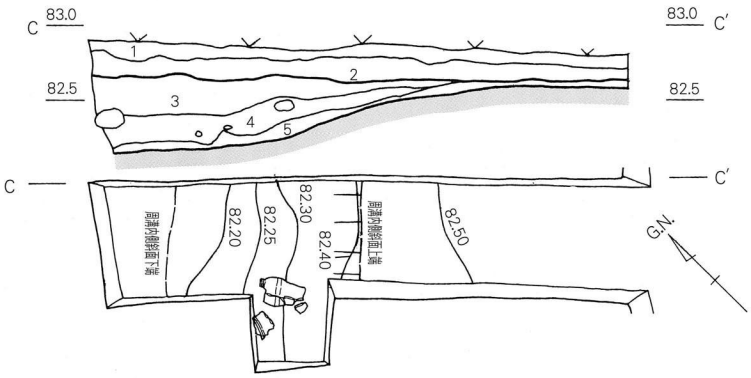
5区墳裾中央トレンチ



5区墳裾中央トレンチ土層説明

1．表土
2．黒褐色土［耕作土］：非常に均質。しまりあり。粘性やや弱い。7.5YR3/1。
3．黒色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性やや弱い。含有物をほとんど含まない。10YR1.7/1。
4．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性ややあり。橙色砂粒を多量に含む。第3層より明るい。10YR1.7/1。
5．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。色調は第4層と似るが橙色砂粒をわずかしか含まない。10YR2/1。
6．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにやや弱い。崩落石、埴輪片を含む。10YR3/2
7．黒色土［周溝覆土］：しまりあり。粘性ややあり。土質は第3層に近い。10YR1.7/1。
8．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。崩落石、埴輪片を含む。10YR3/1。
9．褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性やや弱い。地山に近い色調。10YR4/4。
10．黒色土［周溝覆土］：しまりあり。粘性ややあり。黒色土が混じる。10YR1.7/1。

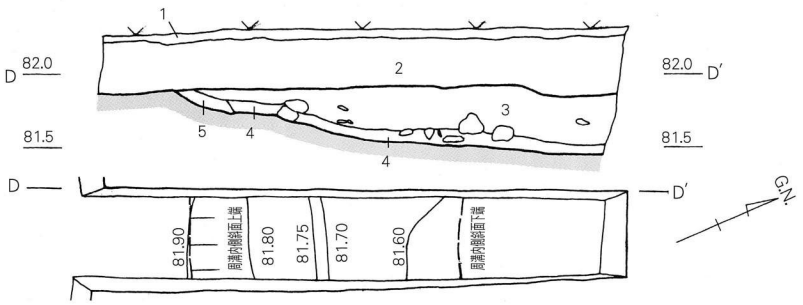
6区墳裾中央トレンチ



6区墳裾中央トレンチ土層説明

1．表土
2．黒褐色土［耕作土］：非常に均質。しまりあり。粘性やや弱い。7.5YR2/3。
3．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。黄色砂粒を多く含む。10YR2/1。
4．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。崩落石、埴輪片を含む。7.5YR2/2。
5．褐色土［周溝覆土］：しまりあり。粘性ややあり。色調は地山に近いが黒色土が部分的に混じる。10YR4/4。

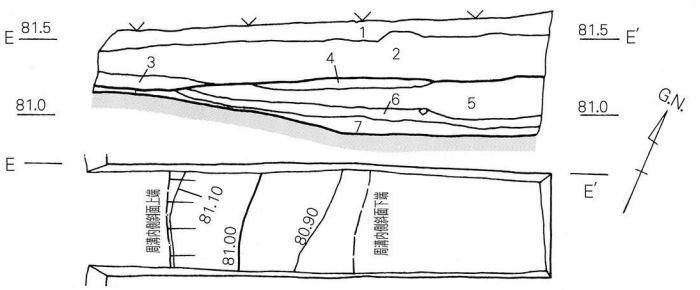
7区墳裾中央トレンチ



7区墳裾中央トレンチ土層説明

1．表土
2．黒褐色土［耕作土］：非常に均質。しまりあり。粘性やや弱い。5YR3/1。
3．黒色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。黄色砂粒を均一に含む。10YR1.7/1。
4．暗褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともに弱い。直径2～3cm程の黄褐色ブロックを部分的に含む。崩落石含む。10YR3/4。
5．褐色土［周溝覆土］：しまりやや弱い。粘性ややあり。黒色土が混じり、色調不均一。10YR4/4。

8区墳裾中央トレンチ

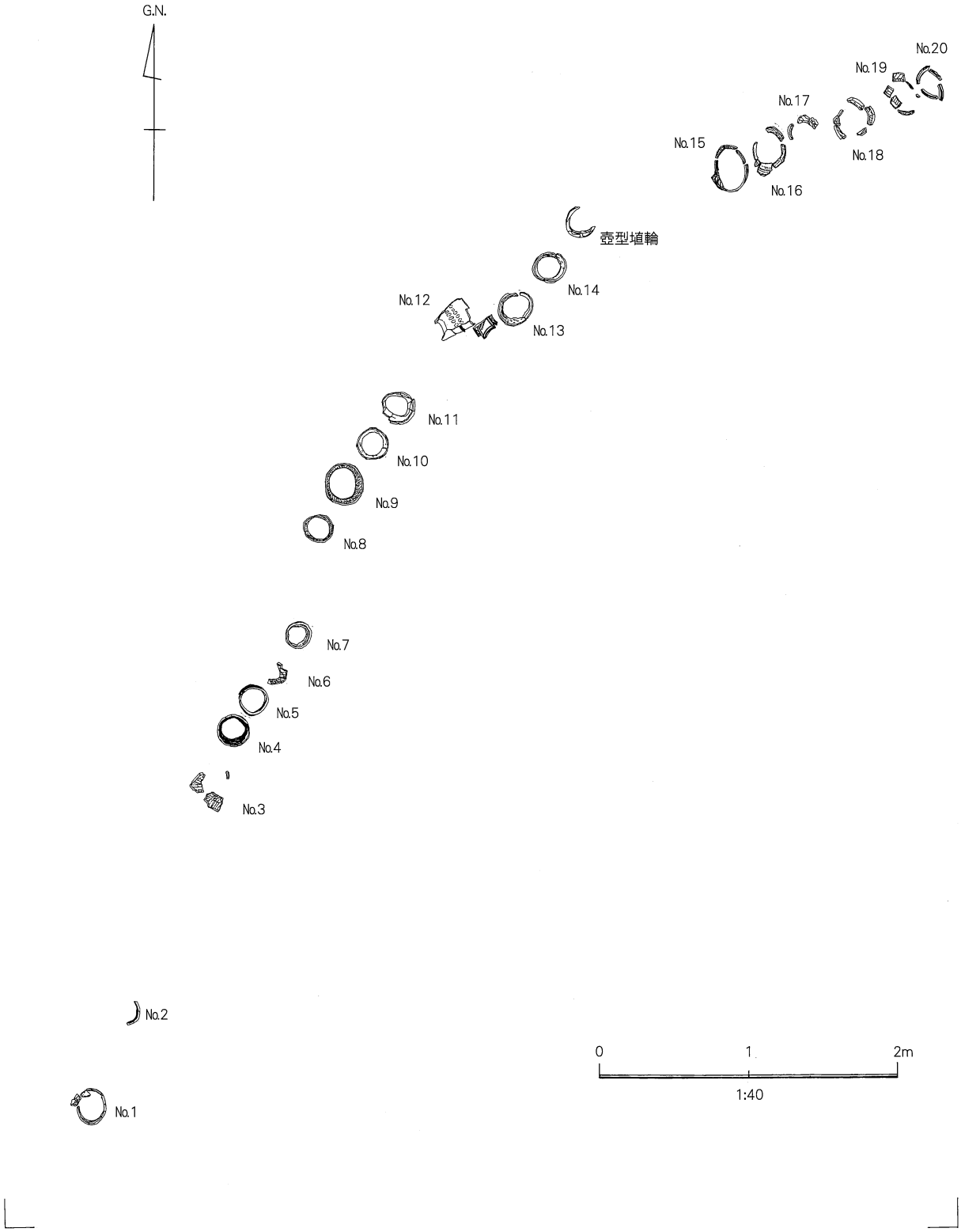


8区墳裾中央トレンチ土層説明

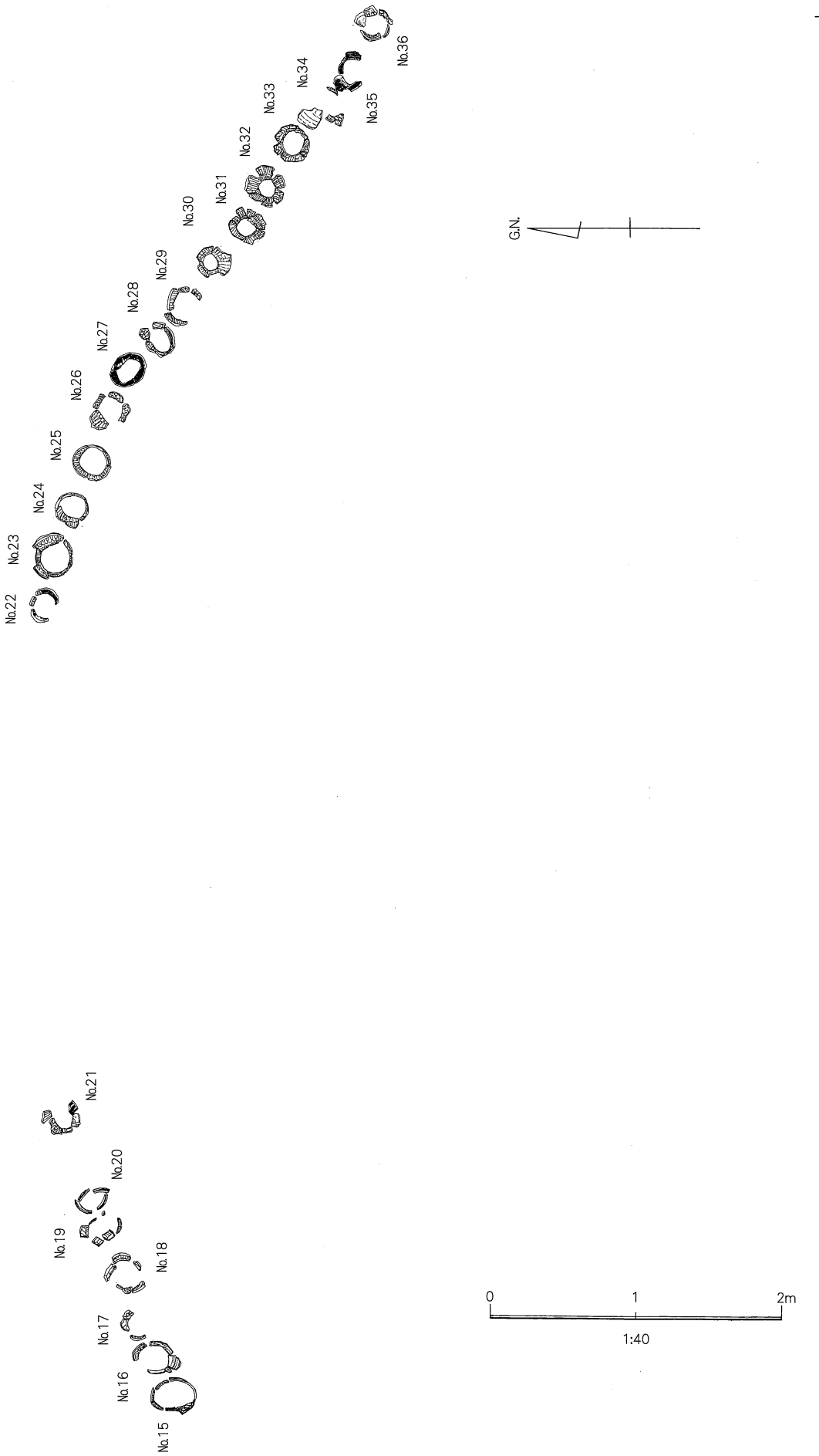
1．表土
2．黒褐色土［耕作土］：非常に均質。しまりあり。粘性やや弱い。10YR2/3。
3．暗褐色土［耕作］：しまりややあり。粘性弱い。10YR3/3。
4．黒色土［周溝覆土］：しまりあり。粘性やや弱い。性質は第5層に近いが第5層より若干明るい。7.5YR2/1。
5．黒色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性やや弱い。黄色の砂粒を均一に含む。7.5YR1.7/1。
6．黒褐色土［周溝覆土］：しまり、粘性ともにややあり。均一な色調。10YR3/2。
7．褐色土［周溝覆土］：しまりややあり。粘性やや弱い。黒色土がまだら状に入り色調は不均一。10YR4/4。

0　1　2m
1:50

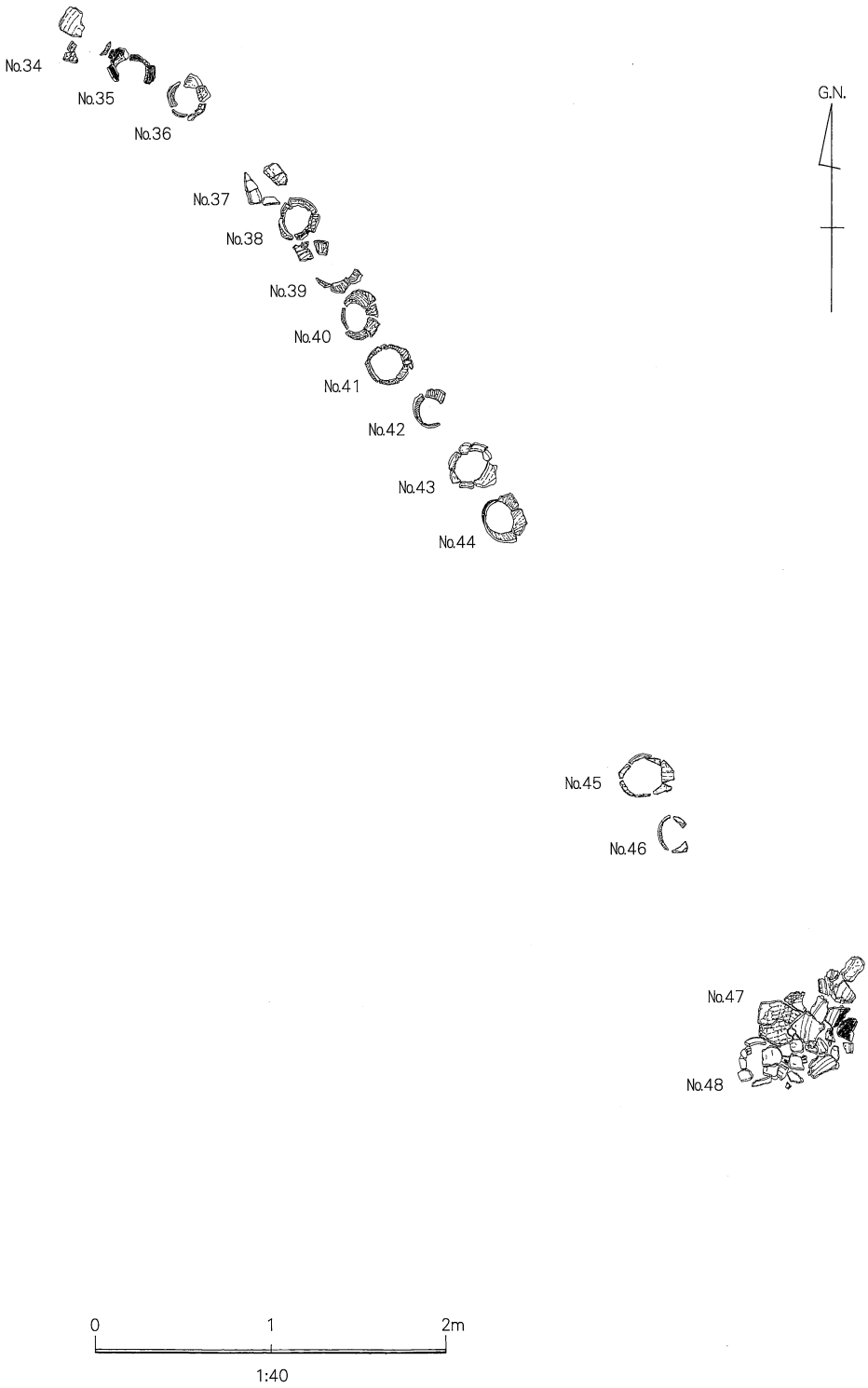
第37図　169号墳4～8区墳裾中央トレンチ平面図・土層断面図（S＝1/50）



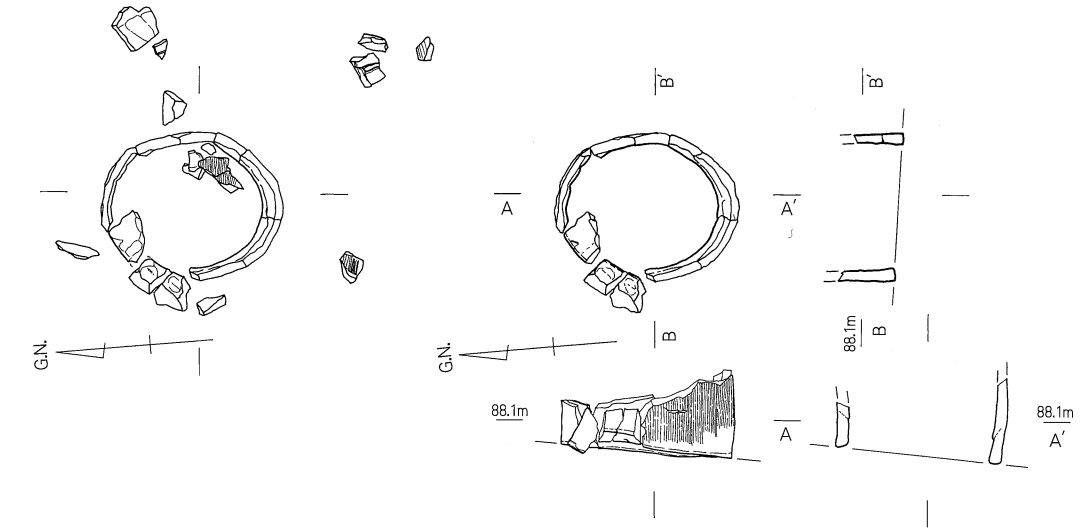
第38図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪列平面図（１）（S＝1/40）



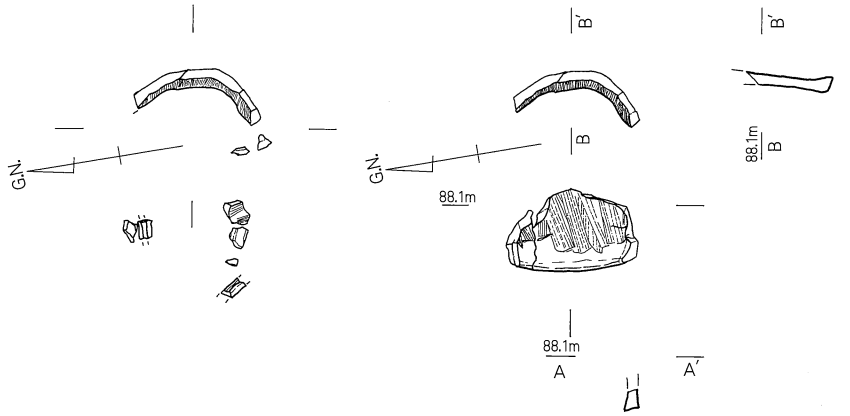
第39図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪列平面図（２）（S＝1/40）



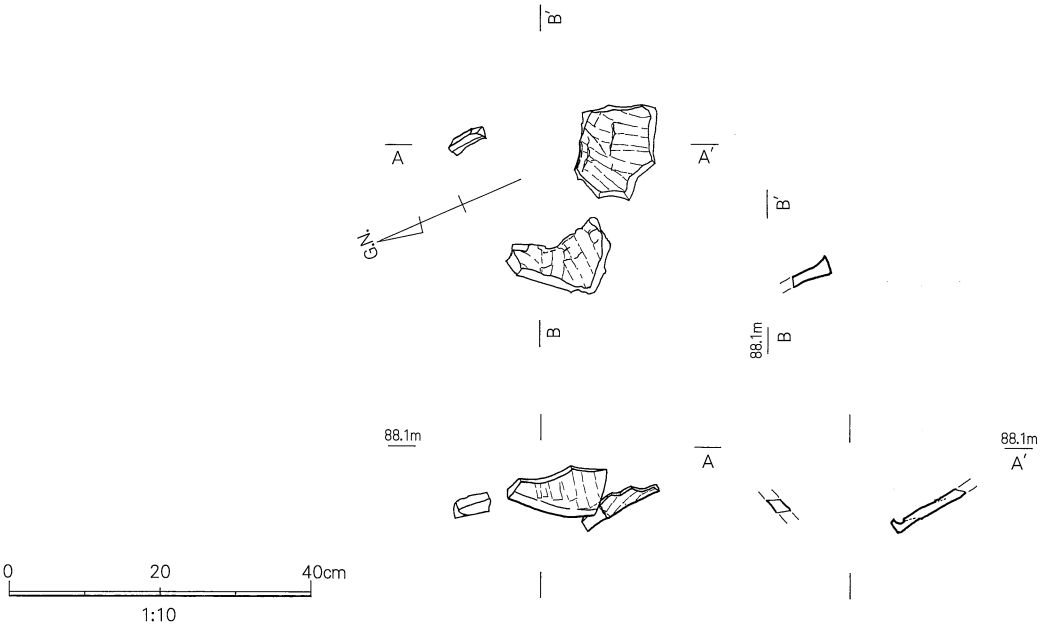
第40図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪列平面図（３）（S＝1/40）



1
(No.1)

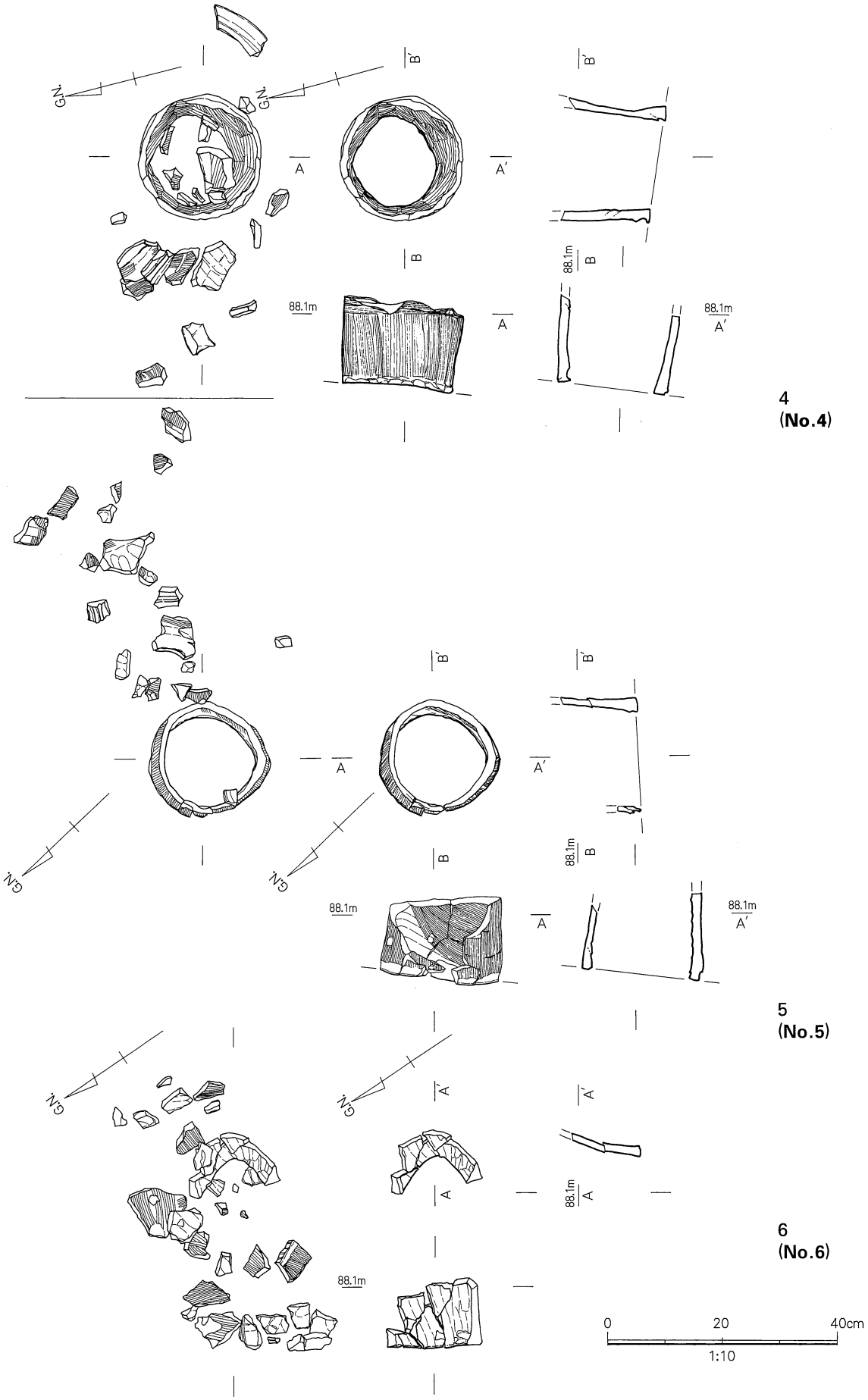


2
(No.2)

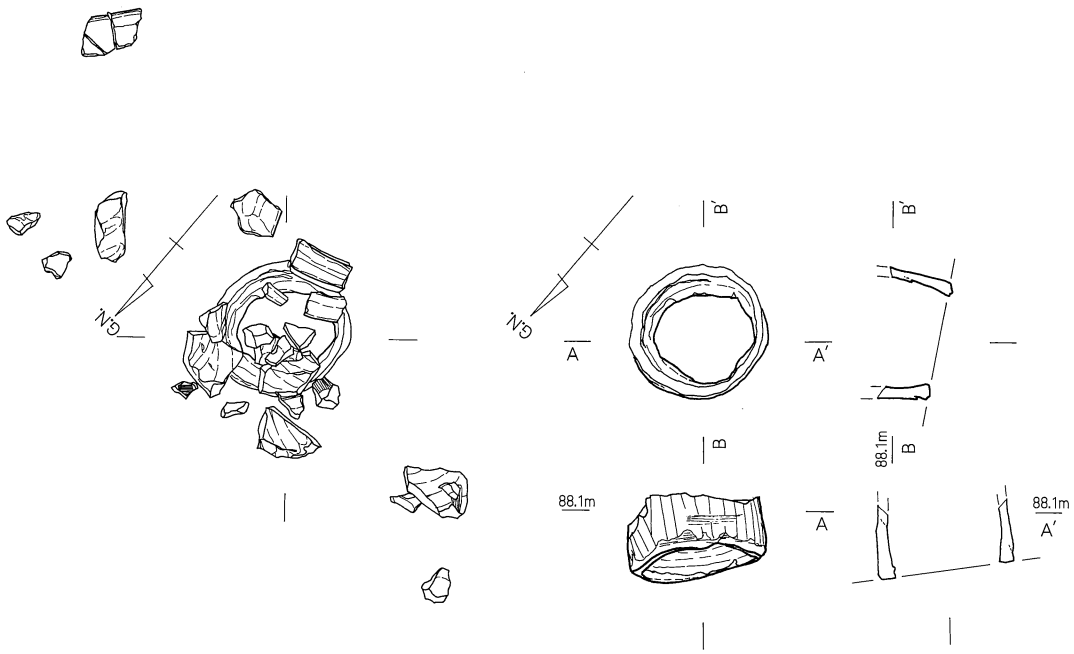


3
(No.3)

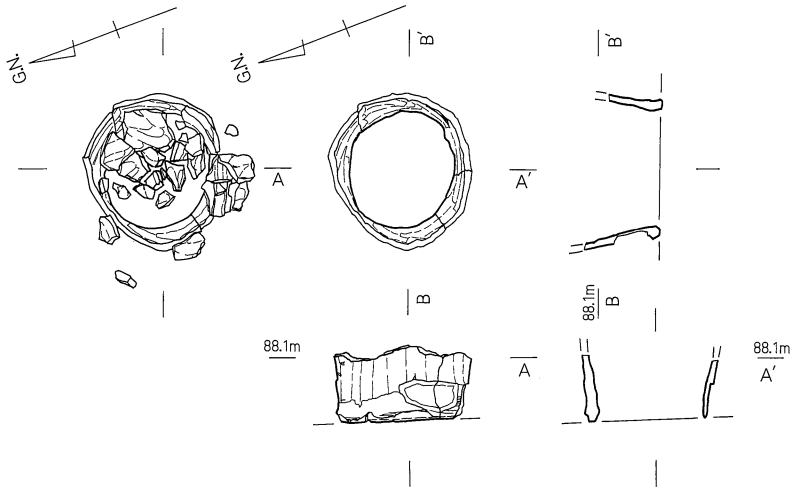
第41図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（１）（S＝1/10）



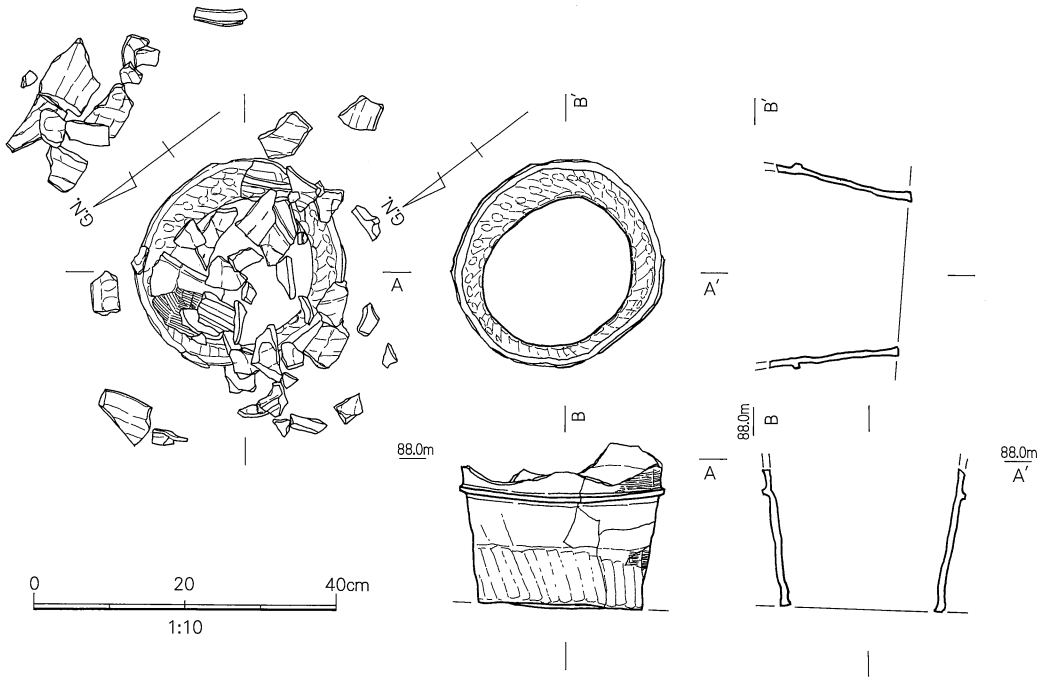
第42図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（２）（S＝1/10）



7
(No.7)

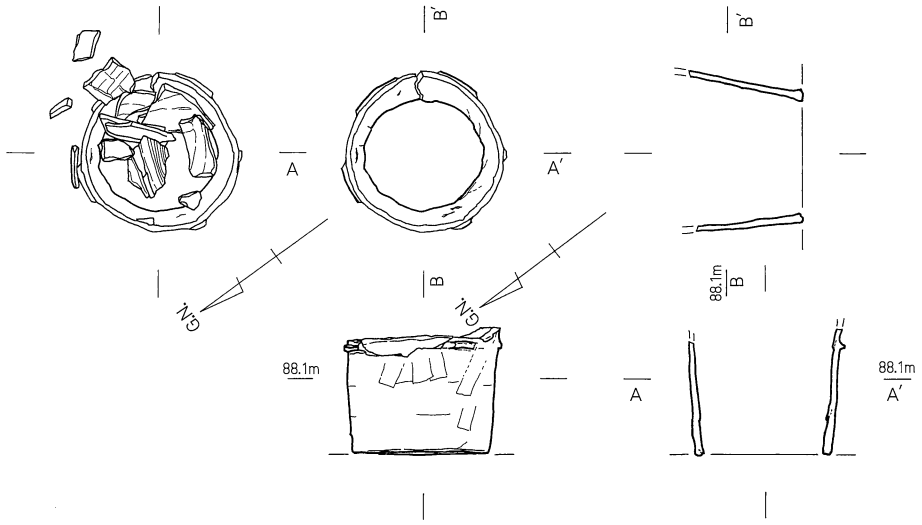


8
(No.8)

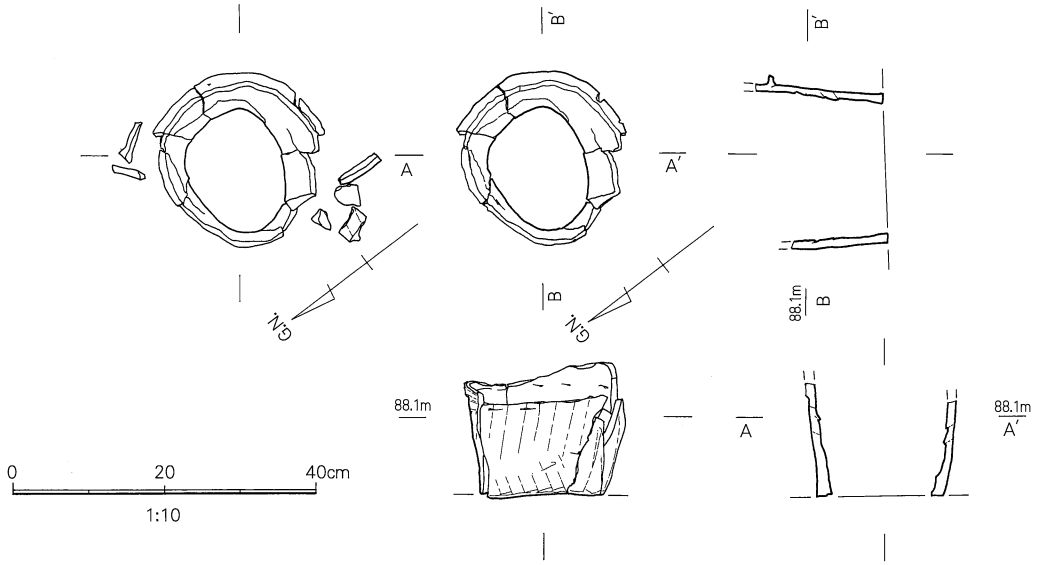


9
(No.9)

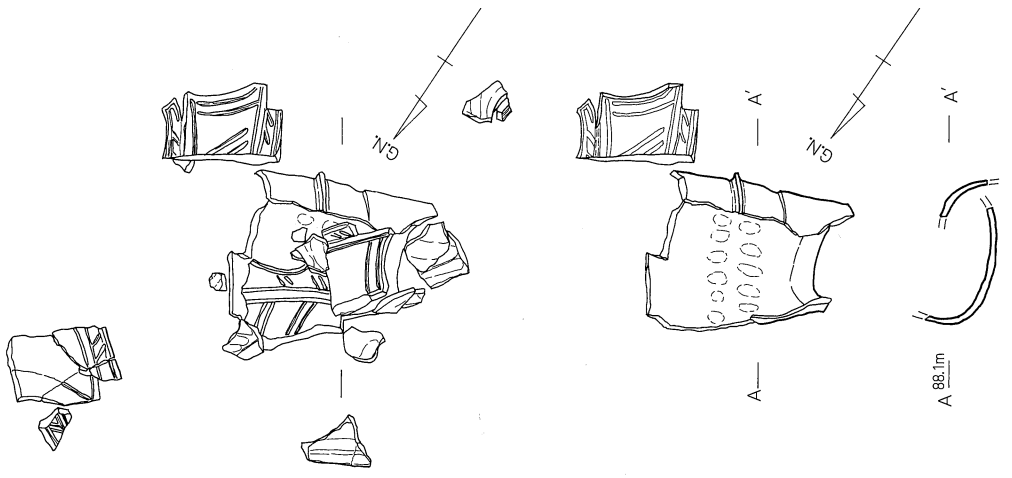
第43図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（3）(S=1/10)



10
(No.10)

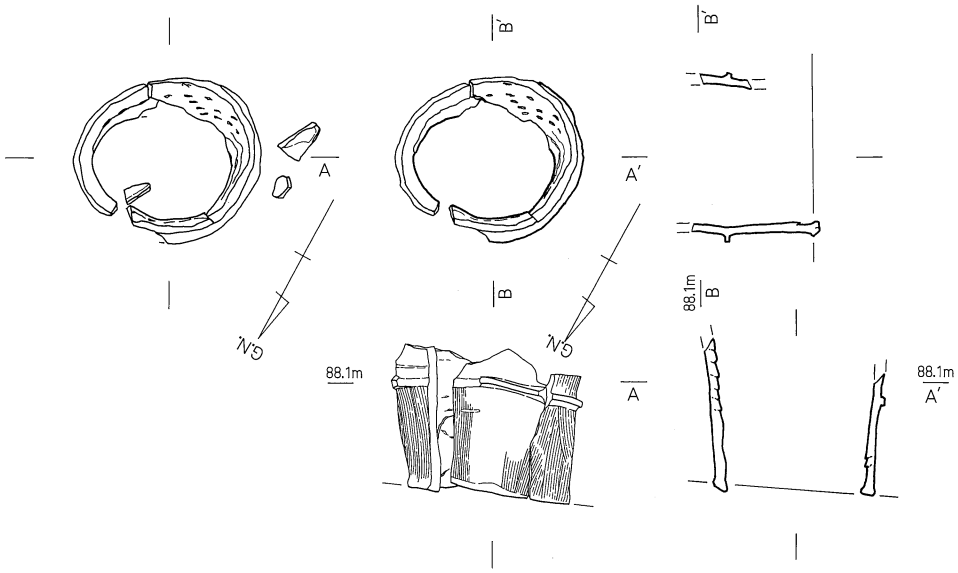


11
(No.11)

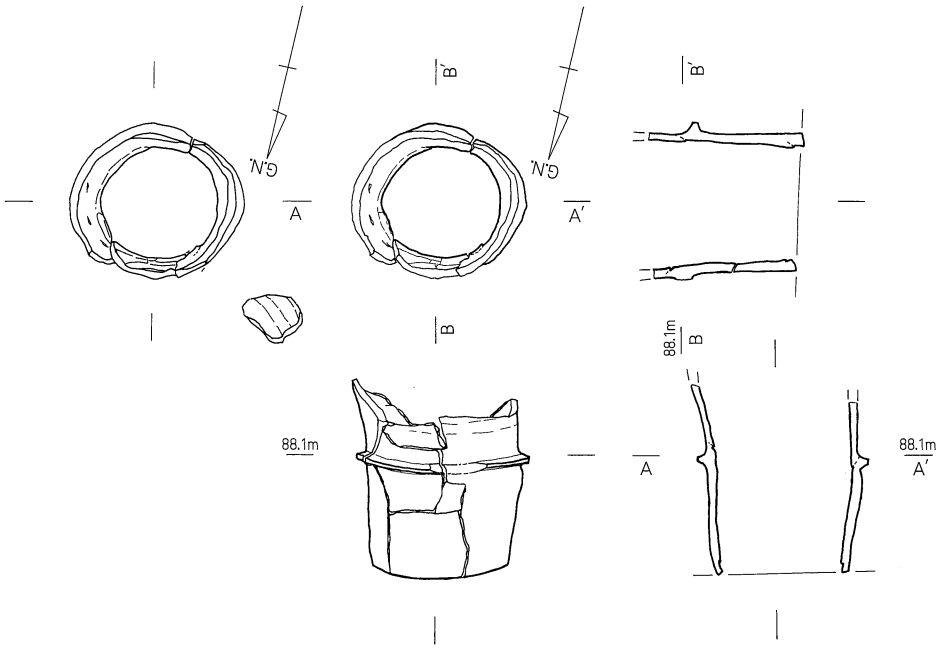


12
(No.12)

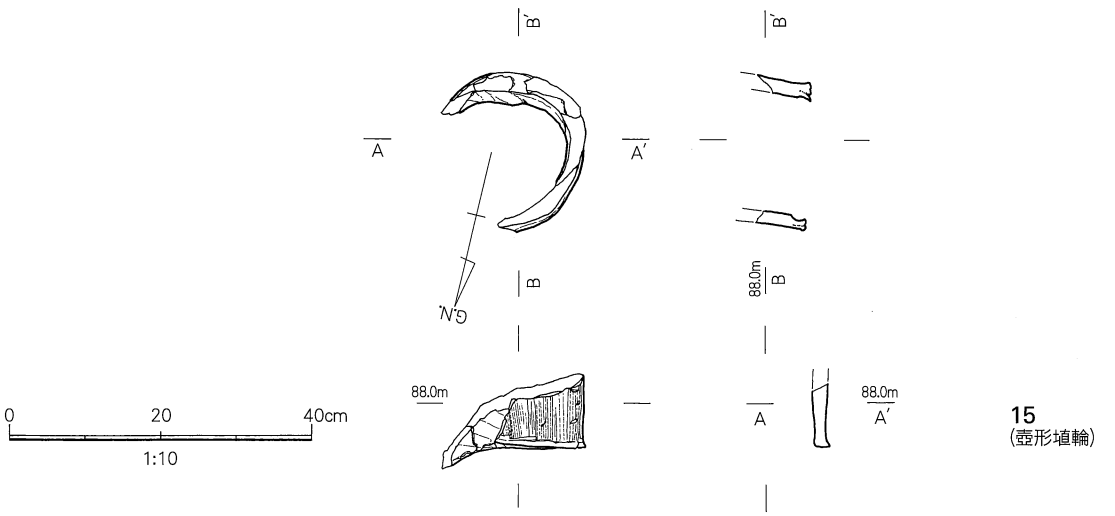
第44図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（４）（S＝1/10）



13
(No.13)

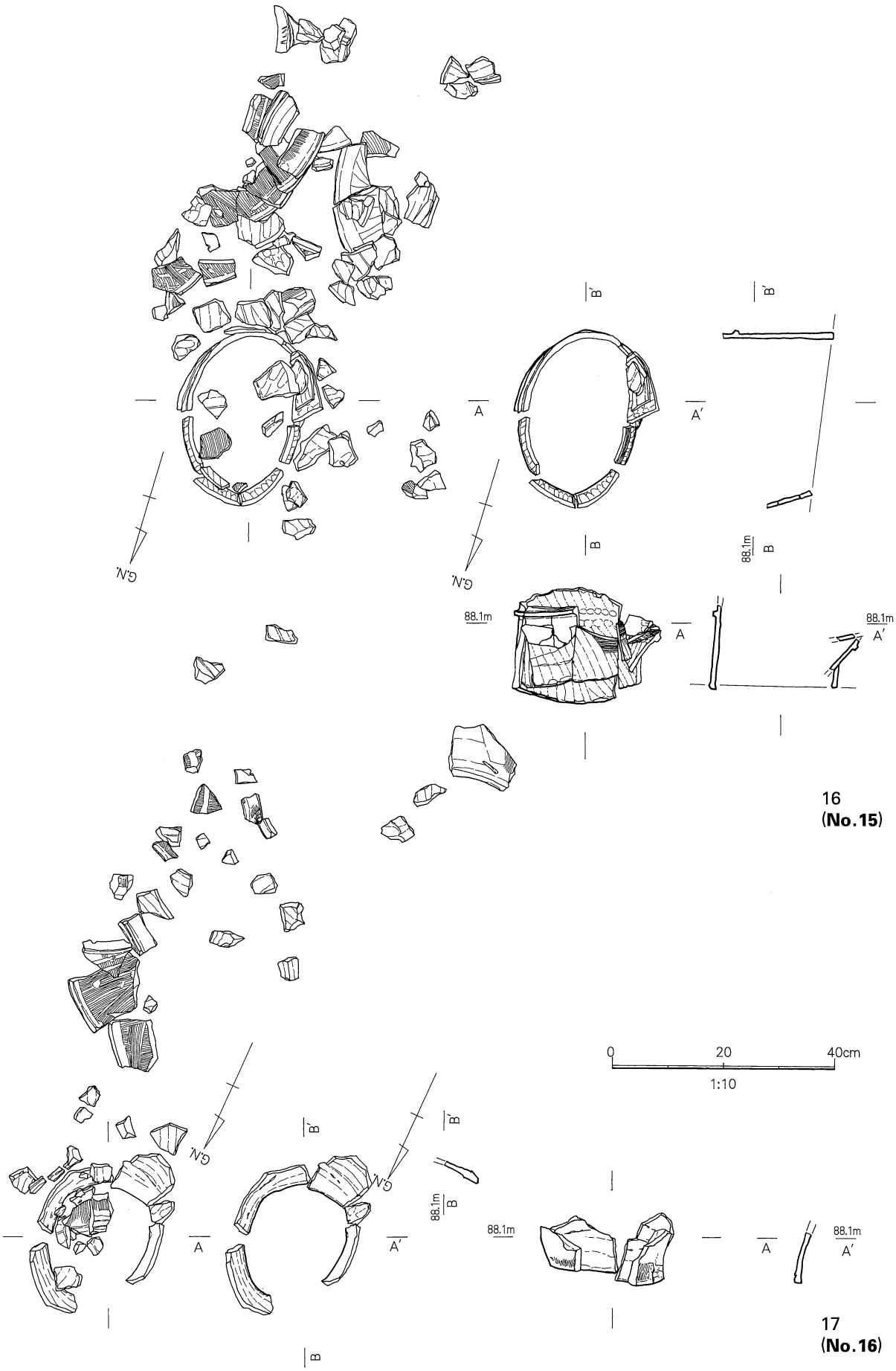


14
(No.14)

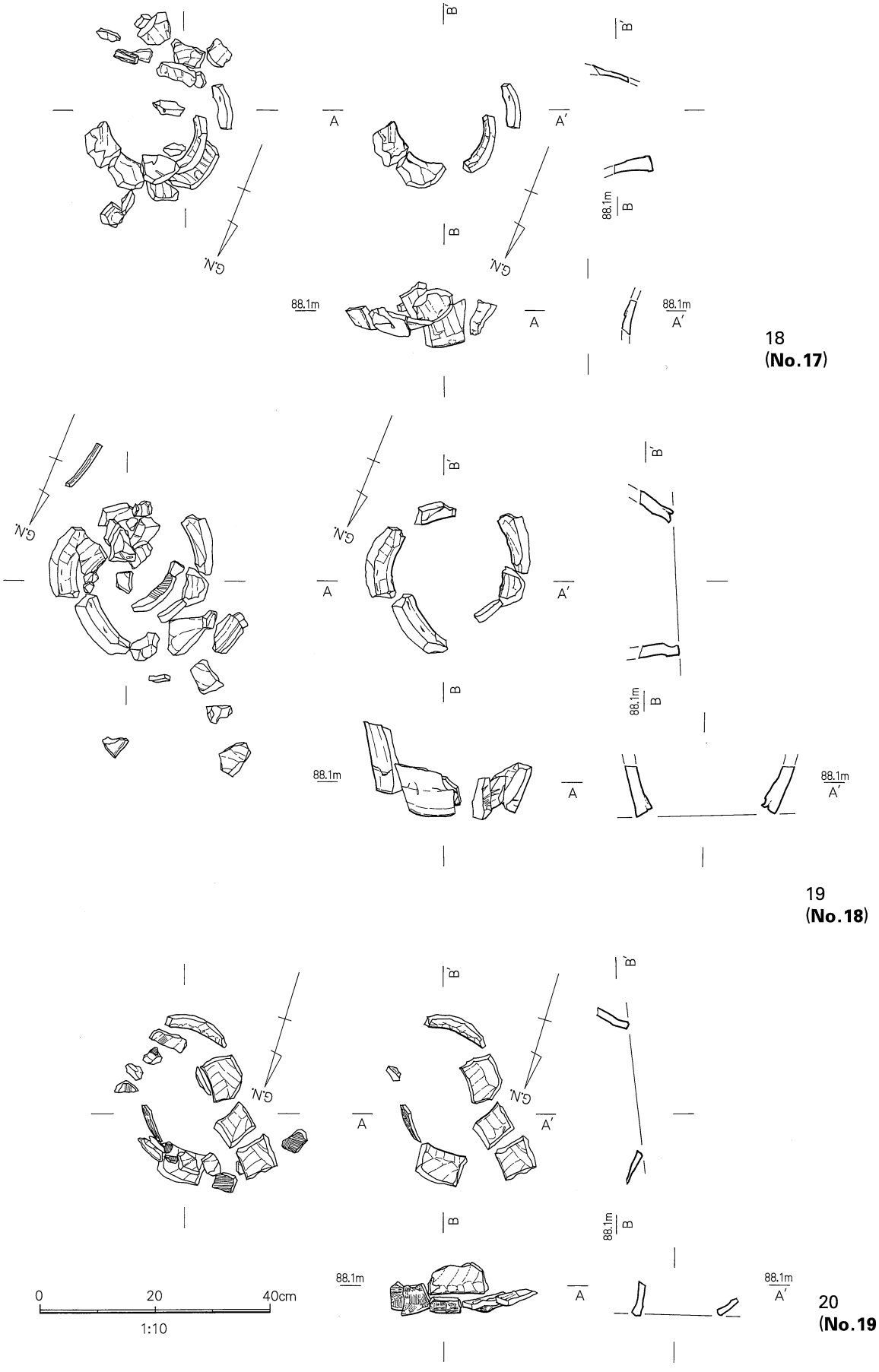


15
(壺形埴輪)

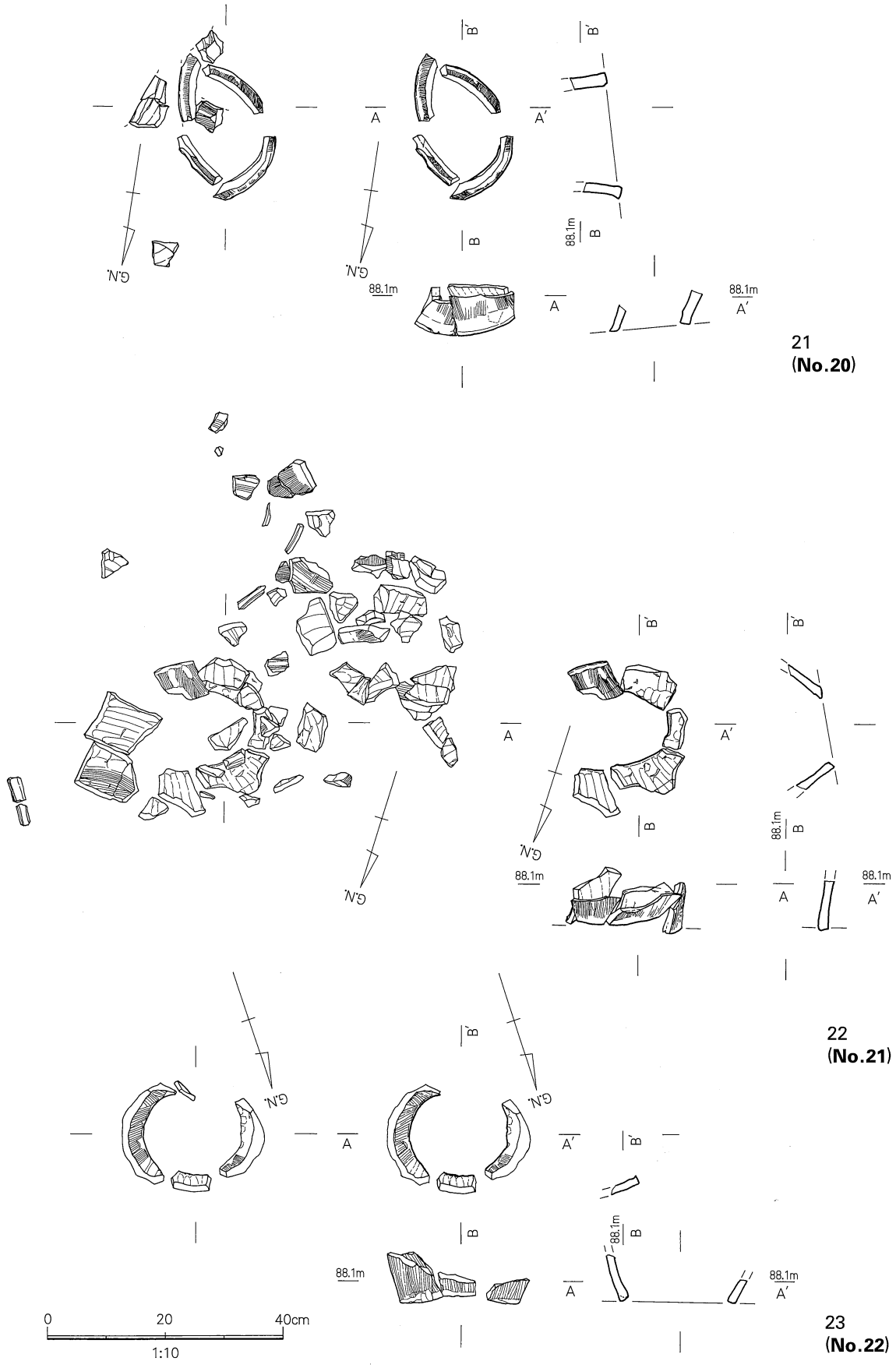
第45図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（５）（S＝1/10）



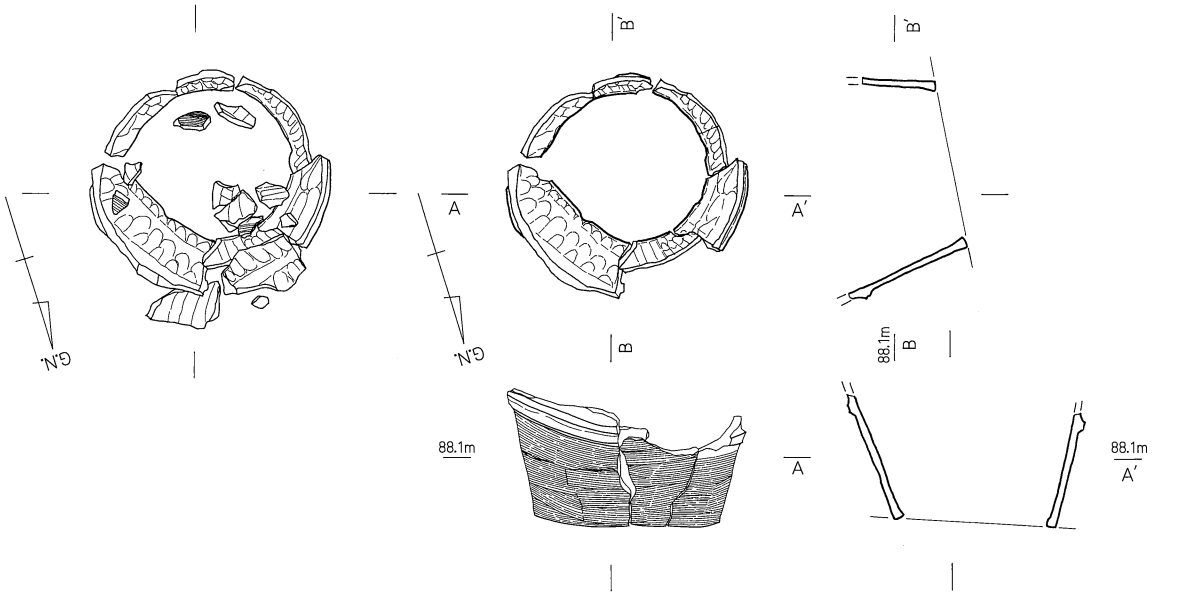
第46図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（６）（S＝1/10）



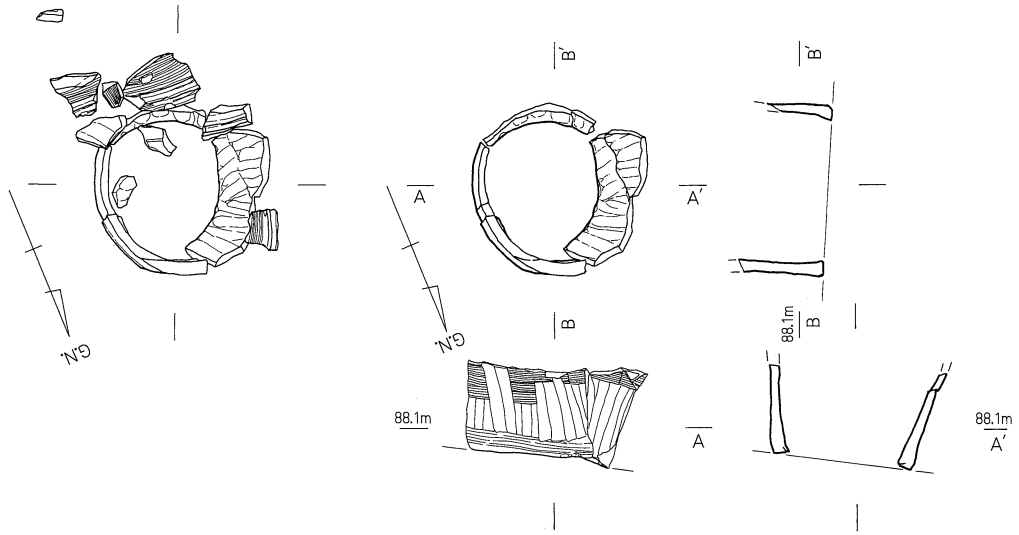
第47図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（７）（S＝1/10）



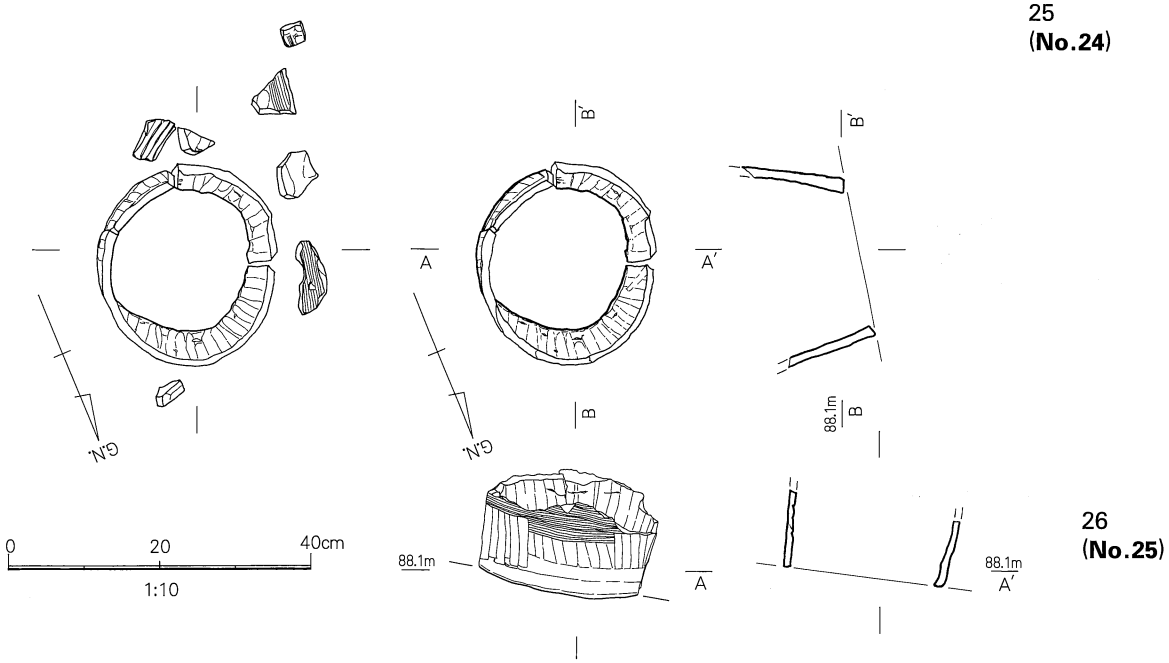
第48図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（８）（S＝1/10）



24
(No.23)

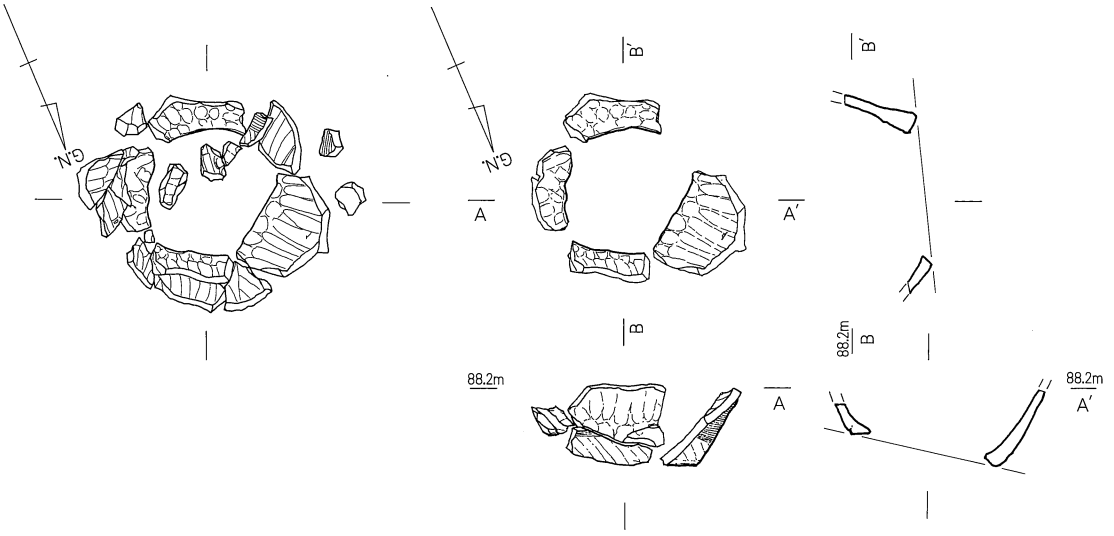


25
(No.24)

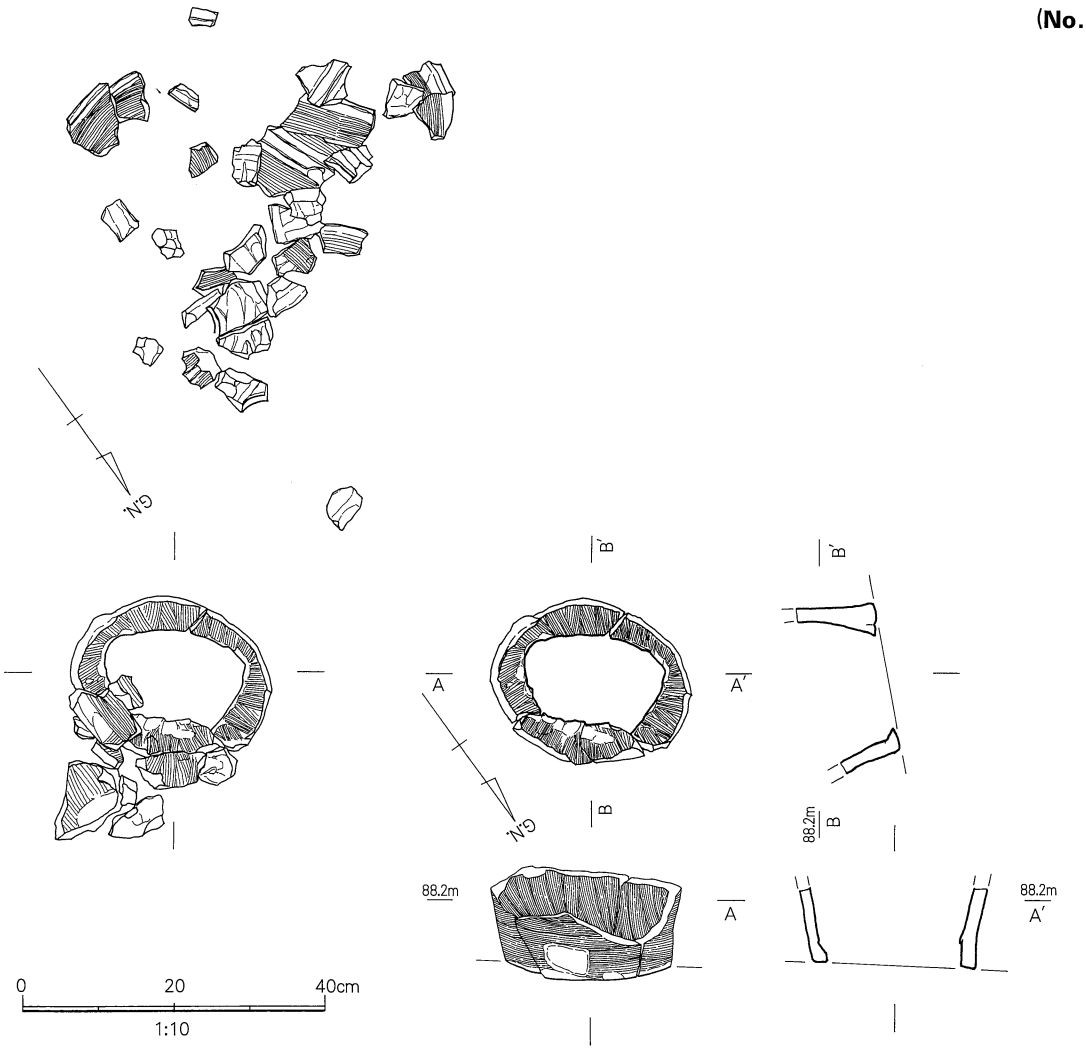


26
(No.25)

第49図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（９）（S＝1/10）

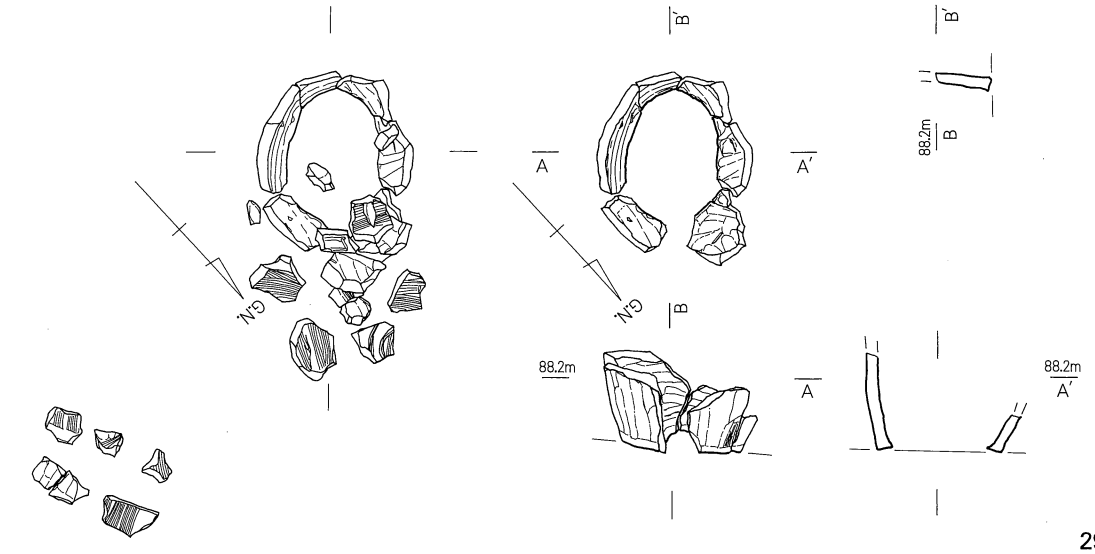


27
(No.26)

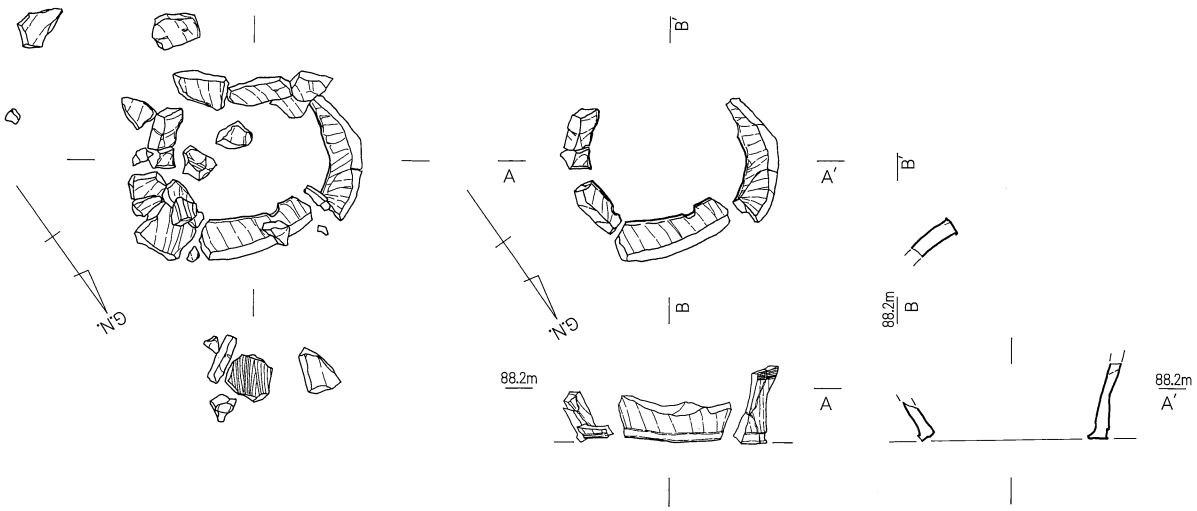


28
(No.27)

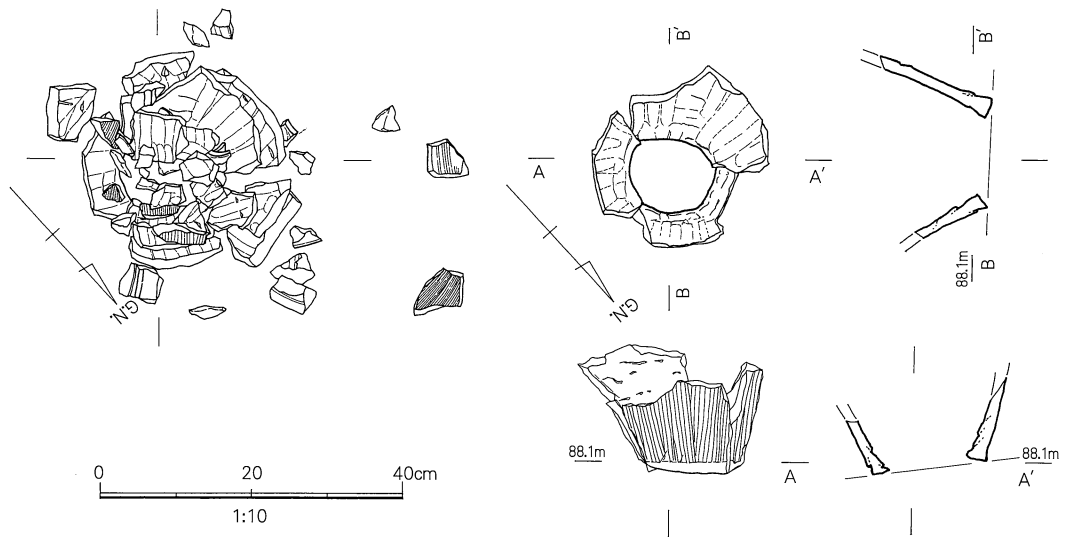
第50図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（10）（S＝1/10）



29
(No.28)



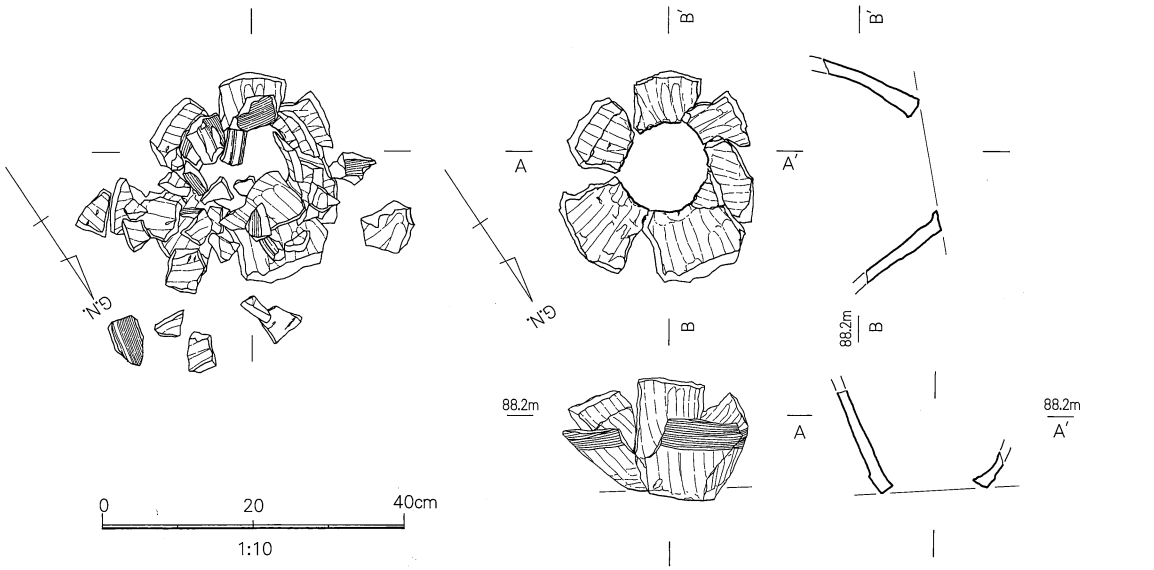
30
(No.29)



31
(No.30)

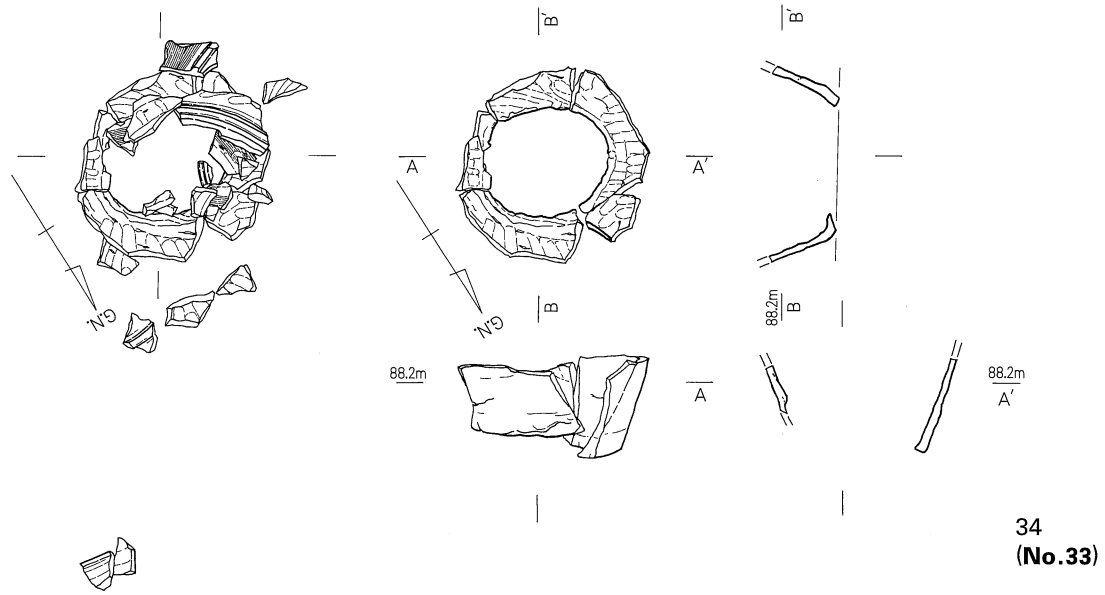
第51図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（11）（S＝1/10）

32
(No.31)

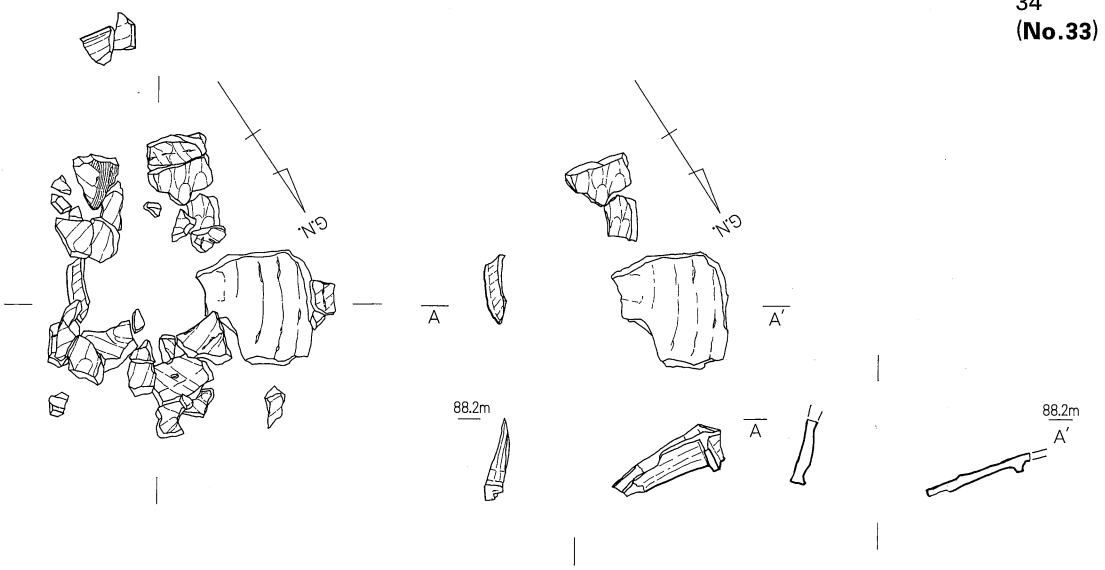


33
(No.32)

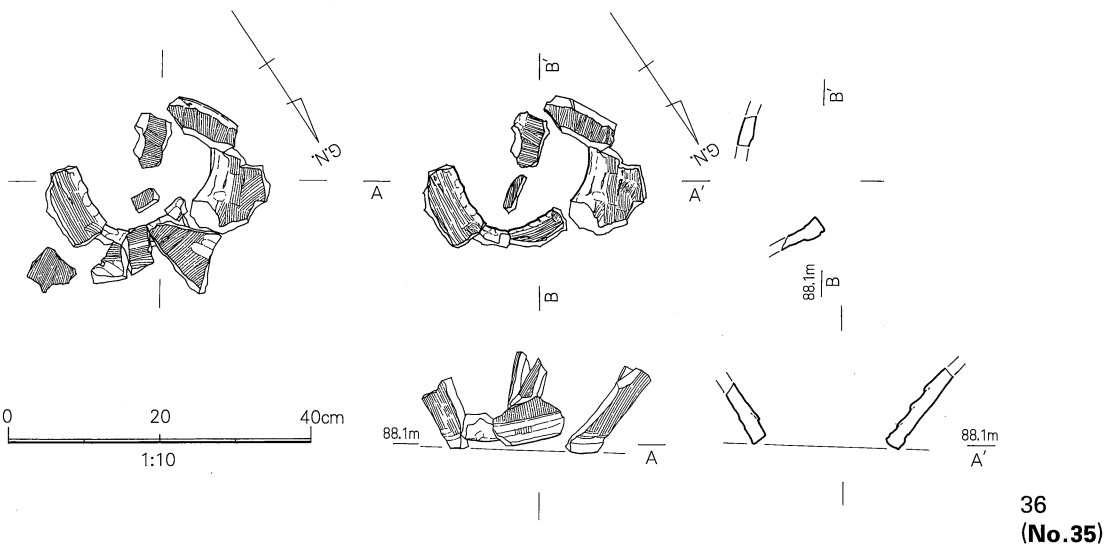
第52図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（12）（S＝1/10）



34
(No.33)

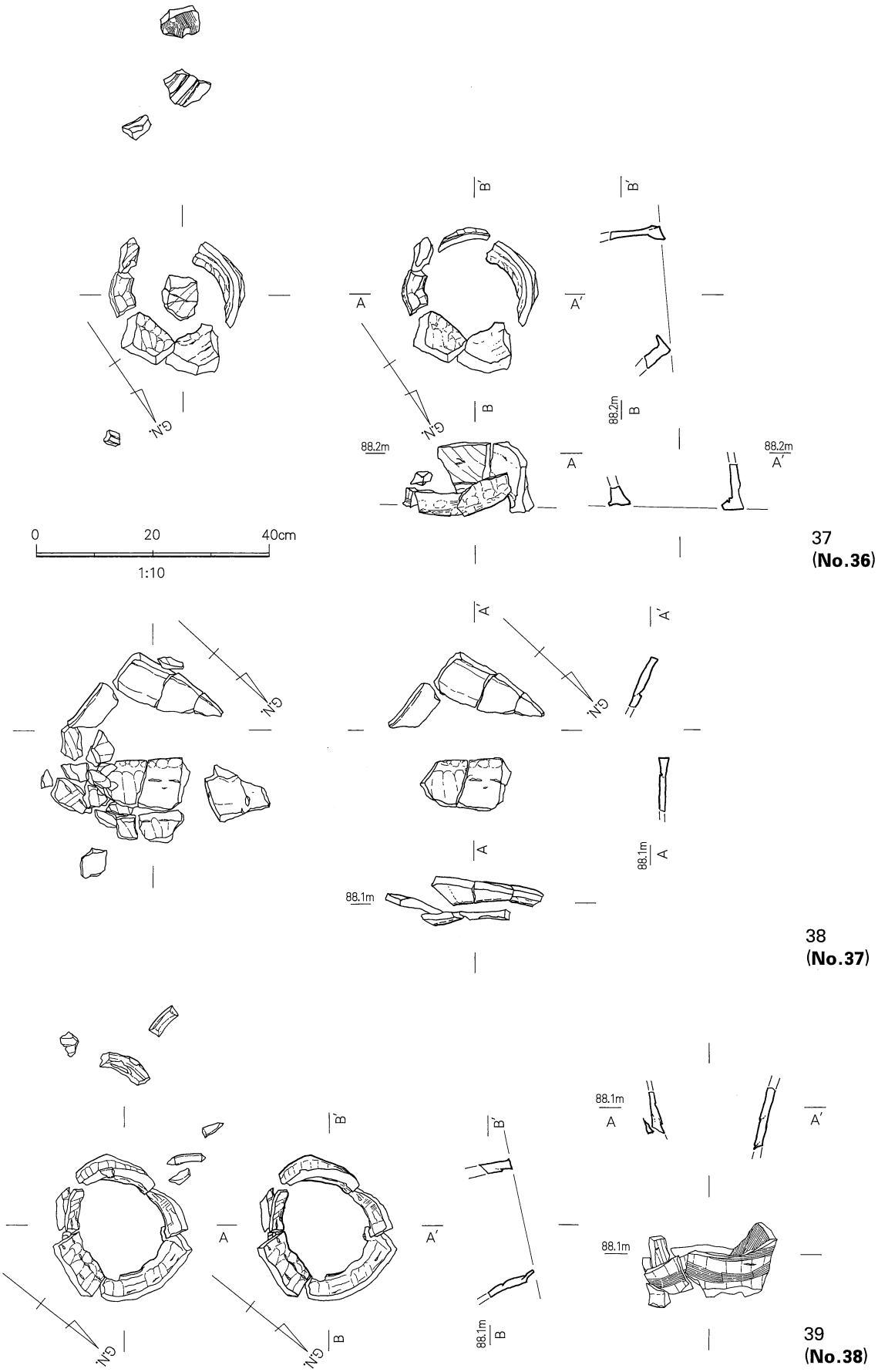


35
(No.34)

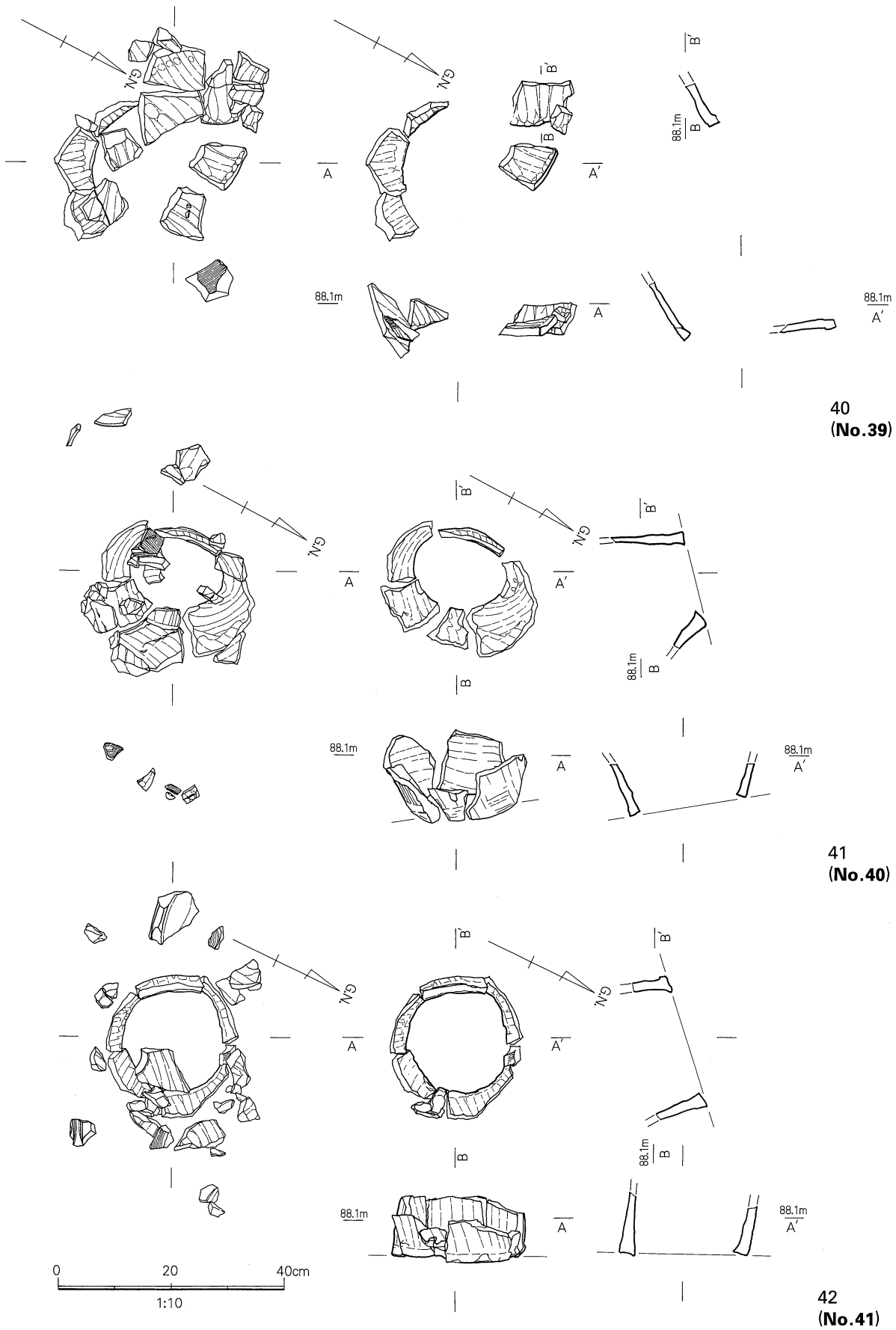


36
(No.35)

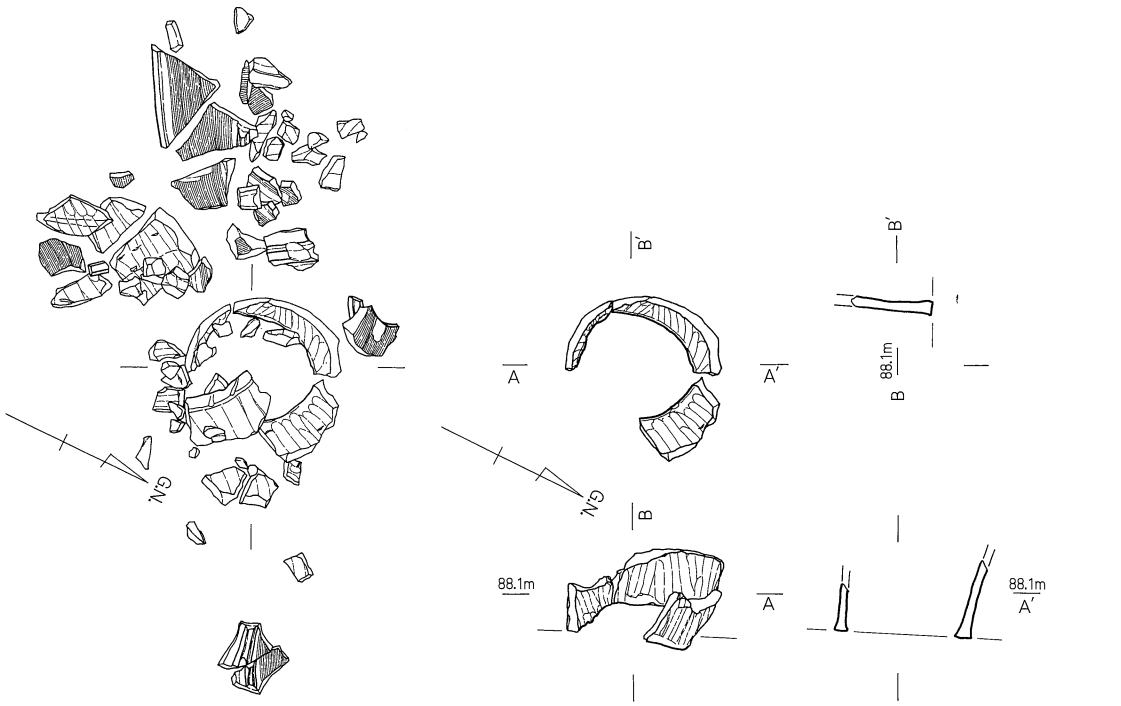
第53図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（13）（S＝1/10）



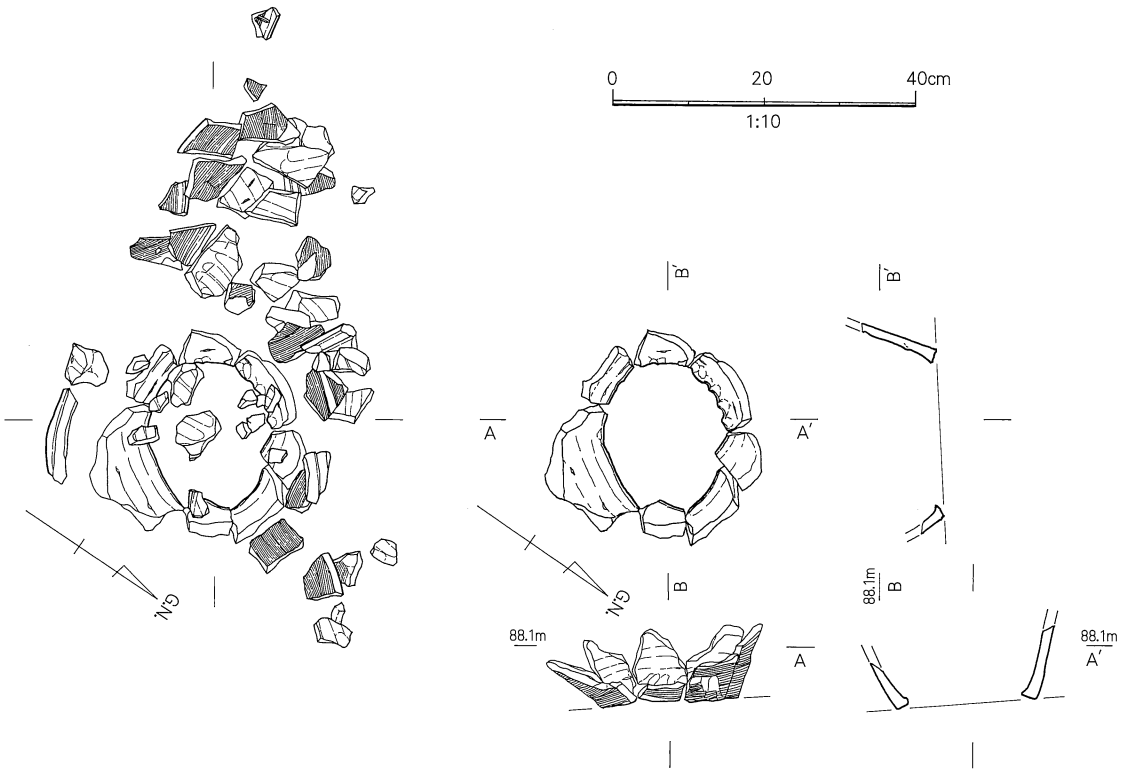
第54図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（14）（S＝1/10）



第55図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（15）（S＝1/10）

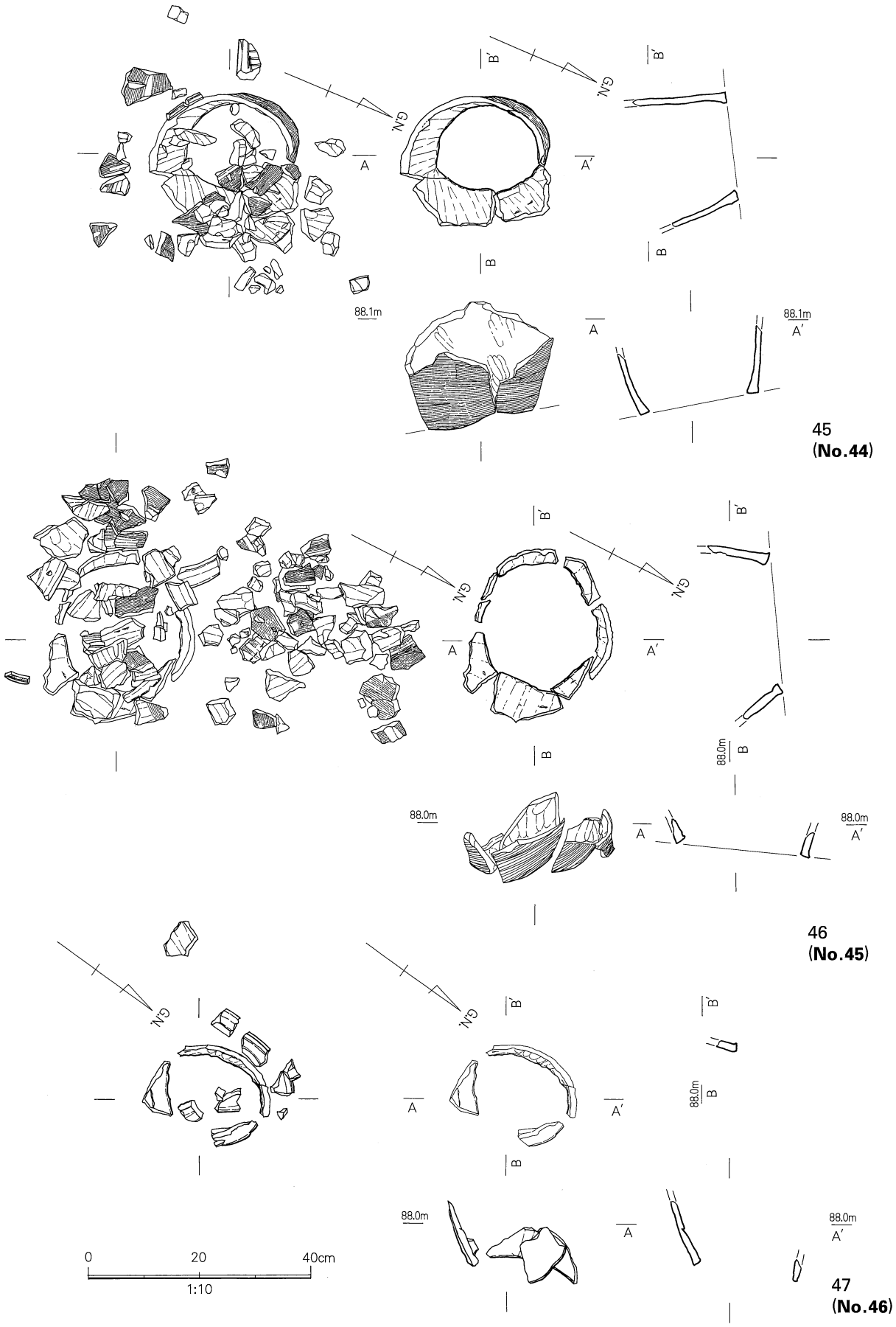


43
(No.42)



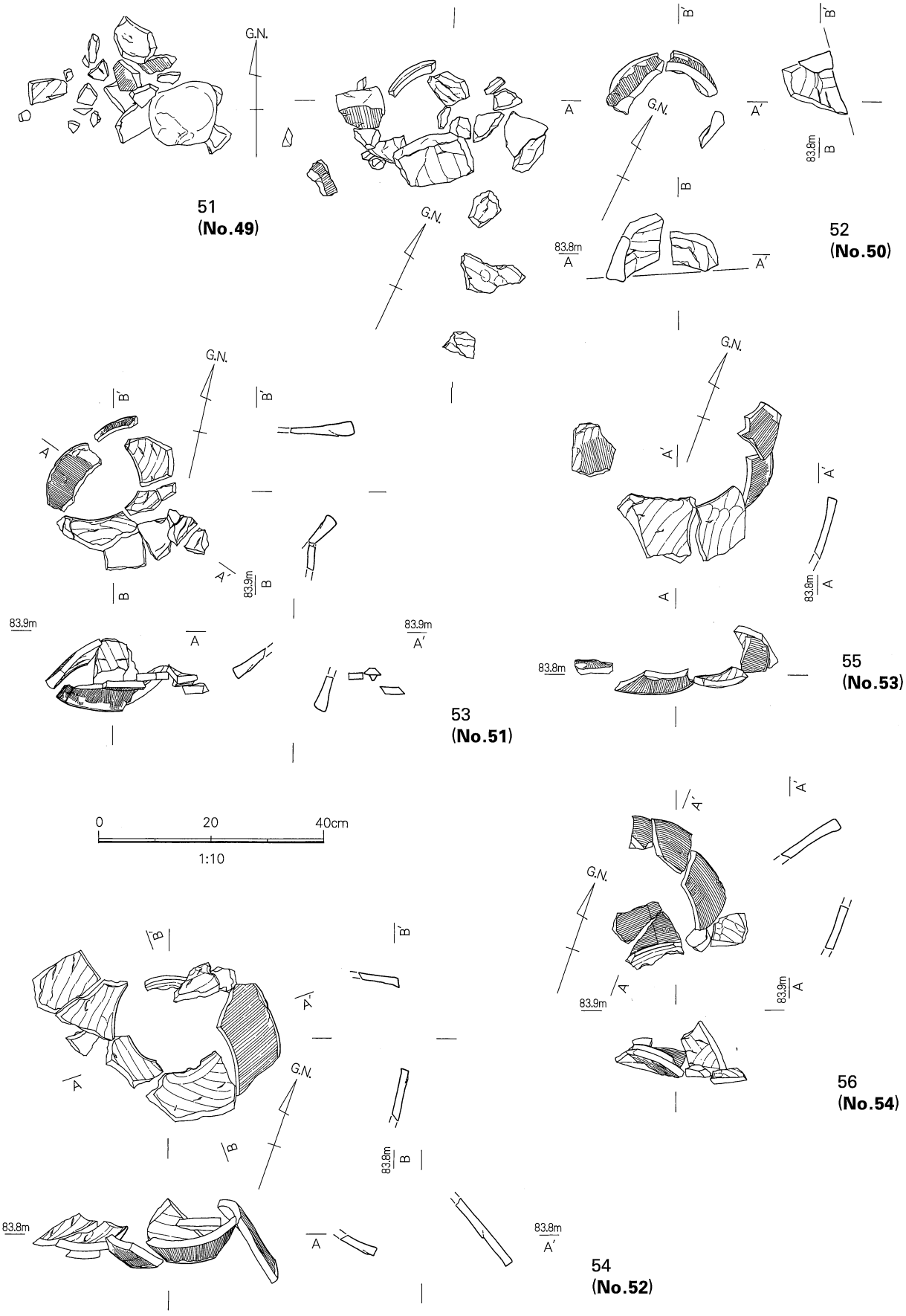
44
(No.43)

第56図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（16）（S＝1/10）

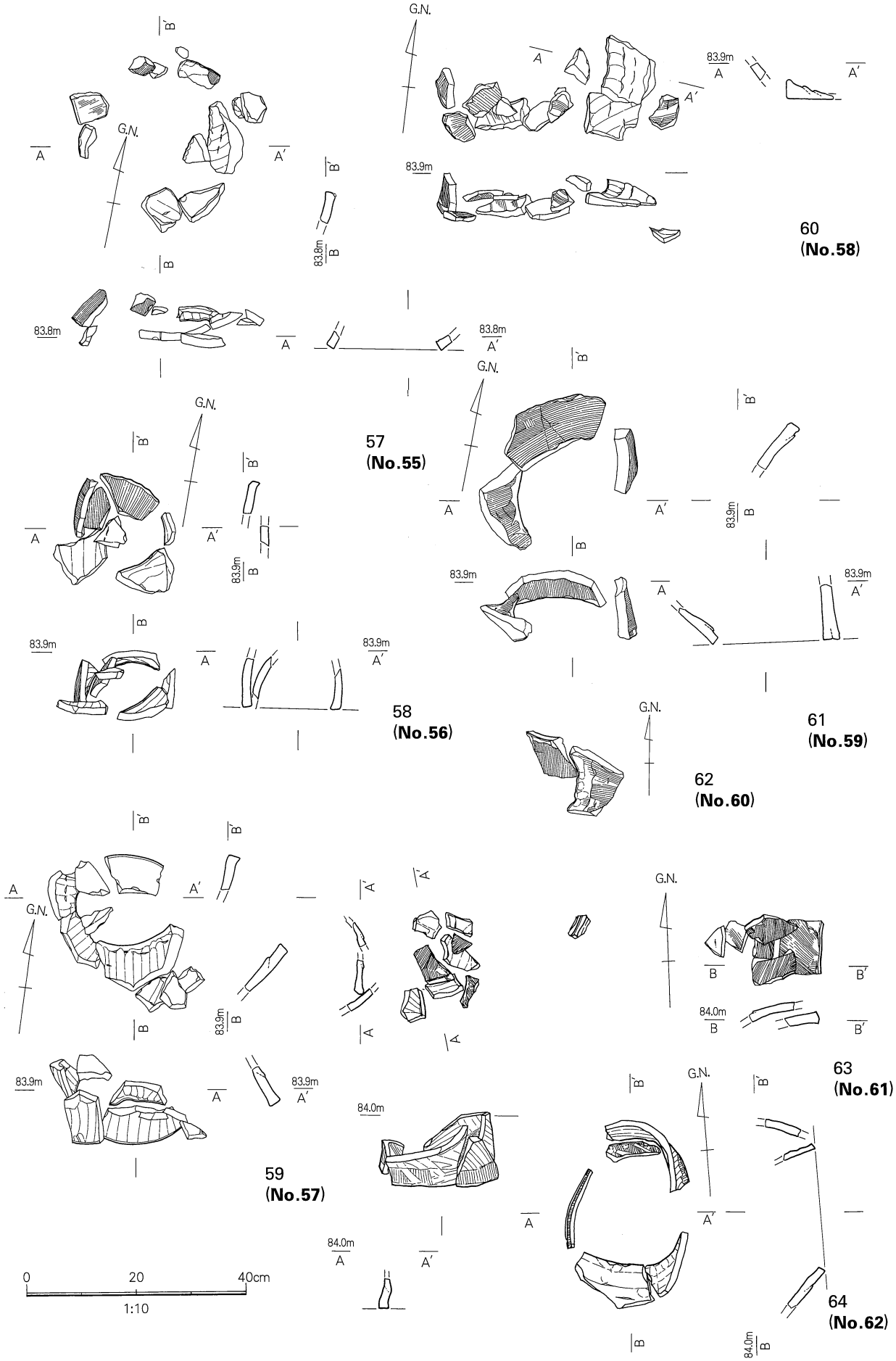


第57図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（17）（S＝1/10）

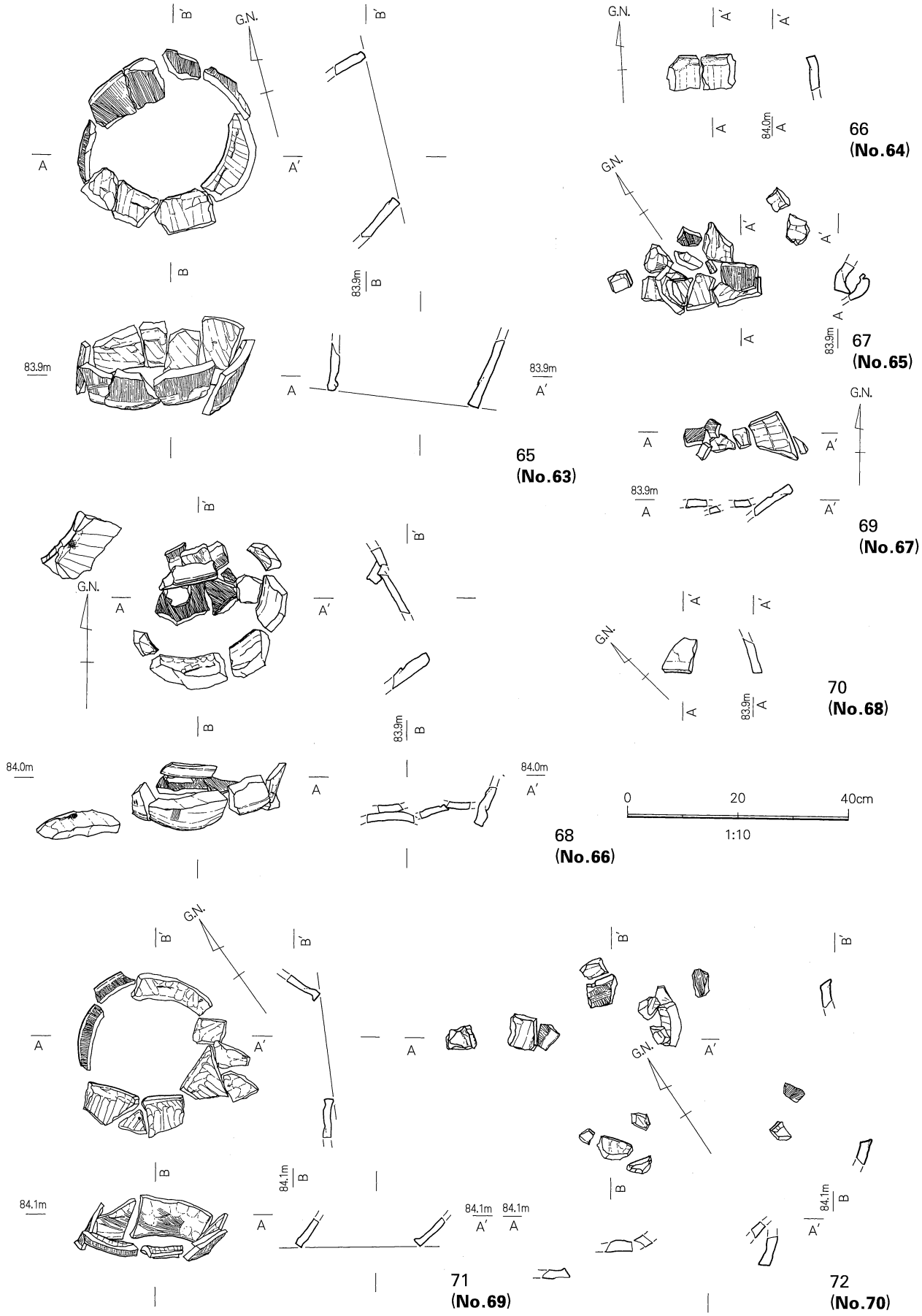
第58図　169号墳墳頂部平坦面外周円筒埴輪出土状況図（18）（S＝1/10）



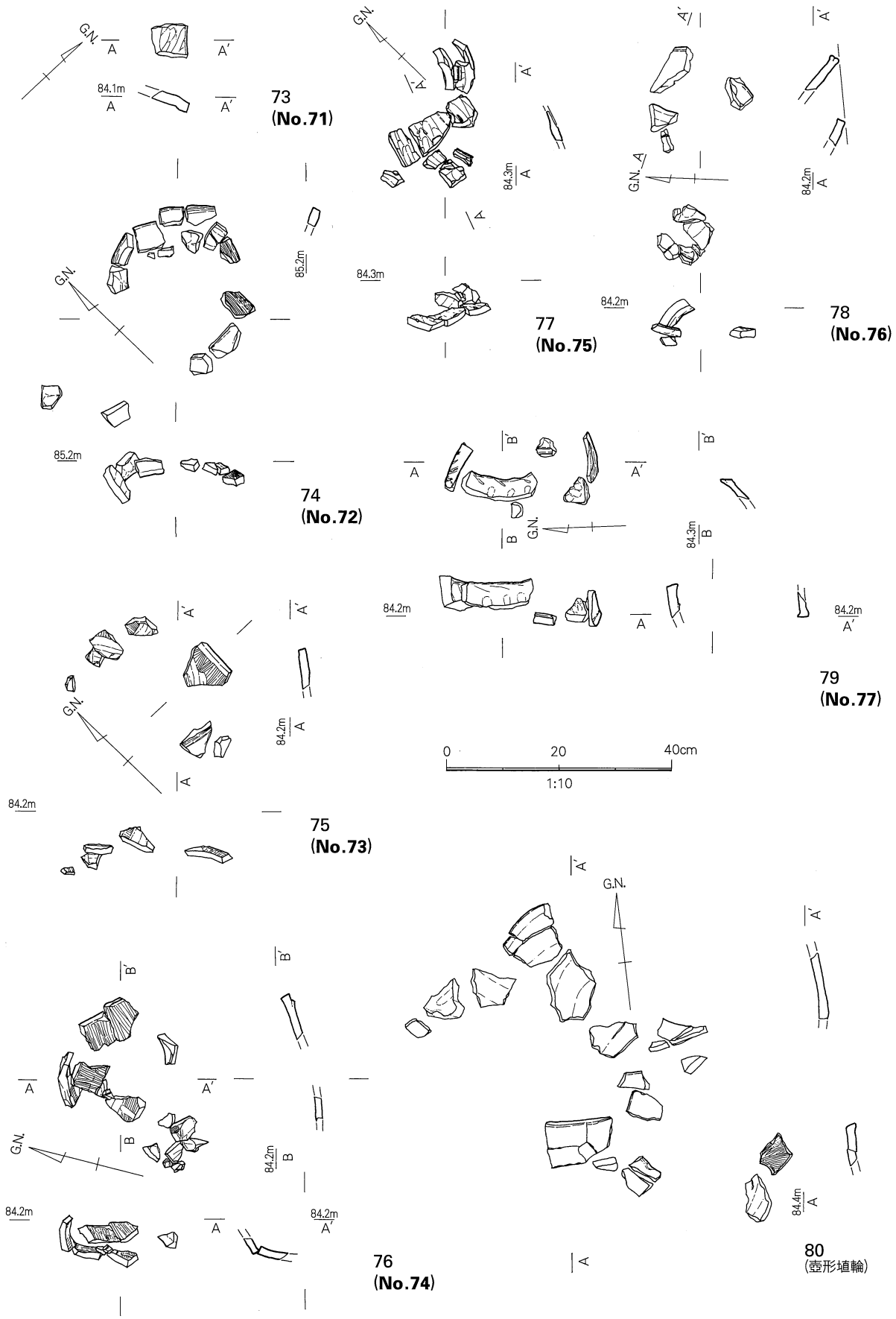
第59図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（１）（S＝1/10）



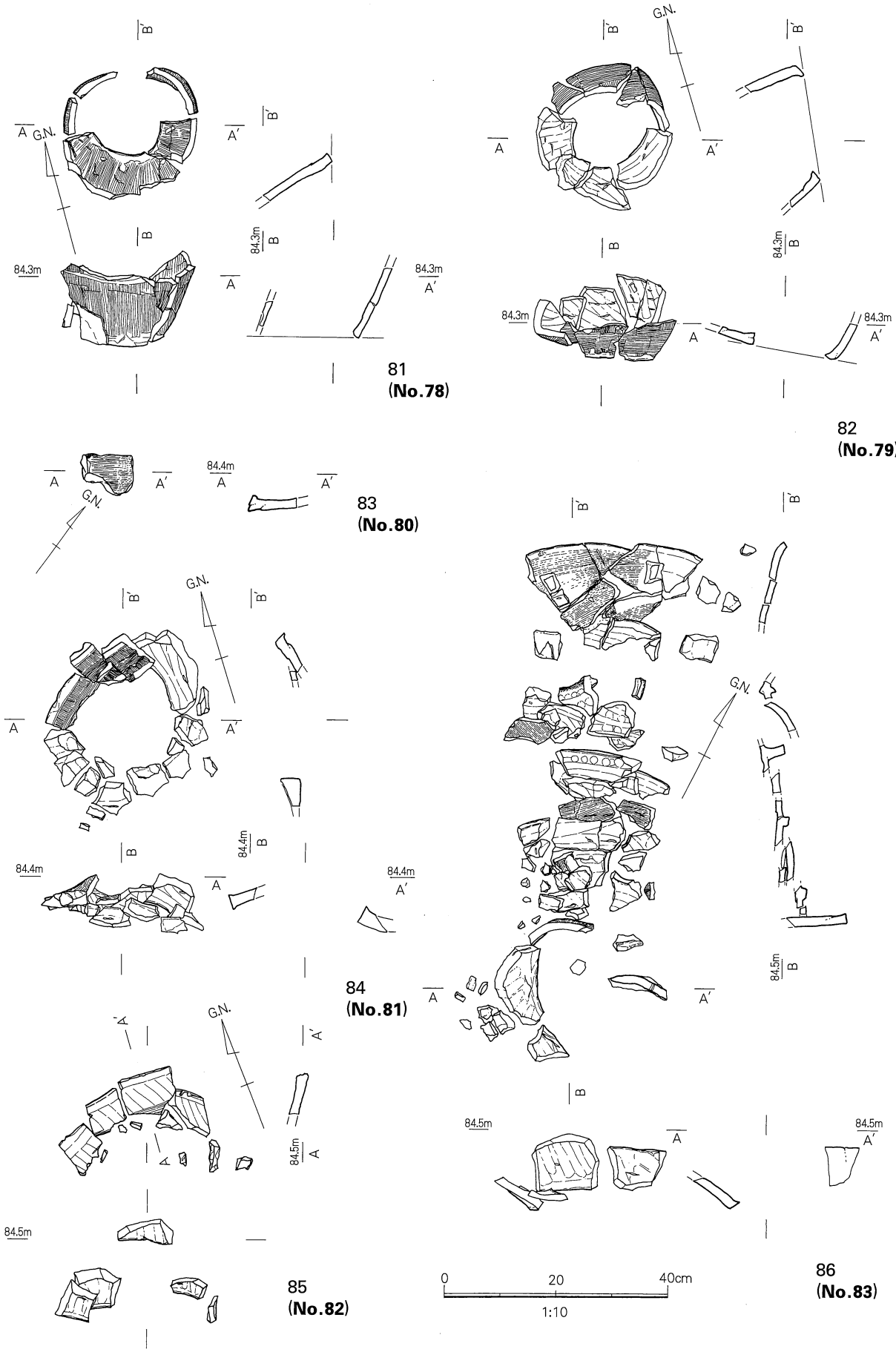
第60図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（２）（S＝1/10）



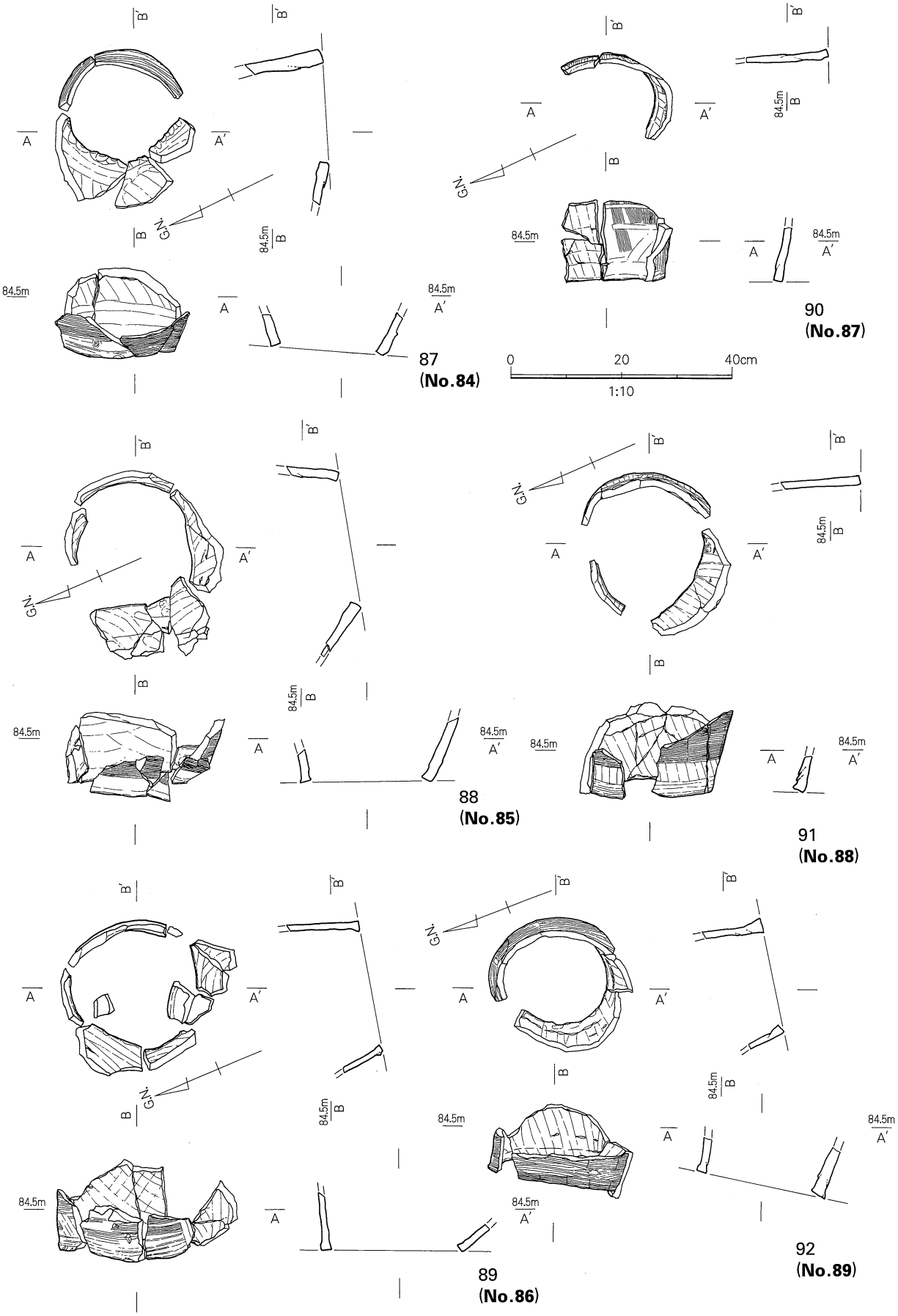
第61図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（３）（S＝1/10）



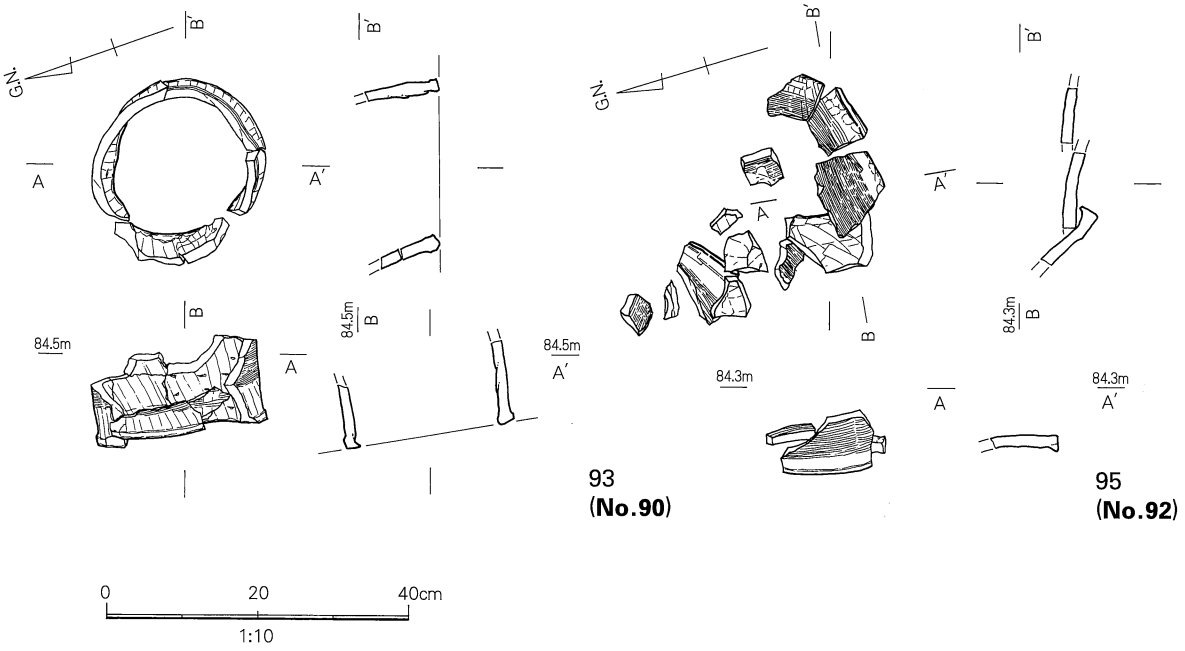
第62図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（４）（S＝1/10）

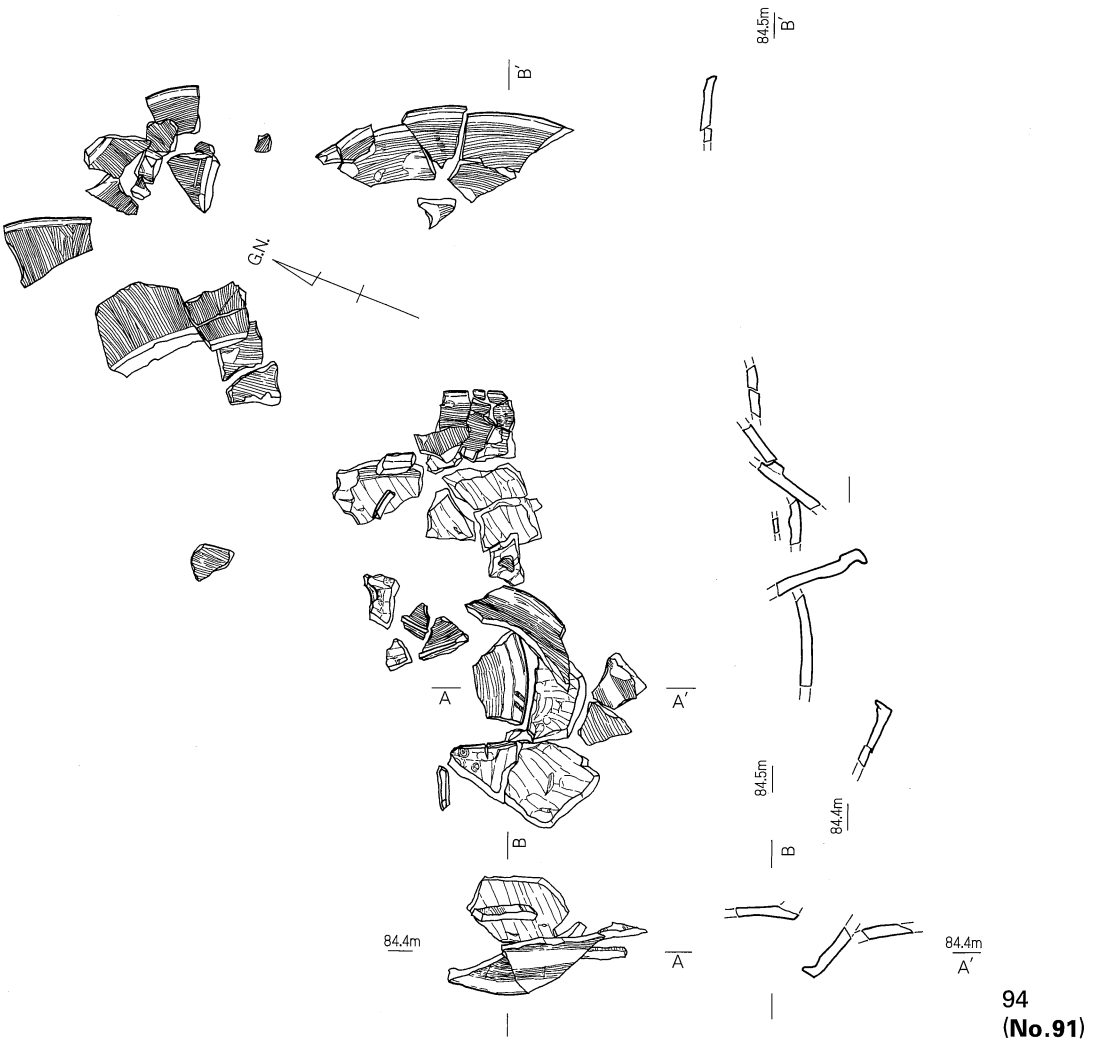


第63図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（５）（S＝1/10）



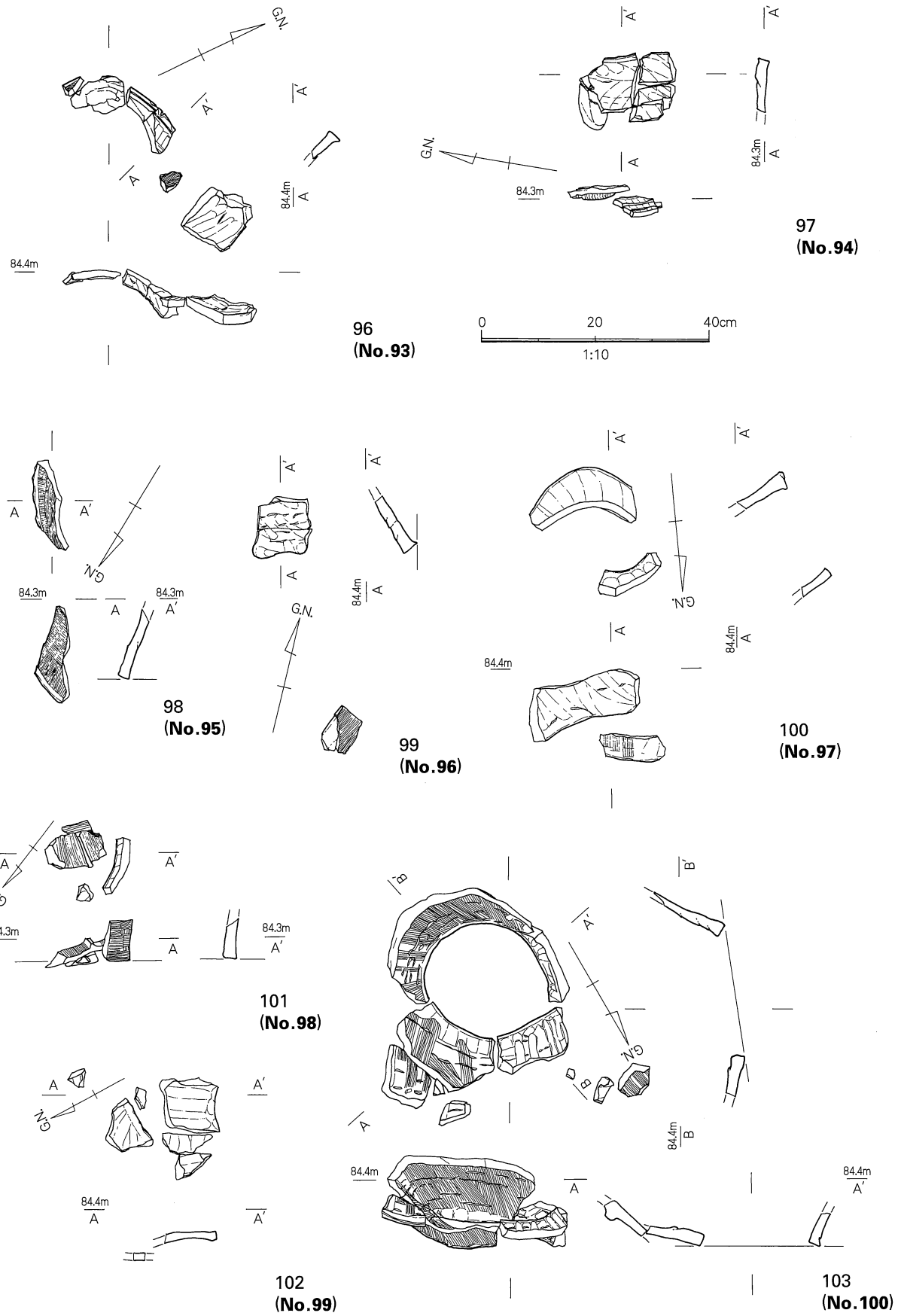
第64図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（６）（S＝1/10）



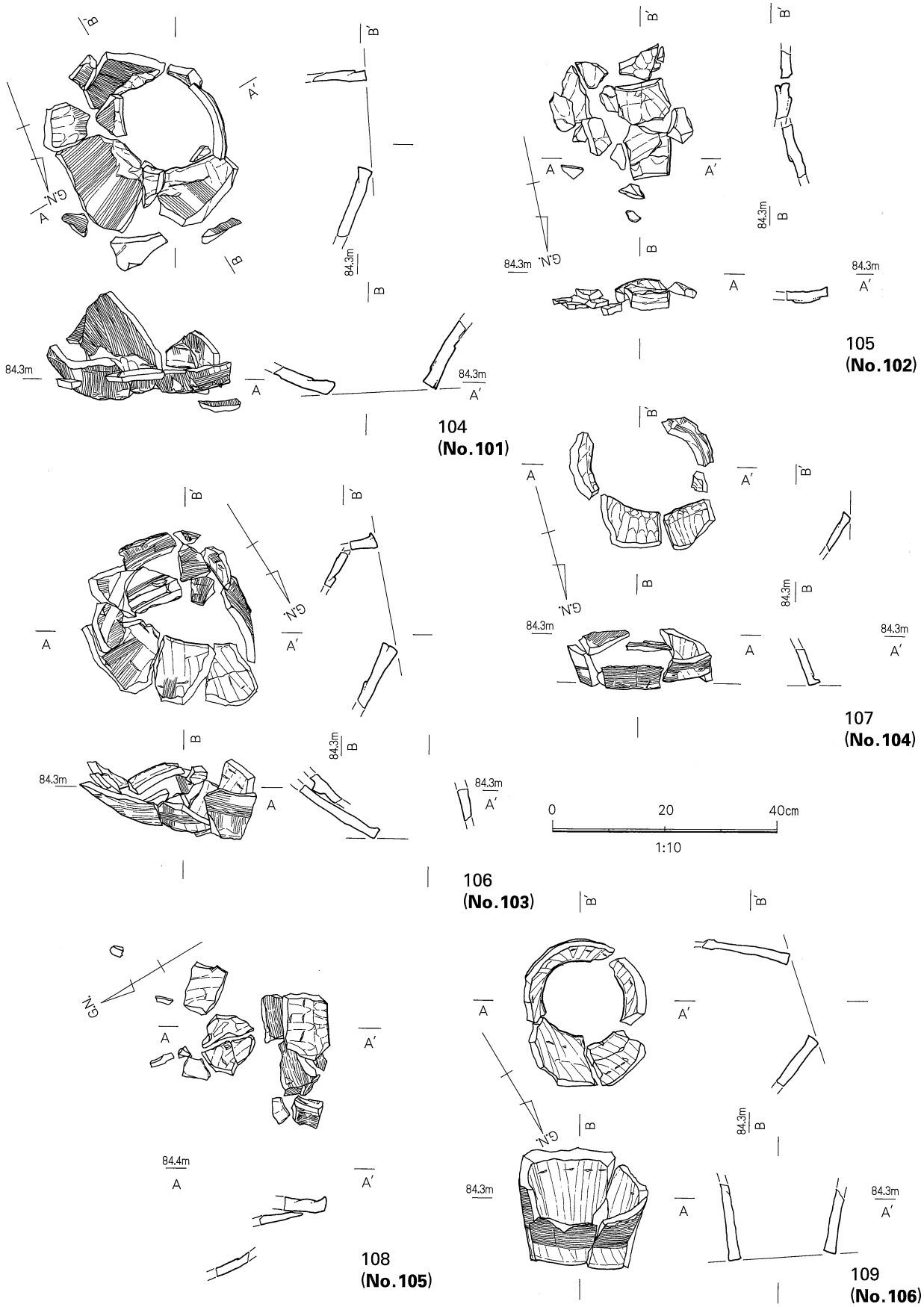


0 20 40cm
1:10

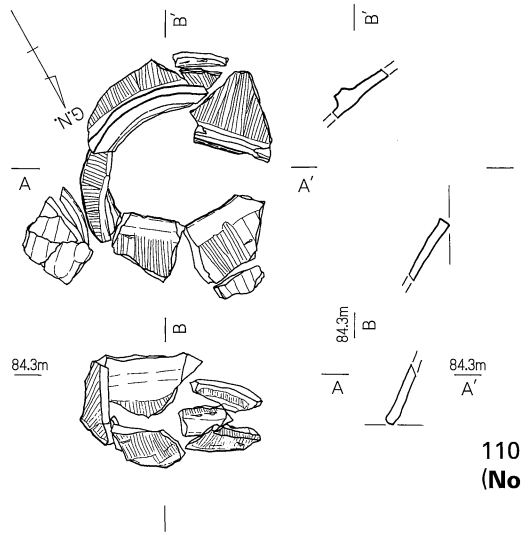
第65図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（７）（S＝1/10）



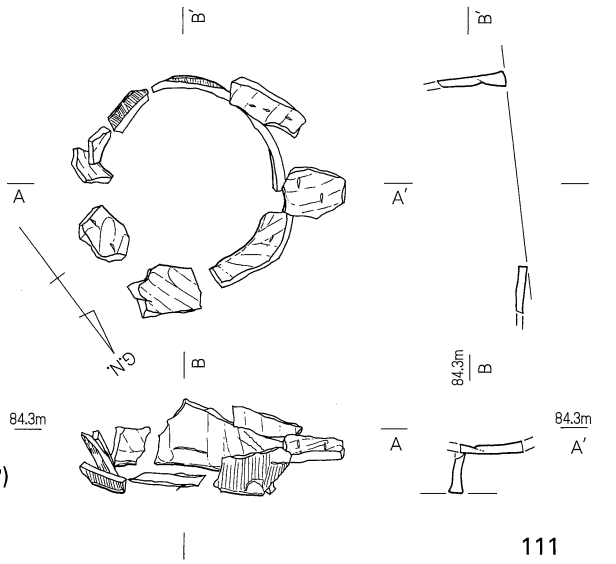
第66図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（８）（S＝1/10）



第67図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（９）（S＝1/10）

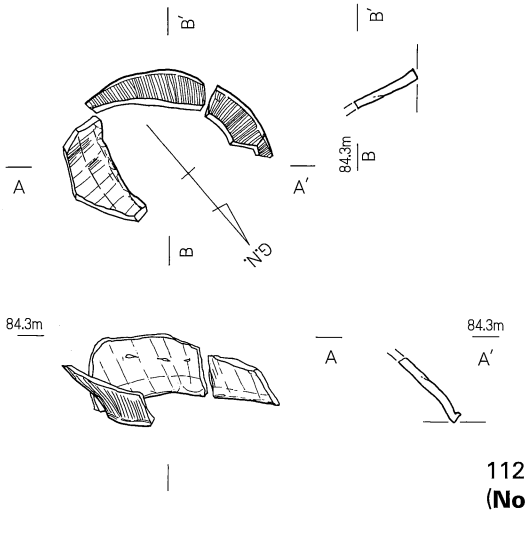


110
(No.107)

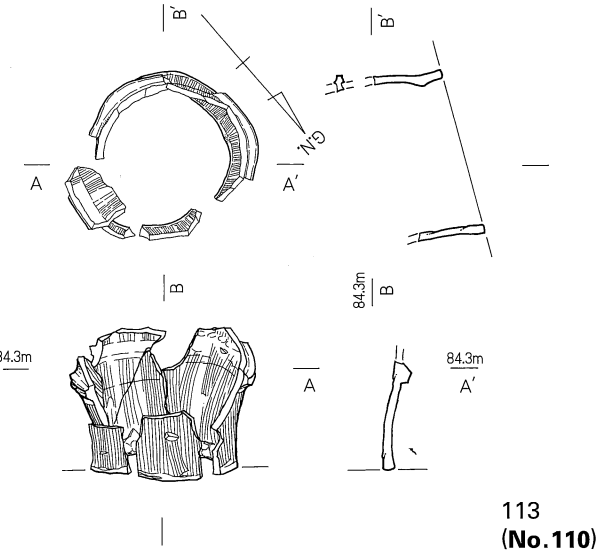


111
(No.108)

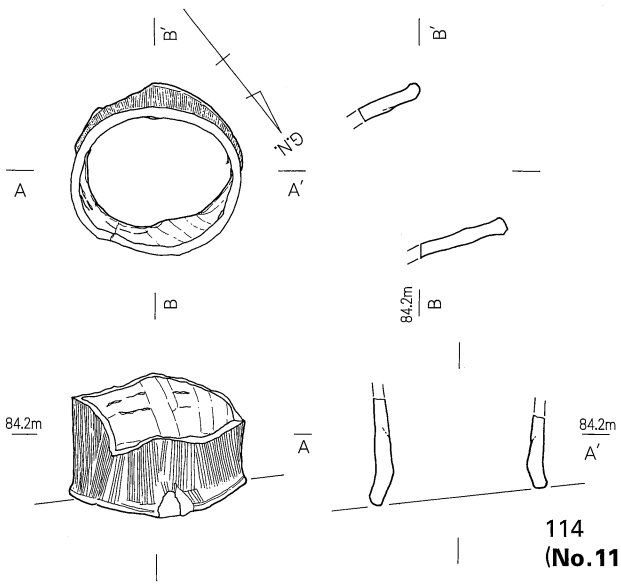
0 20 40cm
1:10



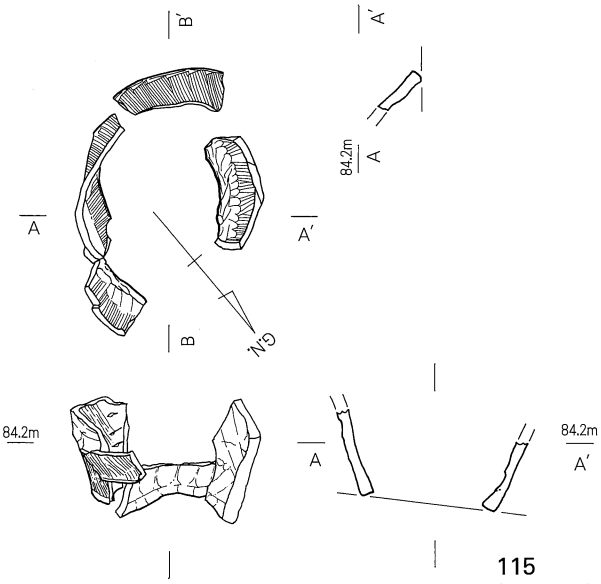
112
(No.109)



113
(No.110)

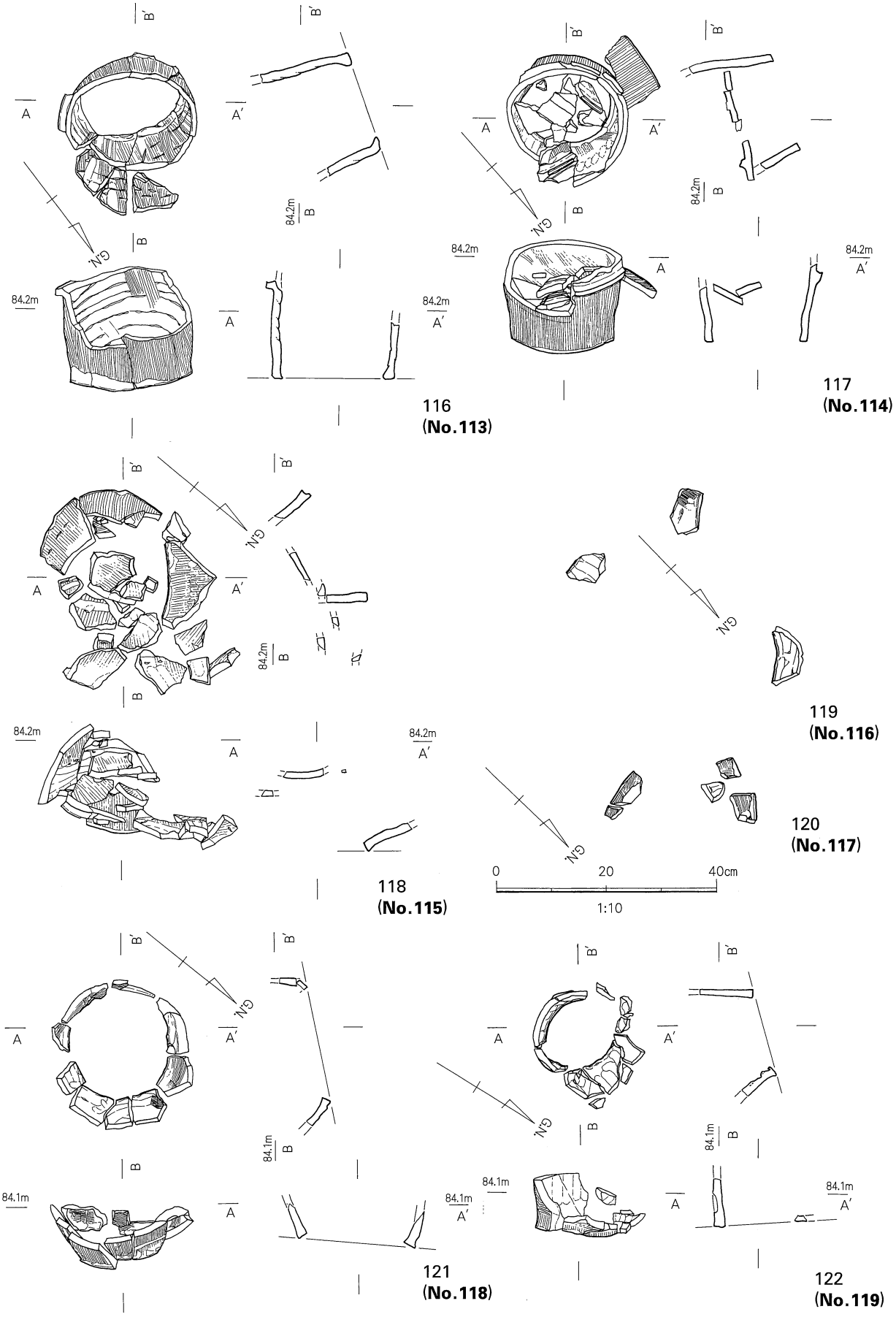


114
(No.111)

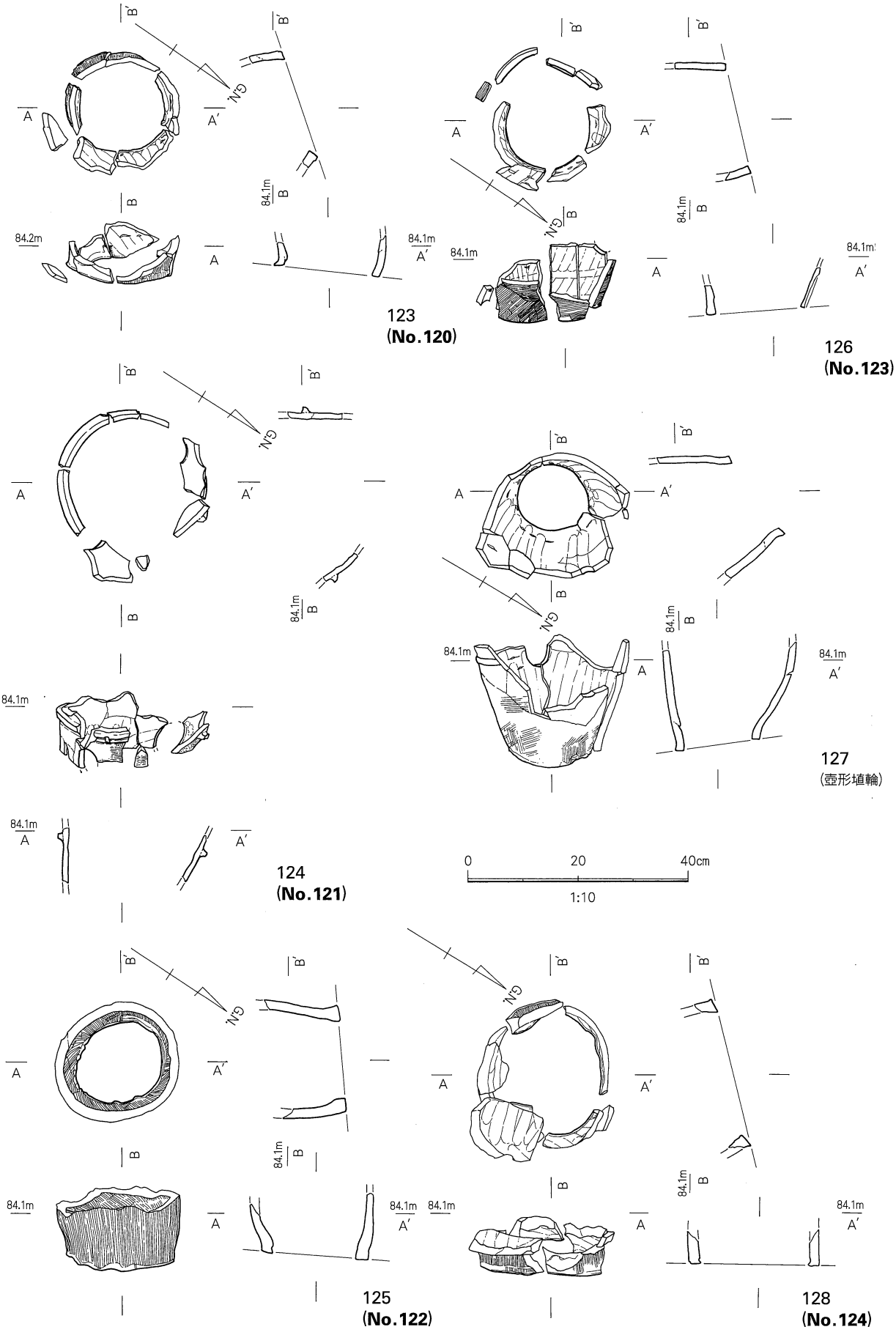


115
(No.112)

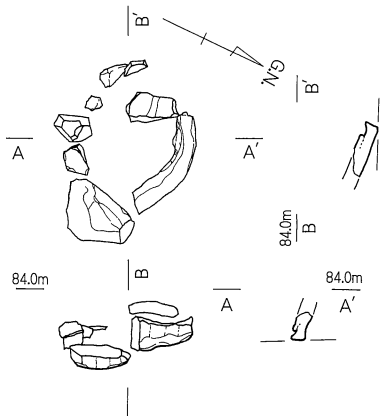
第68図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（10）（S＝1/10）



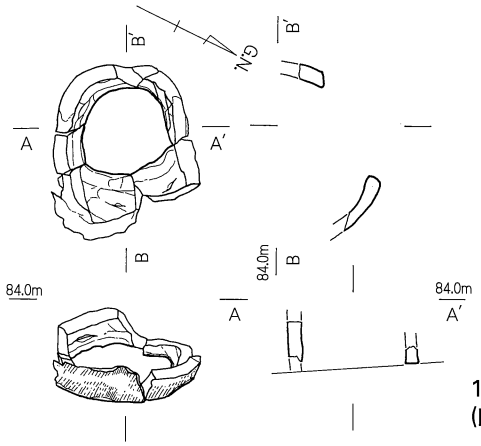
第69図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（11）（S＝1/10）



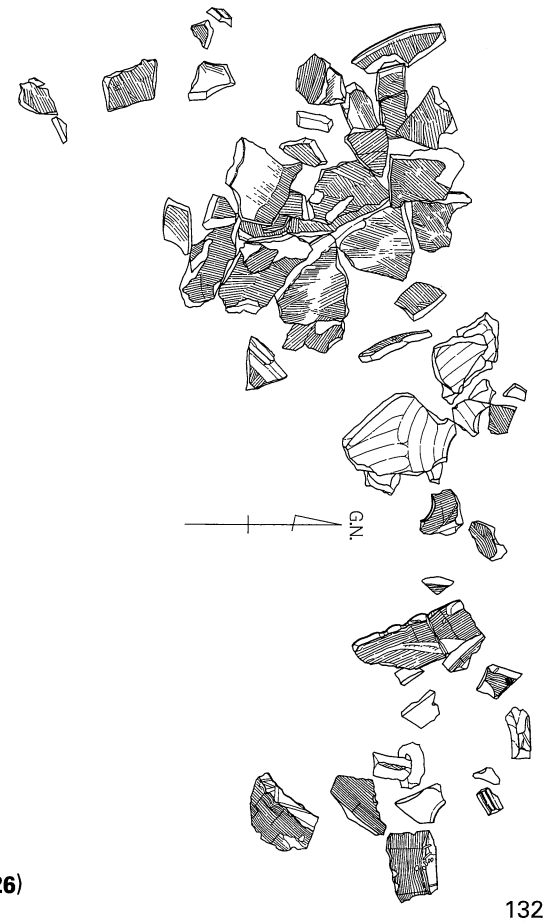
第70図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（12）（S＝1/10）



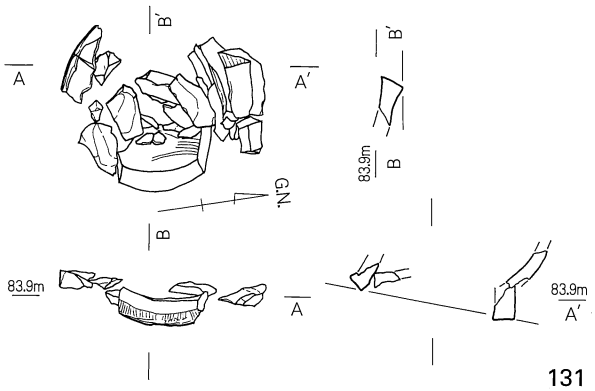
129
(No.125)



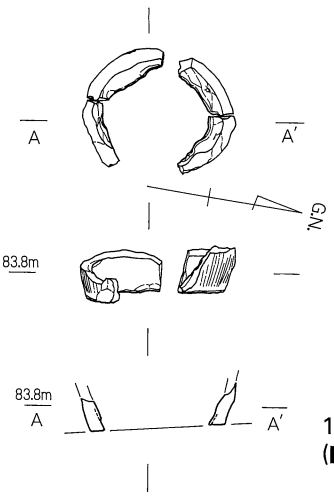
130
(No.126)



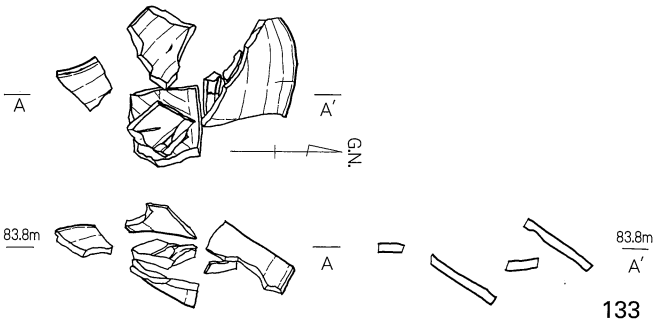
132
(No.128)



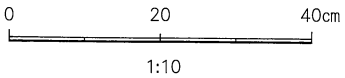
131
(No.127)



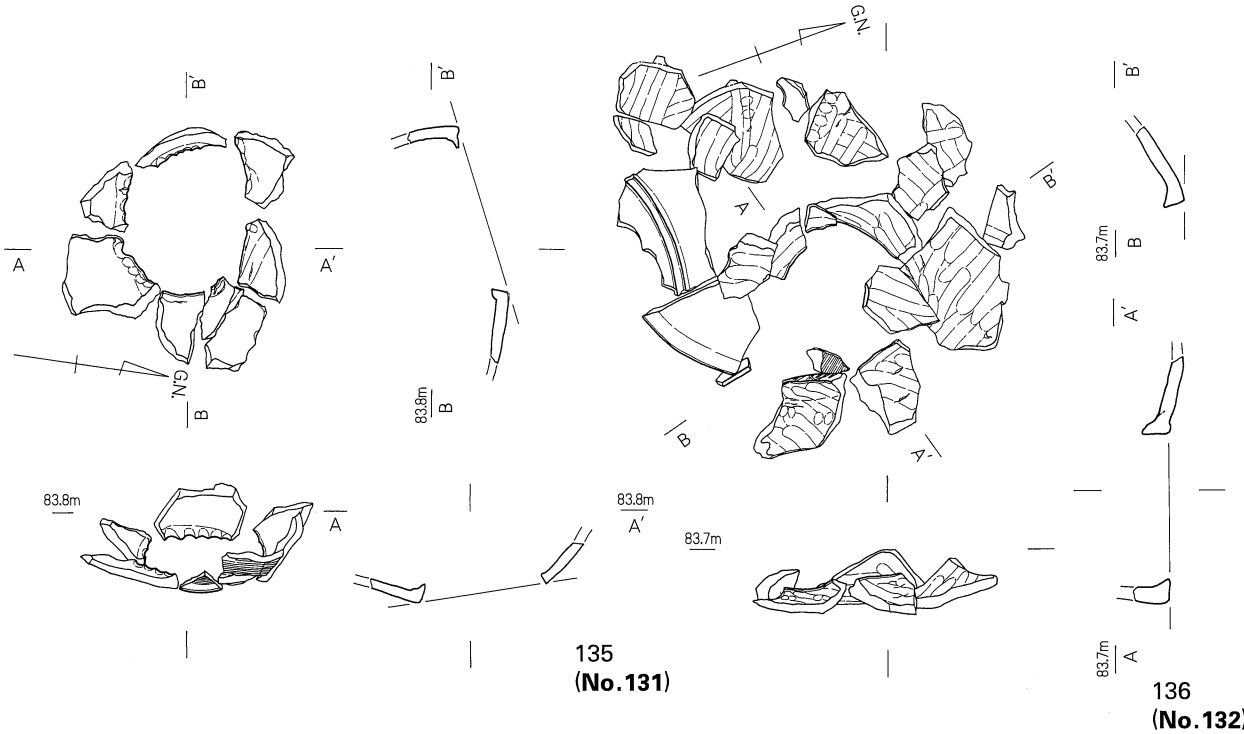
134
(No.130)



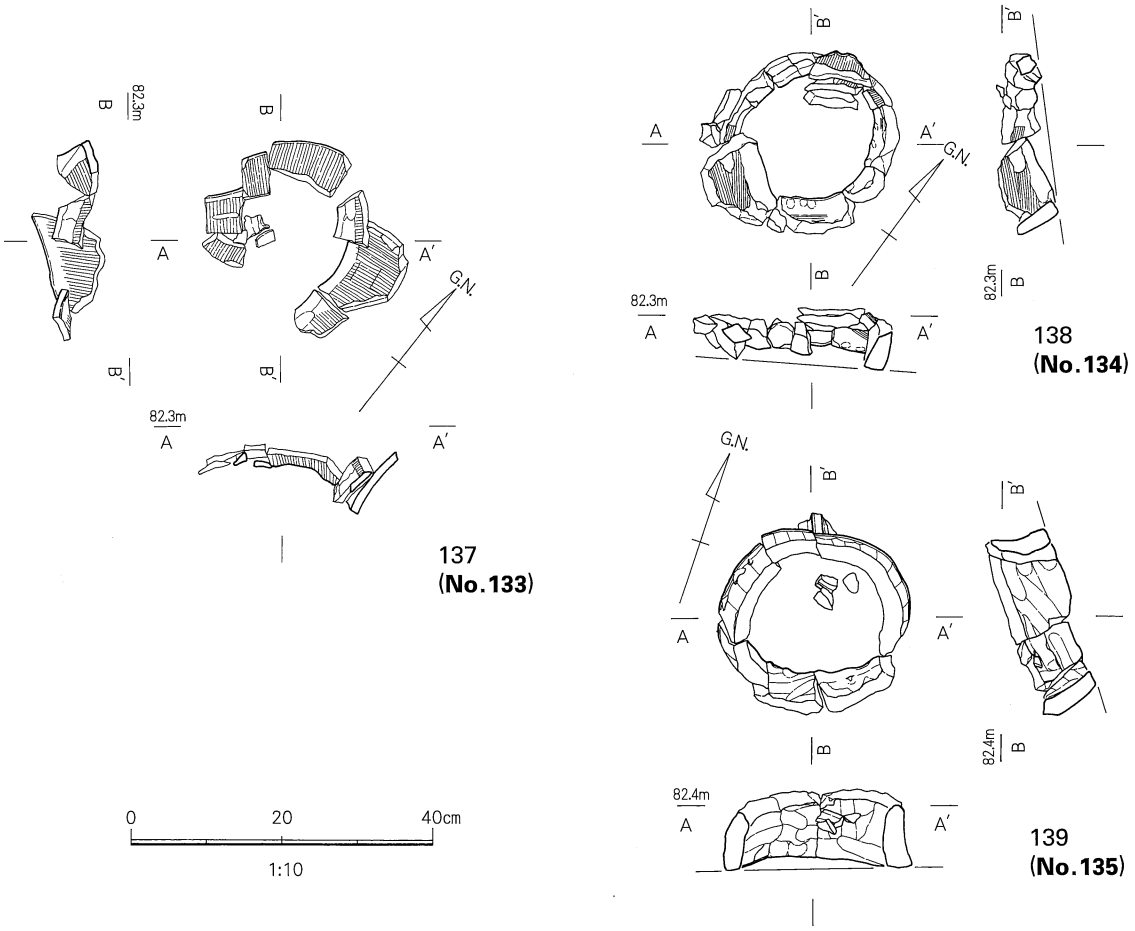
133
(No.129)



第71図　169号墳第２段目平坦面円筒埴輪出土状況図（13）（S＝1/10）



第72図　169号墳第2段目平坦面円筒埴輪出土状況図(14)（S＝1/10）



第73図　169号墳第１段目平坦面円筒埴輪出土状況図（S＝1/10）

第Ⅲ章　西都原170号墳の調査

第１節　発掘調査・整理作業の経過

（１）第２次調査（平成16年度）

平成16（2004）年８月10日から９月３日にかけて行われた第２次調査では、墳丘測量調査を行うとともに、墳丘各所にトレンチを入れ、墳丘の形態および規模の確認を行った。

墳丘測量の終了後、墳頂部平坦面のレーダー探査を行った結果、墳頂部中央に大正時代の調査坑とおぼしき反応が確認された（東2007）。

墳丘には墳丘構造の確認を主目的として、墳頂中央から放射状に８方向に幅１ｍのトレンチを設定したほか、墳丘南西の「突出部」状の部分にも幅50㎝のトレンチ１本を設定し、第９トレンチと呼称した。

各トレンチを掘り下げた結果、全てのトレンチにおいて、第１段目および第２段目斜面に葺石は確認できず、本古墳は本来葺石をもたなかったものと思われる。また、墳丘北西側斜面にはテラス状の平坦面が観察できたが、トレンチ調査でも、これが墳丘第１段目平坦面に対応していることが確認された。ただし、この第１段目平坦面には円筒埴輪列は検出されておらず、第１段目斜面には、本来円筒埴輪列が巡っていなかったものと思われる。

一方、墳頂平坦面では、外周を巡る円筒埴輪列の一部が確認されたが、墳頂部平坦面中央部には方形埴輪列の痕跡は確認できず、器財埴輪などの破片も検出されていない。

本古墳の墳丘はその直径に比べて高さが低く、非常に低平な形状が特徴的であったが、墳丘外周に円筒埴輪列の一部が確認されたことにより、古墳築造後に削平を受けたものではなく、低平な墳丘が本来の形状であることが再確認された。

墳丘外周にもトレンチを入れ、周溝の確認に努めたが、周溝の内側斜面・外側斜面とも、耕作地造成に際して削平を受けているようであり、周溝を確認することはできなかった。

また墳頂部中央では、大正時代の調査坑の平面プランが確認され、そのすぐ外側で船形埴輪の破片が出土した。これは、西都原古墳群出土として重要文化財に指定されている船形埴輪の一部であり、従来不明瞭であった当該埴輪の出土古墳が確定されたことになる。

【調査参加者】犬木　努（大谷女子大学文化財学科助教授）、今井美代子・岡野宏子・金行美智子・近藤麻美（大谷女子大学大学院修士課程）、石津晴菜・垣内喜久子・六辻彩香（大谷女子大学文化財学科４回生）、尾張友子・田嵜麻美、（同３回生）、上野由貴・大場さやか・奥山晃代・尾崎加奈・川口奈保美・清原　梓・小池桃加・清水あき美・白神範子・田中恵美・中道科那子・鳴戸香恵・根岸あかり・原　弘子・松岡正子・山城槙里子（同１回生）、廣瀬　覚・田中智子（立命館大学大学院生）、清喜裕二（宮内庁書陵部）、藤井幸司（和歌山県教育庁）。

（２）第３次調査（平成17年度）

平成17（2005）年８月８日から9月15日にかけて行われた第３次調査では、昨年度の調査成果をうけ、①大正時代の調査坑を掘り下げ、埋葬施設の構造を確認すること、②墳丘南西側の構築状況

を確認すること、③墳丘南東側の「突出部」の性格を確認すること、という３つの課題を設定し、発掘調査をスタートした。

まず、墳丘南東部に、墳丘の「突出」がわずかに認められるため、平成16年度に引き続いて、この部分に新たにトレンチを設定し（第17トレンチ）、墳丘の原状の確認に努めた。

また、平成16年度に墳丘南西部に設定した第４トレンチにおいて、墳丘盛土直下のアカホヤ層が検出されなかったため、墳丘構築過程で、この部分のみ、他の部分とは異なる地山削平作業が行われている可能性が考えられた。そこで、本年度は第４トレンチの北側および南側に数本のトレンチを設定し、その実態の解明に努めた（第10～16トレンチ）。

平成16年度に設定した第４トレンチを南西側に延長したところ、現地表面下で、周溝の一部および墳丘第一段目平坦面の一部が確認された。

第２次調査で確認された円筒埴輪列の北および南にトレンチを拡張し、円筒埴輪列の確認をめざしたが、拡張部分では原位置と思われる円筒埴輪１個体が検出されたほか、原位置からやや動いた状態の埴輪片が若干検出されたにとどまった。

第２次調査で墳頂部中央に確認されていた、大正時代の発掘調査坑の掘り下げを行ったところ、調査坑内部には、大正期の調査終了後の埋土が充填されていただけで、埋葬施設自体の痕跡は確認できなかった。埋土内からは、船形埴輪や子持家形埴輪の小破片のほか、鉄製三角板革綴短甲の地板の破片も数点出土している。調査坑の埋土をすべてフルイにかけたところ、埴輪片や鉄製品の破片が検出された。

【調査参加者】犬木 努（大谷女子大学文化財学科助教授）、近藤麻美・岡野宏子・米井友美（大谷女子大学大学院修士課程）、大場さやか・尾崎加奈・清水あき美・根岸あかり・前田百合亜（大谷女子大学文化財学科２回生）、市沢直子・荻野友理佳・奥村加奈絵・鈴木久美子・角谷結実・富田真紀・平野真美・三原静苗・山田 恵・吉野扶紀（同１回生）、奈良拓弥（立命館大学大学院生）、浅井猛宏・藤村 翔（立命館大学学生）、清喜裕二（宮内庁書陵部）、廣瀬 覚（立命館大学非常勤講師）。

（３）整理作業

発掘調査で出土した遺物（主に埴輪）については、調査終了後、大阪大谷大学博物館に搬入し、調査参加者によって水洗および注記など基礎整理作業が実施された。169号墳に比べて、出土遺物も少量であったため、水洗および注記作業にはそれほどの時間を費やさずに終了した。

170号墳の整理作業は、実際には、169号墳の整理作業と並行して進めていくこととなった。遺物整理作業が本格化したのは、平成19年度になってからのことである。原位置で検出された全ての円筒埴輪については、現地で作成した縮尺５分の１の出土状況図について、埴輪片の現物を見ながら、逐一補筆・補正作業を行った。この作業が終了したのち、原位置で検出された円筒埴輪の接合作業を行った。平成19年度後半には、各トレンチの平面図・土層断面図や葺石平面図のトレースを進めるとともに、図版および写真の版組作業および執筆作業を行い、報告書刊行に至る。

【整理作業参加者】（水洗・注記などの基礎作業のみの参加者は除く。）

犬木 努・近藤麻美・金行美智子・石津晴菜・根岸あかり・橋本竜輔。

第２節　調査の進行状況

（１）第２次調査（平成16年度）

８月11日(水)　墳丘平板測量。

８月12日(木)　墳丘平板測量。

８月13日(金)　墳丘平板測量。墳丘調査前現状写真撮影。

８月14日(土)　墳丘平板測量。墳頂部表土剥ぎ。各トレンチ調査前写真撮影。

８月15日(日)　１～８Ｔ表土除去終了。墳頂部平板測量。

８月16日(月)　１～８Ｔ掘り下げ。３・５・７Ｔ表土剥ぎ、掘り下げ。

８月18日(水)　１～８Ｔ表土剥ぎ。

８月19日(木)　１～８Ｔ掘り下げ。

８月20日(金)　５Ｔ掘り下げ。１～８Ｔ掘り下げ終了。

８月21日(土)　１～８Ｔ掘り下げ。

８月22日(日)　１・２Ｔ掘り下げ・完掘・写真撮影・拡張。３・４Ｔ掘り下げ。５・６・８Ｔ拡張。

８月23日(月)　１Ｔ写真撮影、完掘。拡張。２Ｔ拡張。３Ｔ掘り下げ・拡張、ほぼ完掘。４～６Ｔ掘り下げ。７Ｔ写真撮影。８Ｔ地山検出。３・４Ｔ墳頂部掘り下げ。

８月24日(火)　３・５～８Ｔ完掘写真撮影。２・３・７Ｔ等高線図作成。１・６Ｔほぼ終了。４Ｔ掘り下げ。墳頂部中央区表土剥ぎ。

８月25日(水)　１・２Ｔ等高線図作成、掘り下げ。４Ｔ精査。３・７Ｔ断割。９Ｔ掘り下げ。３・６～８Ｔ掘り下げ終了、平面図作成。墳頂部中央部掘り下げ。

８月26日(木)　墳頂部中央部掘り下げ終了。３・４・５・７Ｔ土層断面図作成。１・２・６・８Ｔ土層断面図作成終了。８Ｔ平面図作成終了、埴輪片取り上げ。９Ｔ掘り下げ。３・７Ｔ墳丘断割。１Ｔ円筒埴輪列拡張。１・２Ｔ土層断面図作成。４Ｔ写真撮影。

８月27日(金)　墳頂部中央区写真撮影。１Ｔ写真撮影終了。掘り下げ、精査。２・３Ｔ埴輪片取り上げ、掘り下げ、写真撮影、土層断面図作成。４Ｔ土層断面図・平面図作成。５Ｔ土層断面図・平面図・埴輪出土状況図作成。写真撮影。６Ｔ土層断面図作成、埴輪片取り上げ。８Ｔ埴輪片取り上げ。

８月28日(土)　５Ｔ平面図・等高線図作成。３Ｔ断割部掘り下げ。

８月31日(火)　１・２・４Ｔ平面図・土層断面図作成。８Ｔ平面図・等高線図作成。９Ｔ平面図作成。

９月１日(水)　１・２Ｔ円筒埴輪完掘・写真撮影・出土状況図作成。３Ｔ写真撮影、遺物片取り上げ、完掘。４・５Ｔレベリング。６Ｔ土層断面図・平面図作成終了。７Ｔ土層断面図作成。８Ｔ埴輪出土状況図作成。９Ｔ写真撮影、平面図・土層断面図作成。

９月２日(木)　１Ｔ埴輪片取り上げ。平面図作成。３・６Ｔ写真撮影、完掘、土層断面図作成。５・７Ｔ土層断面図作成。

９月３日(金)　１・２・８Ｔ写真撮影・埴輪取り上げ。３・５～７Ｔ埴輪片取り上げ。３・７Ｔエレベーション図作成。３・８Ｔ土層断面図作成。７Ｔ完掘写真撮影。

（２）第３次調査（平成17年度）

８月９日(火)　墳頂部調査区一部彫り始め・埋土除去。

８月10日(水)　墳頂部調査区埋土除去。

８月11日(木)　墳頂部調査区・３・４Ｔ埋土除去終了。10・11Ｔ表土剥ぎ終了。

８月12日(金)　10Ｔ表土剥ぎ・掘り下げ。11Ｔ掘り下げ。

８月13日(土)　10Ｔ掘り下げ。

８月14日(日)　墳頂部調査区写真撮影。３・５Ｔ埋土除去。４Ｔ掘り下げ。３Ｔ表土剥ぎ終了・埋土除去。

８月15日(月)　１～３・５～８Ｔ埋土除去。

８月16日(火)　７・８Ｔ埋土除去。14Ｔ表土剥ぎ終了。西側ベルト除去・東側ベルト除去終了。P.0石柱付近表土剥ぎ。石敷検出、写真撮影。掘り下げ。

８月17日(水)　石柱周辺・10Ｔ掘り下げ。12Ｔ表土剥ぎ・拡張。13Ｔ表土剥ぎ。14Ｔ表土剥ぎ終了。

８月18日(木)　墳頂部調査区写真撮影。大正トレンチ

の調査坑平面図作成。10T掘り下げ、地山確認。12～14T掘り下げ。

8月19日(金)　10・11・16T完掘。12・13Tほぼ完掘。墳頂部調査区レベリング・掘り下げ。

8月20日(土)　12～14T完掘。15T掘り下げ。墳頂部調査区掘り下げ。墳頂部埋土フルイがけ。

8月22日(月)　13T完掘。15T拡張。表土剝ぎ、掘り下げ。13／12T表土剝ぎ・掘り下げ。墳頂部調査区掘り下げ。墳頂部の埋土フルイがけ。

8月23日(火)　13／12Tほぼ完掘。15／14T・墳頂部調査区掘り下げ。墳頂部の埋土フルイがけ。

8月25日(木)　13／4T・墳頂部調査区掘り下げ。

8月26日(金)　墳頂部調査区掘り下げ終了。墳頂部調査区東西ベルト土層断面図作成。埋土フルイがけ。

8月27日(土)　墳頂部調査区東西ベルト土層断面・写真撮影。東西ベルト掘り下げ。埋土フルイがけ。

8月28日(日)　墳頂部調査区ベルト外し終了。調査区全体写真撮影。南北ベルト写真撮影、土層断面図作成。掘り下げ。

8月29日(月)　墳頂部調査区掘り下げ。P0の樹根・石柱を外す。円礫群検出。

8月30日(火)　墳頂部調査区掘り下げ。写真撮影。完掘。大正T完掘写真撮影終了。石板被覆円礫平面図・断面図作成。大正T平面図・南北エレベーション図作成。石板被覆円礫撮影。13／4T掘り下げ、ほぼ完掘。

8月31日(水)　墳頂部調査区東西・南北エレベーション図・大正調査区平面図作成終了、レベリング終了、石板実測図、写真撮影。大正Tの東側埴輪片取り上げ。13／4・15／14T掘り下げ終了。

9月1日(日)　墳頂部調査区エレベーション図完成。北東部・東部全体写真撮影、平面図作成。4T拡張表土剝ぎほぼ終了。石板蓋石を外す。

9月2日(金)　墳頂部調査区石板検出、完掘、石板の写真撮影。全景の写真撮影。墳頂部円筒埴輪列出土状況図作成。4T拡張区完掘。4Tと14Tの間・14Tと4T掘り下げ終了。14T拡張区表土剝ぎ。17T掘り下げほぼ終了。

9月3日(土)　4T拡張区・4T拡張区Bほぼ終了。14T拡張区ほぼ完掘。17T掘り下げ。墳頂部円筒埴輪列出土状況図作成終了。

9月4日(日)　現地説明会。

9月8日(木)　10・12・13T写真撮影。4T掘り下げ。空撮のための清掃。

9月9日(金)　ラジコンヘリによる空撮終了。13T完掘・土層断面写真撮影。4T拡張底面検出。

9月10日(土)　4T拡張部完掘・土層断面写真撮影。

9月11日(日)　10・12・17T完掘・土層断面写真撮影。

9月12日(月)　9・10・12T完掘写真撮影・土層断面作成。4・17T写真撮影。

9月13日(火)　14T拡張部・4T・4T西拡張部・14／15T完掘写真撮影。土層断面図作成。11・16T完掘写真撮影。4T奥壁写真撮影・土層断面図作成。

9月14日(水)　13・14T等高線図作成。

9月15日(木)　4T(周溝部)・9～12・14T拡張(周溝部)・14／15～17T平面図作成すべて終了。

9月23日(金)　空撮すべて終了。土層断面図作成。

9月24日(土)　4T北壁・4T南壁深掘り部・9～17T土層断面図作成すべて終了。

9月25日(日)　13～15T平面図作成。墳頂部円筒埴輪列写真撮影、出土状況図作成。埴輪取り上げ。

9月26日(月)　墳頂部円筒埴輪列写真撮影、出土状況図作成。埴輪取り上げ終了。

9月27日(火)　4T内出土土師器写真撮影取り上げ終了。墳頂部円筒埴輪列写真撮影、出土状況図作成、埴輪取り上げ。大正調査坑周囲断割・平面図作成・土層断面図作成・写真撮影を終了。

9月28日(水)　墳頂部円筒埴輪列写真撮影、出土状況図作成、埴輪取り上げ。大正調査坑周囲東西T掘り下げ、写真撮影、南北T・断割。石板礫敷実測・石板取り外し。

9月29日(木)　石板取り外し後の写真撮影。すべて終了。

第３節　調査の方法

第２次調査では、発掘調査に先立って、国土座標に基づく測量基準杭を墳丘各所に設置し（第76)、平板を用いて、墳丘全体の測量図（縮尺１／100）を作成した。

史跡整備に伴う発掘調査であるため、まず墳丘および周溝の形状および規模の確認を行うこととなった。墳頂外縁から周溝外端まで伸びるトレンチを、８方向に放射状に設定し、葺石の有無の確認を行うとともに、墳丘平坦面や斜面の遺存状況の確認に努めた。トレンチ番号は、東側の第１トレンチから順に時計回りに付した。各トレンチとも、表土および流土を除去したのみで、一部を除き、墳丘の断割は行っていない。ただ、第３トレンチと第４トレンチ、第７トレンチにおいては、一部、墳丘の断割調査を行った。

墳頂部平坦面外周で確認された円筒埴輪については、縮尺５分の１で平面図を作成し、細部については、遺物の水洗後に現物を見ながら補筆・補正する方式をとった。立面図については、現場で実測したのち、これも遺物の水洗後に現物を見ながら補筆・補正作業を行った。

第４節　調査成果の概要

（１）墳丘・周溝の調査

170号墳は、直径に比べて低平な墳丘をもつ、非常に特異な形状を呈する直径約47ｍの大型円墳である。現状では墳丘斜面の中位に平坦面が認められることから２段築成であると考えられてきたが、第３次調査において、第４トレンチを南西側に延長したところ、周溝および墳丘第１段目平坦面が確認された。周溝の幅は上場で８ｍ、深さ約1.5ｍである。この周溝の確認により、本古墳が３段築成の円墳であることが確実となった。周溝の内斜面や外斜面に葺石の痕跡はなく、また墳丘第１段目平坦面には円筒埴輪樹立の痕跡は認められなかった。周溝内からは一切、円筒埴輪が出土しなかったことから、周溝の外側にも円筒埴輪は樹立されていなかったものと考えられる。

また、墳丘各所に設定したトレンチの調査でも、墳丘第２段目斜面や第３段目斜面には葺石が認められず、本古墳が葺石をもたないことが明らかになった。

周溝は、内側斜面に比べて、外側斜面がわずかに緩斜面をなしているが、169号墳や171号墳の周溝と比べると、外側斜面の勾配が比較的急傾斜をなし、地表面からかなり深く掘り込んでいることが特筆される。なお、周溝の確認を目的として、古墳の北側で、幅５～10m、長さ約45ｍの範囲にわたってレーダー探査を実施したが、明瞭な反応は確認できなかった（東2007)。今後、より詳細な探査が必要であろうと思われる。

一方、墳丘南東部に、墳丘の「突出」がわずかに認められるため、第２次調査では第９トレンチ、第３次調査では第17トレンチを設定したところ、「突出部」状をなす平坦部は、墳丘第２段目平坦面が遺存したものであることが明らかになった。

一方、第２次調査時に墳丘南西部に設定した第４トレンチにおいて、墳丘盛土直下のアカホヤ層が検出されなかったため、墳丘構築過程で、この部分のみ、他の部分とは異なる「地山削平」作業が行われている可能性が考えられた。そこで、第３次調査において、第４トレンチの北側および南側に数本のトレンチを設定し、その実態の解明に努めた（第10～16トレンチ)。その結果、墳丘盛